

愛知学院大学

教養部紀要

第59巻 第2号

論文

- 尾崎 孝之：雨の「ものうさ」と雪の「悲しみ」
——ポール・ヴェルレーヌと中原中也——…………… (1)
- 佐々木 真：iPad を用いた語学教育の現状と展望…………… (15)
- 清水 義和：寺山修司と W. シェイクスピアの“未知の国”
——『花札伝綺』と『マクベス』——…………… (35)
- 都築 正喜：Recorded Voice Data の音声的考察（試論）…………… (93)
- 八谷芳樹・池田輝政：学校改革の戦略経営に関する方法論モデル
——校長は櫛を繋ぐ駅伝走者——…………… (129)
- 川口 高風：「白鳥町家並帳」における法持寺の不動産について…………… (212)

資料

- 川口 高風：法持寺史関係略年表…………… (198)

講演記録

- 岩佐 宣明：豊かさの質——「人間の尊厳」と CSR ——…………… (155)

雨の「ものうさ」と雪の「悲しみ」

——ポール・ヴェルレーヌと中原中也——

尾崎孝之

現代を代表するフランスの詩人イヴ・ボヌフォワは、ことばの持つ音、特に詩のことばに秘められた音が、詩人や読者を「現前」に立ち向かわせるとして、次のように言っている。

言語活動の中には本質に関わる遍在的な要素もあり、それが、正に回想が抑止されるところで回想に貢献する。単語とは概念だけのものではない、実際、単語には音があるのだ。(中略) 意味作用のネットワークの彼方に感得される音は、無媒介のものであり、概念の言説が細分化しようとしている世界の単一性のこうした無媒介性の部分であり、こうした不壊性の部分である、つまり音とは、正にことばが一連の概念によって捉えさせないようにした現前のことなのである。音に耳傾けるがいい、そうすれば、現前の記憶が精神に戻って来る、すると、眼差しも新たな精神が、言われるものの方に振り向くことになる。したがって、単語よりも多くの思い出を持っている詩が、こうして単語の間に生まれることができるのも当然なのである。単語の音は、言語活動が隠す現実そのものをことばの中に保持しているのである。¹⁾

本稿では、ボヌフォワが重要視することばの中の音の側面を強調した二つの詩作品、あるいは音が大きな役割を果たしている二つの詩作品を読みながら、詩というものの読み方について少し考察してみたいと思っている。

その作品とは、雨や雪をめぐって打ち沈む心の動きをうたった、フランスの詩人ポール・ヴェルレーヌと日本の詩人中原中也のそれである。

ちなみに、中原中也と深い関係にあった小林秀雄は、中也とヴェルレーヌについて次のよう

に言っている。

中原は、言はば人生に衝突する様に、詩にも衝突した詩人であつた。彼は詩人といふより寧ろ告白者だ。彼はヴェルレエヌを愛してゐたが、ヴェルレエヌが、何を置いても先づ音楽をと希ふところを、告白を、と言つてゐた様に思はれる。²⁾

まず、フランスの詩人の作品から読む。ポール・ヴェルレーヌが1874年に発表した作品を引用する。

Il pleut doucement sur la ville

(Arthur Rimbaud)

Il pleure dans mon cœur
Comme il pleut sur la ville ;
Quelle est cette langueur
Qui pénètre mon cœur ?

Ô bruit doux de la pluie
Par terre et sur les toits !
Pour un cœur qui s'ennuie
Ô le chant de la pluie !

Il pleure sans raison
Dans ce cœur qui s'écœure.
Quoi ! nulle trahison ?...
Ce deuil est sans raison.

C'est bien la pire peine
De ne savoir pourquoi
Sans amour et sans haine
Mon cœur a tant de peine !³⁾

雨の「ものうさ」と雪の「悲しみ」

堀口大學をはじめとするすぐれた日本語訳が多数存在するが、あえて拙訳を掲載する。

雨がしずかに街に降る

(アルチュール・ランボー)

私の心が泣いている
雨が街に降るように。
私の心に突き刺さる
このものうさは何だろう？

地面や屋根の
おお 雨のしずかな音よ！
しずむ心にふさわしい
おお 雨のうたよ！

このうんざりする心が
理由もなく泣いている。
何だって！ 裏切り一つないのか？……
この喪の痛みに理由はない。

愛もなく憎しみもないのに
何故 私の心がこんなにも
苦しいのか 分らない
たしかにそれは最悪の苦しみ！

次は、ポール・ヴェルレーヌの作品に親しみ、そのいくつかを翻訳してもいる中原中也が
56年後の1930年に発表した作品を引用する。

汚れつちまつた悲しみに……

汚れつちまつた悲しみに
今日も小雪の降りかかる

汚れつちまつた悲しみに
今日も風さへ吹きすぎる

汚れつちまつた悲しみは
たとへば狐かはごろもの革裘
汚れつちまつた悲しみは
小雪のかかつてちぢこまる

汚れつちまつた悲しみは
なにのぞむなくねがふなく
汚れつちまつた悲しみは
倦怠けだいのうちに死を夢む

汚れつちまつた悲しみに
いたいたしくも怖おちけ氣づき
汚れつちまつた悲しみに
なすところもなく日は暮れる……⁴⁾

今度は逆に、イヴ＝マリ・アリウが試みたフランス語訳を参考までに掲げておく。

La tristesse est salie ...

La tristesse est salie et tombe sur elle
Aujourd'hui comme hier une neige légère
La tristesse est salie et sur elle
Aujourd'hui comme hier passe même le vent

La tristesse est salie
Telle une peau de renard
La tristesse est salie et c'est elle
Qui se blottit sous la neige légère

Salie est la tristesse
Qui sans rien espérer ni sans rien demander
Salie est la tristesse
Qui dans son grand ennui ne rêve que de mort

Dans la tristesse salie
Lamentablement la peur nous saisit
Sur la tristesse salie
Dans l'impuissance retombe la nuit⁵⁾

この二つの詩作品において重要な役割を果たしている音についてまず観察してみよう。

ヴェルレーヌにおいては、4行からなる一つの詩節において、三つの行は同じ母音で終わっているだけでなく、その内の二つは全く同じ単語である。こうした音の繰り返しは詩に固有のリズムやメロディーを形成する。事実ポール・ヴェルレーヌは、詩の中で最も重要な要素は音楽であると言っている⁶⁾。さらに言えば、〈Il pleure〉で始まるヴェルレーヌの詩の中には、〈Il pleure〉を形成する音、[i] [l] [p] [œ] [r] が各詩節において多用されていて、それが〈Il pleure〉の反響を奏でていると見做すこともできる。

また、中原中也の詩においては、「汚れつちまつた悲しみ」ということばが1行おきに繰り返されることで、ヴェルレーヌ以上の音の響きの深さ、強さを作り出している。しかもそれは、第1詩節が「～に」、第2詩節と第3詩節は「～は」そして再び第4詩節で「～に」とそれぞれ助詞が変化していて、そこに単なる繰り返しとは違う微妙なリズムやメロディーが生まれることになる。

そして、例えば、ヴェルレーヌの〈Il pleure〉と同じように中也の詩においても、「悲しみ」ということばの最初の音であるカ行の音が特に、第1詩節と第2詩節では、「今日も」「小雪」「今日も」「風」「狐」「革裘」「小雪」「かかつて」「～こまる」という具合に多用されていて、そこに「悲しみ」の反響を聞き取ることができるのである。カ行の音の使用は、しかし、第3詩節と第4詩節では極めて少なくなっている。

その代わりに、「悲しみ」の2番目の音であるナ行が「なにのぞむなくぬがふなく」「～のうちに」「なすところもなく」という具合に多用されたり、また、「悲しみ」の4番目の音であるマ行が「なにのぞむ」「夢む」「いたいたしくも」「なすところもなく」、あるいは、「悲しみ」の「し」のなかの [i] の音が「何」「倦怠」「のうちに死を」「いたいたしくも怖気づき」「且は」の内に反響している。

さらに言えば「悲しみ」という語そのものの内にも (kanashimi) という具合に [a- i-] という悲痛な叫びに通ずる音を聞き取ることができる。この [a- i-] という音は、ことばにならない原始の嘆きの音でもあり同時に、どこかで「哀」「愛」「合」「相」「間」といったことばを想起させる音なのかもしれない。

こうして、中原中也の詩を構成することば全体が、そのつらなりの背後に、そのつらなりを通して、「悲しみ」という音を創り出す様が感得されるであろう。

ところで、一方の作品では雨が降り、他方には雪が降っている。普段は、大気という目には見えない透明な空間に、雨や雪という液体や柔らかな固体が出現するとき、それまで気付くことのなかった深い内奥の世界が表面に出て来るかのように、人はそれまで眠っていた自分の心の動きを感じ取ることができるようになるのであろう。

同じように、「ものうさ—喪の痛み」や「悲しみ—倦怠」の感情をうたったこの二つの詩には、しかし、否定することのできない大きな違いがある。それは何であろうか。

この問いに答えるために、まず中原中也の詩をポール・ヴェルレーヌのそれと比べながら読んでみよう。

中也の詩とヴェルレーヌのそれを比べてすぐに気付く違い、それは、中也の詩には「私」ということばが一度もつかわれていないことである。「私」の不在、したがって「あなた」の不在をまず読み取ることができる。これは、そこでうたわれているのが、「私の悲しみ」でもなく、「あなたの悲しみ」でもないということの意味するものであろうか。それともそれは、誰のものでもない悲しみ、あるいは誰のものでもありうる悲しみなのであろうか。

しかし、詩人がわざわざことばとしては表現していないが、「汚れつちまつた悲しみ」は、それでも、「私の」悲しみなのであって、その詩に接する読者も、この「汚れつちまつた悲しみ」に「私の」ということばを補って読むように要請されていると考えることもできる。

いずれの読み方も可能であろう。つまり、そこにはどうしても曖昧なところが残ってしまうということである。これは自分と他人を峻別しないことにつながるのだが、こうした一種の甘えに、小林秀雄は「紋事性の缺如」を読み取っている。

それは確かに在ったのだ。彼を閉ぢ込めた得態の知れぬ悲しみが。彼は、それをひたすら告白によって汲み盡さうと悩んだが、告白するとは、新しい悲しみを作り出す事に他ならなかつたのである。彼は自分の告白の中に閉ぢこめられ、どうしても出口を見附ける事が出来なかつた。彼を本當に閉ぢ込めてる外界といふ實在にめぐり遭ふ事が出来なかつた。彼も亦

敘事性の缺如といふ近代詩人の毒を充分に呑んでゐた。⁷⁾

一方で、ポール・ヴェルレーヌの方は、心という名詞に関してはっきりと「私の心」とうたっている。しかも中也が「汚れつちまつた悲しみ」ということばを全く変えずに8回（二つの詩作品とも4行で構成された四つの詩節という16行で成り立っている）使っているのに対して、ヴェルレーヌの方は、五つの〈cœur〉に関して〈mon cœur「私の心」〉〈mon cœur「私の心」〉〈un cœur「(一つの)心」〉〈ce cœur「この心」〉〈mon cœur「私の心」〉という具合に、変化をつけている。

ちなみに、アリウは、「汚れつちまつた悲しみ」という同一の表現に対して〈La tristesse est salie「悲しみは汚された」〉〈La tristesse est salie「悲しみは汚された」〉〈La tristesse est salie「悲しみは汚された」〉〈La tristesse est salie「悲しみは汚された」〉〈Salie est la tristesse「汚されたのだ悲しみは」〉〈Salie est la tristesse「汚されたのだ 悲しみは」〉〈la tristesse salie「汚された悲しみ」〉〈la tristesse salie「汚された悲しみ」〉という具合に3種類に変えて訳している。これは単調な繰り返しに耐えられないフランス人に対して、日本人はその単調さを受け入れることができることを意味しているのであろうか。あるいは、日本人はこうした繰り返しの内に、それでもかすかな転調を感じ取ることができるのであろうか。そしてこの中也の「汚れつちまつた悲しみ」の繰り返しに、心地よく身を任せることさえもできるのであろう。

ところで、アリウは「汚れつちまつた悲しみ」を〈La tristesse est salie「悲しみは汚された」〉と訳しているが、ここは〈La tristesse d'être sali「汚されてしまったという悲しみ」〉という訳も可能であることを指摘しておきたい。それは、「私」という人間が何らかの行為や思考によって「汚れつちまつた」と感覚したからこそ「悲しみ」が生じたのであって、その逆、ヴェルレーヌの詩がうたうように理由の分からない「悲しみ」が生じて、それが「私」に「汚れつちまつた」という感覚をもたらすのではないからである。

本稿では、「私」ということばを補って中也の詩を読んでみよう。そのときこの詩に対してどんな解釈をほどこすことができるのであろうか。

第1詩節は、「汚れつちまつた悲しみ」としての私に、あるいは、「悲しみ」にせず私に、と読むことができるであろう。悲しみと一体化する私（ちなみに中也の詩に「悲しみが自分で、自分が悲しみの時」や「悲しみが自分であり、自分が悲しみとなつた時」⁸⁾という詩句がある）に雪や風という寒冷な自然が働きかける。しかもそれは「今日も」という繰り返しにより、私と自然とが切り離し難く結び付くかのようである。それを私と自然との対面として読み取ることができるかもしれない。しかも、「(汚れつちまつた悲しみ)に」という助詞によって

「悲しみ」の、したがって、私の受動性をそこに感得することが許されるであろう。

第2詩節は、第1詩節で状況補語としてうたわれていた「悲しみ」が、主語としてうたわれているが、その「悲しみ」を体現する私が、雪にちぢこまる狐の革裘にたとえられている。これは、自然に働きかけられて自然と受動的に対面する悲しみと同時に、その悲しみと一体化している私のあり方がうたわれているようだ。

第3詩節での「悲しみ」も、主語としてうたわれているが、ここでも「悲しみ」を体現する私というかたちで、悲しみと私とは一体化している。しかし、前半の二つの詩節までにうたわれていた自然がこの第3詩節ではうたわれていない。そして、生を表象する自然から切り離された「悲しみ」としての私、あるいは「悲しみ」を体現する私は、この世に、この生に、何一つ望むこともなく、願うこともなく、また、何一つすることもなく、この世の外、この生の外としての死にあこがれる。

第3詩節でもう一つ言えることは、「悲しみ」が自然-外界から切り離されると、その「悲しみ」と一体化していた私が、まさに「悲しみ」そのものの内奥へと沈潜することで、自らの内に閉じこもるということである。それが、次の第4詩節でも観察される。

第4詩節は、再び、第1詩節と同じように、「汚れつちまつた悲しみに」に戻っている。しかし、第1詩節では、「悲しみ」に言わば甘美に一体化していた私は、この第4詩節では、「悲しみ」の内奥に幽閉されることで、その「悲しみ」の底知れぬ恐ろしさに「怖気づ」いてしまう。こうして「悲しみ」と一体化した私はこの世、この生という自然-外界をはるかに遠く眺めることしかできなくなり、「なすところもなく日は暮れる」しかなくなってしまう。そこには、受動性の行き着く果てとしての孤立、自然-外界から見捨てられた孤立、すべてのものから切り離された孤立が感得されるのである。

こうして中原中也を代表する詩作品「汚れつちまつた悲しみに……」をめぐる、自然と対面していた「悲しみ」としての私が、自然と切り離されることで、ひとり「悲しみ」の内奥に取り残される様子が窺われる。

中原中也の研究者であり、自身も詩人である中村稔は、この作品について次のように言っている。「『悲しみ』を形容するに、『汚れつちまつた』といってこれが人間の猥雑さ卑小さから生じたものであることを示し、同時に本来汚れるべきではないのにという悔恨をこめていたくみさ。(中略)この作品には精神の緊張が欠けているのではないか。ここには読者に甘えるが如き卑俗さが隠されてはいないか。」⁹⁾随分厳しい評価だが、「汚れつちまつた悲しみ」をただわけもなく受け入れてしまうところには、確かに詩人の弱さがあるのかもしれない。しかもそれをそのままうたうことで読者に甘えてしまう中原中也という詩人の特徴(小林秀雄のこたばを用いれば詩人の「抒情性」¹⁰⁾)がそこに窺えるのであろう。

しかし、注意しなければならないのは、この「汚れつちまつた悲しみ」をただわけもなく受け入れてしまう傾き、それは、中原中也という一人の詩人だけに観察される傾向ではなく、ともすれば、多くの日本人においても観察される現象なのではないのかということである。

今度は、ポール・ヴェルレーヌの詩を中原中也のそれと比べながら読んでみたい。

中也の詩が、7-5という日本人になじみの深いリズム—調べにのっとりうたわれていたとすれば、ヴェルレーヌの詩は、1行が6音という、7-5からみたら半分の音の数で構成されている。そして、この6音は、大体3-3という具合に区切られている。

日本の詩が7-5という奇数を基本のリズムとしているとすれば、フランスの詩は、6, 8, 10, 12という具合に偶数を基本のリズムとしている。そして、1行の区切り方も、12音の場合は、日本のように7-5ではなく、6-6がオーソドックスだし、10音の場合は4-6、そして、このヴェルレーヌの詩のように6音の場合は3-3という区切り方を基本としている。

また、中原中也の詩にはなかった脚韻というものがポール・ヴェルレーヌの詩にはある。それは、先程も少し観察したように1行目と4行目が同じ単語、それに3行目が同じ母音で構成されている。この4行の内、3行が同じ音で終るのは、古典的な脚韻の規則からは外れている。4行だったら、普通はaabb（平韻）abab（交錯韻）abba（抱擁韻）という具合に構成される。このヴェルレーヌの三つの脚韻というのは、詩作品において何よりも音楽を追い求める詩人の好みが反映された奇数脚¹¹⁾にどこかでつながっているのであろう。

こうして、2行目は、同一詩節内での同一母音の繰り返しがなく、例えば、第2詩節の〈toits〉は第4詩節の〈pourquoi〉と詩節を一つ隔てて呼応している。さらに第1詩節の〈ville〉はエピグラフとして掲げられたランボオの〈ville〉と呼応している。そして、第3詩節の〈s'éceure〉は同一行の直前に置かれた〈cœur〉と呼応している。

さて、ポール・ヴェルレーヌの詩でも、「私の心が泣いている / 雨が街に降るように」という冒頭では、自然（雨）と私の心との一体化が見られるかのようだ。私の心の外には雨が、内には涙が降っている。

ここまでは、中原中也の世界と似ていなくもない。

ところが、第1詩節の3行目から、中也にはなかった疑問の動きがうたわれる。「私の心に突き刺さる / このものうさは何だろう？」

何故、フランスの詩人はここで疑問を呈するのであろうか。

日本の詩人は「汚れつちまつた悲しみ」に関していかなる疑問も提示することなく、それを受け入れていた。この受け入れがフランスの詩人にはできない。こうした受動と能動の違い

は、ことばの次元で主語を明示しなくても成り立つ日本語と主語を明示しなければ成り立ち得ないフランス語の違いにも通底する日本人とフランス人の違いにも由来しているのであろうか。

しかし、ここでは受動と能動の違いだけではなく、次の事柄も読み取ることができる。それは、中也において「悲しみ—倦怠」に自分が一体化しているのは、そこに、自分の中にもう一人の自分がいるという分裂が見られないからである。一方ヴェルレーヌにおいては、友人だったランボーのことば「*Je est un autre* 「〈私〉とはひとりの他者である」¹²⁾」に結び付くかのように、自分の中にもう一人の自分がある。つまり自分の中にある「ものうさ—喪の痛み」を、あるいは自分の中を通り過ぎる「ものうさ—喪の痛み」を、自分のものとして見做すことができないもう一人の自分がある。突き詰めて言えば、「自分とは何か」を問わざるを得ないもう一人の自分がそこに存在するということである。

ちなみにアルノー・ベルナデは、ヴェルレーヌに次のような事象を観察している。

ある種の分裂が、主体を正常に働かせている統一性を、内的意識からごく微細な能力に至るその統一性を、脅かしている。¹³⁾

ここで、ポール・ヴェルレーヌの詩の1行目を見てみよう。

〈*Il pleure dans mon cœur*〉この最初の〈*il*〉は、具体的な誰か一人の男性を指示する人称代名詞ではなく、非人称の〈*il*〉と見做されている¹⁴⁾。非人称とは、それが指示するものが人間ではないことを表わす。しかし、泣いたり笑ったりすることのできるのは、人間しかない。だが、この冒頭の〈*il*〉は人間ではない。では一体何ものなのであろうか。天候を表わす非人称の〈*il*〉は、元来人間を超越した存在としての神（ある意味での自然）を指し示していた。では、ここでの〈*il*〉は、神（自然）のことなのであろうか。

どこかでそれは、神（自然）に通じているかもしれないが、ここではむしろ私が自発的に泣いているのではないことを示している。「雨が降るように」私の心に涙が降っているとは、ジャン＝ピエール・リシャルのことばを用いれば「匿名で根拠のない悲しさ」¹⁵⁾に通じる一つの受動性なのであるが、ヴェルレーヌはその受動性に耐えられない。

あるいはこの〈*il*〉は先程も述べた、自分の中のもう一人の、自分とも言えない自分のことを表象しているのかもしれない。

さらには、この詩のエピグラフで引用されている詩句の作者であり、親密な友でもあったランボーのことを非人称の体裁の下に意識しているのかもしれない。つまり、「私の心の中で彼が泣いている」というのである。

一方で、中也の「汚れつちまつた悲しみ」には、自分が汚したのか、他人に汚されてしまったのか、そこには明確な区別はなかった。正に自然に汚れてしまったという趣きである。中也の世界は、そのことで終始している。

「私の心」という自分の領域で、しかも自分には思い当たるその理由がないのに自然と涙が流れてしまう。ヴェルレーヌは、この何か得体の知れないものを、それでも、「ものうさ—喪の痛み」と名付けている。「ものうさ—喪の痛み」が私の心の内にしのびこんで私の心に涙を流させている。

「ものうさ」にしても「喪の痛み」にしても、生きようとする力を喪失した無気力につながる心の動きである。何もする気が起こらない、何もしたくない打ち沈んだ気分がそこにはある。しかし、この詩ではそうした無気力そのものよりも、その状態が由来する理由を問う、その問いの力の強さ、しかもその問いに答を見出すことのできないことから来る苛立ちのようなものが前面にうたわれている。ここにも、「悲しみ」と理由もなく一体化してしまう中也の自己のあり方とは違うヴェルレーヌの心のあり方が読み取れるのである。

こうした理由の分からなさに、フランスの詩人は耐えられない。その理由を何とか理解しようと考える。理解すること、ことばでものごとをからめとること、ことばを使ってものごとを表現しきってしまうこと、これが、フランス人の日本人とは違う大きな特徴である。だからこそ、第1詩節から、疑問が呈されることになるのは当然なのである。

第1詩節が、濡れるという触覚、あるいは「ものうさ」が「突き刺さる」という触覚を強調していたのに対して、第2詩節では、聴覚が強調されている。聴覚とは、すぐれて受身的な感覚である。撲られたら、撲り返すことができる。見られたら、見返すことができる。しかし、聞き返すことはできない。耳は受動的にしか作動しない。この聴覚の受動性が、第2詩節での自然との一体化をもたらしめている。この第2詩節では、心は「私の心」とはうたわれていない。「しずむ（一つの）心」となっている。第1詩節にあった自己と他者との区別がここではないかのようだ。こうして自己の色合いを失って、自然と一体化しているような心にとって、「雨のしずかな（<doux>は同時に味覚「甘い」や触覚「柔らかな」にも結び付く）音」はまるで「うた」のように響くことになる。

第3詩節では、冒頭の非人称の<il>が再び用いられている。そして、今度は、「私の心」ではなく「このうんざりする心」と、どこか、自分とは切り離されたものとしてうたわれている心に、涙が降る。

第1詩節では「このものうさは何だろう」という疑問が、ここでは、いきなり「理由もなく」とうたわれている。第2詩節で、雨やその音に代表される自然と一体化していた心の世界は、ここで、再び「理由のなさ」によって、居心地の悪いものになる。雨はもはや「しずかな

音」を立てることもなく、「うたう」こともない。

「しずむ」状態だった第2詩節の「(一つの)心」は、第3詩節では「このうんざりする心」になってしまっている。

それは、自分の心が何故涙するのか、その理由が理解できないために、いじけくさってしまうからである。逆に言えば、この理由が理解できれば、私の心は晴れ晴れとするのだろう。ここに、おそらく、フランス人の心の機微を探り当てる鍵がある。先程も述べた、ことばでものごとやその流れを表現しきってしまうことに対するフランス人の一種の強迫観念をそこに読み取ることができる。逆にそれができないとき、フランス人は不安になる。日本人は、しかし、ことばでものごとを理解しようとするそこまでの強いこだわりはない。

ともあれ、ヴェルレーヌは、何とか理由を見出そうとし自問する。いかなる理由もなしに心が涙を流す、この理由のなさ、その不可解さに我慢できずにうんざりしてしまう。そしてこの状態は、やがて心に死のような、喪に服したような「痛み」をもたらすことになる。

ヴェルレーヌの第4詩節には、第3詩節までうたわれていた涙はうたわれていない。そして、ここでもうたわれているのは、「私の心」がこんなにも苦しむ、その理由が分らないということである。「最悪の苦しむ」をもたらす理由の分らなさに耐えられない「私の心」がここでは主語となっている。冒頭の詩句では、状況補語として、そして直接目的補語として使われていた「私の心」が、最終行では主語としてうたわれている。ここにも、フランスの詩人における能動性、もっと言えば、自己＝人間中心主義的なものの考え方を窺うことができる。

中也の詩では、母親から切り離されるように、自然から切り離されて、「悲しみ」ということばの内奥に幽閉される「私」の孤立がうたわれ、ヴェルレーヌの詩では、「私の心」が主語として「ものうさ一喪の痛み」ということばに対峙しているのである。

注

- 1) Yves Bonnefoy, *Le siècle où la parole a été victime*, Mercure de France, 2010, pp. 134-135.
 - 2) 小林秀雄、「中原中也の思ひ出」『小林秀雄全集』第2巻所収、新潮社、1978年、125頁。
 - 3) Paul Verlaine, *Romances sans paroles dans Œuvres poétiques complètes*, Gallimard, Bibliothèque de la Pléiade, 1962, p. 192.
- なお、エピグラフとして引用されているランボーの詩句は *Œuvres diverses* からの引用である。(Arthur Rimbaud, *Œuvres diverses dans Œuvres complètes*, Gallimard, Bibliothèque de la Pléiade, 1972, p. 222.)
- 4) 中原中也、『山羊の歌』『中原中也全集』第1巻詩I、本文篇所収、角川書店、2000年、83-84頁。一部1967年版（『中原中也全集』第1巻、角川書店、97頁）を参照した。
 - 5) Nakahara Chûya, *Poèmes*, traduits par Yves-Marie Allieux, Éditions Philippe Picquier, 2005, p. 49.

雨の「ものうさ」と雪の「悲しみ」

- 6) Paul Verlaine, *Jadis et Naguère* dans *Œuvres poétiques complètes*, p. 326.
- 7) 小林秀雄、「中原中也の思ひ出」『小林秀雄全集』第2巻所収、126頁。
- 8) 中原中也、「冷酷の歌」『中原中也全集』第2巻詩II、本文篇所収、170頁。
- 9) 中村稔、『中也を読む』、青土社、2001年、82-83頁。
- 10) 小林秀雄、「中原中也」『小林秀雄全集』第2巻所収、119頁。
- 11) Paul Verlaine, *Jadis et Naguère* dans *Œuvres poétiques complètes*, p. 326.
- 12) Arthur Rimbaud, < Lettre à Georges Izambard > dans *Œuvres complètes*, p. 249.
- 13) Arnaud Bernadet, commente *Fêtes galantes, Romances sans paroles* précédé de *Poèmes saturniens* de Paul Verlaine, folio / Gallimard, 2007, p. 123.
- 14) *Ibid.*, p. 121.
- 15) Jean-Pierre Richard, *Poésie et profondeur*, Points / Seuil, 1955, p. 216.

iPad を用いた語学教育の現状と展望¹⁾

佐々木 真

1. はじめに

Apple が2010年に発売したタブレット端末 iPad²⁾は新しい携帯型情報端末として脚光を浴び、社会的に大きな関心を集めた。この端末はマルチメディア機器の iPod touch やスマートフォンの代表とも言える iPhone と同一の iOS 上で動作し、ハードウェアの観点からすれば「大きな iPod touch」である。しかしながら、iPad は絶妙なバランスの上で動作し、その応用範囲はビジネスやエンターテインメントに限らず、教育にも及んでいる。

昨年、拙論（佐々木 2010）において iPod touch を使った語学教育の可能性について論じたが、その後に発売された iPad にはさらなる可能性が秘められている。本学でもこの機器の先進性を鑑み、(株)名古屋教育ソリューションズ（以下、NES と略す）との間で産学協同研究プロジェクトを立ち上げ、筆者が主任研究担当者として iPad を中心とした情報端末の英作文教育用プログラムの作成を試行している。

本論では iPad が今後の大学等の高等教育機関での語学教育にどのような影響をもたらすか、その現状と可能性について論じていく。

2. 変わる大学教育

2.1 変革の現れ

iPad に代表される携帯情報端末は単にエンターテインメント中心のデバイスという位置づけにとどまらず、大学教育を含む教育全般に大きな変革をもたらすのではないかと期待されている。

る。生まれながらに情報技術に親しんでいる現在の学生には、従来の紙ベースの教科書、教員の一方的な講義というアナログ的な授業だけでは知的好奇心を維持するのが難しい。従ってデジタル環境を簡単に携帯できる機器を積極的に活用することが教育の活性化につながると考えられている。

調査会社 MM 総研の発表によると2011年度のスマートフォンの販売数は前年比の2.3倍で、2015年度末には携帯電話の総計約数の57%をスマートフォンが占めると予測されている³⁾。スマートフォンの使用が日常化し、Twitter や Facebook に代表される即効的な情報交換が普通のこととされる時代にあって、授業でもリアルタイムでの情報共有、情報発信が求められるのは時代の必須と言えるかもしれない。

松元 (2011) は記事の中で iPod touch を導入した大学での導入例を紹介し、そのような変革の一端を報告している。この変革を端的に表現すればネットワークの常時接続とそれに伴う学習形態の変化、さらに学習記録の管理や教員と学生の相互交流の変容と言える。

2.2 ノマドラーニング

ネットワークの常時接続は学習の「ノマド化」をもたらす。ノマドというのは遊牧民を示す言葉であるが、近年はネットワークを駆使し、モバイル端末を駆使する仕事方法の表現として用いられている。現在、駅や空港といった公共施設、さらにはカフェや喫茶店での無線 LAN サービスによって高速のネットワーク接続環境が整備され始めている。ネットワークに常時接続できる携帯端末を駆使し、ネットワーク上での教材が常時利用可能となって、時空間的な制約が解消される。これが学習のノマド化であり、「ノマドラーニング」とも呼ばれる。ノマドラーニングはアルバイトの休憩中や、通学時の電車・バスの待ち時間という「隙間時間」を有効活用することによって学習を行うことが可能になる。些細な時間を頻繁に活用する自主学习が学習効果の向上へとつながることになるだろう。

2.3 携帯端末の教育機関への導入

2.3.1 海外での事例

アメリカの大学では携帯端末を教育現場に導入する取り組みがすでに2008年から始まっている。テキサス州の Abilene Christian University では1000人の学生に iPhone または iPod touch を持たせ、双方向性の高い授業の実践を試行している (Chen 2009)。

2010年、iPad の発売によって教育機関における携帯端末導入が本格的に始まった。アメリカの University of Notre Dame では学部生と大学院生に iPad を配布し、電子教科書としての有効性に加えて、情報ツールとして学生との双方向的な授業が実現されると報告している⁴⁾。ま

たオーストラリアの Trinity College, University of Melbourne は iPad を学生に配布し授業を展開している。同大学では学生のみならず、教員にもアンケート調査を行い、その結果、主体的な学習、学生個々への教材対応、情報へのリアルタイムアクセスなどを長所としてあげている⁵⁾。この報告では同時に技術的な限界、学生や教職員に対するトレーニングの必要性、学生の授業中の不適切使用などの問題点も挙げている。

2.3.2 日本での事例

日本では青山学院大学社会情報科学部が2009年から学生全員に iPhone を配布し、e-learning や授業のポッドキャスト配信を行っている。中心的役割を果たした伊藤一成准教授はその活用事例を紹介し、教員と学生がリアルタイムで対話型の学習を実践できると報告し、主体的な学びを促進するとしている（伊藤 2009）。

iPad の発売以来、様々な教育機関が iPad の導入を始め、大学等では、武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部、名古屋文理大学情報メディア学科、大谷大学人文情報学科が導入している（2011年9月1日現在）。名古屋文理大学の長谷川聡教授は iPad の導入後に実施した学生へのアンケート調査の結果を公開している⁶⁾。アンケートでは学生は辞書代わりの情報収集ツールとして、また授業時以外の学習コンテンツ利用ツールとして高い評価を示している。

これまでの iPad の導入例は一つの学部や学科が対象であるが、創価女子短期大学は2012年度より全学的に導入すると表明している。このように iPad 等の携帯端末を組織的に導入して、授業の活性化、学生指導、就職指導の効率化をはかる教育機関の数は確実に多くなると考えられる⁷⁾。

3. iPad の特徴

3.1 iPad の種類と特徴

iPad は初代 iPad と iPad2 の二種類のモデルがある。二つのモデルの違いは iPad2 が 15% 軽くなり、33% 薄くなったことである。性能面でも CPU やグラフィック性能の高速化や内蔵カメラ搭載の差異がある。機能面では iPad2 でミラーリングが可能になっている。初代 iPad はビデオ、写真の他には特定のアプリしか外部モニターに出力に対応しなかったが、iPad2 では使用アプリに関わらず HDMI か VGA を使って iPad2 上のあらゆる画像を表示することができる。本論では特にこの二つを区別せず“iPad”と総称するが、上記のような機能上の差異が焦点となる場合には“iPad2”の語を用いる。

3.2 iPad の利点

iPad を使用する利点は次の4つのキーワードを重ねることで浮き彫りになる。そのキーワードとは、「機動性」、「起動性」、「柔軟性」、「テキスト入力性」である。

3.2.1 機動性

機動性とは携帯性とバッテリーの持続性の二つを包括する。常時携帯して使用するためには、適度な重量とバッテリーの持続時間が要求される。iPad は初代で約700g⁸⁾、iPad2では約600g⁹⁾の重さである。従来のノート型コンピュータに比べて、重量感はかなり軽減される。また薄さという面でも、iPad2であれば8.8mm であり、ルーズリーフファイルより薄い。

またバッテリーの持続性であるが、iPad は10時間程度の使用が可能である。これは連続使用時間の目安であり、通常の学習利用なら丸1日程度の持続性がある。これも従来のノート型コンピュータよりも数倍長く、その持続性の高さがわかる。iPad は「軽くて」「バッテリーが持つ」という要求をバランスよく充足する。

3.2.2 起動性

起動性はどれくらいの時間で機器の使用が可能になるか、ということである。CALL 環境でコンピュータを使用して授業を展開する場合、コンピュータの電源を入れ、ログインアカウントとパスワードの入力をし、コンピュータのメモリー内に OS がロードされるまで待つこととなる。さらに学生がユーザー名とパスワードを入力して環境が整えるまでの時間がさらにかかるので始業から実際の授業が始まるまで5分～10分かかることは珍しくない。

しかし iPad の場合はホームボタンを押せば瞬時にして使用が可能となり、数秒で環境が整う。使用したいアプリケーションソフト（アプリ）も画面上のアイコンをダブルタップするだけで瞬時に使用可能となる。授業で使用する場合、始業とほぼ同時に実質的な授業活動に入ることが可能になるのである。

この起動時間の歴然とした差は学習行動の頻度に影響を及ぼす。瞬時の起動ができなければ電車やバスの待ち時間等の隙間時間に学習はできず、結果的に学習意欲の減退につながることもなりかねない。

3.2.3 柔軟性

柔軟性とは様々な用途に応じてどれほどのアプリケーションソフトの多様性である。コンピュータのアプリケーションソフトにはかなわないものの、iPad 用に開発されたアプリケーションソフト（アプリ）¹⁰⁾も90000以上あり¹¹⁾、その数は増え続け、特に英語教育用アプリや

英語学習用アプリは多数に及ぶ。

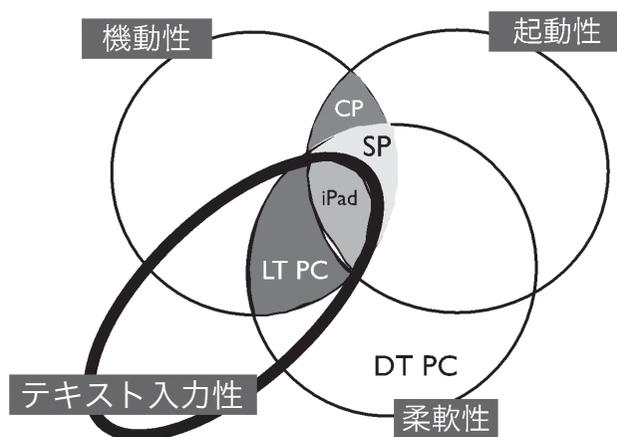
3.2.4 テキスト入力性

テキスト入力性とは、どれくらいキーボードを使用して文字を入力しやすいかということである。iPad は文字入力の際に画面上にキーボード（ソフトキーボード）が自動的に表示され、そこをタップすることで文字入力ができる。英語の場合、自動的にミススペルを修正する機能もある。また iPad にはジャイロセンサーが内蔵されており、縦持ちと横持ちを自動認識して画面の表示を自動変更する。横持ちにした場合には、ピッチも広くなり通常のキーボードと入力性は変わらない。

iPad のソフトキーボードはマルチ言語の対応となっている。独仏語のウムラウトの対応や中国語、韓国語等の任意の言語に対応したキー配列が表示されるので様々な語学教育に応用できる。

3.2.5 総合バランス

上記の機動性、起動性、柔軟性、テキスト入力性について考えると、それぞれの側面について iPad よりも優れているものは他にもある。機動性や起動性なら従来の携帯電話、柔軟性やテキスト入力性ではコンピュータの方が優れている。しかし、iPad 以外の機器では一つの要因に対して長所があるものの、その他の要因では弱点を露呈してしまう。携帯電話では柔軟性やテキスト入力性が劣り、コンピュータでは機動性と起動性に弱点を示す。



(CP：携帯電話、SP：スマートフォン、LT PC：ノート型コンピュータ、DT PC：デスクトップ型コンピュータ)

図1：iPad の利点

しかし iPad は上記の要因をバランスよく満たしている。軽く、薄く、バッテリーも持ち、すぐに使え、種々のアプリがあり、文字入力もできる。iPad の有用性の特徴は一つのことの特化したユニークな機能があるということではなく、むしろ上記の 4 つの要因をバランスよく充足しているということである。これを図に示すと図 1 のようになる。それぞれの円と楕円の中心にくるのは iPad のみである。

3.3 双方向性

iPad はどのモデルでもインターネットへの接続のために無線 LAN 機能が最初から装備しており、Web ブラウザ、メール等のアプリも搭載されている。これにより様々な「双方向性」を実現しているのも iPad の特徴の一つと言える。この双方向性には「個人内双方向性 (intrapersonal bidirectionality)」、「対人的双方向性 (interpersonal bidirectionality)」、「iPad 介在による双方向性 (bidirectionality through iPad)」の三つの側面が考えられる。

3.3.1 個人内双方向性 (intrapersonal bidirectionality)

個人内双方向性というのは iPad 内の学習プログラムと学生との双方向ということである。これらの学習プログラムは学生に情報を提示し、問題を与え、解答を求める。学生はその反応として解答をし、正解を確認して、知識を習得する。学生は自分の中 (個人内) で、新たな知識の発見と成長を遂げるということである。新たな疑問が生まれた場合は辞書や web 等を活用して疑問を自己解決することもできる。すなわち学生が知識の受容者という受け身の立場から、知識の獲得という主体的な立場に変わることになり、その相互のやり取りを繰り返すことで主体的な自己学習が促進される。

3.3.2 対人的双方向性 (interpersonal bidirectionality)

対人的双方向性とは学生と教員の双方向性のことである。iPad にはメール機能があり、簡単に教員と相互交流ができる。また iPad2 ではカメラが内蔵され、FaceTime という付属のアプリを活用するとテレビ電話のように動画を使ったチャットができる。お互いの顔をリアルタイムで見ながら話ができるので、個人指導も可能となる。また Skype を使用すれば無線 LAN 経由で無料の音声通話もできる。学生と教員が遠距離にあっても、遠隔授業のような可能性を探ることができる。あるいは外国とのチャットも可能なため、外国の提携校と協力して学生同士がそれぞれの言語を演習することも可能である。

3.3.3 iPad 介在の双方向性 (bidirectionality through iPad)

iPad 介在の双方向性とは iPad にあるデータを学生と教員が共有することによる双方向性である。4.2節で述べるが、iPad を管理ツールとして活用することで学生のようなデータを教員が手元に管理することができる。これは拙論 (佐々木 2010) でも述べた iPod touch の活用法で、出席、成績データの管理である。これを学生に提示することで授業への出席や成績の注意を促すのみならず、学生に対して学習法等の指導ができる。

iPad は個人ベースのことだけに着目してしまいがちだが、iPad に表示されるタスクを数名の学生で相談し、相互協力をしながら解決の方策を考えるという活用法もある。iPad が相互交流のトリガーとなり、社会的な交流を促進することができれば、初等教育等では Vigotsky (Vigotsky 1986) の唱える the zone of proximal development (ZPD) の領域をさらに広げることにもつながる可能性がある。

3.4 iPad と Android 端末

タブレット型の情報端末は iPad だけではない。本論執筆段階 (2011年9月) では、Apple の iPad とともに Google の開発した OS である Android を搭載したタブレット端末等が数種類入手可能となっている。この二つの差異は、前者がハードウェアと OS が Apple によってのみ開発販売されるクローズドな環境であるのに対し、後者は数社のメーカーからハードウェアが販売され、OS は各メーカーにライセンスされたオープンなものとなっているということである。またこのタブレット端末用に開発された応用ソフトは前者の場合、Apple の運営する App Store を通じての販売に限定されるが、後者はオープンな環境のため、特に配布のチャンネルが一つに限定されることはない。

Apple はすでに市場の優位性を占めており、2011年9月にアメリカの調査会社 IDC が発表したニュースでもタブレット市場のシェアにおいて iPad が68%を占めていると報じられている¹²⁾。また MM 総研の調べでは有料アプリの OS 別シェアでも iPhone、iPod touch、iPad の iOS に対応したものが市場の84.5%を占めている¹³⁾。したがって、タブレット型携帯情報端末の利用を想定する場合は、iPad をデファクトスタンダードと捉えるのが妥当と思われる。

4. iPad の活用

iPad の特徴、利点などを踏まえて語学教育にどのように活用すればいいのだろうか。iPad を単に活用すると言ってもその方法は多様性がある。ここでは iPad を「教育ツール」、「学習ツール」、「管理ツール」という3つの側面からその活用法を提示する。

4.1 教育ツールとして

教育ツールとしての使用は、教員のみ iPad を使用することを想定した使い方である。本来、iPad を学生各人が所有し、ノマドラーニングを実現することが理想であるが、予算的な面、学生の負担等を考慮すると、必ずしもそのようなことがすぐに実現するとは限らない。しかし、教員が自ら iPad を所有し、それを活用するだけでも授業の活性化は可能である。

教育ツールとしてもっとも活用できるのは教材の提示と管理である。語学教育で一番用いられる音声教材では iPad に内蔵されている iPod 機能を使用すれば、頭出し等の操作は不要である。また音声の途中で任意の箇所を再生できるので時間的なロスがなく、学生たちの集中を不必要に中断させることがない。

また筆者が「教室の足枷」(佐々木 2010) と呼ぶ制約、すなわち教員が教材の提示のために、教壇や教室前面のコンソールに備え付けられたプレーヤー等の操作に制約され、教室巡回ができない状況も改善できる。現在、Apple TV¹⁴⁾ という機材を使用すれば、音声、動画、静止画を無線で iPad から制御することが可能となり、教室のどこからでも再生ができる。

さらに、講義形式のような場合でも活用できる。講義用に作成したスライドの再生のみならず、特に iPad2 のミラーリング機能により、web のサイト表示、あるいは YouTube のような動画再生サイトのビデオを再生することもできる。教室に無線 LAN 設備がなくても、教員が定額制のモバイルルーターなどを常時携帯すれば、インターネットに常時接続できるので、このような情報提示が可能となる。

iPad2 であれば黒板の代用も可能である。手書きで絵を描くアプリ¹⁵⁾ が多数あり、スライド上映の途中でも、一瞬で描画アプリに切り替え、指で文字を書けば黒板の変わりになる。特に大きなスクリーンを使用して、黒板が使えない状況ではこの方法が有効であろう。

4.2 管理ツールとして

管理者ツールとしての iPad も教員のみが使用することを前提とする。これは主に学生の出席・成績管理をするツールとしての使用である。すでにこの活用法は拙論(佐々木 2010)で述べているが、表計算アプリ¹⁶⁾ を使用して、そこに学生の氏名、出席記録、出席率、テスト等の点数を記載し、さらに評価基準に示しているような評価比率を加えて、成績が一目瞭然となるようにして携帯するということである。単位取得のための点数シミュレーションが可能になるので、学生に対して学習目標を具体的に提示することができる。またデータのバックアップがとれるということも利点の一つである。

学生の記録以外にも、教材や研究資料の管理にも iPad は適している。音声・映像データ、画像データなどはコンピュータと連動して保存管理ができる。また研究論文のデータや PDF

に電子化した書類等のほか、メモデータを保管するアプリも多く存在する。特に「クラウド」と呼ばれるサービス¹⁷⁾を利用すれば、データのバックアップや他の機器での情報共有も簡易にできる。インターネットへの常時接続環境を最大限に活用することで各種のデータを一元的に管理できるようになる。

4.3 学習ツールとして

教育ツール、あるいは管理ツールは教員個人が iPad を所有して活用する方法である。しかし学習ツールとしての iPad は学生一人一人が所有し、常に携帯してノマドラーニングを実現することを前提とする。ここでは学習ツールとしてどのような活用方法があるかを述べる。

4.3.1 iPod 機能の活用

iPod 機能とは音楽やビデオ鑑賞のためのアプリとして最初から iPad に内蔵されている機能である。しかしここに教材用の音声教材とビデオ教材を登録すれば、学生はいつでも教材を学習することができる¹⁸⁾。

iPod の機能は単に登録した教材の利用にはとどまらない。Podcast という無料で配信されている様々なプログラムをここに登録して、利用することができる。Podcast は音声、映像などが番組のように配信されており、語学学習での利用価値の高いものが多い。TOEIC の受験者向けのプログラムは枚挙にいとまがなく、中国語やハンゲルのものも豊富である。教科書以外の補助教材として、このような無料プログラムを活用して「生きた」語学のサンプルを学生が体験できる意義は大きい。また海外の大学は講義を Podcast で配信しているところも多々あり、授業によって利用価値はさらに高まる。

Podcast の他にも有料であるが iTunes Store から映画やテレビドラマをレンタルしたり購入することが可能である。最新の表現等を学ぶなど、教員自身にとっても自己研鑽をはかる学習ツールとなる。

4.3.2 iBooks による電子書籍の利用

iPad には電子書籍ビューアーとして iBooks というアプリが装備されている。このアプリは ePub と呼ばれる形式の電子書籍か PDF を表示できる。電子書籍は単に紙の文字を電子的に置き換えるだけでない。特に ePub 形式で保存された書籍データの場合には、web へのリンク、マルチメディアデータのリンク、内蔵辞書の活用といった特徴がある。電子書籍は ePub 出力ができるワープロソフトを利用することで、一般のユーザーでも簡単に作成でき、教員が独自の教材や解説書を作ることも可能である。

Web へのリンクは任意の文字列に設定できる。例えば、電子ブックで文法項目の説明をして、「練習問題へ行く」などの表示を行い、それをタップさせることで web に用意された練習問題や関連の web 情報へ学生を誘導することができる。

マルチメディアデータのリンクは、書籍内に、音声、画像、ビデオを挿入できる機能である。例えば、発音記号だけではイメージがつかめない発音に対して、音声データへのリンクを張れば音声が流れるようにできる。あるいは、会話等の解説では具体的な場面を表示した会話のビデオをリンクさせることで、具体的な会話表現の使用やそこに連動するジェスチャーについても解説・学習ができる。

iPad には内蔵の辞書があり、表示されている文書の語彙を指でタップするとその意味が表示される。英語では英英辞典か英和辞典によって意味が表示されるが、どちらを使うかは ePub の作成時に指定できる。以下の図 2 は英文を表示して任意の語彙を選択して、辞書機能呼び出した場面であり、図 3 は辞書から語彙の意味を表示した例である。

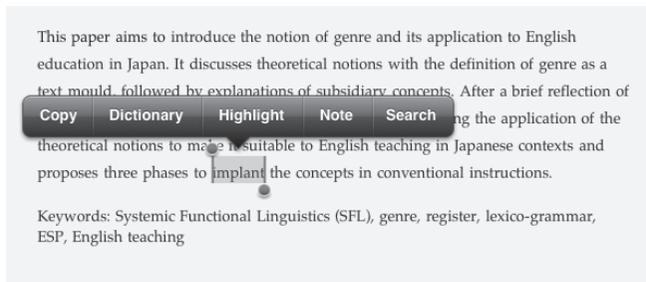


図 2：辞書機能の呼び出し

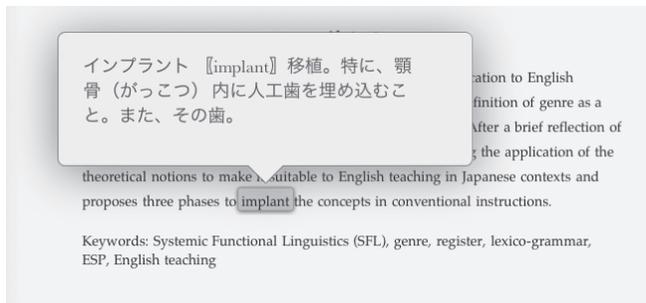


図 3：辞書の表示

この辞書機能は読解に応用できる。語彙をタップするだけで語彙の意味が表示されるので、講読の途中で辞書を引き、集中力が切れることが少ない。したがって、より多くの文章を読ま

せる「多読」への応用にもっとも有効と考えられる。

4.3.3 アプリの利用

iPadには多数のアプリが存在する。ゲーム性を取り入れたアプリが数多く、楽しく自主学習をすることができる。語学教育では英語、中国語、独語、仏語、韓国語等がある。特に社会的需要が多いためか、TOEICや英検のような資格関連のものが豊富である。それらの多くは語彙や文法項目について正解を選択させるもの、あるいは記憶をさせて、その正解を求めるというパターンが多い。リスニングに関するアプリも豊富で、受動的な学習についてはこれらのアプリは大変有効と言えるであろう。また会話のアプリもあるが、これは自分で録音するのではなく、会話表現が場面別にリストされ、その解説が表示されているものが多い。ただし、Dragon Dictationというアプリは自分で英文を読み上げるとそれを自動的に英文のテキストに変換する。できるだけネイティブに近い発音であれば、意図した英文が得られるので、これを発音練習に応用することができる。

アプリは自主学習教材の他にも電子辞書アプリが多数ある。英語では学習辞典として定評のあるジーニアス英和辞典から、研究にも使用できるランダムハウス大辞典、さらにAmerican Heritage等の英英辞典まで豊富に揃っている。Roget'sの類義語辞典やロイヤル英文法、ブリタニカ国際大百科事典(小項目版)など関連辞書や参考書もある。iPadによって、必要に応じて辞書アプリを購入し、自分だけのオリジナル電子辞典として活用する方法もある。

アプリは授業の主體的な役割を果たすものではなく、補助教材、あるいは学生が個人で知識を深める方法として使用されるべきものであろう。特にゲーム性に富むアプリであれば、隙間時間を利用したノマドラーニングに最適な教材と言える。

4.3.4 E-learning の利用

Webへの簡単なアクセスによって、従来コンピュータで行ってきたe-learningをそのまま活用する可能性についてはどうだろうか。残念ながら多くのe-learningプログラムはwebブラウザをMicrosoftのInternet Explorer等に限定しているため、iPadの標準webブラウザではそのまま使用することはできない。

しかし、この問題を解決する動きも出始めている。凸版印刷と関西学院大学が共同でiPadで実践できるe-learningシステムを共同開発したり¹⁹⁾、数社の企業がiPad互換のe-learningシステムを表明、もしくは販売をしている²⁰⁾。iPadに限らずタブレット型の情報端末へのe-learning対応は今後も増えることが予想される。

4.3.5 電子書籍と電子教科書

4.3.2で紹介した電子書籍は電子教科書と混同されることが多いが、根本的に異なるのでここで簡単に述べる。電子書籍の主眼はマルチメディアを使用した情報の「提示」であり、読者が書籍に直接情報を付加することはない。一方電子教科書というのは、情報提示だけではなく、学生に問題の提示、解答の要求、正解の提示により気づきへの導きがある。いわば前者は「受容型」であり後者は「受容・発信」である。必然的に電子教科書は双方向性が求められる。

紙の教科書では問題への解答の書き込み、特定箇所へのマーカーを引き、メモの書き込みという情報付加が簡単にできるが、電子教科書では、学習記録の記録、問題の正答率の表示、解説の表示、関連項目へのリンクがある。この両者はその機能こそ異なるものの、学生の「理解」や「知識の強化」等の機能という面では共通している。その観点から考えると、現在の電子教科書は電子書籍のようなものではなく、webで実践される e-learning のようなものである。ただし、iPad ではさらに紙に近い形の電子教科書が求められている。その一例として画面への書き込みがある。現在の iPad ではハードウェアの制限からペンで書くような精緻なメモが書き込めない。しかしこれも今後の技術発展により解決されれば、紙の教科書の長所と e-learning の長所を混合させた新しい電子教科書が生まれる可能性があるだろう。

5. 授業での実践例

それでは iPad の特徴や利点等をふまえ、具体的にどのような授業展開ができるのだろうか。ここでは筆者が2011年春学期に担当した「実践英語 I」での iPad 利用を紹介し、現実の教室でどのように活用できるのかを述べることにする。

5.1 授業の概要

実践英語 I は TOEIC 対策の授業と位置づけ、金星堂の *The Next Stage to the TOEIC Test (pre-intermediate)* を教科書として使用した。この授業は選択科目で、18人の学生が受講、LL 教室の4102教室で行った。講義概要には iPad を使用して授業展開をする旨を記載しており、受講生は事前に iPad の使用を理解していたので、この授業が iPad の授業活用の実験的側面があることを学生に伝えたところ、学生からの快諾とともに様々な協力が得られた²¹⁾。

授業に際し、産学協同研究パートナーである NES から19台（うち1台は教員用）の iPad と同数のヘッドセットが貸与され、それを授時に学生に使用させた。授業中には iPad 専用無線 LAN を設定し、インターネットに接続できる環境を構築した。

授業ではテキストに沿って、はじめにポイントの説明を教員が行い、簡単な練習問題をさ

せ、その解答の提示を受けて、該当する章の課題を一定の時間内にさせた。授業の後半は課題の解答と、その解説を行い、必要な場合は補助教材を利用して、学生の理解を深めるようにつとめた。

また授業中の技術的なサポートとして NES の山口宗芳専務にはほぼ毎回の授業に立ち会っていただき補助をお願いした。iPad は操作が簡単で特に実用上の困難は無いが、実際に授業に使用すると予期せぬトラブル等がある。教員がそれらのトラブルや学生から操作に関わる問題等に対応していると授業の運営に支障がある。それらを解消するために、技術的な面は、その都度同専務に対応をお願いした²²⁾。

iPad への音声教材の登録、ならびに iOS のアップデート等には LL 事務室にある MacPro を使用し、ほぼ毎回授業時には新規の教材登録を行った。

5.2 リスニング教材

授業で使用する音声教材は CD で提供されるが、これを MacPro でリッピングして、iTunes 経由で、iPad に登録した²³⁾。学生は iPad から iPod を起動し、ヘッドセットを接続して、登録してある音声教材を聞いた。iPad では iPod で音声を流しながら、他のアプリも使用できる。リスニング課題で使用する写真や問題等はあらかじめ筆者が自分のホームページ上に授業用ページを作成し、学生にはそれを閲覧しながら音声教材を聞くように指導した。またこの課題の正解と解説を記載したページを別途作成し、問題のページから「解答を見る」というボタンを設定し、そこに正解・解説ページへのリンクを設定した。

リスニング課題のページは web の form を使用したページとし、正解を選択して、タップするように作成した。学生は問題を終わると正解へのリンクをタップして、正解のページを閲覧して、自分の解答を確認するようにした。自分の解答はブラウザの「戻る」ボタンのタップで再度確認ができるようにした。

このような手順は煩雑であり、音声教材も web ページ内に設定することも考慮したが、ネットトラフィック (情報量) が増えて、アクセスが遅くなることを懸念して、上記のような運用をすることとした。

5.3 語彙・文法問題

語彙・文法の問題についてもリスニング課題と同様に web ブラウザを活用した。ここでも form を使用した web ページを設定し、学生は選択肢の隣に設定したボタンをタップすることで解答を選択した。解答後は正解へとリンクされたボタンをタップして、正解と解説を確認した。

自分の解答と正解、解説等を iPad 内に記録することができないことが不満となり、学生は次第に紙の教科書に自分の解答を記入し、web で正解を確認し、解説をさらに紙の教科書に書き込むという行動がみられた。iPad にメモアプリ等はあるが、表示されている内容に直接メモを書くことができない。また PDF の書類を表示し、そこに簡単なメモ書きを残すことのできるアプリも存在するが、iPad の画像解像度が荒いために、精細なメモ書きをすることは不可能である。これについては iPad の今後の機種更新に期待せざるを得ない。

さらに、学生からは個人の正解率等の記録を残せないかとの声があった。これについては NES が開発中の e-learning プログラム²⁴⁾を試験的に運用したところ、学生個人の正解率等の記録が可能になった。しかし、e-learning 環境を運用するためには、e-learning 用のサーバー環境が必要となり、関連業者との契約が必須となる。今後はこのような学習記録が保存できるようなアプリの開発が望まれる。

5.4 読解問題

読解については問題文をワードプロセッサソフトに入力した後に ePub として出力し、それを学生用の iPad に登録した。学生には iBooks を起動して読解問題を読むように指導し、その際に内蔵の辞書を積極的に活用するようにアドバイスした。長文の最後には web へのリンクを作成して、リスニングや語彙・文法と同様に web 上に作成した問題へと誘導し、form 機能を利用して、解答を選択させた。iPad では「ホームボタン」と呼ばれるボタンをダブルクリックするとアプリのアイコンが画面下部に表示され、そのアイコンをタップすることでアプリの切り替えができる。学生はこの機能を利用して、iBooks に表示された問題と web ブラウザの Safari を切り替えて解答を選択していた。

iBooks の機能は電子書籍に特化したものなので、読解問題には有効なアプリと思われるが、実際には「文の区切りをマークできない」、「単語の意味を書き込めない」という学生の声があった。学生の視点に立てば、文を理解する過程での「区切り」としての書き込みが必須のようである。電子書籍と電子教科書が同一ではないということを示す一例であろう。

5.5 個別指導

学生が課題に取り組んでいる間、筆者は教室巡回を行い、学生の解答を観察しながら、個別指導を行った。学生の正答率等から理解度を判断して解説・指導を行った。

iPad を使用した授業は CALL 同様、学生の個別のペースに合わせたものとなる。教員は一斉に解説する場面、個別に対応する場面をそれぞれ設定し、学生の理解力や課題の解答に応じて、解説の追加等、状況に応じた授業展開をすることができる。

5.6 立体的活用

iPad での授業展開というと「すべてを iPad で」と考えられがちだが、これまでの実践例の報告の通り、現実の授業展開ではまだ様々な制約があって劇的な変化はみられない。特に紙のメディアの「書き込める」という長所は iPad が置き換わることができない大きな特徴である。さらに web ブラウザを中心とする授業展開でも制約がある。従って、iPod 機能、iBooks 等の単一の機能に固執せず、関連するアプリも積極的に活用することが必要である。さらにすべてのメディアを iPad に置換するよりも、紙メディアなどの長所も生かして、これらを「立体的」活用をすることが結果的に授業の活性化をもたらすもっとも現実的な方法と言えるであろう。

5.7 ノマドラーニング

2.2 節でノマドラーニングについて述べたが、「実践英語 I」では学生に授業中のみ iPad を使用させて、学生に貸与をしなかった。これによりノマドラーニングを実践することができず、iPad の特徴の一つを検証することができていない。これについては今後の対応課題とし、秋学期に開講される「実践英語 II」の中で検討し、それについてはまた別の機会に報告することとする。

6. 英作文教育への応用

iPad は「聞く」、「読む」という受動的な学習には適した機材であるが、「話す」、「書く」という能動的な学習についてはまだ発展途上にある。会話に関するアプリも会話表現のリスト集という域を出るものではなく、実際にビデオを見ながら、会話表現を吹き込むなどの対応はできていない。また「書く」という面でも、穴埋め式の作文練習アプリ等は存在するが、一定の英文をそのまま書かせるというものは存在しない。

しかし、テキスト入力性の良さは iPad の特性の一つでもある。そこに着目したのが本学と NES との共同研究である。この研究の目的は学生に課題として英文を何度も異なるパターンで入力させて、最終的に意図する英文を自分で作成できるようにするプログラムの開発である。

このプログラムのプロトタイプは web 上に作成され、本年 7 月にポルトガルのリスボン大学で開催された the 38th International Systemic Functional Congress (第 38 回国際選択体系機能言語学会) で発表された。詳細については別の機会に報告するが、これは電子メールを一つの例として、具体的な目的や適切な場面に応じて英文が作成できることを意図している。特徴としては単一の解答だけを受けるのではなく、目的と場面に応じた表現であれば複数の解答を正解

として認識することにある。図4はその一例だが、空白の部分には“Dear Sir or Madam:”、“To whom it may concern:”等の句を入力しなければならない。またどちらの解答も正解として認識される。このようなプログラムを多く学生に受講させることでTOEIC等の資格試験では網羅できない実用的な発信型の英語力を涵養できると期待される。

Attending

NaN:aN

Ex.1

Stage 1: 挨拶 (Salutation)の練習をしてみましょう。

空欄に適切な表現を入れて問い合わせのメールを完成させましょう。

(1)

Please tell me if you can ship your items to Japan. I would like to know the details of procedure if you do.

Regards,

Makoto Sasaki

図4：英文教育プログラムのプロトタイプ画面

7. 教員の役割：Yes, we CAN!

携帯型端末、あるいはネットワークを活用したe-learningを語学教育に導入する場合には機材への投資という経済的な負担が障害として立ちはだかるが、実はそれ以上に大きな障害は「教員の誤解」である。機器による学習環境を整備することは主体的学習を促進することになるので、教員の中には「機械が先生の仕事を奪う」という懸念が根強く、e-learningを扱う業者からは「現場の先生の理解が得られない」という声を耳にする。

しかしながら、紙の教科書と問題集、さらにその正解と解説を学生に手渡しても学生は教員を必要としないであろうか。それらが単にデジタル化したノマドラーニングが主体的な学習スタイルになると本当に教員の価値は下がり、教員はもはや“No”を突きつけられるだけなのだろうか。

実はその解答は“No”ではない。むしろ“Yes, we CAN!”なのである。教員の存在意義と役割はこのCANの中に具現されている。CANの意味するものとは、**C**reator、**A**nalyst、**N**avigatorである。この役割は決してコンピュータで置換できるものではない。以下、それについて述べる。

7.1 Creator として

Creator というのは、教員が担当の学生に対して電子書籍や教材の web コンテンツを作成するということである。市販の教科書やアプリ、あるいは e-learning 教材は不特定多数を対象とするため、必ずしも自分が担当する学生にとって最適とはかぎらない。むしろその学生の学力等を熟知しているのは担当教員自身である。したがって、学生に応じて、独自教材や補助教材を作成することが教員の役割となる。

たとえ教員自身でそれができなくても、教材のグランドデザインさえ作成すれば、技術的なことは委託ということも可能であろう。例えば、第 6 節で紹介した英作文プログラムも内容的な設計は筆者が行い、コンピュータ上のプログラムについては専門のプログラマーが行っている。教員が web デザインや ePub 作成に精通している方が望ましいが、それは必要条件ではない。むしろ必要なのはコンテンツの作成能力である。

7.2 Analyst として

Analyst としての教員は学生の解答を観察し、誤答がある場合にはどのような傾向があるのかを分析する。第 5 節で報告したように iPad で授業展開をすると、必然的に学生が個々のペースで課題を行う形式となる。学生の解答や誤答を観察しながら、学生個人の弱いところはどこか、また複数の学生の誤答を観察しながら、当該授業の履修学生が全体として何ができないのか、また何ができるのかを分析して、授業中の解説を変更・追加したり、あるいは次回の授業用補助教材を検討する等の対策をとることができる。

Analyst としての教員は高い観察力と分析力が求められる。たしかにこれは教員にとって負担となるかもしれないが、教員としての価値が遺憾無く発揮される側面ではないだろうか。

7.3 Navigator として

Navigator としての役割とは、学生に明示的な説明を学生にし、どのような学習をするべきかを導くことにある。学生の理解度の把握ができれば、学生個々に応じた学習法等の個別指導を実践する。

Navigator としての役割には学生からの質問や相談に応じるという面もあるだろう。また様々なアプリや、学生の興味に応じた教材の紹介をすれば学生に知的好奇心を与えることもできる。教員と学生がお互いにコミュニケーションを取りながら、指導を行うということは iPad が介在する双方向性のもう一つの例と言える。

8. LL 教室の未来

iPad はこれまでの語学教育の根底を覆すような影響をもたらすものではない。しかし周辺の学習環境に対しては劇的な変化をもたらす可能性がある。典型的なものがLL教室であろう。従来、CALLを中心とするLL教室では学生が使用するクライアント用デスクトップ型コンピュータ、教材配信とコントロール用の教員用デスクトップ型コンピュータ、さらに教材の登録と保管、配信をするサーバー、ネットワーク環境の構築等大規模な設備投資を必要とする。さらにソフトウェアの投資も必要となり、その金額は総額数千万円規模のものとなる。

しかし、これまで述べてきたiPadの活用方法を実践すれば、LL教室のような設備投資は将来なくなる可能性が高い。教室に学生個人がiPadを持ち込み、事前に各自のiPadに登録した教材を使用すればよい。教材配信の必要もないので、サーバーは不要になる。あるいは使用教材はweb上で利用できるようにすれば登録の必要もない。教材作成も教員の個人研究室のコンピュータで対応可能である。

ネットワークでもケーブルを敷設する必要はなく、無線LANのルーターを一つ教室に設置するだけで50台ほどのiPadのインターネット接続を十分可能にする。LL教室では学生のクライアントコンピュータに教員の画面を提示して、説明をすることも多いが、これは通常教室に設置されているプロジェクター等で代用可能である。つまりLL教室でしか運用できなかった実践的な授業が通常教室において展開できるという、いわば「通常教室のLL化」が起きる。

通常教室のLL化には電力消費という面からも利点がある。LL教室のサーバーは通常24時間稼働状態なので、それを廃止すれば年間の消費電力も大きく削減できる。さらに数十台のクライアント用デスクトップ型コンピュータの消費電力やその排熱によるエアコンの設定温度等、直接・間接を問わず大きな電力削減につながる。電力需要という社会的な側面からもLL教室の変化は大きな意味を持つ。

もちろん、現状のiPadの運用がすぐにLL教室の廃止に直結するものではない。iPadには現段階で運用不可能なことが多々あるからである。例えば、LL教室のシステムではクライアントコンピュータの一斉制御をして、一定の時間内での問題演習を課すが、そのような制御も一斉制御もiPadでは不可能で、口頭で指示しなければならない。またマイクをつかったシャドウイング、字幕の制御等、克服しなければならない側面は多々ある。ただこのような問題も技術革新によっていずれ解決するであろう。iPadを組織的に導入する教育機関が増えるにつれて、LL教室が「過去のもの」となる日はさほど遠い先のことではないと思われる。

9. まとめと展望

これまで iPad という携帯情報端末が語学教育にどのように活用することができるかを述べてきた。ネットワークへの接続性と携帯性をもたらすノマドラーニングによる自主的な学習、さらに教室内でも学生個々の習熟度に応じた学習の実践、TOEIC のような試験対策の学習から、英作文など実践的な語学力の養成、教員のきめ細かい指導等、従来では困難だった授業展開が可能となる。

もちろんこの端末が万能というわけではない。これは単に教材を提示する媒体ツールである。紙の教科書のような書き込みにも対応できていない。またツールを有効活用する「主体的学習」への取り組み方も指導する必要がある。

教員の理解もまた必要不可欠である。このような新しい技術を導入する場合、とかく一部の「マニア」の教員だけが夢中になりがちだが、iPad の場合は直感的な操作性により、使用そのものについては敷居が低くなっている。教育機関として組織的に導入することはもちろん必要だが、それに先だって、教員各員が実際に活用し、「何ができて、何ができないか」を把握することが普及の鍵になるのではないだろうか。

社会や教育の中で変化をもたらす機器は iPad が初めてではなく、時代ごとに技術革新は社会や教育に影響を及ぼしてきた (Butt et al. 2009)。しかしそれが人間の教員に置き換わることはなかった。むしろ、先進技術を取り込んだ教育の活性化を模索することこそ教育に携わるものの務めであろう。

註

- 1) 本論は愛知学院大学と(株)名古屋教育ソリューションズの間で締結された産学共同研究プロジェクト「情報端末を用いた英作文教育プログラム」の成果発表の一部である。
- 2) ハードウェアの詳細は www.apple.com/jp/ipad を参照のこと。
- 3) <http://www.m2ri.jp/newsreleases/main.php?id=010120110707500>
- 4) <http://newsinfo.nd.edu/news/18178-study-results-students-benefit-from-ipads-in-the-classroom/>
- 5) <http://www.trinity.unimelb.edu.au/Media/docs/iPadPilotReport2011-1b1e1a52-79af-4c76-b5b6-e45f92f2c9e9-0.pdf>
- 6) <http://www.nagoya-bunri.ac.jp/~hasegawa/iPad/NBUiPadEF.pdf>
- 7) 語学教育にどのように生かすかという議論も緒についたばかりであり、Facebook 等の SNS ではタブレット端末の活用、デジタル機器の活用法が活発に論じられている。
- 8) WiFi モデルで 680g, 3G モデルで 730g であった。
- 9) WiFi モデルで 610g, 3G モデルで 613g である。
- 10) タブレット端末やスマートフォン用のアプリケーションソフトは日本語では「アプリ」、英語では app と総称されることが多い。

- 11) <http://www.apple.com/jp/ipad/built-in-apps/app-store.html>
- 12) <http://www.idc.com/getdoc.jsp?containerId=prUS23034011>
- 13) <http://www.m2ri.jp/newsreleases/main.php?id=010120110906500>
- 14) <http://www.apple.com/jp/appleTV/>
- 15) 筆者は Absolute Board というアプリを使用している。
- 16) 筆者は Office2 というアプリを使用している。
- 17) Dropbox というデータ保管・共有サービスを使うとクラウドから様々なデータに機器や OS を問わずアクセスできる。また Evernote という情報管理サービスはテキスト、音声、画像、映像、PDF などを使用した個人のデータベースを構築できる。
- 18) iPod に教材を登録する場合は、教科書会社や出版社が提供する CD 等からリッピングをする必要があるが、これについては事前の許可を受けなければならないことは言うまでもない。
- 19) <http://jinzai-ikusei.info/486.html>
- 20) ㈱ NJC ネットコミュニケーション (<http://www.netcoms.ne.jp/index.html>) や ㈱名古屋教育ソリューションズ (<http://nagoya-es.com>) 等がある。
- 21) 教材の提示の仕方からケース等の細かいことまで学生から有益な意見やアドバイス、フィードバックを得た。この場を借りて謝意を申し上げたい。
- 22) 教材を登録した web サイトがうまく表示されない等のトラブルがあったが、これは web ブラウザの Safari のキャッシュが作用しているためであった。このような細かいことが授業展開時には時としておこり、それが授業展開の支障になることもある。実際の授業での使用ではこのような細かいノウハウを集大成して、事前に対応できるような体制の構築が必要になるだろう。
- 23) 音声教材のデジタル化、書籍データのデジタル化については事前に金星堂の許可を得た。また履修学生には必ず教科書を購入させ、web サイト等はパスワードロックをかけて当該学生以外は閲覧できないようにした。
- 24) 執筆段階ではまだ未公開のプログラムなので、本論での詳細な記述は避けることとする。

参考文献

- Butt, D., Kobayashi, I and Sasaki, M. (2009). "Abstract Tools and Technologies of Learning: An Evolving Partnership." in J. Zaida and D. Gibbs (eds.), *Comparative Information Technology*. pp. 11-31. Dordrecht: Springer.
- Chen, B. (2009). How the iPhone Could Reboot Education. *Wired* (2009.12.8.) (<http://www.wired.com/gadgetlab/2009/12/iphone-university-abilene/>)
- 伊藤一成 (2011) 「大学におけるスマートフォンの活用事例」, 『情報処理』 vol. 52. No. 8: 1026-1029.
- 松元英樹 (2011) 「iPhone/iPad でかわる大学教育」, 『日経パソコン』 (6月27日号) pp. 18-19.
- Sasaki, M. (1993a) On Multimedia in Language Education: The Advantage and Linguistic Validity. 『山梨英和短期大学 英文学論集』 vol. 5. pp. 13-26.
- 佐々木真 (2002) 「英語音声教材のデジタル化と授業への応用」, 『愛知学院大学短期大学部研究紀要』 10号. pp. 64-83.
- 佐々木真 (2010) 「語学教育への情報コミュニケーション技術 (ICT) の活用: その実践と展望」, 『語研紀要』 (愛知学院大学語学研究所) 第35巻. 第1号. pp. 57-81.
- Vygotsky, L. (1986) *Thought and Language*. Cambridge, Massachusetts: MIT Press.

寺山修司と W. シェイクスピアの “未知の国”

——『花札伝綺』と『マクベス』——

清 水 義 和

01. まえおき

流山児祥氏は2006年テラヤマ歌舞伎『無頼漢～BURAIKAN～』（原作 寺山修司／演出 流山児祥／会場 森下ベニサンピット）を上演した。その公演で流山児氏は、「寺山修司が河竹黙阿弥の『天衣粉上野初花』を脚色した『無頼漢』はブレヒト的である」と論じ、更に、「『花札伝綺』はブレヒトの『三文オペラ』をコラージュした作品だ」とも語った。その後、流山児事務所は2011年に『花札伝綺』を東京・Space 早稲田で上演した。なるほど、『花札伝綺』はブレヒトの『三文オペラ』とプロットが似ていた。何れのドラマに出てくる親も、「娘を無頼漢の嫁にはやれぬ」と主張する。だが、流山児氏が語ったほど、『花札伝綺』が『三文オペラ』をそっくり模写した作品ではないという印象を持った。というのは、寺山のドラマは一つのドラマに幾つものドラマが嵌め込まれて構成されているから、ある一つの作品に限定して寺山の演劇を論じる事は危険だと考えたからである。特に、『花札伝綺』は霊界を扱っており、寺山の特徴であるあの世からこの世を見ているという視点が色濃く反映している。従って、この世を舞台にした『三文オペラ』とあの世を舞台にした『花札伝綺』とは、設定が違うのではないかという違和感があった。確かに、その違和感はブレヒトの異化効果の成せる業かもしれない。だが、殊に、葬儀屋の主人の団十郎が「きれいはきたな、きたなはきれい」¹⁾と台詞を言った時、寺山はシェイクスピアの『マクベス』²⁾からもコラージュしていると思った。けれども、『花札伝綺』は厳密にはシェイクスピアの詩劇とも幾分異なるという印象も感じた。というのは、シェイクスピアは『ハムレット』でハムレットに「あの世から帰ったものはない」(p. 960)と語らせている。ところがそれに対して、『花札伝綺』では、この世の出来事は希薄であるが、

あの世の世界の方が濃厚に描写されているからである。さて、寺山は、『花札伝綺』の他に自作の関連作品としてラジオドラマ『九州鈴慕』『まんだら』『黙示録』の三部作を「私の死学」として書いている³⁾。寺山は『九州鈴慕』で自分の「死学」論がフランソワ・グレゴワールの『死後の世界』に典拠があると述べている。(p. 134)そして、寺山が『花札伝綺』で斎場の主人、団十郎に託して表わした死生観「生が終われば死も終わるのだ」(p. 121)というコンセプトもグレゴワールの『死後の世界』にあるようだ⁴⁾。従って、『花札伝綺』では歌留多と鬼太郎が死んでしまい生きているものが舞台に誰もいなくなると、団十郎は「誰かが生きているふりをすればいい」(p. 121)と絶叫する。その理由は寺山の「死学」から由来していることが分かるのである。例えば、『九州鈴慕』では“鷓市”が死ぬと“竹市”も消滅する。『まんだら』では死者の“チサ”は死に神に浚われるとその亡霊も消滅する。『黙示録』では“雀”は空の墓の中に消滅してしまう。他に『十三の砂山』では、母が死ぬと“花子”も消滅する。また『恐山』では“良太”が両腕で抱いていた“和子”が消滅すると見知らぬ“いたこ”の巫女を抱いている。更に『狼少年』では狼少年“ダイ”は少女と結婚したければ養母の狼を殺せと言われ母代わりの狼を殺してしまう。しかし狼少年は人間社会の掟が解からず自滅してしまう。少女も狼少年を人間世界で住まわす事に失敗し自滅してしまう。つまり、こうした寺山の「死学」論のコンセプトは「生が終われば死も終わる」(p. 121)のであり一連の自作のドラマにも繰り返し現われる。更に、寺山が『花札伝綺』であの世とこの世を行きする魔術的世界は、むしろM. エッシャーが絵に描く謎めいた無限の世界を思わせる。つまりエッシャーは何事も疑ってかかりもう一度新しい視点で物象を見ることを主張している。例えば地平線は一直線だと思っているけれども、視線を置く場所の高低を変えるとそれに従って地平線も変わり、決して地平線が一直線ではない事が分かる。つまり、エッシャーの絵を見ていると、当たり前だと思っているこの世の出来事でも疑問はいっぱいある事を教えてくれる。従って、あの世の出来事の場合も、疑ってかかって見ると、忽ち変貌を遂げる。だから寺山も『花札伝綺』の中であの世の既成概念に疑いを懐き見直しているのである。本稿では、寺山が『花札伝綺』を構築する時に、シェイクスピアの『マクベス』やブレヒトの『三文オペラ』を外枠に使いながら、グレゴワールの『死後の世界』やエッシャーの『無限を求めて』を援用しつつ、あの世とこの世の狭間を徹底的に精査し新機軸を拓いたプロセスを辿る試みである。

02. 寺山修司の『花札伝綺』

『花札伝綺』には3人の盲目の按摩が登場する。鶴屋南北の『四谷怪談』には按摩・宅悦が出てくる。ところが、寺山には、盲目の按摩は眼明きと違う世界が見えるという発想がある。

そして更に谷崎純一郎の『春琴』やデイドロの『盲目書簡』に描かれる盲目の世界の方が眼明きよりも、もっと世界がよく見えるという考え方がある。さて、盲目の按摩は、3人なので、シェイクスピアの『マクベス』の魔女三人を思わせる。魔女はひきがえる・化け猫・親指等を釜で煮炊くが、寺山も、『花札伝綺』にひきがえる・化け猫・癩病患者の月親指を登場させている。また、舞台に魑魅魍魎を登場させるところは泉鏡花原作・寺山脚色の『草迷宮』の世界を想わせる。殊に『草迷宮』では手鞠が重要なキーワードになっている。『花札伝綺』の冒頭では手鞠歌で幕が開くが、手鞠は寺山ワールドのアイコンとなった。先ず、無頼漢の鬼太郎が出てくる。鬼太郎が繰り返す「かくれんぼ」のコンセプトは映画『田園に死す』の冒頭にもある。また、鬼太郎の頭文字の「鬼」は『毛皮のマリー』の重要なコンセプトである。マリーは「あした来る鬼だけが、ホント！」と言う⁵⁾。恐らく、『花札伝綺』は『毛皮のマリー』の後に書かれて上演されたドラマなので、鬼が死に神を象徴している事が分かってくる。ところが、当の、鬼太郎は、歌留多にあっけなく殺されてしまう。つまり、歌留多は既に少年夢二に殺され、次いで、幽霊となった歌留多は鬼太郎を殺害するのである。このところのプロットは、『東海道四谷怪談』でお岩が殺害され、幽霊となったお岩が伊右衛門を殺して復讐を遂げる結末と似ている。さて、大概の怪談物語はこころ辺りで大抵大団円を迎えて幕を閉じる。

だが、『花札伝綺』は、鬼太郎が死んでからの話がもう一つの大団円を形作っている。鬼太郎は、死んで、女性に変わっている。そして、歌留多の母おはかが男性に変わっており、鬼太郎とおはかの“逆さまの母子関係”が示される。鬼太郎が、女性になり、おはかが男性になるのは、花札遊びの表と裏の関係で示される。元々は、アントナン・アルトーの『演劇とその分身』に描かれた「ドゥーヴル」のコンセプトにあるようだ。例えば、アルトーの『ゴッホ論』を踏まえて、ヴィヴィアンヌ・フォレストールが書いた『人間ゴッホ——麦畑の挽歌』で示した解説によると、ゴッホは父であり母であり弟でもあるという。またアルトーは『ヘリオガバルスまたは戴冠せるアナーキスト』で、「母は父だ」⁶⁾と述べている。つまり、アルトーの考えでは、ゴッホは、父親であり母親でもあることになる。元々、どの生物も大地から生まれた。母なる大地から生まれた生物は種を宿して母なる大地に再び帰る。つまり、生物は種を宿すのであるから、元々生物は皆女性であるという事になる。それが、進化の過程で、男性と女性に分かれるが、元々生物は種を宿すのであるから、オリジナルは女性である事になる。とすれば、アルトーが言う分身の意味は、男性と女性がセットになっている事になる。或いは、他の例では、また、松岡和子氏が、マクベス夫妻は「一卵性夫婦」⁷⁾と述べている。松岡氏のコンセプトは、ある意味で、アルトーの言う分身をよく表わしている。

また、シェイクスピア原作・松岡和子訳・串田和美演出『十二夜』(2011)では、松たか子氏が一人で二役を演じるセザーリオ(=ヴァイオラ)とセヴァスチヤンの双子は女性であり男

性である。そうだとすれば、歌留多の母おはかは、女性であり男性でもありうることになる。また、鬼太郎も男性であり女性でもありうる事にもなる。この両性具有は、寺山がエリアーデの『悪魔と両性具有』や『シャーマニズム』から受けた影響を読み取る事が出来る。或いは、実は、鬼太郎は霊的存在となつてから、ブレヒトの『三文オペラ』で強盗のマッキースが盗みを働く以上の技量を発揮する。例えば、寺山は『無頼漢』で『三文オペラ』のマッキースが盗みの手口を河竹黙阿弥の任侠の世界に読み込んだが、『花札伝綺』では鬼太郎が死んだ後、盗人のテクニクを神業のように発揮する。そここのところは、マッキースの手口を根本から覆す技量となった。従つて寺山の真骨頂はその薄気味悪さが増すところにある。こうして鬼太郎は、夢二から新妻の歌留多を奪い、団十郎から古女房のおはかを奪い取る。霊が霊の心を奪うという薄気味悪さは生前の鬼太郎の盗みと比較すると歴然とする。生前、鬼太郎は、盗品の指輪を歌留多に捧げる。この指輪はマッキースがポリーに結婚指輪を渡す場面と同じである。元々、団十郎は歌留多を鬼太郎に奪われないように亡霊の夢二に頼んで生人間の歌留多を殺害し、あの世で二人は夫婦にする画策をたてる。だが歌留多は死んでも鬼太郎を諦めきれず、歌留多は生人間の鬼太郎を殺害し、二人は死者となつて霊界で一緒になる。いっぽう、マッキースは警察の通報で捕まり絞首刑にされようとする。ところが女王陛下の戴冠式の恩赦でマッキースは助かる。そして泥棒はよくないという教訓で終わる。ところが、鬼太郎はあの世で生前以上に盗みが上手くなっている。つまり、寺山の『花札伝綺』は『三文オペラ』の結末の教訓を逆転しているのである。

更にまた、『花札伝綺』で、歌留多が「あたしは生まれた日に死んだのです」(p. 111) という。歌留多は、藤しまの生まれ代わりだという。

葬儀屋の娘じゃない

産婆の娘の藤しまだ！

十年たつてあたしは自分の生家へ行ってみました 産婆の藤しま田んぼの一軒家 小さな子供の仏壇を見てあたしはじぶんが死んでいる事を知ったんです (p. 112)

歌留多は生まれた日に死んだことを確かめに10年後藤しまの生家を訪ねる。すると、仏壇に小さな子供の仏壇が祭られているのを見る。歌留多の譬えは、人は誰でも、赤子としての抜け殻を脱ぎ捨てて成長する。従つて、歌留多の赤子としての姿はもはや存在しない。だから、赤子としての歌留多は既に死んだと事になる。そこで歌留多は当たり前の事を言っている。だが、歌留多がもう存在しない赤子時代の自分を、他者の藤しまに置き換えて語ると不思議な転倒が起こる。藤しまは一体誰で、歌留多も一体何者かという疑問である。しかし、歌留多にとって赤子時代の自分の姿はもう存在せず他人のようなものだから、歌留多が他人の藤しまという見知らぬ人になつても、それほど死者同士に違いはない筈である。けれども、この場合、

厄介なのは、話をしている歌留多は死者であるから、死者の歌留多が死者の藤しまの事を物語る事が出来るのかという疑問が生じる。しかし、時間が経過すれば誰もが過去の人となり、まして同じ生を繰り返す事が出来ないのだから、歌留多が自分を死者として客体化して、自分の死なのにまるで他人の事であるかのように死を体験する。ちょうど譬えていうと、観客は古い映画を見ているうちに亡くなった監督の映画に感情移入して、映画に出てくる登場人物は他人の死なのに、自分の死であるかのように疑似体験として見てしまう場合がある。例えば、天野天街氏の『トワイライツ』(1994)は、事故で死んだ遠山トウヤ少年が自分自身の葬式を見るという映画がある。『トワイライツ』は天野氏が昔撮った映画だから、トウヤ少年も若き日の天野氏も、年を取れば、その後の映画上映時には以前の青年天野氏もトウヤ少年も当然いない事になる。けれども、観客は自ら映画に感情移入して、今まさに上映しているトウヤ少年の葬儀に立ち会っていると錯覚してしまうのである。

或いはまた寺山の『まんだら』では死者の“チサ”も死んだ“フミ”の生まれ変わりだという。“チサ”は“フミ”の生家を訪ねるが“フミ”はとっくに死んでいる。死者が死者としての自分の葬式に行くという設定では『まんだら』も歌留多の話も似ている。ところで、天野天街氏の『トワイライツ』は、葬式にトウヤ少年の遺影が飾ってある。従って、『まんだら』よりも歌留多の挿話の方が、天野氏の『トワイライツ』の映画のイメージに近い事になる。そこで、もしかしたら天野氏は『花札伝綺』を既に観ていて、今度は自分の映画の中でちょうど死んだ人が自分の死を見届けるというテーマを読み取っているかのように思えてくるのである。言い換えれば、自分が自分の死を見届けるのであり、しかも二人共既に死んでいるのである。観客はこの謎に直面するが、何時の間にかこの虚像に感情移入してしまい、それでいながら解けない謎だと錯覚するのである。

さて、『花札伝綺』では“母はお墓”というコンセプトがある。事実、葬儀屋の主人団十郎の妻の名前はおはかと言う。このおはかの娘の名前は歌留多と言い、両親の画策で、死んだ少年夢二と結婚させられようとする。

少年 きみのお墓は、どこにあるの？

歌留多 あたしのお墓？

少年 そう。

歌留多 あたしはお墓なんか無いわ。あたしや生きてるんだもの。

少年 生きてる人にだってお墓はあるさ。ぼくが生きていた頃、ぼくのお墓はお母さん
だった…… (p. 106)

こうして、死者の少年夢二の妖術によって、歌留多は死者となる。この話は、ラフカディオハーンの怪談『雪女』で雪女が茂作を死体にする物語を思い出させる。或いは、生者と死者と

の会話は『ハムレット』で亡き父ハムレットと息子ハムレットの会話や『マクベス』でマクベスが死者ヴァンコーと遭遇する場面などがある。

さて、この世から死者を見る視点とあの世から生者を見る視点があるとするならば、『花札伝綺』では、その境目が曖昧である。例えば、幕開きで、死者の葬儀屋夫婦の団十郎とおはかが、生人間・髭の男爵と葬式の相談をしている。次いで、死者の葬儀屋夫婦が生人間・無産党員を殺害する。それに続いて、亡霊の葬儀屋夫婦と生人間の歌留多が会話する。更に亡霊の少年夢二と生人間の歌留多が会話をする。そして、今度は、夢二に殺されて死んだ歌留多が生人間の鬼太郎と会話する。しかも、寺山は、死者が生人間と同じ様に、年を取り、生理作用を催すと述べている。こうして、寺山は、死者と生者の境を曖昧にしているのである。

おはか (びっくりして) まあ、この子!

団十郎 知ってるのかえ?

おはか いいえ。あまり生きてる人にそっくりなので。

団十郎 そう、そっくりさ。 (p. 94)

また、『花札伝綺』は詩歌が大きな役割を果たしている。短歌や歌謡曲やロックなどの音楽が大きな役割を果たしている。シェイクスピアの劇も詩歌のリズムや歌曲から成り立っている。また、歌舞伎も、長唄、常磐津、清元に、もちろん義太夫、鳴り物、三味線や、魔術音楽で舞台を構成している。

獄門次 足りないものは

鬼太郎 音楽だけだ

獄門次 そうだ、音楽だ。(p. 97)

前述の台詞は、ブランクバースに似た台詞である。だが、シェイクスピアのように、男女のロマンスを高める一種のコントラプンクトで成り立ってはいない。しかしながら、音楽は、この劇全体が醸し出す不気味さを表す働きをしている。

この劇のキーワードは「鬼」である。『毛皮のマリー』で、マリーは鬼が捕まえに来たら死ぬと言っている。ところが『花札伝綺』では、反対に、鬼が歌留多になり、鬼太郎を殺してしまう。

鬼太郎 ……ただ鬼だけがいればよかったんだ

歌留多 ほんとに、鬼だけが?

鬼太郎 (笑って) おまえは、おれの鬼なんだよ、今日から。(p. 101)

つまり、歌留多が死んで死に神になった時、歌留多は鬼太郎を殺すのである。

歌留多 じゃあ、愛は?

鬼太郎 愛?

歌留多 愛は物ですか？

愛は質屋に入られますか…… (p. 112-3)

この二人の会話は、太宰治の“愛の乞食”を連想させる。ところが、死んだ鬼太郎は、文字通り、死に神になるや否や、亡霊たちからさえも物を盗むのである。

さて『花札伝綺』では、奇妙なことに冒頭と結末が全く、同じ設定の舞台装置である。それは両方とも「近代」の地獄絵巻である。冒頭は生で始まり、結末は死で終わる。ところが、生と死は背中合わせになっている。また、葬儀屋の娘、歌留多は花札かるたの四枚目をめくると産婆の娘、藤しまの青いかるたになる。(p. 112) この場合、かるたの表と裏は生と死が隣り合わせになっている。それに、花札のかるたは歌留多と同じサウンドであり、そのかるたは四枚目をめくると藤しまの青いかるたとなる。つまり、花札のかるたを介して、一枚めくれば、歌留多は藤しまとなる。或いはまた、おほかは背中の刺青・松と桐の花札を見せ、鬼太郎は背中の刺青・満月の花札を見せる。二人の刺青を合わせると、悲しい墓場のしのび逢いの背景になる。この墓場のシーンに出てくる鬼太郎は、マクベス夫人の夢遊病者と同工異曲になっている。しかも、もう一人の夢遊病者は歌留多である。マクベスが言うように「人生は歩き回る影法師」(p. 942) であるなら、マクベス夫妻も一枚のカードの裏表と言う事になる。

Lady Macbeth. Out, damned spot! Out, I say! (p. 940)

また、マクベス夫妻を一枚のカードの裏表とすると次のマクベスの言葉はマクベス夫人の言葉の木霊のように聞こえる。

Macbeth. Out, out brief candle! Life's but a walking shadow: a poor player, (p. 942)

この台詞から推量すると、もしかしたら、寺山がトランプカードを想い浮かべ、『花札伝綺』を創作するときにトランプカードの代わりに日本の花札を使って表そうとしたのかもしれない。さて『花札伝綺』では死の国が繰り返し現われる。寺山の他の作品でも『十三の砂山』では「死は眠りを暗示している」(『寺山修司の戯曲』第2巻 p. 299) といっている。これはハムレットが「死は眠りだ」(p. 960) と語っている台詞と木霊しているのかもしれない。

ところで寺山が『花札伝綺』を創作するときに、花札賭博の仕方を名古屋のテキヤ一家から教わったと言われる。高橋正樹氏は自著『他人になれない優しいテキヤ一家の物語』⁸⁾で名古屋の大道芸を仕切った高橋組長のヤクザの世界を活写している。或いはまた萩原朔美氏も自著『想い出のなかの寺山修司』⁹⁾で天井棧敷の名古屋公演で高橋組長に世話になった経緯を詳しく物語っている。さて、セツ寺共同スタジオの支配人、二村利之氏の話によると、寺山が名古屋公演の時、高橋組長から指詰め事件や花札賭博の仕方を一部始終聞き覚えた筈だという。

03. シェイクスピアの『マクベス』

筆者は1997年12月9日、ミドルセックス大学のレオン・ルビン教授が名古屋の愛知県立芸術劇場リハーサルルームと名演会館で開催した『十二夜』のワークショップに参加した。ルビン教授シェイクスピア劇、『リチャード三世』(2003上演)、『ペリクリーズ』(2003上演)、『ロミオとジュリエット』(1996上演)、『ペローナの二紳士』(1984上演)、『ジュリアス・シーザー』(1981上演)、『シンペリン』(1980上演)、『十二夜』(1981上演)、『終わりよければすべてよし』(1981上演)、『オセロ』(1980上演)、『アテネのタイモン』(1978上演)等の演出を経て、その演劇メソッドを確立した。それ以来、筆者は、ルビン教授の演劇メソッドを学んできた。そこで、実際にシェイクスピア劇を上演した場合、どのようにルビン教授のメソッドを検証し活用できるのかその機会を窺っていた。その後、期せずして劇座公演『マクベス』の稽古と上演に立ち合わせていただくことになった。但し、劇座が扱ったシェイクスピアの悲劇は『マクベス』が初めてということであった。けれども、劇座の天野鎮雄氏はかつて文学座で演劇メソッドを学んだ俳優であり『マクベス』の稽古にあたっては、天野氏の演技指導を通して文学座での経験を窺う機会に恵まれた。特に、天野氏は演出家・伊与田静弘氏の指示だけに頼るのではなく、俳優の立場から次々と意見を出したり、また他の人の見解を柔軟に取り入れて役作りに厚みを加えたりした。その方法は、ルビン教授が示したアンサンブルによる演劇メソッドや福田恒存氏が稽古場で行った舞台設定を髣髴とさせてくれた。また、劇座客演の鈴木林蔵氏は近年『オセロ』でオセロを演じた経験があったので、マクベスの役作りの過程を見るには大いに期待が持てた。

伊与田静弘氏が演出した劇座公演『マクベス』の稽古を4カ月近く見学させていただいた。本読みから始まり、更に立ち稽古へと発展していく様子を具に見学できた事はよい経験になった。著者にとって、プロの劇団で、本番までの稽古を通してみる事は、40数年前に前進座での稽古以来の経験となった。その間には、福田恒存氏の劇団雲が1975年に上演したショー作『シーザーとクレオパトラ』の稽古を見る機会があっても本読みから本番まで通して見る事は数えるほどしかなかった。例えば、1986年に愛知学院大学 ESS 公演の英語劇ショー作『運命の人』の上演にあたりほぼ1年間に及ぶ稽古に参加したことがあった。また、2000年6月、名古屋シアターアーツで年宮沢賢治原作『とっこべとらこ』と同年8月に、ブレヒト作『セツァンの善人』の稽古と出演の経験があった。それ故に、殊に、劇座の稽古方法には格別の興味があった。また、天野鎮雄氏が文学座出身であり、鈴木林蔵氏が民芸出身であったことも、『マクベス』劇の構築方法を見ていくうえで貴重な体験となった。

本読みから、荒立ちの段階では、伊与田氏の演技指導はテレビ製作の現場を見ているよう

で、歯切れがよく、役者たちは、伊予田氏の叱咤激励に懸命に答えていた。立ち稽古になると、劇座の俳優はプロなので台詞を覚えるのが早く、稽古の過程で日に日に演技が上達していくのを見る事はスリルを覚えたほどであった。劇をテキストで読んでから観るという習慣を身につけた者にとって、稽古の段階から本番まで、劇が毎日変貌していくのを具に見る事は必要だと思っていた。

稽古が始まって1カ月もすると、演出家の役者に対する駄目出しが山場をすぎ、それと同時に稽古に間が空く感じになってくる。勿論、演出家は、役者の演技以外に、照明、衣装、音響効果に気を配らなければならないので、役者の稽古だけに集中してはいられない事情があった。また、役者達は身体に台詞が入ってくると、演出家が俳優たちに自由に演じてよいという言葉が多くなる。その理由は、演出家として指摘すべき事が少なくなってきた事を意味する。演出家・伊予田氏は黒澤明の『蜘蛛巣城』を手本にして演出していたし、また、小田島雄志氏の書いた書物『物語マクベス』¹⁰⁾からも意見を多く取り入れていた。演出家ばかりでなく天野氏の演技指導に説得力が加わった。天野氏の演技指導は、例えば前進座では稽古の途中で、演出家に加わって中村翫右衛門が積極的に駄目出しを行ったがそのときの演技指導と似ていた。また、劇団雲では福田恒存氏は稽古の過程で翻訳と原文との照らし合わせをしながら細かい駄目出しを行った。奇しくも、筆者は劇座での稽古の過程で翻訳と原文との照らし合わせをする機会が与えられた。

『マクベス』の本読みから始まった稽古が終わると立ち稽古となったが、本読みの段階では、役者は演出家の指示に従って従順そのものに演じたが、立ち稽古では、演出家の手から離れた役者たちが自在にステージを動き回るわけである。一方、演出家は舞台という多重多層の領域に踏み込んで演出していく。本読みでは、ロボットのように口だけを動かしていた俳優たちは、立ち稽古では体全体を使って自ら楽器と化し妙なる音色を奏でるのである。立ち稽古では演出家は役者たちがマクベスやマクベス夫人に変身するのを手伝う産婆役に徹していた。

演出家伊与田氏はどちらかといえば指揮者タイプの演出家であり俳優タイプの演出家ではなかったように思う。一般論として、俳優出身の演出家がドラマを演出すると芝居としては面白く出来上がるが、ややもすればその俳優の個性が露になり、役を掘り下げるのには役立っても、劇全体を見る眼が疎かになりやすい。ルビン教授によれば演出家が登場したのはオペラの舞台監督からであったという。その意味で、伊与田氏は典型的な近代的演出家であった。だが、役者に対して俳優術を駆使しキャラクターを細かく構築していく場合、伊与田氏はその技量が幾分不足していたように思う。その場合、天野氏の発言が俄然説得力を発揮するわけである。

1994年、ロンドン大学のデヴィッド・ブラッドビー教授が示した演出方法で、ブラッドビー

教授はスタニスラフスキーが『かもめ』を演出した際作成したノートをもとに演出した。だが、ブラッドビー教授が学生達に『かもめ』のドラマツルギーを示した時それを聞いた人には理屈で分かっていても身体がついていかなかった。ところが、ルビン教授が示した演出方法では頭の方で完全に分かっていなくても何時の間にか身体の方が自然についていった。ルビン教授はその理由について「演出家は、俳優は何が出来なくて悩んでいるか分かるからそれをアドバイスしてあげるだけだ」と述べた。役者は観念だけでは動かない。役者は「どうすれば欠点が直るのか」とその治療法を教えてくれる演出家を待っている。ルビン教授が言ったことであるが「演出家は現代医学にも通じたドクターでなければならない」と、『マクベス』の稽古中、演出家は役者がどう演じていいか分からず悩んでいる時にその病気を治す医者のようなのだと思ったことがある。事実、第5幕第3場でマクベスが医者に彼の妻の病を「なおしてやってくれ」¹¹⁾と頼む。だが、医者はマクベスを見捨てて逃げる。そこで、マクベスは最後にどうすることも出来なくて自らも「哀れな役者だ」(p. 162)と嘆く。そこで、『マクベス』の第5幕は、シェイクスピアが稽古中、役者の欠点を病氣と看破して劇作したのではないかと考えたくなる。つまり、シェイクスピアは、この場面で一種の演出の難しさを示したわけである。その意味で、この場面でのドラマツルギーを設定するとき、演出家は、いつの時代でも上演するたびに、役者がどう演じるべきかという問題を解決しなければならないのである。だからこそ、「シェイクスピアはわれらの同時代人」とヤン・コットが指摘したのは至言である。稽古も半ばに入ると、この種の膠着状態が続き、役者たちは苦しい正念場を迎えていた。

第1幕第1場。荒野。雷鳴と稲妻。3人の魔女が登場する。先ず、魔女達は発声を兼ねて、発話する。魔女たちは「いいは悪いで、悪いはいい」(p. 10)を同じ音量で言っている。そこで、魔女1は「いいは」を強く言う。次いで「悪いで」を弱く言う。更に「悪いはいい」を押さえて言う。魔女2も同じ調子で言う。魔女3は「悪いは」を強く言う。つまり、クレッシェンドで発話するように指示が出る。魔女3は台詞を大きく言う。祈りあげるように言う。お坊さんのお経のように「うわーん」とうねった感じで言う。輪唱の調子で、呪文のように言う。魔女1は「いいは」を強く言い、魔女2は「いいは」をもう少し強く言い、魔女3は「いいは」をもっと強く言って、最後の「悪いは」を一番強く言う。魔女1の位置は、先ず、舞台にうずくまる。次いで、舞台を這って行って、「うんにゃあ」という感じで立ち上がってくる。舞台が暗い中で雷鳴が響く。少しずつ明るくなっていく。魔女の台詞は、地獄から聞こえてくる感じで発話する。魔女1の起き上がり方も異様な感じがすることが大切である。魔女2は、身体をフックで止めて、舞台の天井から降りてくる。そして、杖と一緒にワイヤーを掴んで降りる。降りたところで、芝居をしながらフックを外す。そして、その場で板付きとなる。最終的には、3人の魔女が舞台面に集まってくる。魔女1は這ってきて、段の角で身体を支えて立

つ。魔女2はロープで舞台の天井から降りてくる。魔女3は上手からローラースケートで入ってくる。魔女達の退場は、3人の魔女がさっと去る。魔女2は下手に、魔女1と3は上手に入る。つまり、「サーッ」と滑って袖に入る。

どうしたら魔女の演技は面白いかを考える。魔女1は、伏せているとき、布の塊のように見える。魔女1は這ってくる。魔女2は天井から降りてくる。魔女3は上手からさっと出てくる。魔女3が「そこで会うのさ、マクベスに」(p. 9)と言うとき、声を上がり調子で言う。「いますぐ行くよ」(p. 10)も上がり調子で発話する。「いいは」は低い声で、呪文のような感じを出す。魔女3人は、動きながら台詞を言うといふ。魔女3人の並び方を考える。魔女に異様な表情があるとよい。先ず、魔女のポーズを作る。魔女達は普通でない。だから狂的な世界を感じを出す。魔女1は、手の動かし方を工夫する。例えば、前へ両腕をさしだすようにしてみる。そして、最後は引っ込める。魔女3は右手を頭の上にかざし、左手を顎の下に持ってゆき、手を動かして顔が見えたり見えなかったりする。くぐもっている感じ、引きずっている感じを出すようにする。或いは「ほわーん」とする感じを出す。そして、ゆっくりと動く。次いで、音楽は強くなる。同時に、稲妻が鳴る。魔女達は奇妙な動きを工夫して演じてみる。魔女1は腕を振り上げて異様な振る舞いをし、発声は年齢不詳の人のように言う。「今すぐ行くよ、お化け猫」(p. 10)は少女っぽく言う。

第3場、フォレス近くの荒野。日没前。この場面では、魔女はスケートを脱いでいる。第3場は、魔女が最初の登場から消えるまで、3分20秒の時間がかかる。次いで、魔女が使う小道具を考える。小道具は神事で使うようなものにする。或いは、祭りに使うものを考える。つまり、シンボリックにして、例えば葉っぱに羽がついているようなものにする。袖を使う場合、白いものでひらひらとしたものをつける。但し、簡単なもので変に見えるようにする。葉っぱに羽が生えているものを考えてみる。とにかく異常な感じがする事が大切である。その小道具を立てる場所を考える。それは、祈りの場所に相応しい事が重要である。小道具は舞台に4本立てる。だが、この小道具は神事で使うものではない。また、小道具の色は、舞台の色調が黒と銀色の中で映えるものが多い。大切なのは小道具の持つオリジナリティをはっきりさせることである。魔女3人は暗転の中でスタンバイしている。魔女達は、客席から舞台に這い上がってくる。「ぞろぞろッ」と出てくる。魔女達は、舞台の上に、4本の呪術の品をそれぞれ四角形の四隅に位置する場所に立てて置く。魔女達は、舞台では対角線上に動く。魔女3は「太鼓だ、太鼓だ、いいは悪いで悪いはいい」(p. 17)と舞台の上を回りながら言う。魔女3人は「3×3が9」(p. 18)と言って手を離す。その後で魔女3人は「これで呪文が結ばれた」(p. 18)と言う。魔女1は下手へ行ってお尻を向けて座る。魔女2は魔女1と抱き合う形で座る。魔女3は2人の魔女と離れお尻を向けて座る。

マクベスとバンクォーが上手から登場する。マクベスは「こんないとも悪いとも言える日ははじめてだ」(p. 18)と言って下手斜め前の方を向いて言う。バンクォーは「なんだ、あれは」(p. 18)と呪いの物を見る。次いで彼は「この世のものとも思われぬ、おい生きているのか？」(p. 18)と言って4歩センターへ行きかける。

バンクォーは魔術に強いので魔女に近づく。魔女3人はバンクォーを囲む。魔女たちが「万歳マクベス」(p. 19)を言うのを聞いてマクベスはびっくりする。魔女3が「万歳、マクベスとバンクォー」(p. 20)と言うのを聞いてマクベスはセンターへ移動する。そこで初めて、マクベスは、4つの異様な物に気がつく。すると、魔女3人がマクベスを取り囲む。魔女達が「万歳マクベス」と言ったら、マクベスは舞台面へ出てきて「いわんや将来、国王になるなどとは」(p. 20)と反発しながら「いったいおまへたちはどこからこの不可解な知らせをもってきた？」(p. 20)と訝しがる。魔女3人は舞台後ろへ行く。そこには紗幕があり、そこへ行って姿を消す。マクベスは舞台前にいる。魔女3人はスローモーションで動く。マクベスが「言わぬか」(p. 21)と発話したと同時に、3人の魔女はさっと紗幕に去る。バンクォーは「大地にも泡があるのか」(p. 21)と下手から言う。マクベスは、センターよりにおいて、何か不思議な感じがし、やがて、一本残っていた物に気がつく。

マクベスは「あなたの子孫は国王」(p. 21)とバンクォーに言う。すると、バンクォーは「あなた自身も国王」(p. 21)とマクベスに言う。そのとき、下手からロスとアンガスが出てきてマクベスとバンクォーに戦況を報告しにくる。バンクォーは2人を迎えるため近づく。つまり、バンクォーは2人を見つけて舞台奥から下手へと2人を迎えに行く。マクベスは、ロスとアンガスがマクベスを賞賛するのを聞き、その間ずっと呆然自失している。マクベスは魔女の言葉に虜になっている。マクベスは物に気づき、手に取り捨てようとするが捨てきれない。バンクォーは「物の怪も真実を語るのか？」(p. 23)と語り、やがて、呆然自失しているマクベスを見ながら「どうだ、あの呆然自失ぶりは」(p. 25)と言ってロスとアンガスに話しかける。

次いで、先ず、マクベスは、センターに向かって歩きながら独白する。そして、マクベスは「いや、ご苦労でした」(p. 23)と言って振り向く。次に、マクベスはバンクォーに向かって話しかける。その後で、バンクォーは「そうだ、お2人に話がある」(p. 24)とロスとアンガスに話しかけながら、パントマイムをする。例えば「恐怖ほど恐ろしいものはないな」と言って身体を使い表現の工夫を試みる。更に、バンクォーはマクベスを見ながら「どうだ、あの呆然自失ぶりは」と2人に言い、その後で、今度はマクベスに向かって「あなたさえよければ出かけようか」(p. 26)と話しかける。ロスとアンガスの2人が登場する場面で登退場の仕方を考える。先ず、マクベスは「おお、お迎えご苦労でした」(p. 23)と言う。すると、バンクォーも2人に気がついて話しかける。その後、退場するときはマクベスが「さあ行こう」(p. 26)

と言った後で、4人が下手に向かって退場する。マクベスは手に物を持っている。いわば、物は魔女の言った代名詞のようなものになっている。マクベスは、物を見ながら、「これはなんだろう」という気持ちでいる。その物を持ってマクベスは退場する。

第3場で、魔女3人が観客席から舞台へよじ登り、台詞を言いながら出てくる。魔女1は下手から、また魔女2と3は上手から舞台に上がる。魔女達は台詞を続けながら舞台上の呪文のかかっている箇所を四隅に物を置く。

魔女1は「あいつの亭主は船長で、いまアレッポに行っている」(p. 16)を高音で言って、普通の発話に戻って来ながら、「わしはそこまで一航海」(p. 16)で更に低い声に下げて言う。魔女3は「太鼓だ」と「マクベスがくる知らせだよ」(p. 17)を、長い台詞の真ん中くらいで少女っぽく言う。しかも呪文を唱える感じで発話する。魔女3は「太鼓だ」と言いながら、四隅の囲いの中で、時計回りで踊る。魔女たちは「いいは悪いで、悪いはいい」を呪文のように言う。魔女たちは「運命あやつる三姉妹」(p. 18)と言って3人腕を取り合い、時計回りに回る。魔女たちは「3×3が9、しーっ、これで呪文は結ばれた」(p. 18)と言いながら、さっと、去る。その後で、マクベスとバンクォーは上手より出てくる。魔女たち3人が「万歳マクベス」と言う。すると、バンクォーは「なぜそのようにびっくりされる？」(p. 19)とマクベスに言ってから、その後で、魔女3人に近寄る。マクベスが台詞を言っている間、魔女3人は、それぞれ物を3本抜き取り手に持って、舞台の奥へと去る。マクベスとバンクォーは2人きりで台詞を言い交わす。バンクォーは「なんだ、あれは」(p. 18)と言いながら、魔女達を覗き見る。マクベスは引っ張られるようにして、磁石の力強い力によってセンターまで来て、魔力の範囲内に入ってしまう。魔女たちは「万歳マクベス」と言う。それを聞いて、マクベスはびっくりする。その後で、バンクォーは「なぜそのようにびっくりされる？」と言う。すると、マクベスは我にかえる。同時に、マクベスは「何故びっくりしたのかな」と、自問自答する。魔女2は「万歳マクベス」と言い魔女3人はマクベスを取り囲む。魔女の1人はしゃがむ。他の魔女2人は立っている。マクベスは「待て、舌つたらずなもの言いをせず、はっきり言え」(p. 20)と言いながら逃げるように上手前へ行く。次いで、マクベスは魔女に振り向き訝って「なぜ、予言めいたあいさつをするのだ？」(pp. 20-21)と言う。その後で3人の魔女は消える。バンクォーが「大地にも泡があるのか」(p. 21)と言っている間に、マクベスが、我にかえる。次いで、マクベスは、上手奥から斜めに舞台を横断して、下手前に進む。バンクォーは「おかしな夢でも見たのかな」(p. 21)と不思議に思う。

マクベスは「あなたの子孫が国王になる」とバンクォーの気持ちを押し量ろうとして問う。するとバンクォーは「あなた自身も国王だ」と言い返す。それからバンクォーは下手奥から斜めに舞台を横断して上手前に進む。その後で、ロスとアンガスの2人が、下手に現れる。マク

ベスはロスが彼を賞賛するのを聞きながら照れくさい気持ちになる。同時に、マクベスは上手に立っている物が気になる。マクベスは物を手に取って、ロスの台詞を背中で聞く。ロスが「さらにおおなる榮譽の手付けとして、陛下はあなたをコーダーの領主」(p. 22) と言うのを聞いて、マクベスは物を捨てようとするが、捨てるに捨てられなくなる。いっぽう、バンクォーは「物の怪も真実を語るのか？」(p. 23) とマクベスの反応を見ながら言う。マクベスは「なぜ私にその借り着を着せられるのだ？」(p. 23) と訝しがる。

マクベスとバンクォーはお互いに近づいて2人だけの会話をする。マクベスはちょっと外して、「グラームズの城主」と言いながら、「いや、ご苦労でした」(p. 23) と言って機嫌を直して、2人の使者のほうに振り向く。また、マクベスはバンクォーの方に振り向いて、2人で内緒話を続ける。マクベスは「あなたの子孫が国王になる」とバンクォーに向かって言う。2人は近づき、バンクォーが「あまり本気にしすぎると」(p. 24) と言ってマクベスに釘をさす。マクベスとバンクォーの2人はお互いに誘いあって話す。その後で、バンクォーは「そうだ2人に話がある」(p. 24) と言って、ロスとアンガスを下手前に誘う。いっぽう、マクベスは次第に魔界に入っていく。舞台の四隅の場所に明かりがついている。マクベスは明かりの中に入っていく。マクベスは魔力にかかり狂っていく。

もう一度、魔女とマクベスとの出会いの場面に戻る。魔女3は「万歳、マクベス、将来の国王様」(p. 19) と言う。すると、マクベスは魔女の予言を聞いて次第に野心が起こってくる。つまり、マクベスの野心は下克上の世界を表している。マクベスは、魔女の予言を聞いて、衝撃を受ける。そこで、マクベスはぐるっと回るか、或いは、仁王立ちになる。かくして、マクベスはリアルを超えて、魔術の中で踊る。また、譬えて言えば、マクベスは、突然、両腕を突き出し、「何故このような格好をしているのか」と分からなくて自問自答する。マクベスがどんな衝撃を受けたのかを考えてみるのが大切である。ともかく、マクベスは啞然となる。このようにして、マクベスは、魔術にかかっていく。魔女がマクベスに近づいてくる。すると魔力が大きくなる。マクベスは魔力にかかりやすい磁場にいる。マクベスは漸くしゃべる力を取り戻して話し始める。ともかく、マクベスは、魔女の予言を聞いて呆然自失している。

魔女達は、物を3本片付ける。残りの1本は魔力の残り香となる。バンクォーは、「なに、物の怪も真実を語るのか」(p. 22) と言うが、魔女の予言の一部が本当になる。ロスが、「コーダーの領主」(p. 22) と、マクベスを賞賛して言う。更に、アンガスは「では、ダンカンの御前に」(p. 22) と言いながら行きかける。しかし、マクベスがついてこないのも、不思議な感じで待つ気持ちでいる。いっぽう、バンクォーは、マクベスを見て、「新しい衣服と同じだ、着られるまではなかなか身につかぬものだ」(p. 25) と言う。続いて第3場の荒野から第4場のフォレスの宮殿へと場面は暗転の中で変わる。第3場で、先ず、バンクォーが「物の怪も真

実を語るのか？」(p. 23)と言ったら、マクベスは物を捨てる。マクベスが物を捨てたら、マクベスは暫らく元いた場所あたりに残っている。つまり、物は魔力が強いのである。こうして、物はマクベスに魔術をかけてしまう。

第3場。フォレス近くの荒野。雷鳴。3人の魔女が登場する。先ず、風を一吹き送る。風の動きは、魔女が衣装を使って示す。魔女3は「太鼓だ、太鼓だ」(p. 17)とうれしそうに言う。魔女たちは「来たよ、来たよ」と言わんばかりに足を踏み鳴らして喜ぶ。魔女3人がマクベスを囲む。マクベスが落ちている物を手に取る。マクベスが「コーダーの領主」(p. 20)と言ったとき、魔女達は踊っていたのを止め、物を3本取って去る。マクベスが「おい、言わぬか」(p. 21)と魔女達に呼びかけるが消えてしまう。ロスとアングスの登場の場面を考える。先ず、バンクォーが「だれだ、あれは？」(p. 21)と叫んだ後「何だ、味方だ」と考えながら言って、その場で立ったままにいる。次いで、演出家はバンクォーの位置を決める。バンクォーが「だれだ、あれは？」と言った後、舞台奥の後ろから2人の使者に迫っていくことにする。

第2幕第1場、マクベスの城の中庭。松明を持つフリーアンス、続いてバンクォーが登場する。先ず、フリーアンスとバンクォーの登場について2人の出のポジションを決める。息子のフリーアンスは松明を持って上手奥から出る。次いでバンクォーが後ろからついて行く。バンクォーが「剣を持ってくれ」(p. 46)と言いフリーアンスに剣を渡す。その後でバンクォーが「剣をよこせ」(p. 47)と言ってフリーアンスから剣を受け取ったら、剣をいつでも抜く構えをする。次いで、マクベスが下手より登場する。続いて、松明を持った召使も後からついて行く。バンクォーが「だれだ？」(p. 47)と問うとマクベスは「味方だ」(p. 47)と答えてセンターに出てくる。

次に、バンクォーが「ありがとう、あなたもどうか」(p. 48)とマクベスに向かって目礼してから下手に退く。マクベスは召使と2人にきりになる。マクベスは「奥へ行って妻に伝えてくれ」(p. 48)と召使に話し、寝酒の用意を言いつける。マクベスは、召使を茫然と見送る。どっと疲れが出る。やがて、座る。次いで、下を見る。次第に、うなだれる。それから、頭を抱え込む。

やがて、「ゴーン」と鐘が鳴る。マクベスは、「おお、短剣ではないか」(p. 49)と言って、ちょっとびっくりする。マクベスは幻の短剣をつかんで引き寄せてもよい。こうしてマクベスは幻覚に入っていく。マクベスは、幻覚に現れた短剣と芝居を作る。マクベスは、疲れた様子でいて、しかも、困惑し疲労していることが幻覚に入りやすい。鐘が鳴ったら、それがスタートとなって、マクベスは行動に移る。その時点で照明が変わる。

マクベスは幻の短剣を見つめ「よし、つかまえるぞ」(p. 49)と言って立ち上がる。マクベスが「まだ見えておる」(p. 49)と言う時マクベスの気持ちも見えることが大切である。マク

ベスは小刀を腰に挿していないがあるつもりでアクションを使って示す。マクベスは短剣に「血のりがついているではないか」(p. 49)と言うとき「おお」という気持ちで発話する。マクベスは「目をたぶらかすのだ」(p. 50)と言って目をそむけ怖いものは見たくないと背中を向けて屈みこむ。マクベスが幻との葛藤を表す事が重要である。マクベスは自問自答しながら闇を透かして見る。そこで鐘がゴーンと鳴る。マクベスはぎょっとする。もう一度ゴーンと鐘が鳴る。するとマクベスは、覚悟を決める。ト書で鐘が鳴る箇所を確認する。舞台では鐘は3回鳴る。マクベスはぞっとする。そのとき鐘が鳴る。続いてマクベスが「いくぞ」(p. 50)と言った時鐘が鳴る。するとマクベスは覚悟してダンカンの寝所に入っていく。マクベスは一人芝居して国王暗殺の場面を膨らませていく。

第2幕第1場の冒頭に戻りバンクォーとフリーアンスの出の所を考える。フリーアンスは、袖で、足踏みしてから出てくる。それから、同じ方向に歩く。バンクォーが「夜もふけたが、何時ごろかな、フリーアンス？」(p. 46)と言った時、フリーアンスが止まる。フリーアンスが「もっと遅いでしょう」(p. 46)と言った後で、又歩きはじめる。バンクォーが「待て」(p. 46)といったとき、フリーアンスは再び立ち止まる。バンクォーはマクベスに会いダンカンから預かった「ダイヤモンド」(p. 47)を恭しくマクベスに渡す。バンクォーは密かな言葉で「実は夕べ」(p. 48)と言って台詞を止めそのまま前へ出てくる。するとマクベスも前へ出てくる。そこでバンクォーは振り向く。それからバンクォーはマクベスに「例の3人の魔女の夢を見た」(p. 48)と言う。マクベスは「私はすっかり忘れていた」(p. 48)ととぼけて言って振り向く。

マクベスは「そうだ、1時間でも」(p. 48)とバンクォーに誘いかける。ついで、マクベスが「やすまれるがいい」(p. 48)とバンクォーに言った時、マクベスの脳裏には、既に、バンクォーを暗殺しようと考えている不気味さが出ている。続いて、バンクォーがフリーアンスに剣を渡す所作を決める。バンクォーが「待て、この剣を持ってくれ」と言ったとき、フリーアンスは、前へ回り込んで、片手で、剣を2本持つ。次いで、フリーアンスが、剣をバンクォーに戻す時、フリーアンスはバンクォーと親子だから、親子の感じを込めて渡す。フリーアンスは剣をバンクォーに渡すとき、相手が剣を持つ事が出来るように渡すことが大切である。

第4幕第3場、イングランド、王の宮殿の前。先ず場面転換を考える。つまり前の第2場の場面でファイフにあるマクダフの城の場面はライトのチェンジで場面が変わるようにする。「助けて」とマクダフ夫人の声が、上手袖奥でした後、舞台には誰もいなくなる。そのようにして、マクダフ夫人が刺客に暗殺された事を観客に表す。次いで、上手のライトが消え、場面が変わり、下手の明かりがつき、こうして、舞台は、第3場のイングランドの宮殿前となり、下手奥からマルカムが出てくる。マルカムはセンターに出てくる。マクダフが後を追いかけて

くるが、途中で、少し外して「スコットランドの悲しみを共にし」(p. 128) と言う。マルカムは、マクダフに背を向けているが、マクダフのリアクションを背中で見ている。次に、ロスが、下手から登場する。マクダフとマルカムは、センターよりに位置する。マクダフは、ロスに近づき「そう口ごもらずに言ってくれ」(p. 141) という。ロスは、背中を向け避ける感じで、しかも、奥へ逃げる感じで発話する。マクダフはセンターで彼の妻子の暗殺を聞き「子供たちもか？」(p. 143) と跪いて言う。マクダフは「この剣のとどくところにいなおやつが逃れれば、天がやつを許しても構わぬ」(p. 145) と発話して太刀を抜き放つ。その後で、マルカムは「どんな長い夜もいつかはきつと明ける」(p. 145) と言って暗転となる。

同じ場面。先ず、マクダフは「嬉しいことと嬉しくないことがこの胸に同時に押し寄せてきた」(p. 137) と言ったとき、少し下手へ行くようにする。次に、ロスが登場する位置を考える。マクダフは「やあ、ロスではないか」(p. 139) と話しかける。この時、ロスは下手からセンターへ歩きながら言う。続いて、ロスは「あなたの城は不意打ちをくった」(p. 142) とマクダフの妻子暗殺事件を語ったとき、マクダフは「子供たちもか」(p. 143) と述べ、「それなのにおれはその場を離れていた」(p. 143) と言ってしゃがむ。更にマルカムはマクダフがマクベスに復讐を誓うのを聞き「それこそ男の言葉だ」(p. 145) と言いその後でマルカムは太刀を持っていないが所作で表わし「どんな長い夜もきつと明ける」(p. 145) と語る。

第4幕第3場、イングランド、王の宮殿の前。第3場の冒頭で、マルカムは、マクダフの言葉を背中から聞いている。マクダフが、言葉の響きでマルカムに訴えかけると、マルカムは、マクダフの気持ちが分かる。マクダフは、芝居でマクダフの気持ちをマルカムに示す。つまり、マルカムは背中からマクダフの言葉を聞きながら、言葉の響きで、マクダフの気持ちが分かることが大切である。この場面では、マルカムは、マクダフをテストしているのであり、相手の心理を試すために嘘を言っているのだから、その意味では、マルカムも戦っているわけであり、平然と台詞を言うてはいけない。マルカムは、振り向いて「マクダフ」(p. 136) と言う。このとき、マルカムは自分でもジーンとなり、マクダフの気持ちが分かっている。この場面で、マルカムは、所作を使い分けてマクダフに語りかける事が重要である。例えば、マルカムはマクダフに背中を向けて言う。或いは、振り向きざまに言う。更に又、近づいて言う。そのようにして、マルカムは所作を色々工夫して使い分けて最も適切な表現を探し出す。マクダフが「マルカム殿」と言って近づいてきたら、マルカムは頷き「実は……」(p. 137) と言ってから、誰にでも言う話ではないので、慎重に語り始める。

ロスの登場 (p. 139)。ロスが登場した時マルカムは動かずに「どうした」と言う。マルカムが「知らぬ他国でしか出会えぬ時代は早く過ぎ去ってほしいな」(p. 139) と言った時ロスは「同感です」(p. 139) と顔を曇らせて答える。ロスは「吊いの鐘を聞いても」(p. 140) と言っ

て舞台のセンターに動いて来る。ロスはどうくらいマクダフに顔を向けるか。或いは、どれくらいマクダフに顔を向けられないかという気持ち、そういう気持ちで作り方を考える。マクダフが「そう口ごもらずに言ってくれ」(p. 141)と、ロスに向かって尋ねる時、ロスはその言葉を、背中に感じていることが大切である。ロスが「奥さんも子供さんも無惨な最期をとげた」(pp. 142-143)と言った後、ロスはもうこれ以上言えないという感じで、顔をそむけて立ち去る。

マクダフはそれを聞いてがっくりきて「ああ」という気持ちを持ちながら「それなのに」(p. 143)と言ってしゃがんでしまう。その後で、マクダフは刀を右手にかざして「この剣のとどくところにいてなおやつが逃れれば天がやつを許してもかまわぬ」(p. 145)と叫ぶ。マルカムは、マクダフの心情になって近づき「それこそ、男の言葉だ」(p. 145)と言う。すると、マクダフはその言葉を聞いてその気になる。マクダフは、ためていたものが「わあー」と押し寄せてくるのを見せたほうがいい。マルカムは「マクベスは熟れ腐っている。一振りすれば落ちよう」(p. 145)と言って、マクダフの肩を掴む。それから、マルカムはマクダフを立ち上がらせる。すると、マクダフはゆっくりと立ち上がる。更に、マルカムが「さあ、あかるい顔をすなのだ」(p. 145)と言った後で、マクダフは振り向く。マルカムはマクダフの顔を見てから、「長い夜もいつかきっと明ける」(p. 145)と言う。

ロスとマクダフの会見の場。まず、ロスはマクダフをじっと見つめる。2人は男同士なら分かる気持ちをお互に通じ合わせる事が大切である。ロスは、それから、顔をそむけて、震える感じにいる。ロスは「奥さんも、子供さんも無惨な最期をとげた」(pp. 142-143)と言う時、ロスは、少し視線を外した感じで話す。マルカムとマクダフの会見の場を細かく設定。まずマクダフは「希望の火は消え去った」(p. 136)と言ってよろよろと行くところをマルカムは「マクダフ」(p. 136)のひと言で止める。マクダフは「マルカム殿」と言う。マルカムはそれをしっかりと受け止めそれからマルカムは両手を後ろに組んで台詞を言う。次いで3人のポジションを決める。まずロスは上手から出てくる。いっぽうマルカムとマクダフは下手前にいる。

第2幕第2場、マクベスの城の中。舞台奥で戸を叩く音がする。天野鎮雄氏が演じる門番が登場する。門番は酒を飲んでいて感じがする。片手に徳利を持っている。門番は「しょっちゅう鍵をまわしてならんだろう」(pp. 57-58)と言って立ち止まる。「トン、トン、トンか！」(p. 58)と言って酒を一杯飲む。ここで門番は片足で立ち両腕を両脇から水平に伸ばしふらふらしながら「両天秤かけてあっちにもこっちにも誓いを立てる二枚舌だな」(p. 58)と言う。次いで門番は座って「のらりくらりの二枚舌」(p. 58)と続ける。更に、門番は、また門を叩く音がするので「うるせいな、いつまでも」(p. 58)と言って立つ。門番は門を開きマクダフらを

迎え入れる。その際、酒を隠す。マクダフは、心づけとして錢を門番に渡す。マクダフらはダンカンの暗殺現場に入り、やがて下手奥から「おお、なんと恐ろしい！」と言いながら出てくる。その後、彼は上手前へと退場する。

第4場、マクベスの城の外。ロスと老人が登場する。ここで、前場の第3場から第4場への舞台転換の手順を決める。まず、城の中庭にいたマルカムが退場する。場面転換は、明転のまま転換し、第4場の城の外へと変わる。ロスは上手奥から出てきて下手前へと行き退場する。老人は、ロスの後から付いて上手奥から出てきて、ロスとマクダフが退場した後舞台中央に残り、日食を見ながら天を仰ぎ、照明が溶暗する中で、暗転となる。

この場で、ロスとマクダフとの間に連帯感が生まれる事が大切である。というのは、ロスは後で、マクダフに彼の妻子の安否を告げる重要な役割を果たすことになるからである。ロスとマクダフは、国王暗殺事件に心を痛めている。ロスとマクダフはお互いにやっぱりと感じながら、それでも腑におちないでいる。これからどう生きようかと思索している。マクダフは、老人をちらりと見る。というのは、知人ではないからである。けれども、貴族のロスとマクダフは、老人に敬意を払っている。

第4幕第3場、イングランド、王の宮殿の前。マルカムとマクダフが登場する。2人は一定の距離を保つ。マクダフはマルカムに尊敬心を持っている。マクダフは「いやむしろ」(p. 128)と言ってからマルカムに近づく。マルカムはマクダフが「いや確かに疑っている」と思っている。だから、マルカムは離れて話す。彼はマクダフに嘘をついている。従って、マルカムはマクダフに顔を窺がわれないように話す。マルカムの声は、トーンが違うことに注意しなければならない。つまり、凜とした声をいつも出さねばならない。マルカムは、もっと、声をはっきりと出して発話しなければならない。また、マルカムは、発話するときに台詞がうねってはいけない。マルカムは、あるレベルを保って発声しなければならない。怒鳴るのではない。凜として発話する。いいかげんに言っているのはいけない。マルカムは「いまのあなたのお話はおそらく事実だろう」(p. 128)を、「だろー」と語尾を延ばしてマルカムは詠嘆調で言っただけではない。従って、マルカムは「わたしにはそれが無いのだ、国王にふさわしい美徳が」(p. 134)と言うとき、決して詠嘆調に言っただけではない。というのは、マルカムはマクダフをテストし本心を隠し、嘘を言っているからである。つまり、マルカムは国王の息子なのだから、その器量を持っている。だから、マルカムはマクダフに嘘をついている場面であることを忘れてはならない。けれども、マルカムはマクダフをごまかそうとして言う必要はない。マルカムはマクダフにごまかして言っているのではない。マルカムは、こう言ってみたらマクダフはどう反応するだろうかと、調子を合わせて言っているのである。

第4幕第3場。マルカムは下手から登場する。続いてマクダフも下手から登場する。マルカ

ムは、発話する際、歴史劇では、現代劇と異なって、特に、国王の息子の場合、声が、凜としていること、芝居として戦国時代の時代を感じさせる声を作って発声することが重要である。マルカムは、先ず、大きな声を出してみる。それから、大きな声を出していく中で、次第に適切な音を作りだしていく。マルカムは舞台の下手半分を使って演じる。マルカムはマクダフに「あなたを頭から疑っているのではない」(p. 130)を言う時、曖昧に言わない。つまり、「疑っているのではない」と断定的にいう。マルカムははっきりと気持ちを出して言う。マルカムは、すたすたと出てくるのはよくない。少しずつ出てくる。

マルカムは、マクダフの台詞を聞くとき目をつぶって聞くのはよくない。マルカムが目をつむっていては「マクダフ」(p. 136)の一言でマクダフを止められない。マルカムは「マクダフ」の一言を、きちっと言わないと相手を止められない。もし、いったん、眼をつぶったのであれば、あくまでも、目をつむったままで言う。或いは、目を開いているのであれば、あくまでも目を開いたままで言う。とにかく、中途半端に発話してはいけない。

マルカムがマクダフをテストする場面を再度詳しく設定する。マルカムは「マクダフは、あの男に売れば恩賞にあずかれよう」(p. 129)と言う時、マクダフに背を向けたまま言う。次いで、マルカムは「いや、あなたを頭から疑ってかかっているのではない」(p. 130)と言って、マクダフに振り向いて問い掛ける。

マルカムは、内心では「どうしようかなあ」と迷っている。だがマルカムは「やはり、マクダフは俺に忠誠を誓っている」と分かって、この時、マルカムは「マクダフ」(p. 136)と「かーっ」と眼を開いて言う。マルカムは「それがないのだ、国王にふさわしい美徳が」(p. 134)と言うとき、表情を苦々しく言っているのは駄目である。あくまでも、マルカムはマクダフの気持ちを推し量っているのである。実は、マルカムには国王の息子としての美徳があることを忘れてはならない。マルカムは「それがないのだ」とはっきり言う。マルカムは百姓や下女ではない。皆、マルカムには人望があることを知っている。だから、マルカムは、最初から小芝居をしない。例えば、織田信長は芝居をしない、ドンと構えていて芝居をしない。能面みたいな面構えをしている。信長以外の登場人物は絶えず話しかける。しかし、信長は黙って聞いていてめったに口を開かない。従って、マルカムはこせこせしてはいけない。また、マルカムがすたすたと歩くとせこく見えてしまう。

マルカムは、人間が小さいとマクダフの言うことに耐えられなくなる。マルカムは、マクダフの心情が見えた後で始めて近づいていく。マルカムが「話はよく分かるがマクダフ」と言うときに、声を下げてしまうのはよくない。例えば、マルカムは「あの男に売れば恩賞にあずかれよう」(p. 129)と言って、言葉を流さない。あくまでも、「あずかれよう」と言ってはっきりと言葉を止める。マルカムは「それがないのだ、国王にふさわしい美徳が」(p. 134)と発話

する際、マクダフの顔を見ないで言う。マルカムは相手の気持ちを見抜くとき気配で察しなければならぬ。マクダフが「ああ、スコットランド、おまえは！」(p. 135)と言ったとき、マルカムは、マクダフの顔を見たければ見てもよい。マルカムは、初め出てきて「マクダフ」、「話はよく分かるが」と言うとき、「マクダフ」と「話はよく分かるが」の間をあまり開けてはいけない。マルカムがマクダフに向かって嘘を言っているときに、マクダフを見て台詞を言ってもよい。けれども、マルカムが相手の気持ちを計るときには、相手を見ないで言わなければならない。マルカムがマクダフに「わたしにはそれがないのだ、王にふさわしい美徳が」(p. 134)と言うのは、嘘である。また、マルカムが「このような男に国を治める資格があると思うか」(p. 135)と言うのも嘘である。マルカムは、こう言った発言に対するマクダフの気持ちを見たいのである。マルカムはこのようなテストをしながら、やがてマクダフが忠臣だと判断する。

次に、マルカムとマクダフの動きを細かく確定する。まず、マルカムはマクダフの気持ちを掴み、続いて、マクダフの視線を外して「マクダフ」(p. 136)と語りかける。というのは、マルカムがマクダフの心を見すぎってしまったからである。人と人との近づき方によって、人間の気持ちが変わりやすくなる。だが、あまり近づきすぎると相手の気持ちを掴みそこねる。そこで「マルカム殿」と言ってマクダフが近づいてくると、マルカムは視線を外すのである。マルカムはマクダフに「あなたの話は恐らく真実だろう」(p. 128)と話するとき、マルカムは斜めに振り向いて言う。真正面から相手の顔に向かって話しかけない。マルカムは言葉の調子を変えることは大切だが、声を落としてはいけない。更に、マルカムは「あの男に売れば恩賞にあずかれよう」(p. 129)と言ってマクダフの様子を窺う。けれども、マクダフは「私は裏切り者ではありません」(p. 129)と答える。それでもなお、マルカムはマクダフを試して「ないのだ、国王にふさわしい美徳が」(p. 134)と言って真正面からマクダフを見る。この場合、マルカムはうなだれて言うてはいけない。マクダフが「希望の燈は消え去った」(p. 136)と絶望するのを、マルカムは耳にしてマクダフが彼に忠義の心があることを知る。そこで、マルカムは「マクダフ、その真情あふれる」(p. 136)と言って振り向く。けれども、マルカムはマクダフに向かって「よし分かった、やるぞ」と言わんばかりに、あまり近づきすぎてはいけない。とにかく、マルカムはマクダフを試し、味方にする時にもポイントを掴むことが大切である。

次いで、マクダフとロスの会見の場。マクダフは、辛い知らせに「そうか！ 見当はついた」(p. 142)と言うときの受け止め方が大切である。マクダフは妻と子供の暗殺事件に対して想像する。そして、その無惨な最後を聞く覚悟を決める。マクダフは「子供たちもか？」(p. 143)と言って両手で胸を押さえる。続いて、マクダフが、太刀を抜く際に、その刀の振り上げ方を決める。マルカムは「一振りすれば落ちよう」(p. 145)と言ってから、マクダフの肩に

手をかける。マルカムが「さあ、あかるい顔をするのだ」(p. 145) と言うと、ロスが近づいてくる。マルカムが「どんな長い夜もいつかはきっと明ける」(p. 145) と言ってから正面を見る。マルカムは「マクベスは熟れ腐っている」(p. 145) と言うとき、声が小さくならないようにする。

第4幕第2場。ファイフ、マクダフの城。マクダフ夫人、その息子、ロス達が登場する。上手奥から、夫人が出てくる。息子がついてくる。そして、2人は衝立の前にいる。次いで、ロスが上手から出てくる。次に、使者が出てくる。最後に、暗殺者たちが出てくる。暗殺者1は衝立の後ろを通過して下手へ回り込む。暗殺者2は上手の前方から出て夫人と息子の横に位置する。暗殺者3はセンターにきて、回りを見張る。暗殺者1が「亭主は何処だ」(p. 127) と言ったとき、暗殺者2がいきなり刀を抜き、そのまま、息子を突き刺す。夫人は息子をかばうようにして上手へ逃げる。上手奥で「ぎゃあ」という声がある。

息子は子供だから一番好奇心がある。「おじさんたちは何しに来たのかな」と思い、夫人を通り越し、先頭に立つ。マクダフ夫人は上手から出て来るとき、さっさとではなく、ゆっくりと出てくる。息子は、夫人から離れると、夫人が息子を抱こうとしたとき、息子を抱けないので、あまり、離れすぎないようにする。夫人は息子に対する不憫さを、息子が言う台詞から組み立てていく。例えば、息子が「小鳥のように生きていくよ」(p. 124) と言うと、夫人は「本当にそんなことできるはずがない」と思って息子を哀れに思う。また、夫人が息子に「綱も鳥もちも怖くないのね」(p. 124) と言うとき、夫人は内心では、そんなことでは、世間を渡ってはいけないと思う。もし夫人が息子を不憫に思う気持ちを出すとすれば、2人が上手から出て来る途中で、夫人が立ち止まり、立膝で座ってみる。そして、下から息子を覗き込む。次いで、マクダフ夫人が涙ながらに「まあ、たわいもないことを！」(p. 125) と述べ終わった後で使者が登場する。使者は立膝についてマクダフ夫人に報告をする。夫人が息子を見たとき、子供が近づく。すると、夫人が息子の背後に回って後から息子を抱く。息子は、マクダフ夫人をよく見ていて、夫人に近づいてミソサザイの話になる。夫人が「まあ、たわいもないことを！」と言って視線を外しておろおろする。すると、使者が出てくる。

次いで、使者の向きを決める。まず、下手を見ていて、次に目を伏せる。だが、使者の気持ちはマクダフ夫人に向いている。やがて、彼は「ご無事を祈ります」(p. 126) と言って退場する。暗殺者1は、上手奥から登場し、目配りをする。彼は、マクダフを探している。暗殺者2は、上手奥から登場し、息子を刺す直前に刀を抜く。暗殺者2は、無言のまま一発で息子に致命傷を与える。暗殺者3は、上手前から登場し、センターで観客席のほうを見る。続いて暗殺シーンの細かい設定。全体として、暗殺シーンは、台詞をカットして、台詞なしで、無言で演じる。次に、マクダフ夫人と息子の細かい場面設定を再考する。息子は「小鳥のように生きて

いく」(p. 124) と言う。すると、夫人は「虫や蠅を食べて」(p. 124) と反論する。また、夫人は、息子のいたいな顔を見上げて言う。「おまえのお父様は死んでしまったのよ、どうするつもり？ どうやって生きていくの？」(p. 123) と尋ねる。すると息子は無邪気に「死んだ」と言う意味もわからずに「小鳥のように生きていくよ」と答える。夫人は、息子の動きに気をつける必要がある。この場面は親子の情愛が濃いシーンであることを忘れてはならない。言い換えれば、悲劇『マクベス』はこのシーンがあるから救われるのである。

マクダフ夫人は息子に「どうやって生きていくの」(p. 123) と言って近づく。そのとき夫人が1、2歩で息子に近づける距離にいななければならない。息子が「小鳥のように生きていく」(p. 124) と答えると、夫人は「え、虫や蠅を食べて？」(p. 124) と尋ねる。その場合、夫人は「え、そんな」と言わんばかりに悲痛な感じで言う。この場の状況は、夫人は心の中で息子に「こんなことを言わせてしまって」と思って涙する。

マクダフ夫人は涙ながら息子が「お父様は生きておいでだよ」(p. 124) と言うのを聞き抱きかかえる。次いで夫人は「いいえ、死んだわ」(p. 124) と否定する。息子は「ほんとうにお父様が死んだのなら、お母様は泣くはずでしょう。それで泣かないなら、いいことのある証拠でしょう」(p. 125) と言って夫人を盛り立てようとする。マクダフ夫人は、夫のマクダフが家族を捨てて逃亡してしまったのでずっと意気消沈している。そこで、夫人はロスが帰っていくのを見ていて、見送るのにつられて、ふと「お前のお父様は死んでしまったのよ」(p. 123) と息子に話すのである。夫人は思いを口に出して「こわくないのね」(p. 124) と息子を見て話すのではなく、心の中で息子を見て話す。息子は「本当にお父様が死んだのなら、お母様は泣くはずでしょう」(p. 125) と言うとき、すたすたと行かないで、お父様を悲しんで止まり、母親を励ますように話しかける。夫人は「まあ、たわいもないことを！」(p. 125) と言って泣く。すると、息子は「お母様」と言って夫人の肩に手をかけ慰める。

そのとき、使者が出てくる。彼は、顔を隠している。次いで暗殺者の出の前、息子はしゃがむ。その後、暗殺者が出てきてから立ち上がる。マクダフ夫人は「女の言い訳に過ぎない」(p. 126) と言ってから、暗殺者がいる気配を感じ、次いで、暗殺者に気づいて立ちあがり「誰なの」(p. 127) と言って左右を見る。この場面で、夫人は言葉だけではなく所作を交えた芝居があってもいい。次いで、息子も暗殺者達に気づいて夫人の後ろに回る。息子は暗殺者が近づいて来たときに夫人を守ろうとする。

第1幕第2場、フォレス近くの陣営前。第1場の荒野で暗転しその間に紗幕が飛ぶ。溶明。ダンカンの陣営が現れる。ダンカンは鎧の前に立つ。役者は全員ははっきりダンカンの陣営と分かるように身体で示す。また、役者達はこの場面が戦場であることを即興で表す。そこで、全員が観客席に向かって凛々しい姿で立ちあがる。

舞台の奥の一番高い場所に首脳陣がいる。左から、マルカム、ダンカン、ドナルベーンの順で並ぶ。2段目の下手に、レノックス、ケースネスがいる。上手にマクダフ、メンティースがいる。

マルカムは、「あの男です」(p. 10)と言って最上段から降りて来る。ダンカンはマルカムの後に付いて降りてくる。使者は、負傷をしている。使者は、身体の動きを交えながら、台詞を言って芝居をする、ダンカンは出迎える感じである。次いで、アンガスとロスが出てくる。舞台奥でラッパの音がする。

次に、ダンカンが「なにものだ、あの血まみれの男は？」(p. 10)と言う。マルカムは「あの男です」(p. 10)とダンカンの質問に答えようとする。使者の将校は、「痛い痛い」という芝居をつけながら出てくる。使者にスポットライトを当てる。次いで、将校は「勝敗は定かではありませんでした」(p. 11)と戦況を報告する。

ダンカンは「この男を医者」(p. 13)と言って部下に向かって将校を連れて行くように指示をする。続いてダンカンとマルカムは舞台奥にいて前へ出て来る。次いでダンカンは「なにものだ」と言う。続いて使者の将校が登場しマクベスの奮戦振りを報告する。将校は「傷が痛んでなりません」(p. 13)と言う。そこで武将の一人が将校に駆け寄る。ダンカンが「この男を医者」(p. 13)と言った時に武将が将校を抱え連れて下手奥に退く。

次に、アンガスとロスが登場する。(p. 14) アンガスとロスの場合も将校と同じようにマクベスの活躍振りを報告する。ダンカンは「嬉しい知らせだ！」(p. 14)と述べ、更に「その称号は畏敬すべきマクベスのものに」(p. 15)と言って少し後ろへ戻る。

更に、同じ場面を細かく区切って芝居として構築する。ダンカンは「嬉しい知らせだ」と上手方向に向かって言う。そして、またロスを見る。マルカムは「そうですね」という感じでダンカンに近づく。ダンカンは「やつが失ったものをマクベスがかちえたのだ」(p. 15)と言って奥へ行く。同時に、ダンカンの言葉を受けて家来一同が礼をする。暗転となる。次いで、ロスは板付きで出ている。ロスは下手前から上手前に向かって出てくる。マルカムは舞台奥の後ろの方から回り込むようにして将校に近づく。次いで、マルカムは「よく帰ってきた」(p. 11)と話しかける。続いて、ロスがマクベスの戦勝を報告した後、ダンカンが「嬉しい知らせだ！」と歓声の声をあげると、ドナルベーンが舞台奥から頷いてダンカンに近づく。役者は台詞を順々に発話していくのではなく、台詞を聞いて主従の命令系統がはっきり分かるように発話する。つまり、封建時代の人間関係がはっきり分かるように話す。武将の台詞や所作は、民主主義の時代ではなく、封建時代であるということが分かるように、「ピシッ」と伝わるように決める。

ダンカンが中央に位置し、左手にマルカム、右手にドナルベーンが位置する。その一段下

に、家来たちが左右に立つ。続いて、使者が下手前から登場し、次いで、アンガスとロスが一人ずつ順番に下手前から出てくる。マルカムは、舞台奥から「ダッダッ」と直進して降りて来るのではなく、回りこむ様にして降りてくる。最初に、マルカムが、使者に近づき、その後でアンガスとロスの順で近づく。

まず、マルカムは「あの男です、私が敵の手に捕らえられそうになったとき勇敢にも救ってくれたのは」(p. 10) と言いながら舞台前へ出てくる。それから、マルカムは立膝で座ったまま、最初、使者の話聞き、次いで、アンガスとロスの順でマクベスの華々しい奮戦振りを聞いている。更に、マルカムは、将校が「逆賊の目の前に」(p. 12) と言ったときに、ダンカンを見返す。そこで、続けて、将校は、凜として台詞を続ける。

第1幕第4場、フォレスの宮殿。役者達がスタンバイする位置は、第1幕第2場のフォレス近くの陣営と同じである。ダンカンは舞台を動き回り、照明が明るくなってから、「コーダーの処刑はすんだか」(p. 27) という。その間、ダンカンは立っている。他の家来は立膝で座っている。ダンカンは「あの男にはわしも絶対の信頼をおいていたのだが」(p. 28) と述べた後「おお、マクベス」と言う。下手から、マクベスとバンクォーが礼だけして出てくる。次いで、アンガスとロスが登場する。兵士が行進するような感じで登場する。

ダンカンが新しいコーダーの領主マクベスに「頼んだぞ、コーダー」(p. 30) と言い終わると、マクベスを除いて皆退場する。続いてダンカンは最初から立っている。ダンカンは逆臣マクドノウォールドに対して「あの男にはわしも絶対の信頼をおいていたのだが」(p. 28) と言った後振り向き「おお、マクベス」(p. 28) と呼びかける。また、ダンカンが「おお、マクベス」と言ったとき、一同は座っているが、それと同時に一同立ちあがる。マクベスとバンクォーは下手から出てきて、立膝で座る。他のものは、マクベスとバンクォーを出迎えて立つが、再び、立膝で座る。ダンカンは「近こう寄れ、わしのそばに」と言ってから、マクベスとバンクォーは立ちあがる。

ダンカンは、マクベスに褒章を与えた後、続いて、武将達の前で、マルカムを抱いて「わしはここに長男マルカムを王位継承者と定め、カンバランド公と呼ぶことにする」(p. 29) と宣言する。その後、ダンカンとマルカムは、上手奥に退場する。マクベスは、皆がいなくなったとき「カンバランド公か」(p. 30) と呟いて、更に、「マルカムが世継ぎか」と溜息をつく。というのは、魔法の3つ目の予言が外れそうになったからである。

同じ場面。まず、ダンカンは王座に帰りかけて振り向き「おお、マクベス」と言う。すると、皆一斉に立ち上がりマクベスを出迎える。それから、一同は元の位置に戻って座る。マクベスは、下手の袖より出てきて「おお、マクベス」を耳にする。マクベスは下手から出てきて立膝で座る。ダンカンは立ったまま話を続ける。ダンカンが「近こう寄ってくれ」と言った

時、マクベスは立ちあがって、ダンカンに近づく。2人は立ったままではいる。

続いて、ダンカンが一同に向かって「聞いてくれ」(p. 29)と言う。マクベスは立って振り返り向き、右を見、左を見る。だが、ダンカンは、マルカムに近寄り「マルカムを王位継承者と定め」という。マルカムは出てきて立膝をつきダンカンの世継ぎの話を聞く。ダンカンがマルカムを世継ぎとすると言ったとき、マルカムは、世継ぎを当然のこととして受け止める。マクベスは世継ぎの話を聞いて皆を振り返って見る。マクベスは心の中ではマルカムの世継ぎに反対している。

再度同じ場面の整理。まず、ダンカンは「聞いてくれ」と言うと、2人の王子が近づく。ダンカンが「マルカムを王位継承者と定め」と言うと、マルカムは一礼して立つ。更にダンカンが「すべての功労あるものに名誉のしるしを星のごとく輝かしめよう」(p. 30)と言ってから、マルカムは顔を上げて立ち上がる。そして、ダンカンは、マクベスに近づき、台詞を続ける。次いで、ダンカンが「ではインヴァネスへ」(p. 30)と言ってマクベスの館へ行くと告げる。それから、マクベスは立つ。マクベスは一人になると傍白で「カンバランド公か、この一段、踏みはずすか、飛び越えるかだ」(p. 30)と呟き、「黒い野望」を丸出しにして「見るも恐ろしい行為を手が為すとはいえ」(p. 30)と独白し下手に退場する。次に、会釈の仕方によって封建時代の主従関係を表すことにする。まず、ダンカンが「息子達」(p. 29)と言ったら息子達が会釈する。また、ダンカンが「すべての功労あるものに名誉のしるしを星のごとく輝かしめよう」(p. 30)と述べ「好意が報いられた時、誰でも栄誉を獲得できる」と約束したとき、一同が会釈する。ダンカンが動き出すと、皆一斉に会釈する。そしてダンカンが退場した後、皆、一斉に、首を上げる。家来達は敬意の表し方をはっきりと示す。また、マクベスとバンクォーは下手から出てきた後、立膝で座る。

第1幕第3場、まず、ポジションを決める。魔女は紗幕の前に登場する。ライトがチェンジする。場面転換では、ずっと音出しをする。魔女の扮装は銀色の色調で纏める。第3場の終わりでは紗幕が飛ぶ。そして、マクベスが「さあ、行こう」(p. 26)と言ってから退場する。

第3場の冒頭では、魔女1と2は上手の舞台下でスタンバイする。魔女3は下手の舞台下でスタンバイする。太鼓の音が聞こえたら魔女たちは上手前まで出てくる。魔女達は「手に手をとって」(p. 18)と言って杖を手取る。杖からは鳥が出てくる。魔女3人が輪になり杖を円の中心に指しだし、3本の杖の先を合わせる。そして「3×3」(p. 18)と言ってから、「ワーッ」と後ろへ飛びはね、「しーっ」と言う。「しーっ。これで呪文は結ばれた」(p. 18)と言ってから下手へ行く。

マクベスとバンクォーは上手奥から出てきて舞台面に来る。マクベスは上手奥から「こんないいとも悪いとも言える日ははじめてだ」(p. 18)と言いながら出てくる。バンクォーは舞台

面に出てきたところで「なんだ、あれは」(p. 18)と言う。マクベスは上手奥から出てきたところで「口がきけるなら答えろ」(p. 19)と言う。

魔女3が「万歳、マクベス、将来の国王！」(p. 19)と言った後マクベスは驚く。バンクォーは舞台面で「なぜそのようにびっくりされる」(p. 19)と言いながら下手にいる魔女3人に近寄る。すると、魔女1はバンクォーに向かって「万歳、マクベスほど偉大ではないがずっとしあわせなかつた」(p. 20)と言う。

マクベスが「待て」(p. 20)と言うと魔女3人がマクベスを取り囲む。魔女3人は舞台上に挿してある物4本の内3本を抜き取る。魔女3人は紗幕前で演技をする。次いで紗幕が飛んで音楽が鳴る。マクベスが「言わぬか」(p. 21)と言った瞬間紗幕が上がり魔女3人が奥へ去る。バンクォーは「どこへ消え失せた？」(p. 21)と言う。

マクベスは「あなたの子孫が国王になる」(p. 21)と言い、バンクォーは「あなた自身も国王だ」(p. 21)と言って、2人が少しずつ魔女の魔法に取り込まれていく。

次いで、アンガスとロスが登場し、マクベスが「コーダーの領主」になったと告げる。すると、バンクォーは「物の怪も真実を語るのか？」(p. 23)と不思議な気持ちで言う。バンクォーはマクベスの動揺を感じている。マクベスは「コーダーのご領主は」(p. 23)と言って物を取り「生きている」と続ける。

バンクォーはマクベスの驚愕した形相を見て、ロスに「どうだ、あの呆然自失ぶりは」(p. 25)と言ったとき、ロスはマクベスを見る。バンクォーはロスを気にする。バンクォーは、はっきりとロスを意識してみる。この間、ロスはマクベスを見ている。マクベスは「忘れていたことを思い出そう」(p. 26)と自分に言い聞かせるように言うが、我にかえって「ついぼんやりしていた」(p. 26)と繕ってごまかす。ところが、マクベスはごまかしきれず「やあ、ところで」と言うが、野心を持っていると思われると困るので繕うのである。2人が近づいて「2人だけの話だぞ」という風に内緒話をする。従って、マクベスがバンクォーの耳で「さきほどのできごと、よく考えておいてくれ」(p. 26)と言うとき、2人にはまだ連帯感がある。だが、第5場になると、マクベスの奥方がマクベスの心に野心の火をたきつけ2人の間に溝が入り始める。

同じ場面。最初、魔女3人が物を舞台の広い空間に、先ず手前に2つ、次に、後ろに2つ置く。それから魔女3人が「しーっ、これで呪文は結ばれた」という。ともかく魔女はこの場で魔術をかけて欲しいところである。次いで、マクベスは上手奥から「こんないいとも悪いとも」と言って出てくる。その後、マクベスが魔女に会い彼女達から予言を聞くと訝しくなり詰問しようとして「おい、言わぬか」と3人の魔女に迫るが、魔女達は奥へ消える。同時に、紗幕が飛ぶ。また、マクベスが「おい、言わぬか」と言った時点で、舞台の上に明かりが出てく

る。するとバンクォーが「大地にも泡があるとみえる」(p. 21)と言う。マクベスが「もっと引き止めておきたかった」(p. 21)と言って舞台奥へ魔女達を探しに行つて、やがて、戻ってくる。次に、マクベスが物を拾う時と捨てる時のタイミングを変更して整理する。先ず、魔女2がマクベスに「万歳、マクベス、コーダーのご領主！」(p. 19)と言ったときマクベスは物を取る。その間、マクベスは物に気を取られ魔女の言葉を危うく聞き逃すところであった。それで、マクベスが魔女に「だがコーダーとは？ コーダーの領主は生きておる」(p. 20)と聞き返すが要領を得た解答がない。マクベスが「おい、言わぬか」と言うと舞台の上に明かりが出てくる。次いで、バンクォーは「大地にも泡があるとみえる」と言う。やがて、ロスが登場しマクベスに「コーダーのご領主、それがいまのあなたです」と言いだす。そこで、マクベスは魔女の予言を思い出す。だが、マクベスが「コーダーの領主は生きておる」(p. 23)と不審に思いロスに尋ねて事実関係を知ると、マクベスは魔女の予言とロスの報告が符合したことに驚き思わず物を落としてしまう。更に、同じ場面の動きを細かく設定する。バンクォーは「だれだ、あれは？」(p. 21)と言って身構える。また、マクベスも身構える。バンクォーは使者のロスに近づく。マクベスは刀を構え少し下がる。次いで、マクベスは物をさっと捨てる。

さて、マクベス夫人が「バンクォーはもう土の下」(p. 149)と言うと医者には驚いて思わず身動きする。侍女は恐怖心を感じている。殊に、侍女は心の中で怖いと感じ、しかも観客に彼女の怖さがみえるように演じなければならない。また、侍女は覗くようにしてマクベス夫人をみる。更に、マクベス夫人が「バンクォーは土の下」と言った後医者が動くとき侍女はそれに呼応して動く。マクベス夫人は純化し、摺り足で、しかも、同じ歩調で平面を「スーッ」と歩く。夫人が夢遊病の演技をするとき、芝居の質が違うことが大切である。眼つきや声も違うことも大切である。マクベス夫人が「あの老人にあれほどの血があろうとは」(p. 148)とダンカン暗殺を告白すると、医者は「聞いたかあれを」(p. 148)と言う。一方侍女は恐怖を感じている。医者はマクベス夫人の苦悩を耳にし「なんという溜息だ！」(p. 148)と嘆息し、侍女は「あのような心をこの胸にもちたくありません」(p. 148)と言う。

医者は、マクベス夫人がバンクォー暗殺を告白すると「そうであったか」(p. 149)と言って侍女に振り向く。医者は夫人を患者と試みてみる。マクベス夫人は発話するとき「うんにはあ」と声を出すところと内にこもるところを使い分けて発話する。夫人はテンポで攻めるところと、萎縮するところとで声が「スーッ」と変わるように言い、同時に、体に緊張感があることが大切である。マクベス夫人が登場した時、医者は夫人を見たい気持ちを表す。いっぽう、侍女は引き下がろうとする。マクベス夫人が「血があろうとは」(p. 148)と言ってから座る。侍女はもう聞きたくないという気持ちでいる。侍女は夫人の病が分かっている。それで、侍女が夫人を追いかける時、いつも、急ぐ気持ちでいる。侍女は夫人の動作を一番気にし

ている。

第4幕第2場、ファイフ、マクダフの城。舞台中央の下手側に格子が置いてある。また、上手側に衝立が置いてある。マクダフ夫人は上手から登場する。やがて、暗殺者が現れ夫人を刺すと、夫人は上手に退場しながら「人殺し」と叫ぶ。同時に、赤ん坊の泣き声が聞こえる。その後、場面はスコットランドのマクダフの城から第3場のイングランドの王の宮殿前に舞台転換する。マルカムは下手の二段の上に立っている。マクダフは下手の舞台平面の上で、立膝でいる。マルカムとマクダフとの間の距離を近過ぎないようにする。言葉の遣り取りで2人の距離は狭まる。この場合、このようにして、主従の関係を出すことが大切である。マルカムは「なぜ黙っているのだ？」(p. 137)と怒っている感じで発話する。すると、マクダフは「嬉しいことと嬉しくないことが同時に押し寄せてきたのでとまどうのみです」(p. 137)と言うのでマルカムは了解する。

次いで、マクダフはロスに会い彼の妻子の安否を尋ね「そう口ごもらずに言ってくれ」(p. 141)と問いただす。この場面では、マルカムは動かない。そこで、ロスはマクダフの妻子暗殺を物語り「お子供たちも」(p. 143)と言ってからマクダフとマルカムに背を向ける。すると、マルカムはその時点で下へ降りてきて「元気をさせ」(p. 143)とマクダフを励ます。マルカムは「分る分る」という感じで後ろ向きになる。やがて、マクダフがマクベス討伐のため「スコットランドの悪魔の面前に突き出してくれ」(p. 145)と叫ぶのでマルカムの気持ちが動く。マルカムはマクダフに同情して後ろを向いていたが「それこそ男の言葉だ」(p. 145)と言って前に向く。更にマルカムがマクベスの首が「一振りすれば落ちよう」(p. 145)と言うとマクダフは気持ちが和む。

第3幕第3場、城に通じる林の道。日没直後、暗殺者の出の場面。黒紗幕が下りている。暗殺者1・2・3の順で上手から出てくる。暗殺者3は刀を構える。すると、暗殺者2は気配を背中で察知し刀を構える。それから、暗殺者2は「信用してもよさそうだぜ」(p. 88)と暗殺者1に言う。この時点で、暗殺者2は暗殺者3を味方だと判断し、気持ちが変わった事を示す。第3場の冒頭では、暗殺者達の逼迫した気合を示す。

バンクォーとフリーアンスが下手から登場。3人の暗殺者は「子倅も一緒だ」と言いながら隠れる。バンクォーが「今夜は雨になりそうだな」(p. 89)と言うと、暗殺者は2人に襲いかかる。暗殺者2と3はバンクォーに襲いかかる。バンクォーは「逃げろ、フリーアンス」(p. 89)と言う。フリーアンスは暗殺者1に松明を投げつける。暗殺者1が怯んでいる間にフリーアンスは逃げる。暗殺者1はその後を追いかける。バンクォーは深手を受けて上手へ逃げていく。暗殺者1がバンクォーの暗殺を「報告しなければな」(p. 90)と言ってから、3人の暗殺者は上手へ退場する。紗幕を飛ばして城の外から、第4場の宮殿の広間へと移る。舞台の上部

は森ネットを使って森の感じを出す。背景は黒紗幕を用いる。

第4幕第2場、ファイフ、マクダフの城。殺伐とした芝居の中で、この場だけが唯一情愛の感じを醸し出す場面である。だから、たっぷりと芝居をする。息子は、出のところで、衝立の後ろを通過して端まで行きそこから前を覗き忍び足でそろりそろりと舞台前に出てくる。マクダフ夫人は「ヨヨッ」と泣く。息子も悲しくなる。

次に、ロスが気持ちを観客席に向かって話す。ロスが「ご機嫌よう」(p. 123)と言って立ち去った後、マクダフ夫人は気持ちが「スーッ」と落ち込んでしまい「お前のお父様は死んでしまったのよ」(p. 123)と言って座る。夫人は息子に聞かせるのではなくて、自分自身の気持ちに向かって語りかける。夫人が「どうするつもり？」(p. 123)と言うと、息子は近づいてくる。そして、息子はおどけて母親に話しかける。息子は「お母様は泣くはずでしょう」(p. 125)と言って夫人を抱くように支える。また、息子が「すぐに新しいお父様が出来るって」(p. 125)と言うと夫人は崩れて泣く。こうして、だんだん危険が差し迫ってくる様子が高まる。次いで、夫人は膝をつき、その後で腰をあげる。

同じ場面。ロスは「これで失礼します」と言った後マクダフ夫人はセンターに出て来てとんでもない事になってしまった「お前のお父様は死んでしまった」と言って座る。続いて息子が「小鳥のように」と言った時夫人は息子を見上げる。夫人は「蠅を食べて」と尋ね「なんと愚かなことを」と思いながら「ああ、鳥もちも怖くないのね」と言って夫人は息子を見上げる。夫人は「この子だったらあいいもない事を」と言う涙が込み上げてくる。

次に使者が現れ用件を話してから「失礼します」(p. 125)と言ってゆっくりと立ち上がる。使者がいなくなった後、夫人のリアクションの仕方は、最初中腰でいて、次に、使者が「失礼します」と言った後で立ち上がる。

暗殺者達はバラバラッと出てきて広がっていく。暗殺者1は上手から衝立の後ろを通過して行く。息子は暗殺者に気がついたとき逃げようとするか夫人を庇おうとするかどちらかに決めてから動く。息子は気持ちを曖昧にしたまま動いてはいけない。暗殺者2は「ひよっ子」と言って息子を襲う。息子は「ああ」と言って上手奥へ倒れ込む。暗殺者1は下手で身構えているが夫人と息子が上手へ逃げていくのに気がついて急いで追いかける。暗殺者3は上手面へ出てくる。暗殺者達は夫人に深手を負わせ夫人が上手奥へ逃れるのを追って行く。

第1幕第5場、インヴァネス、マクベスの城。マクベス夫人は下手奥からマクベスの手紙を読みながら登場する。マクベスが手紙の中で夫人に向かって「将来の国王！」(p. 31)と言うところがある。その部分はテープの録音にしてあるので夫人はその録音にマクベスの声の入ったナレーションを聞きながら降りてくる。夫人は手紙を誦んでいるという風に嬉しい気持ちでグダグダと降りてくる。このとき夫人は気持ちを一点に集中する。つまり夫人は斜め向きの

ままの姿勢でマクベスが手紙の中で「この事をお前にも知らせておきたかった」(p. 31) と語る言葉を聞きながらわが事のようにマクベスの心の高揚を吐露する。次いで夫人は「以上のこと」(p. 31) までマクベスのナレーションを聞いてからここで初めて手紙を見て読みながら話し始める。夫人は「あなたはグラームズ、そしてコーダー」(p. 32) と独り言のように話す。この場面で夫人は手紙を床に置いたまま話を続ける。「さあ、早く帰っていらっしやい」(p. 32) と言ってからマクベス夫人は彼女の決意を示す。次いで、夫人はシートンの気配を感じて手紙を隠す。また、シートンが出てきた時、夫人は人の気配を感じ慌てて手紙を隠すという仕草をする。更に細かく舞台設定をして、シートンが出てきたら夫人は慌てて手紙を懐にしまうことにする。

マクベス夫人が「女でなくしておくれ」(p. 34) と発話したとき、何か異常な感情を表現しなければならない。夫人を見て、彼女は怖い女性だという感情を表す。夫人が座って話すとき彼女の気迫が小さくなる。夫人は立って話し内掛けを絞って、「さあ暗殺を執行するぞ」といわずに、内掛けを拡げ「この女の乳房に入り込み、甘い乳を苦い胆汁に変えておくれ」(p. 34) と凄んで言う。

使者が登場し、やがて退場する。次いで、マクベスが登場する。マクベス夫人は跪いて挨拶し、その後で立ち上がる。夫人はマクベスが自分の家に帰ってきたので「偉大な方」(p. 35) と言ってマクベスの手を取る。

続いてマクベスが「ダンカンが今夜ここに来る」(p. 35) と夫人に述べ出立は「明日、とのことだ」(p. 35) と言った後間があってから夫人が座る。マクベス夫人は「いいえ、その朝は決して日の目を見ないでしょう！」(p. 35) と言った途端マクベス夫人は表情が変わる。マクベスもマクベス夫人の言葉に吸い込まれるようにして座る。

次いで、マクベス夫人は立ちあがり「安心して私におまかせなさい」(p. 36) という。すると、マクベスは「あとで相談しよう」(p. 36) と言って立つ。

マクベス夫人は、マクベスの後ろ姿を見て「実はあなた」と言って上手から下手に動く。身体は正面を見たまま腹部に手を当てる。マクベスは近寄り、最初、夫人を労わるつもりで「本当か」という気持ちで、次に「愛しい」という気持ちで夫人の腹部に頭を傾ける。夫人は「さ、しっかりなさい」(p. 36) と言って、マクベスを立たせる。夫人が「あとのことは私が引き受けます」(p. 36) と言ったとき、マクベスは座ったまま聞いている。次いで、マクベスは立ちあがる。その後2人は上手奥に去る。

マクベス夫人は「将来の国王！」(p. 31) と言ってから手紙の内容を再確認して出てくる。やがて、シートンが現れ、立膝で座り「陛下が今夜ここにこられます」(p. 33) と話す。マクベス夫人は台詞を流すように言っているが言葉に毒をもたせて言うことが大切である。夫人が

話していくうちにグーツと毒が入ってくる。しかも夫人の言葉のほうがマクベスの言葉よりも先に毒が入ってくるのである。

第6場、マクベスの城の前。先ず、ダンカン一行が登退場するポジションを決める。次に、ダンカン一行を迎えるとき、マクベスの従者や侍女達が出てくる。また、次のシーンの第7場の城内に移る時、配膳係りが数人の召使を連れて登場し、その間に、場面を転換する。

第1幕第7場、マクベスの城内。冒頭のところは、先ず、下手から上手ヘシートンの案内で配膳係りが壺を掲げるように持って出てくる。次いで、召使がお膳を掲げて持ってついてくる。舞台の間口は八間あるが、歩く時、役者は腰を落として歩く。また、バックには能の音楽が流れる。

マクベスは上手奥から登場し「やっしまえばすべてやっしまったことになるなら、早くやっしまにかぎる」(p. 39)と言いながらセンターに出てくる。そこへ、マクベス夫人が登場する。夫人は、マクベスが登場してから、後ろを見て「やっしまえば」と言いながら話しているところを見ている。その間ずっと夫人は夫の様子を観察している。

第7場から数えて2つ前の第5場の城内で、マクベスは夫人のお腹をさするので近寄る。第7場の城内では、2人は距離をもって演じる。マクベスと夫人はお互いにこの場の全てを通して相手がどう出るのか見据えながら台詞を「パーッ」と言う。また、同時に、相手がどう反応するかを見据えながら芝居をする。

マクベスはダンカン王の食事中に「どうした何かあったか」(p. 41)と夫人に向かって言って「おれをお呼びか？」(p. 41)と王の様子を尋ねる。続いてマクベスはダンカン暗殺について「このことはもううちきることにしてしよう」(p. 41)と夫人に言って上段から下段へ降りて来る。マクベスは様子を見ながら動き、暗殺中止の動機について長年の主従関係を「簡単に脱ぎ捨ててはならぬ」(p. 41)と言い訳をする。マクベスは出てきたら動けない感じにいる。つまり、マクベスは極度に緊張しているから基本的に動けない。

マクベス夫人はマクベスを見据えて出て来て「ではさきほど身につけていたあの望みは酔っばらっていたの？」(p. 42)と言う。つまりマクベス夫人は脅したりじゃれたりしてマクベスをその気にさせる。そこでマクベスは次第に夫人に勇気付けられていく。この場の見え方として2人で内緒話をしているという緊張が欲しい。

マクベス夫人は意気地のない夫に「ではけどものだったのですか？」(p. 42)と言ってマクベスに近寄る。夫人は「へー、そうですか」と挑戦的になり「これからはあなたの愛もそんなものだと思うことにしましょう」(p. 42)と言って、怯んだ夫を励まし「その脳みそを叩き出して見せましょう」(p. 43)と言って袖で叩いてみせる。

マクベスは弱気になり「もしやりそこなったら？」(p. 43)と言うと、夫人は「やりそこな

う！」(p. 43) と反論して立ちあがる。夫人は「2人のお付きのものは私がうんと酒を飲ませて酔いつぶしてやります」(p. 43) と言って上手前へ移動する。すると、マクベスは「やつらの仕業と思うだろう」(p. 44) と言って視線を前にある王座を見て言う。

マクベスは「よし、心は決まった」(p. 45) と言って気持ちをかためる。マクベスが「決まった」と言ったとき夫人はマクベスを見る。更にマクベスが「みんなを欺くのだ」(p. 45) と言った時点で夫人が夫に近づく。またマクベスが「偽りの心をかくすのは偽りの顔しかないのだ」(p. 45) と言うと夫人はマクベスに頷いてみせる。

マクベス夫人は「いらっしゃい」という感じで誘い上手奥へ去る。夫人は先へ行き途中で夫を誘い2人一緒に上手奥へ退場する。最後、2人が近づくところが曖昧にならないようにする。

第2幕第2場、マクベスの城。前の第1場の城内で鈴がチリーンと鳴る。マクベスは「聞くなよ、ダンカン、あれはお前を天国か地獄へ招く弔いの鐘だぞ」(p. 51) と叫ぶ。

マクベス夫人は鈴を持っている。夫人は「あの2人を酔わせたものが私に勇気を与えた」(p. 51) と言いながら出る時、夫人がやった事を払拭して出てくる。

マクベスは、舞台奥のセンターで「だれだ、おい！」(p. 51) と言ってはっとして上手へ逃げる。マクベスは国王暗殺の犯行現場から離れたのである。マクベスは押し殺したような声で「おれはやったぞ」(p. 52) と言ったとき後ろに恐怖がある感じている。マクベスは「シーツ」(p. 52) と言って上手の方に出てくる。マクベスは手に短剣を一本握っている。もう一本は捨ててくる。マクベスは舞台奥から下へ降りて来る。マクベス夫人は舞台中央からマクベスに駆け寄る。夫人は辺りの様子を見る。夫人は「考えすぎではいけません」(p. 53) と言いながら下手に移動し周りを見る。マクベスは「シーツ」と言った後で、上手に行き再び舞台のセンターに戻る。

マクベス夫人は周りを見ている。夫人は「さああなた、なぜその短剣をもっていらしたんです？」(p. 55) と詰問して、マクベスに近づく。マクベスは「もうおれは行く気にはなれぬ」(p. 55) と言って上手へ行く。更に、マクベスは「二度とみたくはない」(p. 55) と叫んで跪く。マクベス夫人は「意気地のない！」(p. 55) と言ってマクベスに近寄る。夫人は「短剣をおよこさない」と言ってマクベスから短剣を取りセンターに近寄る。

マクベス夫人とマクベスは舞台上手の舞台面にいる。奥で門を叩く音がする。マクベスは「なんだ、あの音は？」(p. 55) と驚いて上手奥に行く。マクベスはセンターに戻ってきて「どうしたのだ、おれは、どんな音にもびくつくとは？」と言う。マクベスは音に対して対称的な反応をする。こうして、遂にマクベスは耳を覆う。

マクベス夫人は「夜着をお召なさい」(p. 57) と言って、マクベスに近づく。更に、夫人は

「しっかりなさって」(p. 57)と言って、マクベスの手を取る。マクベスは夫人に引っ張られ、正面を向いたまま「ダンカンを起こしてくれ、戸をたたいて起こせるものなら」(p. 57)と叫ぶ。

同じ場面。マクベスは下手奥からセンターに移動して「シーッ」と言い「次の間には誰が寝ている？」(p. 53)と尋ねる。マクベス夫人は近寄り「弟君のドナルドベーンです」と言ってから再び離れて周りを見張る。

マクベス夫人は「2人の王子がいっしょにいたはず」(p. 53)と言って周りを見る。マクベスは「もう俺は行く気にはなれぬ」と言い後ずさりしてしゃがみ込む。更にマクベスは立ち上がり「二度と見たくはない」と言うが再びしゃがむ。夫人はマクベスの短剣に最後になってから気が付くようにマクベスは背中を向けて台詞を言う。

マクベス夫人は短剣に気がつき、「なぜその短剣をもっていらしたんです？」と詰問する。そのとき、マクベスは自分の手から短剣を取ろうとするが取れないという芝居をする。夫人は「意気地のない！」と叱咤し、更に「短剣をよこさない」と言ってマクベスの手を上へ持ち上げて「ググッ」と短剣をもぎ取る。マクベスの手は膠着しているので手を宙に浮かしたままでいる。

誰かが門をノックする音がする。すると、マクベス夫人は下手に、マクベスは上手にすばやく、移動する。門をたたく音は、マクベスにとっては一番怖い音である。

次いで、マクベスは尻を舞台に落として、右手を見ながら「なんという手だ」(p. 56)と言って、立ち上がりセンターへと移動する。マクベス夫人が「私の手もあなたと同じ色、でも心臓はあなたのように青ざめてはいません」(p. 56)と言うと、マクベスはセンターから上手へ下がる。マクベスはいったん握っていたマクベス夫人の手を引き払い「ダンカンを起こしてくれ」(p. 57)と言いながらセンター奥に向かって右腕で指し示す。マクベス夫人は、再び、マクベスの手を握って一瞬止まる。そして、マクベス夫人を引っ張って上手奥へ行く。夫人は、マクベスに近寄ると、お互いの身体に触れすぎるので二人の間に距離が出来るように動きを整理する。

同じ場面を再び稽古する。まず、マクベスが登場する。夫人は「あなた！」(p. 52)と言って近寄ってくる。そこで間がある。次いで、マクベスは「おれはやったぞ」とゆっくり言う。一方マクベス夫人は「おれはやったぞ」という夫の声が聞こえたのでそれを聞きながら動こうとして夫人が「シーッ」と言うところかで音がしたような気がする。そこで夫人は次第に不気味な感じがしてくる。マクベスも音に敏感になり、「いつ？」(p. 52)物音がしたのかと夫人に尋ねる。そして、更に、マクベスが「おりてくるときか」(p. 52)と夫人に重ねて尋ねる。マクベスは、上段から下段へ降りてきたとき身体が膠着している。だが、次の瞬間、2人はダン

カンの暗殺が発覚したのではないかと心配し、一気に早口に変わる。

マクベスは「なんて情けないぞまだ」(p. 53) と言って、国王を暗殺し下克上したことで、精神的には余裕がなくなる。マクベスが「次の間には誰が寝ている？」と言うと舞台上では不気味な感じが続く。その間夫人は周りを見ている。次に「あれー、そうだ」と思い出して「2人の王子がいっしょにいたはず」(p. 53) と言って動く。とうとうマクベスが恐怖に打ちのめされて「マクベスにもう眠りはない」(p. 54) と絶叫する。実は、この言葉が劇の中で一番強いのである。更に、マクベスは「もうおれは行く気にはなれぬ」と言って、短剣を持ち上げる形になる。そして、マクベスが短剣を解こうとするが、解けないでいる。すると、夫人はそれを振り解く。

マクベスは「なんだ、あの音は？」(p. 55) と言って、腰を落とし右手で下手を指す。一蓮托生で、夫人は、マクベスの手を取る。この場は、2人が気持ちを合わせて稽古することが大切である。

第3幕第2場、マクベス夫人と召使の出の場。夫人が登場し、やがて、立ち止まる。夫人が立ち止まったら必ず命令がある。そこで召使は立膝で座り「かしこまりました」(p. 84) と答える。召使は「なりませう」と語尾を引っ張って言うのではなく「なります」と切っている。召使はどこで立ち止まってどこで座るか計算をする。

マクベス夫人が「陛下にお暇なら」(p. 83) と言って、立ち止まる。召使は、相手が立ち止まったのを見てから座る。召使は絶えず、主従の関係を考えなければならない。例えば、夫人から「死んでおくれ」と言われたら、召使は「かしこまりました」と答えて死ぬ。召使は、位の違いと主従の関係を考えてから行動する。召使は忠誠心や服従心を表にすぐ出せるようにする。召使は立ち去る時、ゆっくりと礼をして「ツツー」と上手奥へ去る。

第3幕第2場、フォレス、宮殿。日没前。マクベス夫人と召使が登場する。マクベス夫人は「バンクォーはお出かけになったままなの？」(p. 83) と召使に尋ねる。召使は、宴会の用意が出来ているので「はい、お妃様、でも夜にはおもどりになります」とゆっくり答えて言う。夫人は「陛下にはお暇ならちょっとお話ししたいと伝えておくれ」と言う。召使は「かしこまりました」と言って素早く上手の方へ行く。

次いで、マクベスが登場する。マクベスが「特にバンクォーはたいせつにあつかってくれよ」(p. 85) と夫人に向かっていうとき「たいせつに」には二重の意味がある。まず、バンクォーがマクベスとの間の2人だけの秘密を知っている危険人物なのでマクベスはバンクォーを大切に扱わねばならないと考えている。また、マクベスがバンクォーを宴会に誘ったのはバンクォーを暗殺しようとするからであり、途中で計画が発覚しないかと絶えず恐れているわけである。だから当然のこととして、マクベスはバンクォーの処遇を大切に扱わねばなら

ないと考えている。だが、夫人は夫がバンクォー暗殺を企んでいることを知らないので、この「たいせつに」の二重の意味が分からない。けれども、夫人は「変だ」と直感的に思っている。

マクベスは「おれの心はサソリでいっぱいだ」(p. 86)と叫ぶ。夫人は「なにごとです、重大事とは？」(p. 86)と尋ね夫に問いただそうとして立ち止まる。だが、マクベスは、立ち上がって「(赤ん坊がいる) かわいいおまえ、あとでほめてもらおう」(p. 87)と言ってから、マクベスは立膝になり、夫人の腹部に手を当て微笑んでいる。こうして、マクベスは夫人の考えを越えた世界へと入っていく。この場は、2人だけの会話である。更にこの場の2人の会話を劇として細かく構築する。マクベスは「バンクォーはたいせつにしてくれよ」と言う。2人が会話している間に、マクベスの心が少しずつ変わっていく。

マクベス夫人は「もうそのようなお考えはお捨てになって」(p. 86)と優しく夫に言う。夫人は相手に言葉をかけるのではなく「いずれは自然に返します」(p. 86)と自分に言い聞かせようとして言っている。というのは、夫人の気持ちとしては「済んでしまったことです」という気持ちのほうが強いからである。夫人にとっては、あとの言葉に説得力がある。つまり、夫人はダンカンを暗殺したのだから、「済んでしまったこと」だと思っている。そこで、マクベスが「そこに望みがある」(p. 86)と言ったとき、夫人はマクベスがダンカン暗殺のことで悩んでいたのだと思い、夫の迷いを勘違いしてしまう。

しかし、実は、マクベスはバンクォー暗殺の結末がどうなったかと心配している。つまり、マクベスは一人きりで、暗殺者がバンクォーを首尾よく暗殺したかどうかと悩んでいる。その後で、マクベスは、漸く、暗殺決行後の処理を自ら決断をしていくのである。マクベスと夫人はお互い同士、心が強いことをどこで見せるべきかと考えている。けれども、2人は緊張感を保てず強い気持ちを外してしまい、お互いに弱みも持っていることを暴露してしまう。そこで、2人は、お互いに、寄り添ったり、相手の手をもったりするのである。

更に、バンクォーの暗殺計画シーンを別の視点から細かく整理する。マクベス夫人は、下手奥から出てきて上手前に移動する。マクベスは上手奥から登場して下手前に入る。マクベスは「コウモリが修道院に飛びかい」(p. 86)と話しながら「必ず起こるだろう、恐るべき重大事が」(p. 86)と言って立ちあがる。夫人は「なにごとです、重大事とは？」と言って止まる。

だが、マクベスは結局夫人にバンクォーの暗殺計画を告白せず、夫人の腹部をいたわり、気持ちを変えて夫婦生活の営みに戻っていく。マクベスが夫人に「さあ奥へ行こう」(p. 87)と言うとき、この台詞は夫婦2人だけの会話であり、いわば、夫婦のラブシーンの会話となっているといってもよい。つまり、この場面は夫婦が就寝前に交わす2人だけの会話として遣り取りを見れば、夫婦生活の夜の憩いのひと時を表す会話なのである。だから、マクベスは「あとでほめてもらおう」と夫人に言葉をかけ「奥へ行こう」と言って寝屋に誘う。

(『マクベス』の稿は、2002年11月17日の劇座公演『マクベス』の上演にあたり著者がその稽古期間中見学させていただいた時の全記録をもとにして纏めた原稿を劇座の天野鎮雄氏から本稿に発表する許可をいただいた。)

04. プレヒトの『三文オペラ』

ジョン・ゲイ作『乞食オペラ』と河竹黙阿弥作『天衣紛上野初花』は、市井の人が、法を目の前にして如何に生きるかを示している。けれども、ジョン・ゲイの『乞食オペラ』では、当時のオペラ上演習慣により、主人公マッキースの命は救われる。にもかかわらず、黙阿弥の『天衣紛上野初花』では、片岡直次郎は、捕らえられ、やがて、獄門の露となって消える。

ところで、プレヒトは、『三文オペラ』の中で、マッキースが犯した犯罪について、異化効果によって観客に考えさせる。更にまた、ヴァーツラフ・ハベルは『乞食オペラ』で、裁く者と裁かれる者とを相対化した。つまり、ハベルの生きた時代背景として、プラハの春の動乱があり、政府が変れば、忽ち法も変ってしまい、一網打尽に国家が崩壊する。それと共に、裁く人間が裁かれる人間に転落する。そうした状況が、ハベルのドラマに反映しているとみてよいのかもしれない。

いっぽう、寺山修司シナリオ・篠田正浩監督のフィルム『無頼漢』では、政治の枠組みとして、先行作品と共通した主題が取り上げられている。だが、政治的な問題とパラレルに、直次郎を取り巻く家族問題が焦点となっている。

ヘーゲルが、自然法の中で、「国家の法と家族の掟の両方の問題を解決しなければ、政治問題を解決することは出来ない」とする論法を考慮するならば、寺山の『無頼漢』は、政治と家族の問題をパラレルに展開していることになる。

ところで、寺山と篠田正浩氏との共同作品『無頼漢』の中の直次郎の母の関係を見ていくと、後年、専ら寺山が自らプロデュースした『邪宗門』の中の山太郎と母の関係と比べてみると明らかになるのだが、寺山が、『無頼漢』の制作で、主として関わった作品部分は政治性が希薄で部分である事が分かってくる。

それに対して、ジョン・ゲイ作『乞食オペラ』や黙阿弥作『天衣紛上野初花』やプレヒト作『三文オペラ』やハベル作『乞食オペラ』は、家族の問題よりも、むしろ、政治の問題が極めて鮮烈である。

いずれにせよ、映画『無頼漢』は寺山と篠田正浩氏との共同作品であるが、以上の先行作品と比べてみると、寺山は家族の問題に焦点をあわせ、一方、篠田氏は政治性に焦点をあわせていると推察できる¹²⁾。

或いはまた、ソフォクレス作『オイディプス王』の国家と家族間の問題は、寺山の『無頼漢』や『邪宗門』の国家と家族の問題とリンクしていることが明らかになってくる。

寺山は、直次郎と母との問題を映画の中心に据える事によって、黙阿弥作『天衣紛上野初花』にある強い政治性を内側から破壊してしまう。つまり、寺山は、直次郎と三千代との関係を論じるよりも、直次郎と母との問題を究明しておかなければならないと主張しているようだ。というのは、寺山作『無頼漢』は、母子の絆が、黙阿弥作『天衣紛上野初花』や、ジョン・ゲイ作『乞食オペラ』やブレヒト作『三文オペラ』やハベル作『乞食オペラ』に比べて、より一層緊密であることが分かるからだ。言い換えるなら、寺山は、直次郎と母との問題を掲げて、ドラマの過激さを一層発揮している。いわば、この劇的な転換は、ドラマの中に、マッキースの母親を登場させるようなものである。

【ジョン・ゲイ作『乞食オペラ』】

ジョン・ゲイの『乞食オペラ』は、J.シュットラウスの『こうもり』のように、悪漢マックヒースが、ブルジュワジーの娘たちを次々と手玉にとり、一種のピカレスクロマン風に、貴族の勝手に放題を風刺した、いわば、ペロー作『青ひげ』のパロディを思わせる。因みに、寺山修司は、映画『無頼漢』の中に、「8 青ひげ」¹³⁾を挿入し、松江出雲守が上州屋の娘波路を幽閉する場面を描いて、河内山に「松江といえば、青髭侍！」(p. 49)と言わしめている。

さて、先ずゲイは娼婦ジェニーが歌う歌詞を通して眼に見えぬ「賭博師と法律家」(The gamblers and lawyers, p. 132)¹⁴⁾が共犯関係にあることを、当時の英国首相ウォルポールの腐敗政治とリンクして暗に揶揄している。

次いで、強盗のマックヒースは、犯罪社会のボスであるが、ピーチャムが仕掛けた罠により、ジェニーを利用した囮捜査で捕まる。

Macheath. Was this well done, Jenny? Women are decoy ducks; who can trust them! Beasts, jade, jilts, harpies, furies, whores! (p. 132)

いっぽう、犯罪社会のボス、ピーチャムは、仲間同士ばかりでなく、大政治家も同様に、友人を裏切るといふ。

Peach. Can it be expected that we should hang our acquaintances for nothing, when our betters will hardly save theirs without being paid for it? (p. 136)

ところで、ピーチャムと警察官ロキットは、共犯者で、お互いに共謀しあっている。

Lockit. Is this language to me, sirrah — who have saved you from the gallows, sirrah! (p. 137)

更に、警察官ロキットは、犯罪社会のボス、ピーチャムを救ってやったという。

Lockit. I'll go to him, there, for I have many important affairs to settle with him ... p. 146.

いっぽう、ポリーはピーチャムの娘で、ルーシーはロキットの娘であるが、二人ともマックヒースの恋人である。彼女らが監獄に来て、マックヒースに面会するが、恋敵同士が鉢合わせ、マックヒースが女誑しである事が分かる。すると、ポリーとルーシーは、マックヒースに向かって、お互いに「騙された」という。

Polly. I'm bubbled.

Lucy. I'm bubbled. (p. 140)

すると、監獄に投獄された、マックヒースは、死刑を逃れるため、ルーシーに助けを求め、恋の手管を弄し、言葉巧みに「恋の貸借関係」を引合いに出して、「恋泥棒と金泥棒」の関係を利用する。

Mac. You see, Lucy, in the account of love, you are in my debt. (p. 142)

結局ルーシーはマックヒースを逃してしまふ。そこで、父親のロキットは、怒って、ルーシーに向かって、マックヒースに騙されないように、忠告する。

Lockit. ... If you would not be looked upon as a fool, you should never do anything but upon the foot of interest. (p. 144)

マックヒースは、「賭博」(p. 108)に関心があるが、実は、「賭博」自体が犯罪行為なのである。

Mac. There will be deep play to-night at Marybone, ... (p. 147)

賭博場にはジェニーがいて、警察に、逃亡者のマックヒースがいると密告する。忽ち、お尋ね者のマックヒースは捕縛される。こうして、マックヒースは、ジェニーに、二度、裏切られて、捕縛され、監獄に投獄される。

折から、戴冠式が計画され、街路には、乞食があふれる事態が予想される。ロキットは「戴冠式」(p. 109)に、乞食の群れが殺到しないように予め処分を考える。

Lockit. The Coronation account, brother Peachum, is of so intricate a nature, that I believe it will never be settled. (p. 147)

マックヒースは、戴冠式の恩赦で、出獄が許され、牢屋から出てくる。実は、マックヒースの恩赦は、当時の政治状況を風刺しているのである。おまけに、看守が、マックヒースに面会者が来るといふ。

Jailer. Four women more, captain, with a child apiece. See, here they come! (p. 158)

しかも、役者が現われ「オペラはハッピーエンディング」(p. 140)だと交ぜつ返す。結局、マックヒースは死刑ではなく、恩赦されることになる。つまり、当時、マックヒースのように、政治状況を利用したものがいたことを暗示している。

Player. ... an opera must end happily. (p. 158)

こうして、ドラマは、ハッピーエンディングの結末をつけねばならなくなり、マックヒースは、突然死刑を免れる。ところが、次の瞬間、マックヒースは、多くの女性に囲まれ混乱状態に陥ってしまう。けれども、遂に、マックヒースは、「ポリーを選ぶ」と言っている。

Mac. Ladies, I hope you will give me leave to present a partner to each of you; and (if I may without offence) for this time, I take Polly for mine ... (p. 159)

当時、恩赦されたマックヒースに似た政治家たちがいたことを考慮すれば、『乞食オペラ』は、ドラマによって、政治を風刺したことになる。

【ピーター・ブルック演出『三文オペラ』】

ピーター・ブルックが監督したシナリオ『三文オペラ』(*The Beggar's Opera*)では、冒頭を馬に乗って疾走する男が映し出される。次に、マッキースが独房に居る所へ、乞食が楽譜を持って現われる。この乞食が、マッキースにオペラを紹介して、音楽が始まる。こうして、フィルムの中に、別のオペラが組み込まれて、メタシアターが展開される。また、マッキースがフィルムとオペラに「ダブル」になって登場する。おまけに、マッキースが馬に乗って荒野を走らせていくシーンは何度もリフレインして現われる。

次いで、カメラはピーチャムの家へ移動する。ピーチャム夫婦は、大切な娘のポリーがマッキースと結婚してしまったことに腹をたてる。彼らは、その腹いせに、マッキースを警察に訴えて、賞金を獲得し、更に、マッキースが死刑にして、娘婿の遺産を獲得しようと目論む。こうして、早速、ピーチャムは、マッキースの死刑許可書を、ニューゲイト監獄の守衛所にいるロキットから手に入れる。

このようにして、マッキースは、ジェニーやドリイやスーキイらの酒場の女性たちに「裏切られ」て、捕縛される。次いで、独房の場面で、マッキースは、面会に来たポリイやルーシイに「欺かれた」と詰問される。つまり、マッキースはジェニーやドリイやスーキイらの酒場の女性に「裏切られ」たといひ、そして、いっぽう、ポリイやルーシイはマッキースに「欺かれた」と言うのであるから、ここにも、マッキースが、女性を巡って、裏切られたり、欺いたりして、「ダブル」の効果を表わしている。ともかく、マッキースは脱獄するが、忽ち、賭博場で、再び捕縛される。大詰めのタイバーン刑場の場面で、マッキースは「棺」に腰掛け、「法律」によって、処罰されようとする。

ところが、次の瞬間、黒いハンカチがカメラに近づいて、スクリーンは真っ暗になる。すると、忽ち、今度はハンカチのかわりに、乞食の楽譜がバラリと落ちて、オペラから、映画フィルムに戻る。映画フィルムのマッキースは、「この俺を芝居の中と本当と二度殺す気なのか」と叫びはじめる。だが、突然状況はかわり、「放免だ!」と絶叫する。こうして、再び、

マッキースは一匹狼風に振舞う。マッキースが歌う“MY HEART IS SO FREE”¹⁵⁾はこのフィルムの特徴づけるためにあるかのようなのである。ところで、天涯孤独のマッキースに比べると、ポリィにもルーシィにも親が付いているので、自由になれないでいる。

【プレヒト作『三文オペラ』】

マクヒイスは泥棒たちのボスである。泥棒たちのボスという意味では、マクヒイスは、黙阿弥の『天衣紛上野初花』に出てくる河内山宗俊に相当する。さて、マクヒイスはピーチャムの娘ポリィと結婚する。色恋沙汰という観点から見ると、マクヒイスは、河内山宗俊よりも、むしろ、直次郎に似ている。殊に、寺山の『無頼漢』に出てくる直次郎は、黙阿弥が書いた直次郎よりも多情で、若い女性に眼がない。けれども、容姿からいえば、マクヒイスは、河内山宗俊に近い。いずれにしても、プレヒトの『三文オペラ』の泥棒の世界は寺山の『無頼漢』の任侠の世界と類似している。

ところで、奇妙なことに、泥棒マクヒイスとロンドンの警視總監ブラウンとは旧友で、しばしば共謀した。

BROWN: There's nothing whatsoever on record against you at Scotland Yard.

MAC: I knew it.

BRON: I've taken care of that. Good night.¹⁶⁾

実はまた、マクヒイスとピーチャムの仕事も、互いによく似ている。違いは、マクヒイスは非合法の盗人であるが、ピーチャムは、乞食衣装店を経営し、合法的に、物乞いをする。権力関係からみると、マクヒイスは強盗団であり、ブラウンは国家権力であり、ピーチャムはブルジュワジーである。

曖昧宿のジェニーは、花魁の三千歳と同じ境遇にいる。直次郎は、三千歳を裏切らないが、マクヒイスは、ジェニーを裏切る。ジェニーは、密告して、マクヒイスを官憲に売る。だが、寺山が書いた直次郎は、黙阿弥が描いた直次郎よりも、身持ちが悪いので、マクヒイスに近い。

やがて、マクヒイスは、曖昧宿に行き、一番好きだった女性、ジェニーによって密告される。

And though today I am Mac the Knife, my good fortune will never lead me to forget the companions of my dark days, especially Jenny, whom I loved the best of all. Now listen, please.

While Mac sings, Jenny stands to the right outside the window and beckons to Constable Smith.

(p. 105)

こうしてマクヒイスが歌を歌っている間に、右手の窓の外にジェニーが現われ、巡査のミスに合図をする。

けれども、マックヒースは、捕縛後、忽ち、監獄から脱獄してしまう。だが、マックヒースは高飛びしてしまわないで、再び、曖昧宿に行く。だから、ジェニーが、もう一度、マックヒースを裏切る。そこで、マックヒースは、また、逮捕され、地団駄踏んで悔しがる。

Some of you were very close to me. That Jenny should have turned me in amazes me greatly. (p. 138)

ジェニーが、マックヒースを官憲に売ったのは、お金が欲しかったからである。ところで、黙阿弥の『天衣紛上野初花』では、直次郎と三千歳の関係が窮地に陥るのは、借金のせいである。また、直次郎が、非合法の賭博で、お尋ね者になったとき、密告するのは、丑松であった。しかも、丑松は、直次郎の友人であったのである。

マックヒースには、親しい友人関係で、警察官のブラウンと、娼婦のジェニーがいたが、ここで、ブレヒトは、更に、一捻りして、マックヒースが一番親しかった娼婦に裏切られるというシチュエーションを作った。

ところで、寺山は、映画『無頼漢』で、豪商、吉田屋清蔵というキャラクターを作り、この吉田屋が金小市に頼んで直次郎を暗殺するという設定にした。しかも、寺山は、一番親しい人間が裏切るという設定を、逆さにしてしまい、直次郎殺しではなく、母殺しに変えた。

寺山は、『無頼漢』の中で密告の場面を設定しなかった。それで、直次郎は生き延びることになる。いっぽう、ブレヒトは『三文オペラ』の中で、パロール「裏切り」を最も効果的に使う。つまり、ジェニーは、一度ならず、二度もマックヒースを裏切るのである。

Mac the Knife, who has been with the whores, again, has again been betrayed by whores. He is about to be hanged. (p. 131)

先に触れたように、恐らく、ジェニーは、お金が欲しかったので、マックヒースを密告したのであろう。ところが、ジェニーは、マックヒースが脱獄したため、密告料を貰えなかった。そこで、再び、マックヒースの在処を密告する。だが、結局、マックヒースは、恩赦で救われるので、ジェニーは、理屈のうえでは、密告料を貰えなくなる。ブレヒトは、ジェニーとマックヒースの関係を愛憎ばかりでなく、金銭関係でもみている。ジェニーは、『肝っ玉お母さんと子供たち』のアンナのように、人間の愛情よりも、生計を優先する女性である。

ところで、ジェニーに立ちはだかる人物がいる。つまり、店の所有者ピーチャムは、雇い主であり、ジェニーは、雇われる人である。だから、ピーチャムが支払をしなければ、ジェニーの密告が、ただ働きになってしまう。

The law was made for one thing alone, for the exploitation of those who don't understand it, or are prevented by naked misery from obeying it. (p. 123)

ピーチャムが言う法律とは、雇い主を守るための掟のことである。ジェニーは、雇い主を守

るために法律があることを知らない。また、ジェニーは、ピーチャムのようにお金が無いから、法律があっても、ピーチャムから貰う約束のお金を保護にされ搾取されても文句が言えない。

ピーチャムは、ブルジュワジーなのに、貧民の側から喋るという器用な二枚舌を持っている。ピーチャムが、警察官ブラウンに向かって、戴冠式を妨害するために、6百人もの乞食を繰り出すとって脅迫する。

You'll probably say the people can handle us poor folk. You don't believe that yourself. How will it look if six hundred poor cripples have to be clubbed down at the Coronation? (p. 125)

このシチュエーションは、寺山が、フィルム『無頼漢』の中で、河内山が、水野に向かって、「水野の改革は間違っている」と言ってクーデターを起こすシチュエーションが似ている。

ところで、ピーチャムは、警察官ブラウンに、戴冠式に向かって、暴動を仕掛けると脅し、ブラウンの旧友マックヒースの逮捕を迫る。すると、ジェニーは、躊躇せず、マックヒースを裏切って、居場所を暴露してしまう。

PEACHAM: ... Jenny, where is Mr. Mac heath at this moment?

JENNY: 21 Oxford Street, at Suky Tawdry's. (p. 125)

ピーチャムは、ジェニーを利用して、ブラウンを巻き込み、マックヒースを逮捕する。こうして、ピーチャムは、ブラウンがマックヒースを裏切るように仕向けた。つまり、警察官ブラウンは、法律を利用して、旧友マックヒースを守ってきたが、その法律によって、旧友マックヒースを裏切ってしまう。

BROWN: Oh, Mac, it was not to be. (p. 125)

マックヒースが友人に裏切られる譬えとして、ブルータスに暗殺されたシーザーが引き合いに出される。

You saw the gallant Caesar next

.....

How fortunate the man with none! (p. 127)

ブレヒトは、歌と台詞で、逆説を使って、人間の言動が裏腹であり、二面性があることを示した。

ところで、ブレヒトが描いたマックヒースとブラウンの関係は、寺山が映画『無頼漢』の中で描いた、泥棒の河内山が、最高国家権力の水野に会う関係と幾分似ているところがある。しかし、この関係は、黙阿弥には無いプロットである。

また、ブレヒトの『三文オペラ』では、女王の戴冠式のお祭騒ぎが背景としてあるが、寺山の映画『無頼漢』では、祭の花火と開港を迫る外国船の大砲の音が騒々しく重なっている。

或いは、また、黙阿弥の『天衣紛上野初花』には、フェスティバルの賑わいはないが、少なくとも、滅びいく江戸情緒が色鮮やかに舞台全体を飾っている。

こうして、ブレヒトの『三文オペラ』では、マックヒースは恩赦を受け命が救われる。いっぽう、寺山の『無頼漢』では、恩赦や、釈放がないけれども、直次郎は、生き延びる。寺山は、直次郎を生かすことによって、クーデターを一時的な政治現象として捉え、事件を花火として束の間の音と光の中に封印した。

【ハベル作『乞食オペラ』】

ハベルは、マックヒースとピーチャムは、同じ悪漢だという。既に、ブレヒトは、小説『三文小説』で、マックヒースとピーチャムとブラウンは、皆、国家をオーガナイズするボスだとする設定で書いている。

先ず、第3場のピーチャムの家で、ポリーは、父のピーチャムに向かって、マックヒースと「同じ仕事をしている」(POLLY: You're in the same business, aren't you? p. 19)¹⁷⁾という。

次いで、第4場の泥棒の宿で、ジェニーは、警官に向かい、「この男は、私をレイプしようとしたのよ」(JENNY: This man tried to rape me! p. 25)と告訴して、マックヒースを捕縛する。

続いて、第6場の監獄の場面で、マックヒースは、脱獄しようとしてルーシーを口説くが、ポリーは現われない。また、第7場で、ピーチャムは、マックヒースが脱獄したことを知り、「マックヒースが、ピーチャムと警察が共謀していると言いふらすぞ」(Now he'll be all over London telling everyone I admitted to collaborating with the police. p. 44)と、絶望して叫ぶ。

更に、第8場で、マックヒースは、再び、ジェニーに会いに行く。やがて、第9場で、ピーチャムは、マックヒースがジェニーに会っていることを知る。また、第10場で、マックヒースは、ジェニーと一緒にいるところで、警官に捕縛される。

やがて、第11場の刑務所で、ポリーとルーシーは、マックヒースを詰問する。更に、第12場で、ピーチャムは、ロキットと一緒に、マックヒースの処置を話しあう。

次いで、第13場の刑務所で、ジェニーがマックヒースに会いに来る。そうこうするうちに、ピーチャムがマックヒースに会いに来て、マックヒースが事業家として優れていると言って、「ピーチャムのシンジケートとの合併」(PEACHUM: ... Your organization would merge with mine completely. p. 70)を提案する。

そして、ピーチャムはマックヒースに、ポリーとの結婚を勧める。

PEACHUM: ... There's another condition: you must lead a proper married life with Polly. (p. 70)

また、マックヒースが出獄するにはロキットの承諾が必要だが、ピーチャムは、ロキットに影響力があるとのめかす。

PEACHUM: ... You must know I have ways of influencing him (=Lockit). (p. 70)

しかも、マックヒースは、警察と共謀するよりも仕事に集中するように勧める。

PEACHUM: You would stand to do well if you'd concentrate on developing your enterprise. (p. 71)

その後で、マックヒースはジェニーと再び会って話をする。さて、そのとき、マックヒースが二度騙されたのは、ジェニーの魅力だったと言う。

MACHEATH: I love you despite the fact that you betrayed me, and in a very strange way, I loved you precisely because you betrayed me. Believe me, I had no idea betrayal could be so erotic. (p. 75)

次いで、第14場のロキットの家族の下で、ロキットは、マックヒースと共謀の約束をする。というのは、マックヒースと娘のルーシーは1年前に結婚している事が分かっていたからだ。

マックヒースは、出獄を許されて部屋を出て行く。ロキット夫人が、娘のルーシーとの生活を勧めると、マックヒースは、ロキット夫人に向かって「お母さん」と言っただけ。

終幕で、ロキットは、「これから、わがオーガナイゼーションはロンドンの全ての暗黒街を支配下においた」(from this moment on our organization has practically the entire underworld of London under the contrail. p. 84) という。そして、「ロンドン警察を支配下におさめることは、比べてみると、一片のケーキのようなものだ」(Gaining control of the London Police Force was a piece of cake by comparison. p. 84) と述べる。というのは、このケーキの譬えは、民衆の生活権を暗示しているのであり、だから、「皆、奉仕していることを知らないで最善をつくして奉仕しているのだ。たっぷり、召上りなさい！」(They serve best who know not that they serve. Bon appétit! p. 84) というのである。

ハベルは、かつて社会主義体制の下では遺棄された非合法の劇作家だったので密かに『乞食オペラ』をカムフラージュして歌なしで上演した。ハベルの『乞食オペラ』にはコンベンショナルなオペラのエンディングがない。また、プレヒトの音楽もない。つまり、ハベルのドラマはどのような体制下であろうとまずは個人としての尊厳を訴えたドラマである。というのは如何なる状況が降り掛かろうとも、結局マックヒースは無頼漢として与えられた生を全うするだけだからだ。チェコの動乱を見てきたハベルにとって「嘘の中で生活する」(living within a lie) のではなくて「真実の生活」(the life within the truth p. xxxi) をする外、何もないのだ¹⁸⁾。と考えているようだ。

【河竹黙阿弥作『天衣紛上野初花』】

「悪に強きは善にもと」¹⁹⁾と、河内山宗俊は、第三幕の幕切れで、狂言が発覚すると、啖呵を切る。元々、河内山は、御本丸の奥坊主の子であったが、やがて、遊侠に身を投じる事になった。先ず、ドラマの幕開きで、河内山は、質屋上州屋の店先に来て、強請を働く。ところが、

上州屋の娘波路が、松江侯出雲守に幽閉されているのを聞くと、「助ける」と約束するのである。やがて、松江侯邸に乗り込み、波路を救出するが、最後の土壇場で、茶番が露見してしまう。

『天衣紛上野初花』の河内山は、ブレヒトの『三文オペラ』の悪漢マックヒースと幾分似ている。というのは、二人が窮地に陥った時、それぞれ相反したことを言って身を処するからである。また、河内山が、質屋上州屋と松江侯出雲守の双方に強請を働いて、窮地の深みに嵌っていくのであるが、マックヒースも、ポリーとルーシーの二人の愛情を利用して急場を凌ごうとして結局捕縛されてしまう。

『三文オペラ』の中で、ブレヒトは、シーザーが殺された理由を詩に歌うが、この詩は直接ドラマと関係がない。

It's courage that had brought him to this state—

How fortunate the man with none!²⁰⁾

ブレヒトがどちらとも取れる両義的な言い回しをするので、異化効果が生じる。ブレヒトの見地から、河内山の相反した台詞から行動を見ていくと、ブレヒトと黙阿弥のドラマツルギーは、リンクしている事が分かってくる。元来、歌舞伎は矛盾した台詞とアクションの組み合わせから成り立っているのである。

いっぽう、河内山の弟分である片岡直次郎は、御家人くずれの遊び人であるが、吉原大口屋の遊女、三千歳と深い恋仲であった。直次郎は三千歳から借りた百両の返済を巡って、お熊に厳しく取立てを迫られる。百両の貸主の金子市之丞に対して、直次郎は、河内山宗俊から融通してもらって百両を返す。その結果、逆恨みした市之丞は直次郎を闇討ちしようとする。ところが、籠に乗っていたのは直次郎ではなく、河内山であった。

河内山 「ああ、星が飛んだのか。」 (p. 323)

ブレヒトが譬えにだしているシーザーのように、河内山もマックヒースもいつでも死ぬ覚悟が出来ている。ともかく、かごの中の直次郎は、何時の間にか、河内山に摩り替わっていた。だが、実は、このシーンは、むしろ、直次郎と河内山が分裂してダブルになり、異化作用を生み出しているように見える。

やがて、河内山は、直次郎と、予め用意したシナリオ通り、任侠狂言を稽古した後で、松江侯邸に乗り込んで、波路を取戻し、金までせしめる。ところが、帰り際に、北村大膳に正体を見破られてしまう。しかし、家老高木小左衛門のさばきで難を逃れて立ち去るのである。

やがて、月日は巡り、直次郎は、非合法の賭博に関与して、お尋ね者になる。その後、直次郎は、危険を顧みず、病で患う三千歳に会いに大口屋の寮へ会いに行く。ところが、直次郎の居場所を訴えたのは丑松であった。いっぽう、『乞食オペラ』や『三文オペラ』で、マック

ヒースを官憲に訴えるのは、娼婦ジェニーであった。

またまた、歳月が過ぎ去り、池之端の河内山の妾宅で、河内山は直次郎に意見をし、直次郎は自首する。更に、場所が変わって、浄心寺では、三千歳が市之丞と会い、実兄であることを知る。折しも、上野の広小路の蓬莱屋の店開きで賑わう中を、自首してひかれて行く直次郎に、三千歳は、市之丞を会わせる。そこへ、河内山、丑松らも来合わせ、河内山の申し開きにより、将来、直次郎の出獄も約束される。

ところで、筆者が、参照した『天衣紛上野初花』（『名作歌舞伎全集』十一所収）は、序幕上州屋見世先の場、二幕三千歳部屋の場・日本堤金杉路の場、三幕松江家上屋敷の場、入谷村蕎麦屋の場・入谷大口屋別荘の場に纏めた台本である。

黙阿弥は、『天衣紛上野初花』で、難解なプロットを展開して、質屋上州屋と娘・波路の親子関係や、金子市と三千歳の兄妹関係を描いている。だが、むしろ、黙阿弥は、河内山宗俊や直次郎の行動にドラマの軸足をおいているようである。つまり、質屋上州屋は、娘・波路の命を河内山にあずけたまま自ら手出しをしない。また、金子市之丞は、三千歳を兄妹愛から、直次郎を闇討ちするが、実は、金子市は三角関係から直次郎を嫉妬したのではないことが、後になって分かる。従って、質屋上州屋と娘の波路や、三千歳と市之丞の血縁関係は説明されるが、彼らが主要なドラマの人物として機能するのではない。黙阿弥は、あくまでもアウトローたちの末路を冷ややかに描写する。彼らは、滅びるしかない下人であり、失われた江戸の美を表わしているのである。

【寺山修司シナリオ・篠田正浩監督『無頼漢』】

寺山修司がシナリオを担当し、篠田正浩氏が監督した映画『無頼漢』では、典拠とした河竹黙阿弥の『天衣紛上野初花』の外枠を仮ながら、ドラマのコンセプトをかなり異質なものにしている。また、『無頼漢』が、ブレヒトの『三文オペラ』と関係があるのは、「三文小僧」や泥棒たちが登場する事によって明らかになってくる。更に、ブレヒトと寺山の劇作品の構造も似ている。ブレヒトは、『三文オペラ』で、日常会話と、詩や歌を書き分けたが、寺山も、『無頼漢』で日常会話と詩や歌に書き分けている。

だが、直次郎は、黙阿弥の『天衣紛上野初花』の直次郎や『三文オペラ』のマックヒースと異なって、役者を志願する。

直次郎 「役者になるんだ」²¹⁾

更に、直次郎は、芝居を、ステージから延長し、逸脱して、市街にドラマを繰り広げていく。

直次郎 「これから芝居に出なきゃあ、なんねえ」(p. 61)

寺山は、元々、現実では起こらないレヴューションでも、ステージの上でなら実現できると考えていた。従って、映画『無頼漢』の出来事は、ステージの上での空事なので、誰も死にはしないのである。

ジョン・ゲイは『乞食オペラ』の序幕で、劇場と民衆との関係を示している。けれども、『乞食オペラ』がウォルポウルの政治腐敗を風刺した芝居であるのに対して、映画『無頼漢』は、水野の政治改革を風刺するばかりでなく、『三文オペラ』のように政治を批判した芝居にもなっている。更に、寺山は『無頼漢』で、『天衣紛上野初花』に倣って、松江出雲守を「青ひげ侍」(p.49) 呼ばわりをして政治腐敗を揶揄した。

寺山は河竹黙阿弥が『天衣紛上野初花』の第三幕の後半「入谷大口屋別荘の場」で、役人が直次郎を捕縛する場面を映画『無頼漢』で挿しなかった。実際、直次郎が、官憲に自首するのはその後のことであり、更に、獄門に下るのはずっと後のことである。結局、寺山は、映画『無頼漢』を、第三幕の前半松江家上屋敷の場で終わりにしている。従って、直次郎は、松江家上屋敷の場の直後では、未だ、捕縛されずに、生きていたわけである。

いっぽう、黙阿弥の河内山宗俊は、『天衣紛上野初花』の松江家上屋敷の場で難を逃れる。だが、寺山は、映画『無頼漢』では、謀反が発覚して、河内山の侠客たちが討ち死にする構成にした。

つまり映画『無頼漢』では直次郎は生きながらえるが、河内山は死んでしまう。けれども、河内山の謀反もステージの上での出来事だとすれば、謀反をシンボライズしているだけで、実際には何も起こらなかった事になる。

更に、注目すべきは、直次郎と三千歳の間、直次郎の母お熊が加わることだ。事実、『天衣紛上野初花』では、お熊は、直次郎と三千歳の生死の鍵を握る重要な役目を果たす。しかも、直次郎とお熊は母子関係ではない。何故、寺山は、直次郎とお熊を母子関係にしたのか問題である。

ところで、『乞食オペラ』や『三文オペラ』では、親子関係が、ポリーとピーチャムやルーシーとブラウン両親の間で現される。また、寺山の『無頼漢』では、直次郎には、母のお熊はいても、父はいない。だから、直次郎がポリーやルーシーの親子関係と必ずしも、相似形にはなっていない。

或いは、同じパターンで見ると、『天衣紛上野初花』では、三千歳には金子市という兄がいるが、『無頼漢』になると、三千歳と金子市の関係は曖昧である。また、上州屋と娘・波路の関係をポリーとピーチャムの親子関係に比べると希薄のままである。というのは、上州屋と波路と一緒に会話する場面は無いからである。こうしてみると、ポリーとピーチャム夫婦に匹敵する関係は、むしろ、逆に、直次郎とお熊の母子関係に見る事が出来る。

更に、映画『無頼漢』には丑松が出てきて、父親と子供の関係を示す。このプロットは、黙阿弥の『天衣紛上野初花』にはない。ある意味では、丑松の死んだ子供は直次郎と三千歳の間に出来る子供を暗示しているのかもしれない。直次郎は誰彼となく「死相が出ている」と予言する。そして丑松も死に神の仮面に誘われて一揆に参加して自爆する。死に神の仮面の主は金子市だが、これも黙阿弥の『天衣紛上野初花』にはないプロットである。

『乞食オペラ』や『三文オペラ』では、ピーチャムが、ブラウンに、「大勢の乞食が、戴冠式の邪魔をする」と脅迫するシーンがあるが、映画『無頼漢』の一揆のシーンと似ている。

また、『乞食オペラ』や『三文オペラ』では、マッキースは皆の殺意の対象になる。特に、娼婦ジェニーがマッキースに殺意を抱く。いっぽう、映画『無頼漢』では、ジェニーに相当する三千歳が直次郎に殺意を懐くことはない。実は、全く逆に、直次郎が、母親おくまに殺意を懐くのである。

ともかく、『乞食オペラ』や『三文オペラ』では、マッキースは、「密告」の対象になるのであり、『天衣紛上野初花』では、直次郎が「密告」の対象になる。ところが、『乞食オペラ』や『三文オペラ』では、ジェニーが二度マッキースを「密告」して絞首刑に晒し、映画『無頼漢』では、直次郎が、二度母親おくまに殺意を懐くところが、双方のドラマの要となっている。

もしそうだとするならば、『乞食オペラ』や『三文オペラ』や、或いは、『天衣紛上野初花』と、映画『無頼漢』は構成が似ているけれども、それぞれテーマが変わってくることになる。いづれにしても、焦点をマッキースと河内山宗俊を無頼漢のボスに当てて見ると、『乞食オペラ』や『三文オペラ』や、『天衣紛上野初花』や、或いは、『無頼漢』のテーマが共通であることが分る。だが、構成が異なっているのは、いっぽうは、主人公がマッキース一人なのに、他方は、宗俊と直次郎の二人いる。特に、映画『無頼漢』では、まるでマッキースのアイデンティティが分裂して、宗俊や直次郎になったかのような様相を呈している。

事実、黙阿弥の『天衣紛上野初花』では、金子市が、直次郎だと思って殺そうとしたのは、実は、何と、宗俊であった。この曖昧なところが『天衣紛上野初花』の魅力でもあるのだ。寺山は、歌舞伎固有の両性具有やシチュエーションの矛盾を映画『無頼漢』に利用していることは確かだ。

ところで、『三文オペラ』の娼婦ジェニーがマッキースに殺意を抱くのと、『無頼漢』の直次郎が、母親おくまに殺意を懐くのは、愛人関係と母子関係から滲み出てくる矛盾した裏切り行為という点で、共通している。ただし、愛人関係と母子関係は、根本的に異なる。まず、愛人関係は、互いに他人であるが、母子関係は互いに肉親で血が繋がっている。寺山のテーマは古く見えるが、実は、臍の緒のように深く繋がっている。

また、『乞食オペラ』や『三文オペラ』や『天衣紛上野初花』には、権力者の使者や報道官

が登場するが、『無頼漢』には、権力者水野忠邦自身が登場する。しかも、この権力者水野は、理想主義者として登場する。権力者水野は、世の悪である無頼漢どもを成敗するという。

けれども、理想主義は、観念であって、実在しない。ところで、実は、悪だと思われているものが、美であるというのが、この映画『無頼漢』の逆説でもある。つまり、江戸末期であろうと昭和末期であろうとも、どの時代の河内山を殺害してしまえば、日本の美が絶滅することを意味する。

いっぽう、『三文オペラ』では、ピーチャムが、ブラウンに、「戴冠式の前に乞食を掃討することは、醜い」といって、殺戮を断念させる。また、同じ、乞食であっても、寺山は、理想主義よりも美しいとみるが、ブレヒトは醜いとみている。

もっとも、寺山は、手放しで、無頼漢を賛美しているのではない。実は、江戸であれ昭和であれ、それぞれの時代の世相を風刺していることに変わりはない。しかも、映画『無頼漢』では、直次郎親子を映画の最後に写して、政治とは距離をおいて見ている。

それでいながら、『無頼漢』の幕切れで、江戸趣味をずっと遡る旧居人さながらの直次郎親子の道行が示される。親子の逃避行は、核戦争後の世界を表しているようでもあり、黄泉の国へ、息子が母を預けに行くようにも見える。そこには、恐らく自爆した丑松がいて、相変わらず、あの世でも、息子の「蝶」を捜し求めているのであろう。しかも、あの世というのは、実は、ステージであるというのが、寺山のコンセプトの根底にあった。従って、映画『無頼漢』が終わっても、何も終わっていないことになる。

或いは、又、ハベルが『乞食オペラ』の結末で、死の中にエロスを見ていたように、寺山は、『無頼漢』の結末で、母殺しの中にエロスを見ていたのかもしれない。

【寺山修司原作・佃典彦脚色・流山児祥演出『寺山歌舞伎無頼漢』】

2006年7月12日から19日間に亘って、東京・両国のベニサンピットで、『寺山歌舞伎無頼漢』が上演された。『寺山歌舞伎無頼漢』を演出した流山児祥氏によると、「寺山の『無頼漢』はブレヒトと関係がない。但し、寺山の『花札伝記』はブレヒト劇と類似性があると思う」と評した。だが、寺山の『無頼漢』は、ブレヒトの『三文オペラ』やジョン・ゲイの『乞食オペラ』やハベルの『乞食オペラ』と類似点が見られる。それは、共通して、それらの作品に描かれている人物たちが皆無頼漢たちであるということである。

流山児祥氏は、寺山が脚色した河竹黙阿弥原作『天衣紛上野初花』を歌舞伎役者たちでなく、殆ど、アングラ系の俳優たちを使って上演した。ところで、寺山は、映画『無頼漢』では、アングラ系の役者を主要なキャラクターとして殆ど使わなかった。だが、映画『無頼漢』の斬新性は、歌舞伎を、3次元の歌舞伎座のステージではなくて、2次元の映画館のスクリー

ンで表わし、また、歌舞伎俳優ではなく、新劇の俳優を使ってドラマの構成を試みた。先ず、寺山は、江戸歌舞伎を、近代劇メソッドを体得した俳優によって、映画化したのであるが、その際、映画のスクリーンでは、リアリズム演劇ばかりでなく、歌舞伎の様式美も少なからず重要視した。『無頼漢』以後も、寺山は、彼の劇作品『邪宗門』等の中で歌舞伎の七五調を探求し、歌舞伎の様式美を深化していった。

近年、既に、小劇場運動系の野田秀樹氏や蜷川幸雄氏らが、歌舞伎を新しい解釈と演出で上演している。だから、流山児祥氏が、野田氏や蜷川氏の歌舞伎解釈とは違った切り口で、歌舞伎を上演したのは意義があった。

また、伝統歌舞伎の世界でも、新しい精緻なメソッドを求める機運がある。四代目坂田藤十郎の「近松座」や、十八代目中村勘三郎の「平成中村座」などが新解釈や新技巧を駆使して歌舞伎美の現代的意義を追求している。

従って、この度、流山児祥氏は、歌舞伎を、アングラ演劇を濾過して舞台に構築してみせたのは大変意義深かった。また、流山児氏は、『寺山歌舞伎無頼漢』の上演で、寺山とブレヒトのドラマツルギーを比較することによって、寺山が批判的であったブレヒトを『寺山歌舞伎無頼漢』上演で検証しようという意欲が見られた。ともかく、寺山の『無頼漢』に無くて欠けているものは、ブレヒト的な異化効果である。更にまた、寺山の『無頼漢』に無くて欠けているのは河竹黙阿弥の『天衣紛上野初花』に描かれた任侠の世界でもある。

また、寺山のドラマにあって、映画『無頼漢』に無くて欠けているのは、「ダブル」や「両生類的人物」のコンセプトである。ところが、流山児氏は、『寺山歌舞伎無頼漢』に、「ダブル」や「両生類的人物」のコンセプトを持ち込み、水野忠邦を演じる役者をダブルにしたり、三千歳を両生類的人物にしたりして、寺山の『毛皮のマリー』や『星の王子さま』的な世界を舞台化した。流山児氏は、寺山を篠田映画監督から、寺山固有の世界に戻して、舞台が映画と根本的に違う次元にあることを実証した。しかし、流山児氏は、寺山の映画や演劇の特徴である、物語の中断を希薄にしてしまった。元来、寺山のエンディングは曖昧で、迷宮の世界が露になるのが特徴だ。だが、流山児氏は、はっきりと、劇の筋道をつけてしまった。

つまり、寺山は、『無頼漢』の中で、直次郎と三千歳の男女の関係を、直次郎と三千歳と母おくまの嫁姑の関係にした。しかも、お熊も三千歳も、官憲に密告しない人物として登場する。

ところが、流山児氏は、母が息子の犯罪を隠すために官憲に密告するプロットに変えたのである。ブレヒトと黙阿弥の共通点は、「密告」である。仲間の密告によって、マクフィスや直次郎は捕らえられるのである。

いっぽう、流山児氏は、寺山に無くて、ブレヒトや黙阿弥にあるものを、『寺山歌舞伎無頼

漢』に注入し、『寺山歌舞伎無頼漢』を、寺山の芝居ではなくて、ブレヒトや黙阿弥風なドラマにしてしまった。

殊に、ブレヒトは、『三文オペラ』で、マクフィスを、女王陛下の恩赦で命が助かる結末にしたのであるが、流山児氏は、また、黙阿弥式に、直次郎を殺害してしまった。

流山児氏は、寺山の『無頼漢』ではなくて、黙阿弥の『天衣紛上野初花』にある因果応報仕立ての勧善懲悪風に直してしまったのである。

ところで、ブレヒトにも黙阿弥にも出てこないのは、マクヒイスや直次郎の母である。ところが、流山児氏は、母親のお熊を、直次郎の仲間を密告する人物にした。そこで、流山児氏がお熊を密告者にした事によって分ってくることは、「もしかしたら、寺山は、お熊を、マクヒイスの母のような女性にしたのではないだろうか」という推測である。

だが、寺山は、密告によって、『無頼漢』が、既成のリベンジ・ドラマに退行するのを嫌った。また、ブレヒト風の裏切り行為というドラマ仕立ても嫌って、寺山固有の異化作用を用いたのであった。

寺山は、権力を扱いながらも、結局、権力をシンボリックに表象するにとどめた。その結果、水野の扱いも、直次郎の扱いもメタファーで表わし、河内山のクーデターに、滅びの世界をシンボライズするだけに止めた。とにかく、寺山は、映画に物語を導入することを嫌い、メタファーで無頼漢の世界を示したのである。

ところが、流山児氏は、『無頼漢』をコラージュしたばかりでなく、『無頼漢』と関係が無い、浅利慶太氏の劇団四季の演目や蜷川幸雄氏の劇団関係者を導入して、ステージをカオス状態に陥れようとしている。

このようにして、流山氏は、寺山の『無頼漢』を解体して、脱構造化しようとしている。だが、それは、元々、寺山のドラマメソッドであった。結局、流山児氏は、『無頼漢』のカオスを、更に、ダブル・ネガティブにして一層ダイナミックなカオスの状態に陥れようとしているのは、確かだ。

むしろ、流山児氏のディコンストラクションによって明らかになるのは、寺山のドラマが崩壊するのではなくて、反対に、寺山のドラマコンセプトが強固であることを裏付ける結果になってしまった。

つまり流山児氏は寺山の『無頼漢』にある悲劇を解体し、ドラマ全体を皆喜劇的な劇に仕立ててしてしまったのである。

寺山の悲劇は、水野が描く理想社会に、自らを殉じようとするところにある。そして、水野の理想社会とは、いうまでもなく水野の美学を表している。

ところが、流山児氏は、水野を、ダブルにして、老人男性の水野と、若い女性の水野にアイ

デンティティを分離した。元来、寺山が、配役のアイデンティティをダブルにするとき、悲劇が生じる。ちょうど、マクベスが、彼自らの眠りを殺してアイデンティティ・クライシスに堕ちるように、また、寺山作『阿呆船』の眠り男が、彼自らの眠りの部分を表す影男を殺してアイデンティティを失い、狂死してしまうようにである。けれども、流山氏は、水野を、女性にしたり、男性にしたりして、アイデンティティ・クライシスに堕ちるようにしたけれども、それを見て、観客は、ただ、げらげらと、笑うだけである。何故なら、流山児氏自身が演じる水野には、孤高の精神が無いからである。寺山の映画『無頼漢』では、かつて、孤高のハムレットを演じた芥川比呂志が権力者、水野の孤独を演じた。

もし、寺山が、蘇り、流山児氏の演出方法を踏襲することになったとしても、水野を主役とはしなかっただろう。というのは、水野は、茶番を演じてはいけなからである。

寺山の映画『無頼漢』で、水野を演じた俳優・芥川比呂志は、現在では古い型のハムレット役者ということになるだろう。元々、ハムレットと水野の理想主義は異質なものであった。だが、少なくとも、孤高の精神という観点から見ると、二人はリンクしている。寺山が、水野にハムレットを見ていたとは思われないが、二人に共通したパセティックな孤高の精神を感じていたと思われる。

現代では、悲劇自体が茶番であるから、流山児氏は、あえて、水野を茶化してピエロに仕立てたのかもしれない。だが、寺山の芝居は、悲劇仕立てなのである。トラジェディは孤高の精神を表し、そこに、寺山のドラマがあるのだから、それを、破壊してしまったら、寺山のドラマはドラマでなくなる。

確かに、流山児氏は、ブレヒトのガリレイを引用して、「英雄を求める時代がもっと不幸なのだ」(Unhappy the land that needs heroes)²²⁾と役者に、言わせている。だが、肝心の悲劇がドラマに醸し出されない。というのは、寺山が言ったように、「ドラマは、一度目は悲劇でも、二度目は喜劇だ」からである。流山児氏の『寺山歌舞伎無頼漢』は、寺山や黙阿弥やブレヒトの悲劇を喜劇にただけである。

例えば、シェイクスピアの『十二夜』では、ヴァイオラとオーシーノーの悲劇が示されている。二人の悲劇は、マルポーリオやトービーやフェステの喜劇の面白さに比較したら取るに足らない。だが、周りが騒がしければ、騒がしいほど、コントラストとして、若い男女の悲劇は一層光り輝くのである。少なくとも、流山児氏は、寺山の映画『無頼漢』の悲劇を、喜劇に変え、悲劇的な状況無くし、ドラマ全体を退屈なお喋りで台無しにしてしまった。

おまけに、流山児氏は、劇団四季の演出家浅利慶太氏や、かつて俳優だった蜷川幸雄氏の茶番を引用したために、『無頼漢』の中に、寺山が好んで用いたコラージュの効果も殺してしまった。というのは、寺山のコラージュは悲劇と喜劇が表裏一体になっていて互いに強調し

あっているからである。だが、流山児氏はコラージュして悲劇を引用しても、悲劇にする事が出来ず、結果的に喜劇一色になり単調になったのである。

また、流山児氏は、寺山の映画『無頼漢』を解体したが、その瓦礫の下からは何も生まれないのである。恐らく、その理由は、流山児氏が、シェイクスピアや黙阿弥やブレヒトや寺山のように、詩人でないからだろう。シェイクスピアやブレヒトや寺山が、先行の作品を解体しても、後には、新しい詩劇が生まれるのである。

詩は悲劇で、散文は喜劇である。だから、詩人が先行作品の詩を解体しても新しい詩が生まれる。だが、詩人でない散文作家が詩を解体しても、新しい詩ではなくて、皆、散文体の喜劇に変換するだけなのである。

寺山がオペラ『青ひげ公の城』を解体して、新しい『魔術音楽劇青ひげ公の城』を作ったとき、詩だけのオペラは、詩と散文が入り混じって、新しい詩劇に新しく生まれ変わったのである。

ところが、寺山の映画『無頼漢』を、解体した流山児氏は、悲劇を表す詩を、喜劇を表す散文調にしてしまった。

流山児氏の『寺山歌舞伎無頼漢』を見て改めて寺山は劇作家である前に詩人であったことを思い起こしたのである。

確かに、流山児氏は、『無頼漢』の中に無かった、寺山の短歌や、黙阿弥の五七調の韻文を引用して、『寺山歌舞伎無頼漢』を詩劇に作り変えている。

だが、歌人の寺山が、ドラマに引用する短歌と異なって、詩劇を解さない散文作家が、コラージュして短歌を引用しても、悲劇とはならないのである。

短歌には、リズムがあり、イントネーションがあり、アクセントがあり、サウンドがる。シェイクスピアの言葉には音楽があると言われる。

黙阿弥やブレヒトを乗り越えて、寺山が、映画『無頼漢』を新しく創作した背景には、ポエットの寺山が先行の詩人たちの詩から新しい詩を生み出して行ったプロセスを見逃してしまっただけではないだろう。

寺山の映画『無頼漢』の先行作品は、黙阿弥の『天衣紛上野初花』であるが、主題は、因果応報であり、悪人が犯した罪の報いを受ける。だが、直次郎は『天衣紛上野初花』では捕まるが、映画『無頼漢』では捕まらない。というのは、黙阿弥の『天衣紛上野初花』では、丑松が、直次郎の隠れ家を密告するが、寺山の映画『無頼漢』では、丑松は、密告する前に、自爆を遂げてしまうからである。

寺山の映画『無頼漢』はブレヒトの『三文オペラ』と似ている。だが、密告という点では、黙阿弥の『天衣紛上野初花』のほうが、『三文オペラ』と似ている。マッキースは、密告で、

ロンドン警察に捕まる。

しかし、『天衣紛上野初花』では、直次郎は死ぬが、『三文オペラ』では、マッキースは、恩赦で釈放される。つまり、ブレヒトは、因果応報を乗り越えている。

寺山の映画『無頼漢』の場合、密告が無いので、直次郎の運命は、宙吊りにされたままである。寺山は、黙阿弥やブレヒトの物語を殆どカットしてしまった。そこから生まれるのは、嫁舅の争いである。ところで、流山児氏は、直次郎の母親の密告シーンを作り、寺山の新機軸を、ブレヒトを経て、黙阿弥に逆戻りにしてしまった。

寺山のドラマには、ギリシア悲劇の家族の問題が核になっているように見える。だが、寺山のドラマは、農耕文化に根付いたものではなくて、農耕文化以前の狩猟時代に遡る。したがって、農耕文化という安定した文化の環境の中での家族内の争いではなくて、明日をも知れぬ骨肉の争いをドラマにしている。だから、農耕文化から派生したブレヒトや黙阿弥やギリシア悲劇に、寺山のドラマを戻してしまうと、まったく尺度が狂ってしまうのだ。

というのは、寺山のドラマには、農耕文化から生まれた国家という尺度を当てはめる事が出来ないからだ。言い換えれば、寺山のドラマには、密告する、警察も、国家も無いかのようである。

黙阿弥やブレヒトの劇に登場する人物が官憲に密告するのは、彼らが頼るべき国家があるからだ。ハベルのドラマは、しばしば、国家が無くなる状況を描いている。その意味で、ハベルのアイデアは、寺山のアイデアと幾分似ている。しかし、ハベルには、国家というコンセプトに対立する個人のコンセプトがある。ところが、ハベルには、個人のコンセプトを具体化出来ないで、現実の国家が立ち塞がるのである。

けれども、寺山には、ハベルが描く国家のコンセプトとも無縁である。寺山は、現実よりも、激痛が生み出す夢魔のせいで苦しむ夢の中の出来事を、現実よりも優位に置く。寺山のドラマには、農耕文化社会のコンセプトから狩猟時代のコンセプトに遡るのに、夢の方法が有効のように働いているようだ。

夢の世界は、農耕文化よりも遥かに遡る失われた未開文化の領域を表している。何故、寺山は、農耕文化よりも前に時代に興味があるかといえば、水野忠邦の固定した理想社会よりも、もっと自由で無限の世界があるからだ。

さて、映画『無頼漢』の結末で、直次郎は、母が邪魔で、殺害しようと企てる。それにもかかわらず、直次郎は、三千歳ではなくて、母親と二人つきりになる。ということは、寺山の描く直次郎は、三千歳よりも、母の方が恐ろしいエロスの存在なのである。言い換えれば、三千歳よりも、母親のエロスのほうが、大きいのである。農耕文化では、若い男女が豊穰を祝すのであるが、狩猟時代では、厳しい人生の生き方を知らない子供は、若い女性よりも、強かな母

親に繋がりを求める。

寺山は、幼い頃、父親の死と出会い、やがて、自ら不治の病ネフローゼを体験する事によって、母親との緊密な関係を築きあげた。寺山にとって、若い娘は農耕文化を象徴し、母親は、狩猟時代の戦いを表わしている。幼い頃から厳しい現実を余儀なくされた寺山は、いっぽうで、安定した農耕文化の象徴である若い娘に憧れていた。にも拘らず、寺山自身の不治の病が、絶えず、寺山の身体を、太古の時代に引き戻してしまったのである。

確かに、寺山にとって、ブレヒトや黙阿弥が描く世界は、憧れの農耕文化社会であったが、寺山は、それを、受け入れることは出来なかった。だから、寺山の『無頼漢』には、ブレヒトや黙阿弥には無い、直次郎の母親が登場するのである。

流山児氏が、寺山の映画『無頼漢』を、黙阿弥やブレヒト劇にリンクして、ステージ化してくれたおかげで、筆者は、寺山を黙阿弥やブレヒトのドラマと比較しながら論じる事が出来た。

05. まとめ

流山児祥氏に『夢謡話浮世根問』（2011）の名古屋 G/pit 公演で、筆者がお会いした時に、「『三文オペラ』は現実を扱っているけれども、『花札伝綺』はあの世を扱っているので、そこが両作品の根本的に違うところではないか」とお尋ねした。すると、流山児氏は「あの世なんであるのか？」と反論された。そこで、筆者は、「寺山はグレゴワールの『死後の世界』を読んでいて、人間だけがあの世を考える事が出来る動物であり、死後という虚構の世界を最高の芸術作品にした事が分かっていた。だから、寺山は死後が嘘っぱちだと思っていたが、死後が芸術の力で傑作になる事を知っていた」と返事をした。その後、筆者は、流山児祥演出の鹿目由紀作『愛と嘘っぱち』（2010）を英訳する機会があった。この作品は、大逆事件を題材にした芝居で、日本版『三文オペラ』のようで、ブレヒト的異化効果を如実に示した作品であった。所謂、地上楽園の夢を否定した作品である。それはともかく、当時、明治日本でも、また世界中のどこでも G. B. ショーが流行っており、幸徳秋水や荒畑寒村や堺利彦までもショーを翻訳した。筆者の恩師、市川又彦も当時英国留学から帰国した直後で大逆事件と全く関係がなかったが、ショーを翻訳したので官憲から尋問を受けた。だが寺山が『花札伝綺』でこうした不条理の現実を逸脱して、死後や無限の謎を考究したのは、一種、エッシャーのだまし絵のように爽快である。エッシャーの絵を映画化したクリストファー・ノーラン監督の『インセプション』は全くの虚構の世界である。だが、その虚構の世界は薄っぺらな現実の世界よりも遙かに濃密な異空間である。例えば、他にも例をあげると、筆者は、天野天街氏の『真夜中の弥

次さん喜多さん』を英訳していた時に気がついた事がある。つまり、それは弥次と喜多の二人が旅にでかける理由であるが、「薄っぺらな嘘ばかりの江戸を離れてお伊勢参りに旅に出る」からなのである。旅 (departure) とは死 (departure) の準備をすることである。天野氏は、曹洞宗の愛知学院大学出身なので、般若心経に親しんでいたから、自ずからの死の準備としての旅を考えて『真夜中の弥次さん喜多さん』を劇作したようである。

実は、流山児祥氏が『花札伝綺』を将来海外公演する時に英訳が必要になるという事を筆者は伺っていた。それで、九條今日子氏から英訳のコピーライトを得て『花札伝綺』の英訳を試みた。その際、筆者は、幾度となく、寺山が如何に虚構の世界に関心を抱き、エッセーのだまし絵に似た、『インセプション』の世界を構築しているかに気がつかされたのである。

このように、寺山は『花札伝綺』を構築する時に、ブレヒトの『三文オペラ』やシェイクスピアの『マクベス』を劇の外枠に使いながら、グレゴワールの『死後の世界』やエッセーの『無限を求めて』を援用しつつ、青森土着の地平に新機軸を拓くドラマを構築して見せたのである。

注

- 1) 寺山修司の戯曲第4巻 (思潮社、1984) p. 91. 同著の引用は頁のみを記す。
- 2) *The Complete Works of William Shakespeare* (Spring Books, 1972), p. 922. 以下、同著の引用は頁のみを記す。
- 3) 寺山修司の戯曲第2巻 (思潮社、1983) p. 354. 同著の引用は頁のみを記す。
- 4) Gregoire, Francois, *L'AU-DEL À* (Que sais-je? Universitaires de France, 1957), pp. 11 & 126.
- 5) 寺山修司の戯曲第1巻 (思潮社、1984) p. 149.
- 6) Artaud, Antonin, *Oeuvres Complètes VIII Heliogabale* (nrf Gallimard, 1967), p. 20.
- 7) 松岡和子「訳者あとがき」(シェイクスピア作『マクベス』松岡和子訳 ちくま文庫、2001) p. 183.
- 8) 高橋正樹『他人になれない』(郁朋社、2001) pp. 219-225.
- 9) 萩原朔美『思い出のなかの寺山修司』(筑摩書房、1992) pp. 110-114.
- 10) 参照：小田島雄志『物語マクベス』(シェイクスピアジュニア文学館9、汐文社)
- 11) シェイクスピア、ウィリアム『マクベス』小田島雄志訳 (白水社、2001) p. 156. 以下、同著の引用は頁のみを記す。
- 12) 「演劇の説話的構造」『is 特集「劇」』1985.12.
- 13) 「寺山修司シナリオ集」(映人社、1978) p. 47.
- 14) Gay, John, *The Beggar's Opera* (Eighteenth-Century Plays, Everyman, 1958), p. 132. 以下同書からの引用はページ数のみを記す。
- 15) 『キネマ旬報』1953.
- 16) Brecht, Berthold, *The Three penny Opera* (Brecht Plays: One, Methuen, 1987), p. 87. 以下同書からの引用はページ数のみを記す。
- 17) Havel, Vaclav, *The Beggar's Opera* Translated by Paul Wilson (Cornell U.P. 2001), p. 19. 以下同書からの引用は

ページ数のみを記す。

- 18) ハベル「演劇に賭けた二つの性」「婦人公論1968.1」
- 19) 河竹黙阿弥『天衣紛上野初花』（『名作歌舞伎全集』第11巻、東京創元社、1969）p. 346. 以下同書からの引用はページ数のみを記す。
- 20) Brecht, Berthold, *The Three penny Opera*, translated by Steve Gooch (Methuen, 1979), p. 127.
- 21) 「寺山修司シナリオ集」（映人社、1978）p. 9. 以下同書からの引用はページ数のみを記す。
- 22) Brecht, Berthold, *The Life of Galileo*, translated by Howard Brenton (Eyre Methuen, 1981), p. 76.

参考文献

パンフレット『天井桟敷』特集 花札伝綺（天井桟敷、1967）

Recorded Voice Data の音声的考察（試論）

都 築 正 喜

序

本稿は、筆者が考える Recorded Voice Data の音声的考察の一編として、寺山修司が吹き込んだ短歌 9 編について、寺山の言葉・声・音を中心に分析音声学 (Analytical Phonetics) の立場から、声の個性とも言える傾向や特徴となる手がかりを考察してみようとする試みである。分析に使用した音声は、ソニー・ミュージックハウス、「寺山修司 作詞+作品集」である。この CD 2 枚組みは、録音状態も良好であり、音楽や効果音などもミキシングされていないため音声の主観的および客観的分析には適していると判断される。今回は、DISC-2 に採録されている寺山自身が詠んでいる短歌 9 編を考察の対象資料とした。

この小論は、断片的な発話や限られた資料と、狭義的分析音声学の手法であり、模索の中途にあるものである。従って、特定個人の音声を広汎な資料をもとに、周到な考察を重ねて導いた、というものではない。また、言うまでも無く、談話のスタイルは人間関係・脈絡や役割によって環境的に選択される。このことから分析音声学で扱う個人の音価特徴の決定のための談話スタイルには、① formal、② colloquial, informal or casual、③ intimate の 3 種を検討すべきであるが、寺山のここでの短歌 9 編は formal なもののみである。このことから、筆者の資料の限界と分析手法に議論の余地がないわけではないが、それらを考慮に入れたとしてもある一定の立ち位置があると判断される。

今回は以上を考慮に入れつつ、音声環境 (segment catenation) から音声特徴を考えるために、短歌 9 編にそれぞれ音声記号を便宜的に付して整理し、調音点 (articulation point) と調音方法 (manner of articulation) に重点を置いて記述し、聴覚印象 (auditory impression) とサウン

ドスペクトログラム (sound spectrograph) に拠る音響分析を音価決定の判断に加えた。同時に基本理論として、IPA、サウンドスペクトログラム、エレクトロパラトグラフ、フローネイザリティグラフ、基準母音・副基準母音、鼻濁音、他に関連して言及した。意味群の区切りは、録音音声から聴き取れる寺山の発話の息継ぎなどを参考にして、筆者の聴覚印象に拠り *breath group* とした。word group の小休止段落は | で区切り、明確な *pause* のある文末は || で表記した。短歌9編に、仮番号 TS1～TS9 を付けた。ここでの transcription では、上段は短歌9編のローマ字表記、下段は音声表記 (phonetic notation) である。

第1部 音声総論

1.1. 音声の分析と IPA

一般論として、発話の中で、すべての segment が等しく強勢を受けて重要性を担って発音されている訳ではない。談話中のある segment は core segment となり、また別の segment は non-core segment となって、発話の一部を構成する。本稿では、日本語 core segment として、vowel 類、non-core segment として、consonant 類を考慮する。semi-vowel については、non-core segment とする。

寺山自身が詠んでいる短歌9編 (DISC2 に採録) には、全部で約500個の segment があった。

今回表記に用いた音声記号は、国際音声記号 (吹き込み: UCL, A. C. Gimson) と *THE INTERNATIONAL PHONETIC ALPHABET* (selected illustrations) である。国際音声記号表は、国際音声記号、1993年改定、1996年更新 (Hyun Bok Lee 掲載)、*MALSORI, Journal of the Korean Society of Phonetics and Speech Technology (PSK)*, No. 56, pp. 246-249, 2005、他、である。寺山の音声との比較や音価決定のために、分析の参考とした録音テープは、以前に A. C. Gimson 先生 (UCL, University College, London) より頂いたものを使用した。これを基にして、寺山修司が吹き込んだ短歌9編について音特徴を考察した。以下に、*THE INTERNATIONAL PHONETIC ALPHABET* (selected illustrations) を引用する。

なお、本稿では、segment などを表記するための特殊な記号や符号については、自作フォント 【Tsuzuki-ARM 2002・2006】を用いた。

子音類

| | | | | | |
|--------|------|-----|------|------|-----|
| 1. p̣ɑ | phɑ | bɑ | ɑpɑ | ɑphɑ | ɑbɑ |
| 2. ɑ̣ɑ | ɑ̣ɑ | ɑtɑ | ɑdɑ | | |
| 3. ɑ̣ɑ | ɑ̣hɑ | ɑ̣ɑ | ɑ̣hɑ | | |

| | | | | | | | |
|-----|------|------|------|-----------------------------------|-------|------|------|
| 4. | aca | aʒa | aka | aga | aqa | aga | |
| 5. | aʔa | aʔta | atta | ata | aʔt | | |
| 6. | ama | aṃa | aṃa | aṇa | aṇa | aṇa | ana |
| 7. | ala | aʎa | aʎa | aʒa | aʎa | aʎa | |
| 8. | ara | ara | aʀa | aʁa | aʀa | aʀa | |
| 9. | aɸa | aβa | aɸa | ava | | | |
| 10. | aθa | aða | asa | aza | aʒa | aza | |
| 11. | aɸa | aza | aʒa | aʒa | axa | axa | |
| 12. | aχa | aʁa | aḥa | aʁa | aḥa | aḥa | |
| 13. | aβa | aɸa | aʒa | | | | |
| 14. | atʂa | atʂa | akxa | akxha | abβa | | |
| 15. | ap'a | at'a | ak'a | atʃ'a | atʃ'a | as'a | ax'a |
| 16. | idi | isi | iʎi | | | | |
| 17. | ætæ | æɖæ | ærgæ | | | | |
| 18. | aʀa | aʀa | aʒa | (voiced ditto); (nasalised ditto) | | | |
| 19. | awa | ama | ava | aʀa | aqa | aʒa | |
| 20. | ara | | | | | | |

母音類

- (primary cardinal) i e ε a α ɔ o u
- (ditto, nasalised) i e ε a α ɔ o u [(with) ~]
- (secondary cardinal) y ø æ ɒ ʌ γ ʊ
- (central) ɨ ɘ ɤ ɯ
- i ɨ ʊ y ɯ u
- (r-coloured) əɹ aɹ eɹ
- (breathy) e^h a^h ɔ^h
- (creaky) eʔ aʔ ɔʔ
- ɪ ʊ æ

(from A. C. Gimson's works by his permission, London)

1.2. 音声資料

ここで引用する音声資料は、既に述べたように、ソニー・ミュージックハウス、「寺山修司

作詞＋作品集」のCD 2枚組みで、DISC-2に採録されている短歌9編で寺山自身の音声である。(清水義和会長所蔵)

TS1

Hodokarete | shoujyonokaminimusubareshi | souginohanano |
hodokarete ʃo:dʒjonokaminimusubaɾeʃi so:ginohanano

hanakotobakana ||
hanakotobakana

TS2

Tonbinoko | nakeyoshimokitakanetataki | ubasuteizenno |
tombinoko nakeʃojimokitakanetataki ubasuteizenno

hahanemurashimu ||
hahanemurashimu

TS3

Kakurenbo | oninomamaniteoitareba | darewosagashinikuru |
kakarɛmbo oninomamaniteoitareba daɾewosagaʃinikuru

muramatsuri ||
murasuzume

TS4

Nakihahano | makkanakushiwoumeniyuku | osorezanniha |
nakihahano maʔkanakʃiwoumenijuku osoɾezanniwa

kazefukubakari ||
kazeɸukubakari

TS5

Furinagara | mizukarahorobuyukinonaka |
φurinagara mizukaɾahorobujukinonaka

oochichinomishikamiwo | wagamizu ||
ootʃitʃinomiʃikamiwo wagamizu

TS6

Dakuryuuni | sutekishimoyurumanjyushage |
dakuɾu:ni sutekiʃimojuɾumanʒjʌʃʒage

akakiwonannoikenietosemu ||
akakiwonannoikenietosen

TS7

Mirutameni | ryomewofukakusakamutosu | kamisorinohani |
miɾutameni ɾjo:mewoφukakusakantosu kamisorinohani

chiheiwoutsushi ||
tʃiheiwoutsuʃi

TS8

Atarashiki | butsudankainiyukishimama | yukuefumeino
ataɾaʃiki butsudaŋkainijukiʃimama juɾkueφumeino

otoutoto | tori ||
oto:toto tori

TS9

Suissshino | tabakodekitawosasutokino | kitakurakereba |
suissʃino tabakodekitawosasutokino kitakuɾakeɾeba

boukyounarazu ||

bo:kjo:naqazu

1.3. 母音の考察

一般論として、母音差の成因は様々であるが、主として口腔内での共鳴腔の形状差に起因する。口腔内の共鳴腔の形状差は舌の高さ等、舌の口腔内での位置が主たる要因で生ずる。両唇の形状差 (posture of the lips) も母音差を生ずる要因となる。結局、総じて母音差は様々な要因が競合的に関与していると言える。

1.3.1. 母音 [u] と [o]

広く認識されている core-segment として、日本語母音には、調音域から見ると、[i e a o u] の5種がある。日本語の母音 [u] が、母音三角形に表示されるように、伝統的には「後部・閉・非円唇」と考えられているが、実際には、舌の最高点はかなり前寄りで、中部位置に非常に近く、舌位置も高い。英語母音 [u] と異なり、lip-rounding と「丸め・突き出し」がほとんど無いため、音声の identity としては advanced [u] 的であり、ある場合には retracted [i] に接近する。

このように、日本語母音 [u] が、舌の最高点は前寄りで、中部位置に非常に近く、舌位置も比較的高い位置にて調音されている原因は、[o] 母音にある。日本語の [o] の舌位置が高く、[o] 母音が [u] の調音域に入り込んだため、[o] との重なりを避けるために、[u] は前に移動したと考えるのが合理的である。結果として、[u] は advanced 傾向を強め隣接母音や子音音価に palatalization などの影響を与える。この現象は、double articulation や co-articulation として検証が必要であるが、別の機会に言及したい。

寺山の発音では、TS1 [hodokaqete] の音節初頭音 [ho] が [ɸu] 類似音となり、母音 [o] は両唇の円めを失い、顎の開きが狭いため、[u] 近似音となっている。

短歌 TS1~9 を見てみると、[i e a o u] の5種母音は247個用いられている。それらの使用頻度の内訳は以下の通りである。

| | |
|-----|-----|
| [i] | 21% |
| [e] | 11% |
| [a] | 31% |
| [o] | 19% |
| [u] | 17% |

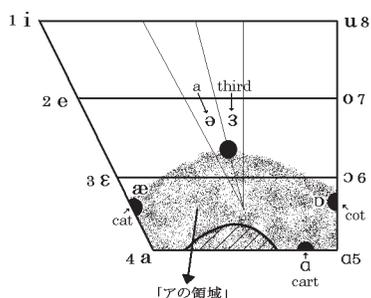
なお、日本語では短母音と長母音の対立が quality を変えずに、単に音の長・短の volume 差

のみでなされる。即ち、あ [a]、い [i]、う [u]、え [e]、お [o] の 5 母音は、それぞれ quantity 的に長音化した counter part を持ち、意味上の弁別対応をなす。

1.3.2. 母音 [a]、[e] と [i]

Hyun Bok Lee 教授 (ソウル大学) は、keynote speech (1997) の中で、日本語の “ア” [a] の調音域は非常に広いことを、下記に引用する母音図を示して明確にされた。その時、この日本語の [a] は、[ə]、[ɜ:]、[æ]、[ʌ]、[a]、[ɑ:] などを含むことを指摘された。以下、H. B. Lee の vowel chart を引用する。

Vowel Chart by H. B. Lee



(from Hyun Bok Lee, 1997, by his permission)

寺山の [a] 母音は、幾分開きの狭い [a] 近似音であると判断される。[e] については、[e] と思われる要素は無く、幾分閉母音的な響きを有する。これとは逆に [i] 母音は、[e] 寄りの音価を持ち、[i] と [e] の間が接近している聴覚印象を筆者は持つ。

更に、寺山の発音で強勢の無い母音群の中で、曖昧母音的な Schwa の [ə] を認める。A. C. Gimson に拠れば、[ə] は unstressed syllables に生じ、[ə] に 3 種類の variants を認める。寺山の [ə] に近い音価は伝統音声学的には次の範疇の③の場合であると判断される。

- ① upper [ə] occurs in non-final positions.
- ② central [ə] occurs in the vicinity of the velar consonants [k], [g].
- ③ lower [ə] occurs in final positions.

(A. C. Gimson; 1994, 117–118)

1.3.3. 母音の無声化

一般論として、無声化 (Devocalization) とは、有声音が前後に隣接する無声音の影響を受

けて、声帯振動がなく、無声で発音される現象である。無声化母音とは、無声化が母音に起こるものを指す。無声化母音の多くは無声子音に挟まれた [i] や [u] の場合であるが、声帯振動を中止する anticipation の作用による。例えば、[çi he ha ho φu] において、先行 fricative は後続母音の声帯振動の開始時間に影響を与える。音声現象としては、前後の無声音の影響で、本来、有声音である、母音 [i] や [u] が、声帯振動を失う、同化作用 (Assimilation) の一種である。

無声化の起こる音は以下の、通常 8 個 (8 セグメント) に代表される。

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|-----|-----|----|----|
| キ | ク | シ | ス | チ | ツ | ヒ | フ |
| kj | ku | ʃj | su | tʃj | tsu | çj | φu |

この場合、アクセントの山 (高く・強く発音する部位) がない時に無声化は起こる。強調部でないことが発生の条件である。従って、アクセントの山の高いところでは、無声化は起こらない。開きの狭い母音 [i] や [u] が無声子音に挟まれている場合でも、それぞれの母音が高く・強く発音されている場合には、アクセントの山に該当し、[u] や [i] のような、無声化は起こらない。この原則は方音研究においても重要である。

無声化の原因としては、労力の節約・調音努力の経済 (economy of effort) が挙げられる。即ち、調音に際し、なるべく労力を節約して、調音エネルギーを減じようとする。調音活動の典型的な「省エネ」の発音例である。即ち、先行する無声音の声帯振動なしで、そのまま、後続の母音に持ち込んで、その母音を無声化してしまう現象である。人間の調音活動では、常に、こうした「省エネ」が働く。この現象は、同化作用とアンティシペーション (調音の先構え) となって顕著に現れる。無声化が過度に進むと、聴き取りが不明瞭になるため、心理的に無声化を避けようとする、反作用的な調音努力も働く。

寺山の発音では、無声化母音は現れない傾向を示すと判断される。無声化母音が生じない傾向があるということは、結果的に、前後の無声子音を濁音的に発音する「有声転化音」を可能にする印象を与える。

1.3.4. 連母音

通常の日本語では、連母音は次の表のように、かなり自由に現れる。しかし、寺山の発話には連母音語が少ない。また、いくつかの連母音は、以下の例に示すように長母音化して現れる。(下線部)

TS1

Hodokarete | shoujyonokaminimusubareshi | souginohanano |

hodokarete ʃo:dʒjonokaminimusubaɾeʃi so:ginohanano

(後半省略)

TS9

(前半省略)

boukyounarazu ||

bo:kjo:narazu

連母音図表

| Vowel 1 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---------|-----|----|----|----|----|----|
| | | a | i | u | e | o |
| Vowel 2 | 1 a | # | ai | au | ae | ao |
| | 2 i | ia | # | iu | ie | io |
| | 3 u | ua | ui | # | ue | uo |
| | 4 e | ea | ei | eu | # | eo |
| | 5 o | oa | oi | ou | oe | # |

なお、日本語には英語のような、二重母音 (diphthong) の概念は基本的にはない。即ち、2つの母音が一音節を構成する例は無く、前掲の連母音図表で分かるように、2つの母音が二音節を構成する。この点において、2つの母音が一音節を構成するような以下の英語二重母音表と根本的に異なる。

glide to [ɪ]: [eɪ] [aɪ] [ɔɪ] [ʊɪ]

glide to [ʊ]: [əʊ] [aʊ]

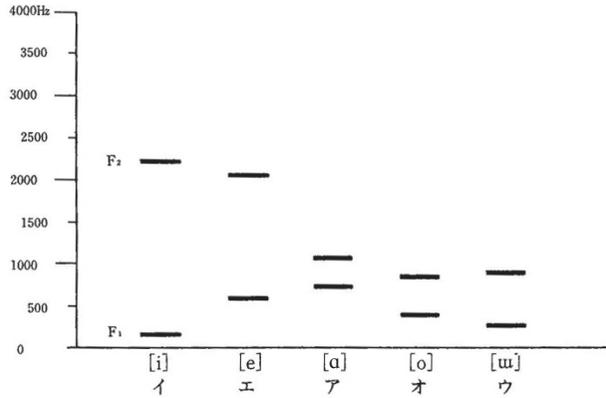
glide to [ə]: [ɪə] [ɛə] [ɔə] [ʊə]

1.3.5. 母音の分析表示

ここで、日本語の五母音 formant について、F1~F4の数値を挙げる。更に、それらの中で、F1とF2に関して表にして示す。(発話者：都築)

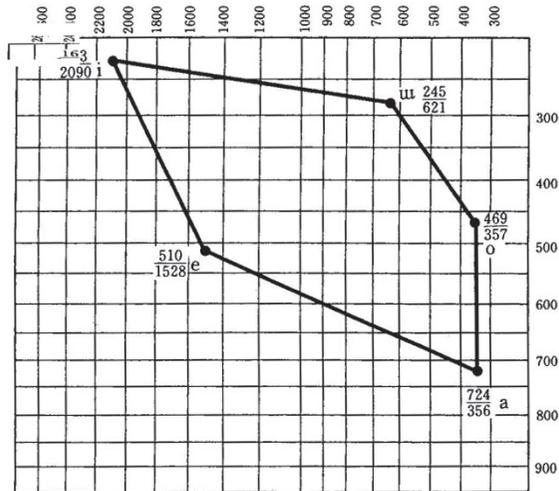
| (H ₂) | F1 | F2 | F3 | F4 | |
|-------------------|------|-------|-------|------|-------|
| 1870 | 163, | 2253, | 3292, | 3812 | イ [i] |
| 1880 | 510, | 2038, | 2558, | 4097 | エ [e] |
| 1890 | 724, | 1080, | 2146, | 3496 | ア [a] |
| 1900 | 469, | 826, | 2579, | 3741 | オ [o] |
| 1910 | 245, | 866, | 2334, | 3364 | ウ [u] |

Japanese vowel formants F1~F4



Location of formants (F1 & F2) of Japanese vowels

以下に、日本語の五母音 formant を母音図表に示す。ここでの5母音に関して言及すれば、[i] はかなり前寄りが高位置である。聴覚印象としては舌端が palato-alveolar から palatal に対して作る呼気の響きが認められる。[e] の位置は、[i] と [a] のほぼ中間であるが、音色はむしろ [e] に近い。[a] はかなり奥寄りで低いが、これは現実には [a] と [ɑ:] の間にあるもので広い調音域を有し、音声環境によってはかなりの揺れを持つ。従って、[a] の調音域は発音ごとに異なるため、その調音点をこの奥・低位置に固定することはできない。[o] は [u] と [a] のほぼ中間であるが、幾分 [u] 寄りの奥位置をとる。なお、今回の data では、口蓋の高さ（窪み）がかなり音色に影響を与えているものと判断される。特に前・高部位置にある [i] 母音に clear な口腔共鳴を認める。一方、[u] 母音では [i] 音色とは異なった後部母音特有の口腔共鳴がある。



Japanese five vowels on two-dimensional formant chart

1.4. glottal stop

H. Y. Lee の指摘に拠ると、日本語では、音節群や意味群ごとに弱い glottal stop がかなり挿入される、という。さらに吟味すると、glottal stop 挿入個所では意味群の切れ目が意識され、平叙文であれば音節群ごとに下降音調で発話される傾向が認められる。即ち、弱い glottal stop を多用し、単語や句を区切り、限定的母音連続を回避して、意味を明瞭にしようとする傾向がある。しかし、一方では単語と単語あるいは、句と句の間はかなり頻繁に現れる glottal stop が、発話の流れやイントネーションの様態の継続や変化を不規則にする。こうして、日本語では下がり調子のイントネーションの直後に glottal stop を入れて、発話の休止や breath group に用い、意味的には断定を表現しようとする特徴を見せる。なぜ日本語に glottal stop が formal speech でも casual speech であっても談話スタイルに関係なく頻繁に現れるのか、その原因は究明されていないが、おそらく、日本語の CV 構造から生ずる単調さを、意味的に明確にしようとする結果を一因として考えることができる。あるいは、イントネーションやピッチ構造が単純であったり、母音数や連母音数が限られているために生じる曖昧さを避けようとする結果ともいえよう。この日本語の音声に固有の glottal stop 特徴は寺山の音声には顕著に現れない。

1.5. 破裂音

短歌 TS1~9 を見てみると、[p t k b d g] の 6 種類の破裂音は 81 個用いられている。それらの使用頻度の内訳は以下の通りである。[p] 行音が用いられていないのは、擬声語や擬態語の使用例がないためであると考えられる。これらの破裂音は音象徴や好音調 (euphonizum) の点か

らも専門家によって更に考察が進められることになるう。

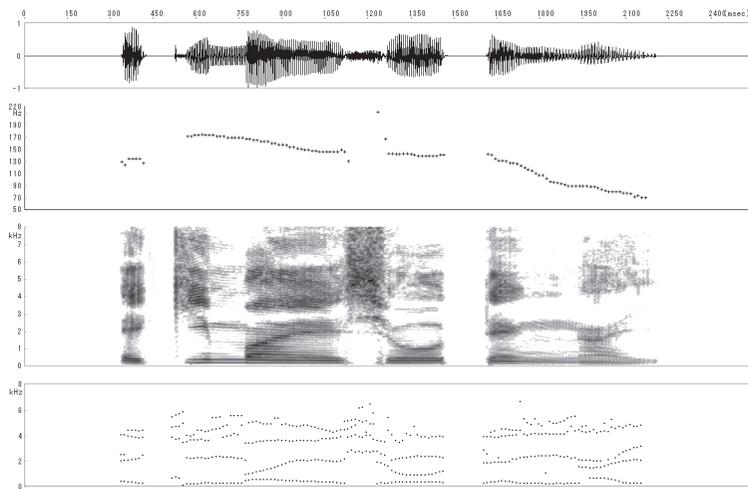
| | |
|-----|-----|
| [p] | 0% |
| [t] | 26% |
| [k] | 48% |
| [b] | 15% |
| [d] | 6% |
| [g] | 5% |

1.6. 鼻濁音と軟口蓋破裂音

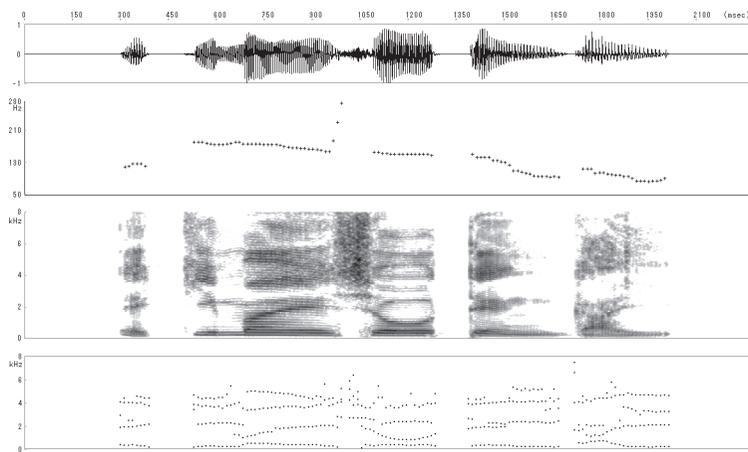
通常、日本語では、鼻濁音 [ŋ] と voiced velar plosive [g] の対立を認める。寺山の発話には、明確に鼻濁音と言えるものは多く認められない。この [ŋ] と [g] の言語内対立は発話者の年齢、方言境界や種々な発話環境が関与し複雑である。調音感覚の点から言えば、[g] では軟口蓋で呼気が遮断され、圧縮された後破裂する過程があるため、調音器官は不連続的な *articulatory movements* をする。この時、声帯振動は破裂の前に開始されるのが普通である。一方、軟口蓋鼻音では、後舌面と軟口蓋が接触し、呼気は鼻腔へと連続して流出し、鼻腔共鳴を生み出し中断することはない。この対立する音声現象をサウンドスペクトログラフで示す。

なお、最近の日本語は、軟口蓋有声摩擦音 [ɣ] を観察する。ただし、これに対応する無声音 [x] はない。即ち、軟口蓋を調音点とする3種、破裂音 [g]、摩擦音 [ɣ]、鼻音 [ŋ] を認める。特に、筆者の調音感覚と聴覚印象では、従来、語中の母音間や「ン」に後続する「ガ」行子音として、鼻濁音を用いていた地方では、[ŋ] > [ɣ] 傾向があり、これとは逆に、有声軟口蓋破裂音を用いていた地方では、[g] > [ɣ] 傾向がある。

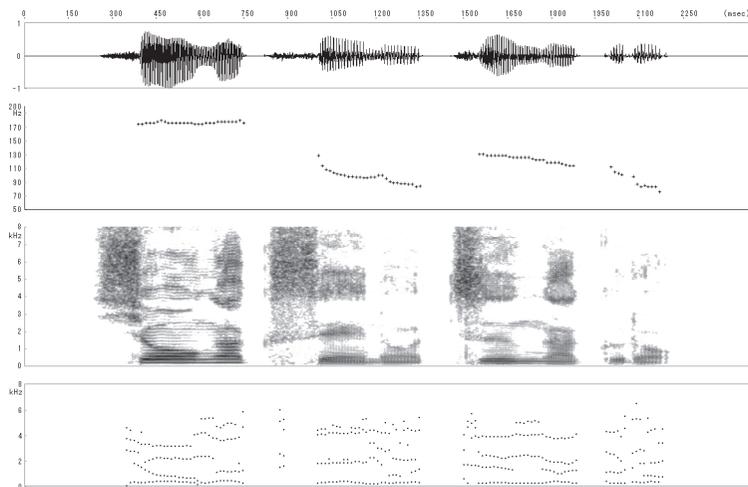
Recorded Voice Data の音声的考察 (試論)



e ki ma e ʃj o: te ŋŋ ai
 ① 「駅前商店街」 その1 (鼻濁音によるもの)

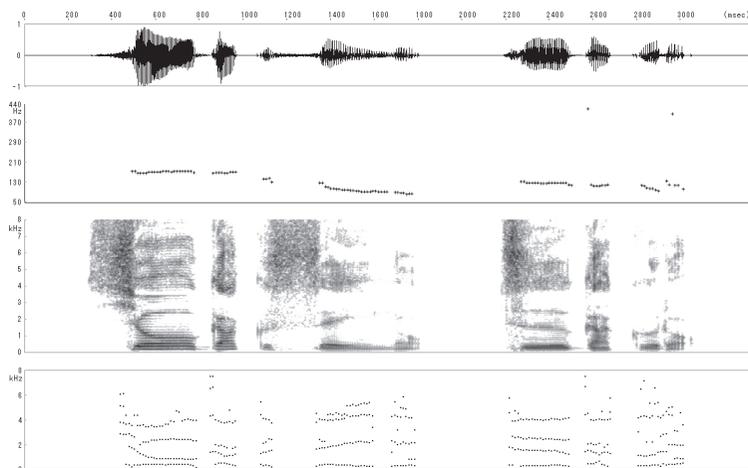


e ki ma e ʃj o: te ŋ g ai
 ② 「駅前商店街」 その2 (軟口蓋破裂音によるもの)



ʃ j o: ŋa kuꜜ s ei n o tsu: ŋ a ku ro

③ 「小学生の通学路」 その1 (鼻濁音によるもの)



ʃ j o: ga kuꜜ s ei no t s u: ga ku ro

④ 「小学生の通学路」 その2 (軟口蓋破裂音によるもの)

1.7. ラ行子音

ラ行子音は非常に複雑な音価と調音特徴を有するため、一応の音価決定の基準として、以下のような音声環境を定め、本稿ではこれに従った。音節初頭音と母音間に音声環境を絞った。

(歯茎弾音) ri “り” [ri]

(舌側反転音) re “れ” [ɾe]、ra “ら” [ɾa]、ro “ろ” [ɾo]

(反転弾音) ru “る” [ɾu]

(歯茎弾音) iri “いり” [iri]

(反転弾音) ere “えれ” [eɾe]、ara “あら” [aɾa]、oro “おろ” [oɾo]、uru “うる” [uɾu]

寺山の発音では、以下に幾例かの弾音や反転弾音を認める。

TS5

Furinagara | mizukarahorobuyukinonaka | (後半省略)

ϕurinaɾaɾa mizuɾaɾaɾoɾobuɾjuɾukinonaka

TS9

(前半省略) | kitakurakereba | (後半省略)

kitakuɾakeɾeba

1.8. 鼻音類

音声は Anticipation により、「可変性」を有している。現実の音は隣接音に形を似せて結びつこうとする傾向があり、その結果、音響学的にも、音声変化となって現れる。ある音を発音している調音動作中に、既に次に来る（であろう）音の調音を前もって構える結果、音声変化を引き起こす。いくつかの現象は、確立 (established) されたものであり、またあるものは偶発的 (accidental) であったりする。音声の Anticipation の顕著な例は、逆行的同化作用 (Regressive Assimilation) の結果、異音化している日本語の「ん」である。このことは、筆者の先行研究において既に言及した。

日本語では伝統的に、nasality を有する鼻音類 variant として、音声環境の面から、[m] (bi-labial)、[n] (alveolar)、[ɲ] (palatal)、[ŋ] (velar)、[ɴ] (uvular) の 5 種を認める。それぞれ異なった弁別特徴と音価を有する。[ɲ] (retroflex-alveolar) や [m̥] (labio-dental) などは日本語の異音としては現れない。これらの調音される音声環境は通常以下のように区別される。

1. [m] occurs before bi-labial.
2. [n] occurs before alveolar.
3. [ɲ] occurs before palatal.
4. [ŋ] occurs before velar.

5. [N] occurs before non-obstructive consonants
and finally. (before or after vowels)

以上の基準によって、寺山の鼻音類表記を行った。

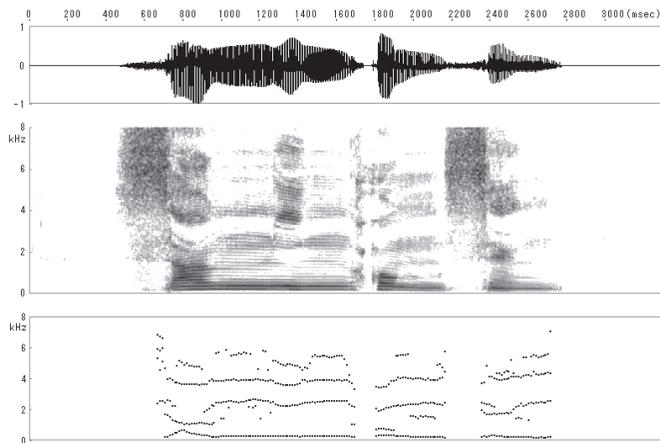
短歌 TS1~9 を見てみると、[m n ɲ N] の鼻音は70個用いられている。それらの使用頻度の内訳は以下の通りである。[ɲ] 音が用いられていないのは、既に述べた破裂音 [p] と同様、擬声語や擬態語の使用例がないためであろう。一般論として鼻音の多くは感情表現に好んで用いられる。ある程度の親密さを表現する際にも特定の談話様式では鼻音は必要とされる。鼻音は音象徴や好音調の点から更に分析されることになろう。

| | |
|-----|-----|
| [m] | 37% |
| [n] | 60% |
| [ɲ] | 0% |
| [ŋ] | 1% |
| [N] | 1% |

鼻音類の中で、サウンドスペクトログラムによる口蓋垂鼻音の例証を表示する。

さ ん い ん ほ ん せ ん (山陰本線)

s a N i N h o N s e N



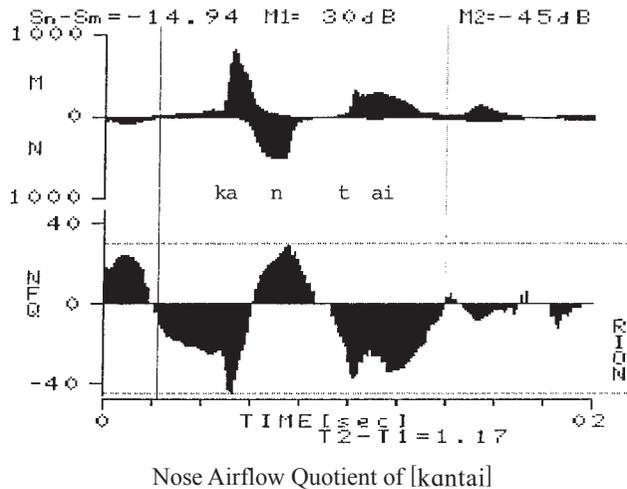
s a N i N h o N s e N

さ ん い ん ほ ん せ ん (発音：筆者)

なお、鼻音類の研究にはフローネイザリティグラフを用いなければ正確な音響学的な記述はできない。フローネイザリティグラフ (Flow-nasalitygraph) とは、発音時の口腔からの呼気流出量と鼻腔からの呼気流出量をそれぞれ検出し、呼気流出の程度や割合を鼻音化指数などとして客観的に表示するものである。通常、FNG と略して用いられる。音響音声学の中で、フローネイザリティグラフを使った研究は、サウンドスペクトログラフなどと違い、筆者の知る限りに於いて歴史も浅く、報告例も少ない。フローネイザリティグラフの問題点として、実験ごとに、呼気圧の不安定さや、発音時間に長短があったり、機器操作上の若干の誤差が生じないとは言えない。あるいは、口と鼻にそれぞれ、防毒マスクのような機器をしっかりと当てるので、発音動作が不自然になる事もないとは言えない。しかし、それらを考慮に入れたとしても、口腔からの呼気流出量と鼻腔からの呼気流出量の研究には FNG がもっとも優れている。さらに、フローネイザリティグラフよりも、優れた機器は開発されていない。

フローネイザリティグラフは、「鼻音化母音 [ɱ]」や [N] に代表される「口腔化鼻音」の調音に生じる、鼻腔と口腔の呼気の流出状況の考察などに適している。鼻腔と口腔への呼気の流出状況や口蓋垂と後舌面との接触状況などは、FNG の実験結果に加えて、調音感触と聴覚印象からも判断すべきである。それらを総合的に吟味することによって、vowelness や nasality の実体が考察できる。以上の事は、筆者の先行研究において既に報告した。

ここで、フローネイザリティグラフ (リオン) による、日本語の鼻音化 quotient と vowelness および nasality の例を“かнтаい” [kantai] (発話者：筆者) を用いて示す。



口蓋垂鼻音 [N] は、日本語「ん」の異音の一種として生じる。この [N] は、O'Connor に拠れ

ば、世界の言語の中でも日本語と Inuit の言語に使われている程度で、非常にまれな鼻音である。日本語で、「ん」が口蓋垂鼻音 [N] となる単語は、頻繁に現れる。口蓋垂鼻音 [N] の使用頻度が高い。

以下に、口腔音化と鼻音化の発音特徴を整理する。

| | 口蓋垂鼻音 [N] | 鼻母音 |
|-------|------------|------------|
| 音節構造 | 音節主部 | 音節主部 |
| 呼気量 | 多い | 多い |
| 口蓋垂 | 下垂（非接触） | 下垂（非接触） |
| 呼気通過 | 鼻腔と口腔 | 鼻腔と口腔 |
| 呼気量比率 | 鼻音多い 口腔少ない | 鼻音少ない 口腔多い |
| 主たる音 | 鼻音主体 | 母音主体 |

| 機能 | 記号 | Dominant Feature 主要素 | Secondary Feature 副要素 | Other Features | Uvula 口蓋垂 | syllable structure 音節構成 |
|-------|-----|-------------------------|--------------------------|--------------------------------|--------------|----------------------------|
| 口蓋垂鼻音 | [N] | Nasality 鼻音性 | Vowelness 母音性 | Vowel-coloured-nasal 鼻音色加味 | Down 下垂 | main 主要素 |
| 鼻音化母音 | [~] | Vowelness 母音性 | Nasality 鼻音性 | Nasal-coloured-vowel 母音音色加味 | Down 下垂 | main 主要素 |

1.9. 口蓋化と前部閉母音

硬口蓋接触を必要とするある種の non-core segment の中で、舌位置（形状）の高い子音は多くの場合、口蓋化（palatalization）を生じ易く、口蓋性（palatality・palatalness）を有する。この現象は日本語でも顕著である。日本語の口蓋化は以下のような variation をなす。

「ラ行子音」においては、*rya* [ɾja], *ryo* [ɾjo], *ryu* [ɾju] に生ずる。

「ナ行子音」においては、*nya* [nja], *nyo* [njo], *nju* [nju] に生ずる。

その他、*kya* [kja], *sha* [ʃja], *cha* [tʃja], *mya* [mja] などにおいて、広範囲に硬口蓋接触に因る口蓋性が認められるのが普通である。それぞれ異なった弁別特徴と音価を有する。

日本語の、「に」、「般若」、「こんにやく」、「侵入」等に於いて、鼻音は前部閉母音あるいは palatal の [j] の影響を受け、palatal もしくは palatalization 形となり、[nj], [nʲ] となる。さらに、「ぬ」においても、口蓋化がみられ、[nju], [ɲju] となる。これは、日本語 [u] が既に述べたように advanced back vowel であるためである。この現象は他の言語でも見られる。例えば、

日本語の [u] ほどの前寄りの位置ではないが、music では、[u:] は、palatal の [j] の影響 (progressive assimilation) で、advanced position をとる。その他、use、usual、juice、June、chew などでも、[u:] は、前寄りの位置をとる。fool、cool、tool などの dark l [ɫ] の直前では [u:] は、低い位置をとる。

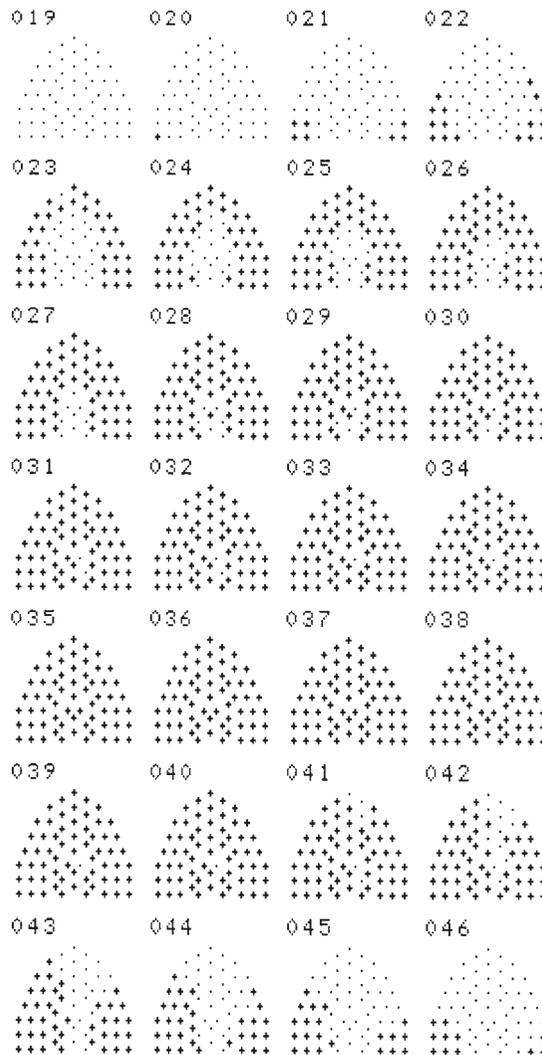
Palatalization を考察する上で、日本語 [i] の舌尖位置と様態を吟味しなければならない。日本語に於いて、「し」、「ち」、「じ」、「ぢ」が前部母音 [i] の影響で口蓋化を起こす、この種の口蓋化現象については広く認められてきた。ただし、この時、日本語 [i] の舌尖位置が下方位置をとるため、それに連動して前舌部が硬口蓋に接近し palatalization を起こしやすい現象に注目すべきである。仮に、舌尖位置が alveolar に接近し、前舌面が palato-alveolar に対するのであれば、この種の palatalization は起こりにくい。寺山の音声を分析して、主として聴覚印象から、寺山の幾例かには、口蓋化と口蓋性が弱いという、傾向を認める。

従来、調音音声学の分野では、舌の歯茎や硬口蓋に対する「一時停止的」な静的接触状態は、人工口蓋 (artificial palate) に拠って観ることができた。一例として、D. Jones は *An Outline of English Phonetics*、第2版 (1922) においても、調音状況の記述に人工口蓋図を多数採用し調音点の evidence としている。それ以後、D. Jones の artificial palatogram が音声を記述する際の音価決定の根拠となっていた。しかし、口腔内における調音点の音響学的考察は、現在では dynamic-palatography (動的口蓋図法) の一つである、エレクトロパラトグラフ・electropalatograph (EPG・電極付人工口蓋) に移行している。

エレクトロパラトグラフ (EPG) について説明すれば、それは音価と音声環境について、舌と歯茎・口蓋との接触状況を連続して解析する音響学的方法である。詳細には、segment の調音点としては、alveolar、alveolo-palatal、post alveolar、palatal を対象とし、調音方法としては、plosive、nasal、trill、flap、lateral などに焦点を絞って分析する。sound change としては、palatalization や retroflex などを考察する。従って、言語聴覚士 (Speech Therapist) を目指す学生にとっても興味ある data を提供する。我が国において EPG は、70年代後半に、リオン株式会社 (東京都) が、舌の口蓋への動的接触状況を観るために医療機器として開発し、80年代に入って市販を開始した。その後、海外の医療現場や研究機関でも採用された実績があり、報告例がある。その製品名と製品番号は「リオンエレクトロパラトグラフ DP-20」である。このリオン社製の EPG は64個の電極を人工口蓋に埋め込むことによって、舌の歯茎や硬口蓋に接触する動きをモニター用スクリーンのディスプレイや記録紙で時間の経過とともに動的に連続して分析することができる。ただし、後舌面と軟口蓋との接触あるいは、口蓋垂の articulatory movements については観ることができない。電極付人工口蓋図が英語音声学の文献に見られるのは数冊あるが、ギムソンの業績を引き継いだ A. Cruttenden による、*Gimson's Pronunciation of*

English、第5版改訂版(1994)も貴重な data を載せている。その改訂版では、かなりの枚数の電極式パラトグラムを Section 図と併記し分析することによって、音響学的にもそれらを重要視した論旨の展開をしている。最近では音響音声学の中で、立体的な口腔内舌位置図も3DCG (3 Dimensional Computer Graphics) によって試みられている。

ここで、エレクトロパラトグラフ (リオン) による、日本語 palatality の例を“にゃ” [ɲja] (発話者：筆者) を用いて示す。



nya “にゃ” [ɲja] (by Tsuzuki)

1.10. 摩擦音の吟味

摩擦音とは、2つの調音器官が、調音点で、“せばめ”（狭窄）を作ることによって、その隙間を呼気が勢いよく通過するときに生じる音である。この時、あまりにゆっくり呼気が通過すれば、摩擦の響きは生じない。摩擦音には、有声摩擦音と無声摩擦音の対応がある。有声か無声かの別は、声帯振動の有無によるのであって、口腔内での調音器官による“せばめ”を通過する呼気のスピードやその際の振動とは関係ない。世界の言語の中で、使用頻度の点から言えば、摩擦音の種類が最も多い。次いで破裂音である。寺山の音声では、無声・喉頭・摩擦音の断定が困難な個所が見られたが、顕著な調音特徴とまでは言えない。

なお、摩擦音は、摩擦の響きが、どこで加工されるかによって、通常 IPA では、以下のよう
に分類される。

| | | 無声 | ⇔ | 有声 | |
|-------|-------------------------|----|---|----|-------------|
| 両唇摩擦 | bilabial fricative | ɸ | | β | |
| 歯茎摩擦 | alveolar fricative | s | | z | |
| 奥歯茎摩擦 | post-alveolar fricative | ʃ | | ʒ | ([ç] ⇔ [ʒ]) |
| 硬口蓋摩擦 | palatal fricative | ç | | ʝ | |
| 軟口蓋摩擦 | velar fricative | x | | ɣ | |
| 口蓋垂摩擦 | uvular fricative | χ | | ʁ | |
| 咽頭摩擦 | pharyngeal fricative | ħ | | ʕ | |
| 声門摩擦 | glottal fricative | h | | ɦ | |

1.11. 短歌9編に含まれる500個の segment の内訳

| | | 短歌番号 | | | | | | | | | |
|----|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| | 記号 | TS1 | TS2 | TS3 | TS4 | TS5 | TS6 | TS7 | TS8 | TS9 | 小計 |
| 1 | i | 4 | 6 | 4 | 5 | 10 | 7 | 7 | 6 | 4 | 53 |
| 2 | e | 3 | 5 | 5 | 3 | 0 | 5 | 2 | 1 | 3 | 27 |
| 3 | a | 10 | 9 | 9 | 11 | 10 | 6 | 6 | 6 | 10 | 77 |
| 4 | o | 8 | 6 | 4 | 4 | 7 | 4 | 5 | 5 | 5 | 48 |
| 5 | u | 2 | 4 | 6 | 6 | 5 | 5 | 6 | 5 | 3 | 42 |
| 6 | o: | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 6 |
| 7 | u: | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 8 | ei | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 9 | ai | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 10 | oi | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 11 | ui | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |

| | | | | | | | | | | | |
|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 12 | p | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 13 | t | 2 | 5 | 2 | 0 | 0 | 2 | 1 | 5 | 4 | 21 |
| 14 | k | 4 | 5 | 3 | 6 | 4 | 4 | 4 | 3 | 6 | 39 |
| 15 | b | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 3 | 12 |
| 16 | d | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 5 |
| 17 | g | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 18 | ϕ | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 |
| 19 | h | 3 | 2 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 9 |
| 20 | s | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 4 | 13 |
| 21 | z | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 9 |
| 22 | ʃ | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 1 | 11 |
| 23 | ʒ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 24 | ts | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 25 | dz | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 26 | tʃ | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 27 | dʒ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 28 | j | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 4 |
| 29 | w | 0 | 0 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 0 | 1 | 9 |
| 30 | m | 2 | 4 | 5 | 2 | 4 | 2 | 4 | 3 | 0 | 26 |
| 31 | n | 7 | 6 | 4 | 6 | 4 | 6 | 4 | 2 | 3 | 42 |
| 32 | ɲ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 33 | ŋ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 34 | ɳ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 35 | ɽ | 2 | 1 | 5 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 3 | 19 |
| 36 | r | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 |
| 37 | ʔ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 38 | dʒj | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 39 | ʎj | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 40 | kj | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 小計 | 58 | 60 | 58 | 53 | 60 | 53 | 52 | 50 | 56 | 500 |

この表において明らかなように、寺山の短歌9編には40種類の音声 segment が500個用いられている。詳細に検討すると、独特の音印象が明らかになる。例えば、寺山の音読には fricative が効果的に繰り返され、また偶然にも geminate した voiceless consonant が使われている。あるいは、short vowel が long vowel を駆逐している例も見られる。それによって、聴き手は同じ音の繰り返しや異化作用に特別な寺山のメッセージを acoustic image として受け取るようになるのであろうか。あるいは、同類音の repetition を避けようとしている。こうして作品の中で、vowel harmony や nasalization などが、どのような effective utterance を意図したものは筆者の立場ではこれ以上のことは不明であるが、寺山がかなり音を選んで発話し、音読を試みたことは今後明らかとなろう。なお、寺山の声の抑揚は変化に富んだものとは言えない。

第2部 サウンドスペクトログラフによる音声分析

本稿の segment 記述と音価決定については、既に述べたように、聴覚面の印象 (acoustic image)・心理的音のイメージ、調音器官の動き (articulatory movement)・音声加工の方法、及び、音響分析 (acoustic analysis) などを総合して判断の基準とした。同時にサウンドスペクトログラフの音響実験に拠って evidence を提示した。実験に当たって、今回使用した機器は、杉藤美代子監修・著; *Sugi Speech Analyzer* (型番 ANMSW-SSA0101、2000) である。関連周辺機器については省略する。録音と分析の時期は2006年2月~2006年3月である。記録図はノイズ処理を行っていない。いずれのデータ (吹き込み: 寺山修司) においても、実験図に因る「視覚的な錯覚」を防ぐために、調音・聴覚印象にも同時に重きを置いて総合判断とした。なお、発音記号に用いた活字とサウンドスペクトログラフ記録図の関係で、SSG と音声表記は対応していない。

Fig. 1 Sound Spectrographic Data, Recorded Voice, C-TS1

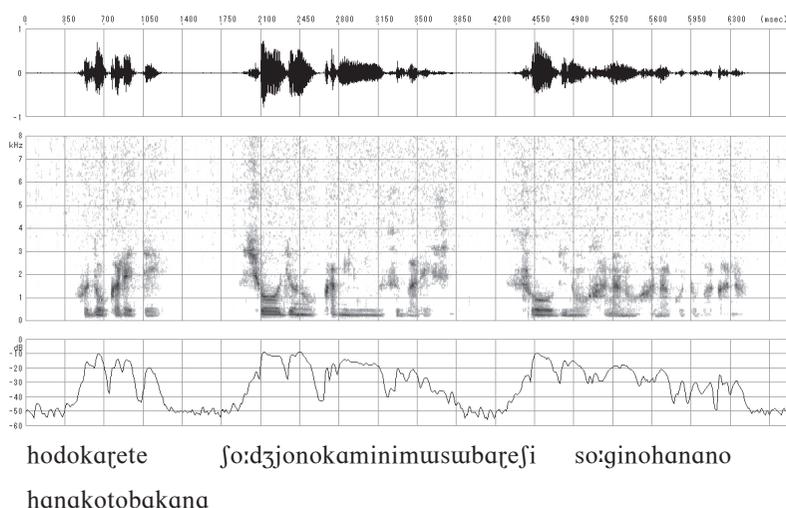


Fig. 2 Sound Spectrographic Data, Recorded Voice, C-TS2

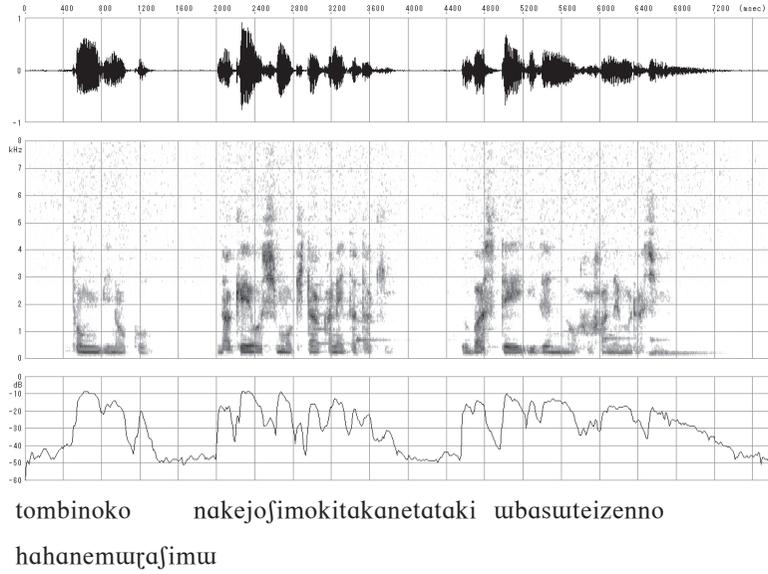


Fig. 3 Sound Spectrographic Data, Recorded Voice, C-TS3

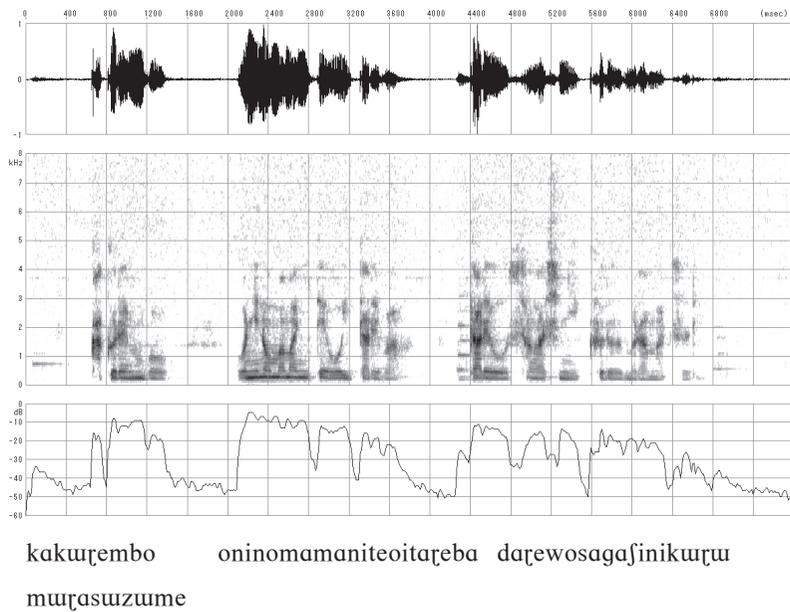


Fig. 4 Sound Spectrographic Data, Recorded Voice, C-TS4

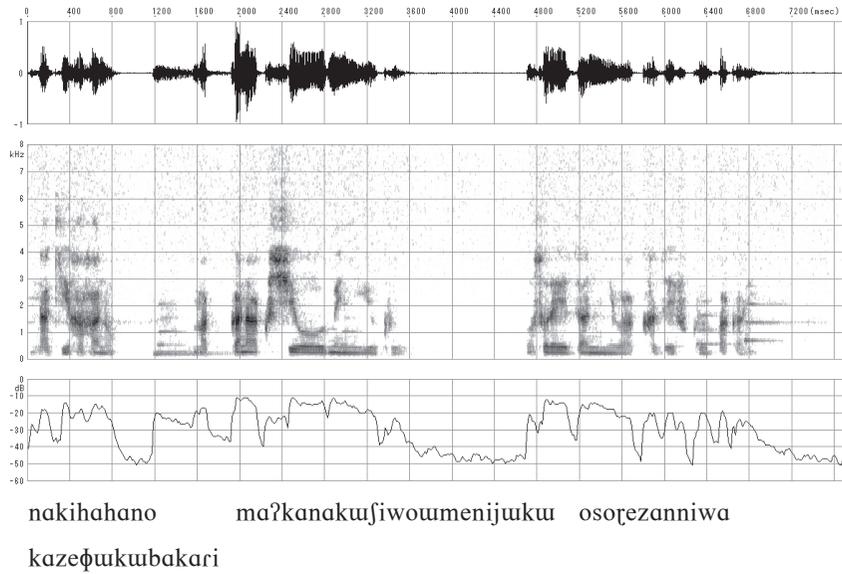


Fig. 5 Sound Spectrographic Data, Recorded Voice, C-TS5

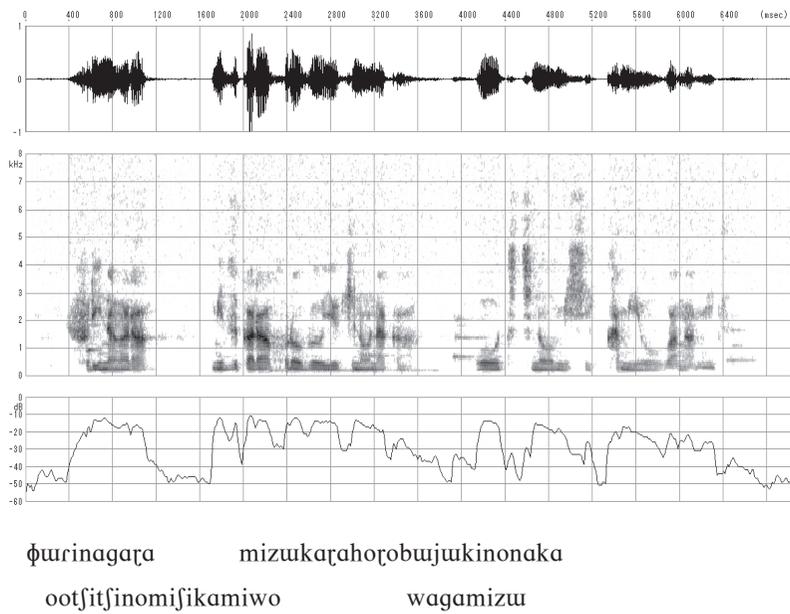
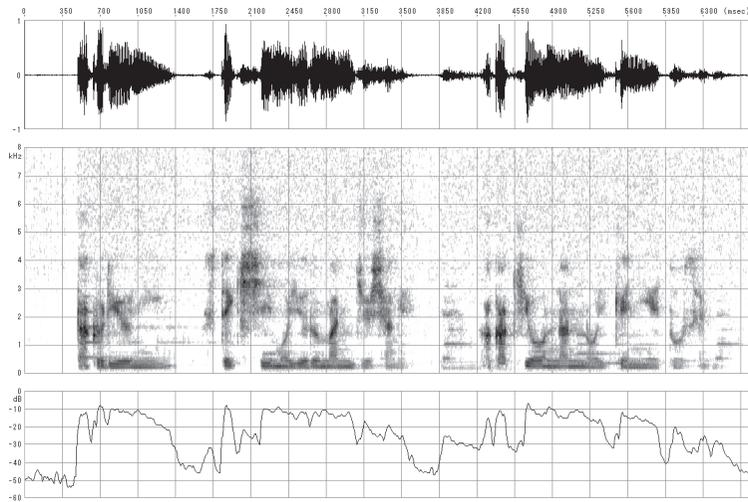
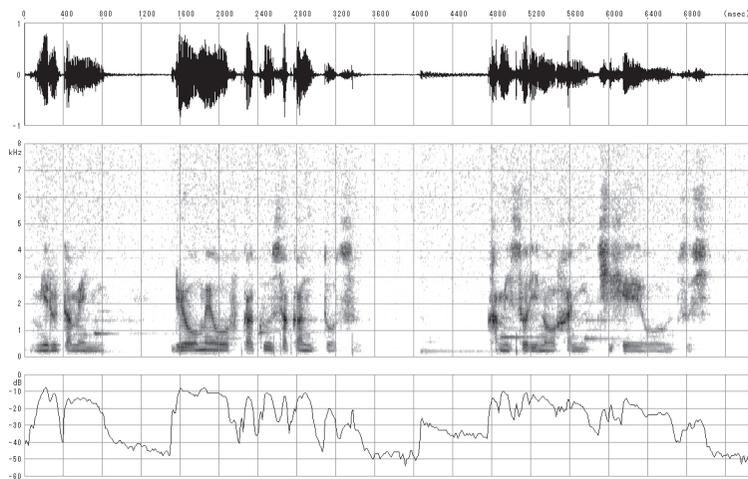


Fig. 6 Sound Spectrographic Data, Recorded Voice, C-TS6



dakurɔ:ni sutekijimojɔrɔmanzjɔfjage
akakiwonannoikenietosen

Fig. 7 Sound Spectrographic Data, Recorded Voice, C-TS7



miɔrutameni ʌjo:mewoɸukakusakantosu kamisorinohani
tʃiheiwoutsuɕi

Fig. 8 Sound Spectrographic Data, Recorded Voice, C-TS8

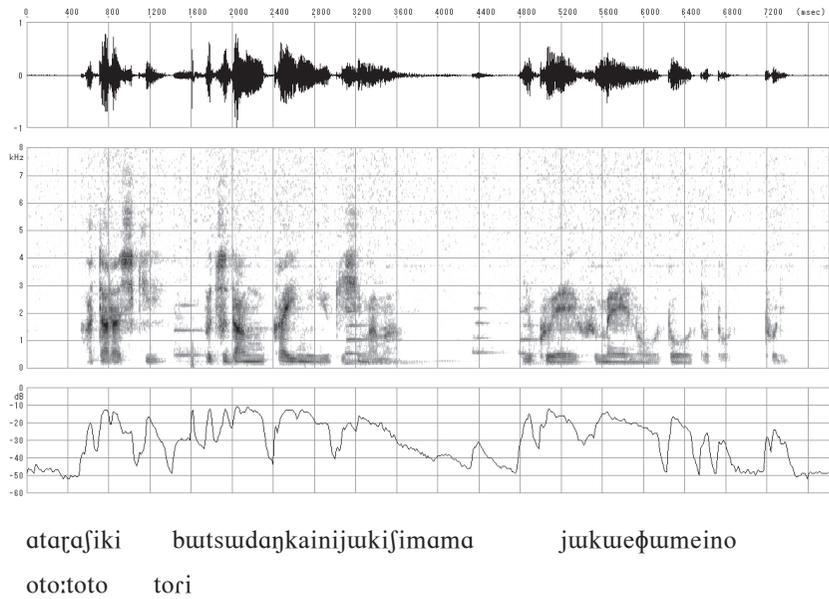
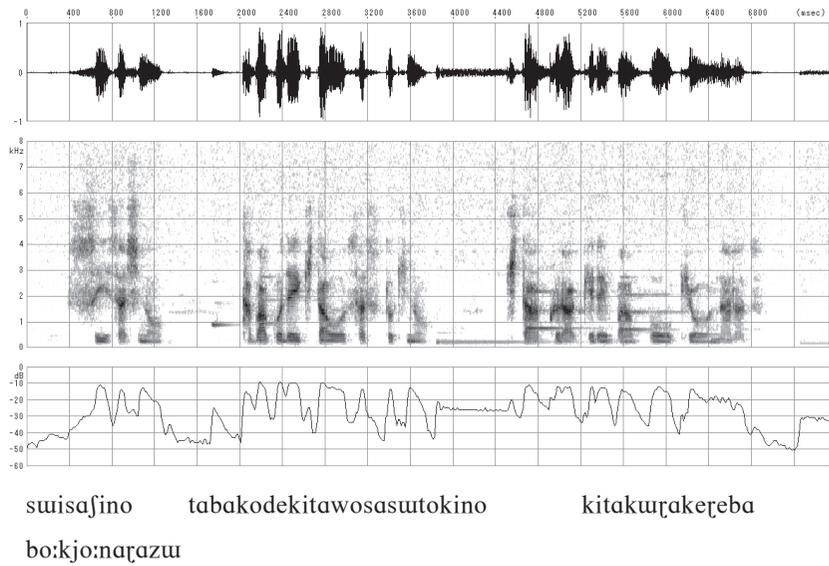


Fig. 9 Sound Spectrographic Data, Recorded Voice, C-TS9



第3部 基準母音的考察

recorded voice data における母音の分類と記述には基準母音的考察が不可欠である。ここで筆者の先行研究より基本となる若干の記述を行っておきたい。

3.1. 基準母音の音価

基準母音 (Cardinal Vowels) とは、全ての言語の基準とするために設定した母音であり、実在する音ではない。しかし基本母音を設定することにより、各言語の母音位置を記述、比較、又は評価する際にその位置を明確に示すことが可能となる。基準母音とは、口腔内に於ける経度と緯度のようなものであり、各言語の母音位置を明確にするために作られた想定点と言える。Cardinal Vowels を基準母音とするのが正しい。世界のすべての言語の基準となるものであって、基本となるものではないから、Cardinal Vowels を基本母音とは専門的には訳さない。

世界の言語の音体系において母音を有しないものは存在しない。しかし、各言語間で母音の数と音質 (quality) は異なっている。母音の音色に影響を与える要素は、口腔内における舌位置 (tongue position)、両唇の形状 (lip posture)、口蓋垂の位置 (uvular position) などである。硬口蓋から軟口蓋にかけての高さ (窪みの深さ) も母音共鳴に影響を与える。母音の長短で quality は異なる。lip posture も円め (rounding) や左右の引き (spreading) のみならず、突き出しが関与する。即ち、lip posture における、円めを伴う突き出しである。一般的な傾向として前部母音には両唇の円めはなく、後部母音は両唇の円めを伴って調音される。基準母音図表により明らかであるが、前部母音の方が後部母音に比べ、開口度は大きい。日本語には、lip posture を意識した母音はない。

3.2. D. Jones の基準母音の設定

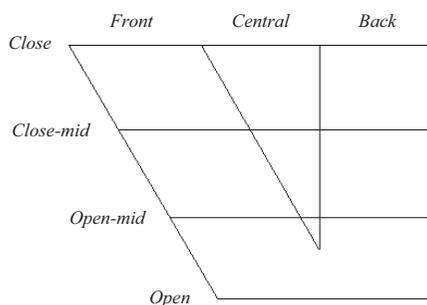
基準母音 (Cardinal Vowel) とは、D. Jones によって設定されたものである。それは、舌の最高点が母音としての極限的位置 (可聴摩擦を有しない) で発音される 8 個の母音で、言語音 (Speech Sound) としては実在音ではなく、抽象的な母音である。基準母音図は、これらの 8 個の母音を図表上に示したものであって、各言語に実在する母音との位置的な関係を定める基準となる。基準母音には、[i]、[e]、[ɛ]、[a]、[ɑ]、[ɔ]、[o]、[u] がある。

主基準母音の設定に際しては、極細の白金の鎖を、舌上面の正中線にそって置き、口腔内に想定した不等辺四角形の四すみの母音極限を探りながら、この四点のレントゲン写真を撮り、口腔内で子音との境界にある極限的位置の母音を設定する。(ここでの記述は、筆者の先行研究において行ったものである。)

これら基準四母音とは、舌の最高点が、

- (a) 最前部で最高の位置の母音—[i]
 - (b) 最前部で最低の位置の母音—[a]
 - (c) 最後部で最高の位置の母音—[u]
 - (d) 最後部で最低の位置の母音—[a]
- である。

(a)・(b)・(c)・(d)の四点を結んだ線が母音調音の極限であり、この不等辺四角形の内側が母音の全域となる。即ち、この図表の外部を調音域として発音された音はすべて母音性 (vowelness) を失い、子音の音価・子音性 (consonantal sound value) を有すると断定される。ここで言う、母音性 (vowelness) と子音性 (consonantality) の線引きは主として可聴摩擦 (audible friction) の有無をその判断基準としている。このことは、境界線が speaker の聴覚印象という主観的な判断基準に基づいてなされている、と言う曖昧さを否定できない。



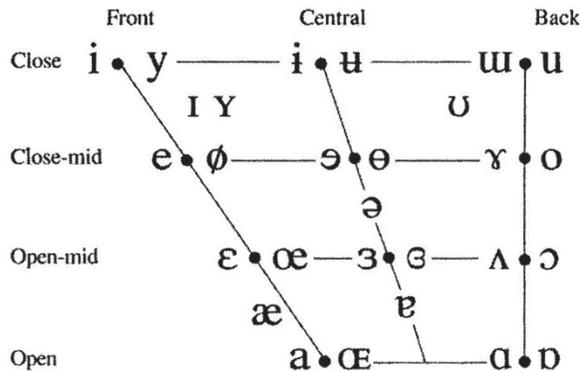
更に (a) 点と (b) 点を結んだ直線の間隔を聴覚的、即ち、耳で聞いた感じで三等分し、四個の主基準母音を加える。結局、合計八個の主基準母音を設定し、音価を記入すると基準母音図表が出来上がる。なお基準母音 [i]、[e]、[ɛ]、[a] は唇を平たくして調音し、[u]、[o]、[ɔ] は円めて調音し、[ɑ] は唇を弛緩させて調音する。

3.3. 副基準母音

副基準母音とは、基準母音を基にして、D. Jones が設定したもので、両唇の形状差を考慮に入れて発音した時の母音である。副基準母音には [y]、[ø]、[œ]、[ɒ]、[ɤ]、[ɥ]、[u] がある。

1. 基準母音 [i]、[e] に、両唇の小さく開けた円め (close-lip rounding) を加え、副基準母音 [y]、[ø] を設定する。
2. 基準母音 [ɛ]、[a] に、両唇の大きく開けた円め (open-lip rounding) を加え、副基準母音 [œ]、[ɒ] を設定する。
3. 基準母音 [ɔ]、[o]、[u] から両唇の円めを取り、平唇 (lip-spreading) の構えで調音した副基準母音 [ʌ]、[ɤ]、[ɯ] を設定する。
4. [y] と [u] の中間の位置に、円唇母音 [ɥ] を設定し、[i] と [u] の中間の位置に、平唇母音 [ɨ] を設定する。

以下に、基準母音と副基準母音表を IPA (2005) より引用する。



3.4. 基準母音設定の問題点

基準母音はある言語の母音を母音図表上と図表内に配置し、個々の母音の定義を記述する際になくなくてはならないものである。あるいは、異なる母音を持つ複数の言語の母音を相互に比較するためにも、D. Jones の基準母音は非常に便利なもので、教育的、応用的にみて利用価値は高い。しかし、基準母音の設定については、過去にいくつかの問題点が指摘されてきた。また、サウンドスペクトログラムなどによる数値の検証を経て、変形させた母音図表と母音位置を動かした図表が新たに発表されるなどして議論がなされた。一例として、H. B. Lee の言及した論点と筆者の考えを以下に要約する。

- ① D. Jones の実験では、極細の鎖を舌の正中線（舌中央の溝）に沿って置きレントゲン写真を撮った。しかし、舌の最高部とは、実際には舌正中線の両側の山の部分を指す。従って、舌中央の溝に沿った線上で、最高に盛り上がった個所を舌の母音調音時の最高点とすることは正確ではない。さらに、舌の形状によっては、舌の最高点が明確に分かるような山なりの形

状をなす場合はよいとしても、仮に舌の形が平らになる様な母音があった場合、どの点を最高点と決定するかは難しい。従って、舌の最高点が一点に絞れるものもあれば、幾分範囲の広い平面的な部分を最高点（位置）とする母音設定の可能性も否定できない。

- ② D. Jones は、口腔内において、母音としての音価を維持した状態の極限的位置の 4 個の母音を、前・高位置、前・低位置、後・高位置、後・低位置に仮に設定している。口腔内「可聴摩擦の有無」がこの母音域極限を決定する主たる要素としているが、耳で聴いた印象だけで母音と子音の正確な境界を決定することは厳密には困難と思われる。この「可聴摩擦の有無」による方法は音価決定に主観的な要素が入りやすく、境界点に揺れをもたらす結果、客観的な方法とは言い難い部分がある。
- ③ 4 個の基準母音を設定し、前・高位置、前・低位置母音を線で結んだ後に、三等分し、次いで、後・高位置、後・低位置母音を線で結んだ後に、それぞれ三等分してそれぞれの母音位置を決めている。この根拠は母音差を聴いた感じ（聴覚印象）で等しくなる様に *articulatory impression* に基づいて三等分している。従って、こうした主観的な方法では、三分割した母音相互の間隔が、正確かどうか曖昧さが残る。聴覚印象によってのみ母音間の隔たりを等分に設定することには再考の余地があると言える。
- ④ 母音の音価を口腔内では舌の最高点のみで記述することには限界がある。舌の位置と形状を論点とするのであれば、同時に、舌の最高点が作る口腔内の形状差を考慮すべきである。ここで言う口腔内形状差とは、舌の最高点が区分する口腔内での 2 つの共鳴腔の比率のことである。即ち、*alveolar* 寄りの前方共鳴腔域と *velar* 寄りの後方共鳴腔域である。具体的には、母音 [i] では、前方共鳴腔域は狭くなり、後方共鳴腔域は広がる。それに対し母音 [u] では、前方共鳴腔域は広くなり、後方共鳴腔域は狭くなる。この 2 つに区分された共鳴腔域の形状差（共鳴空域容積）が母音の音色差の主たる要因となっている。特に、日本語のように、積極的な両唇の *lip rounding* を有しない言語では、共鳴腔域の容積差やその比率を考慮に入れて音価決定をすべきである。
- ⑤ *Cardinal Vowel* の中で、*central vowel* 領域について言及すれば、前・高位置母音と後・高位置母音との間を聴覚的に 3 等分し、更に、前部・母音境界線と後部・母音境界線に対して平行に線を引いている。そうすることによって、その 2 つの線は中央位置で交わり、三角形に囲まれた *central vowel* 群が設定される。この中に、[iʊəəəə] などが（一般言語母音も含めて）設定されている。その結果、複雑な母音領域を形成し、結果として、*schwa* を含む中部母音を有しない日本語では、音価の弁別に最も難しい領域となっている。

第4部 サウンドスペクトログラフ

音声研究には、調音感覚、聴覚印象、音響分析の3方面からの同時考察が必要である。本稿でも、これに従ってサウンドスペクトログラフを中心に考察を行った。ここで、筆者の数編の先行研究よりサウンドスペクトログラフの基本概念の中で、本稿に繋がる項目について言及しておきたい。

4.1. *Visible Speech*

1990年代は従来の『実験音声学』(experimental phonetics)に代わって、computerによる音響音声学が音声研究の先端分野となった。中でも、音響学はサウンドスペクトログラフによって得られたデータを、計量・計測し、貴重な分析結果を明らかにし、現代音声学には欠かせない重要な分野となってきている。音声の視覚化をどのように試みてきたか、の問題は、音声をどのように記録してきたか、と共通して考えられる。

サウンドスペクトログラフ研究の歴史を考えるうえで、まず、米国・ベル研究所が出版した、サウンドスペクトログラフのデータによる、*Visible Speech*の概要を知ることが重要である。『音響音声学』(acoustic phonetics)の科学性と信頼性は、R. K. Potter, G. A. Kopp & H. C. Greenによるsound spectrographの成果を集大成した米国・ベル研究所の*Visible Speech* (1947: 本文441ページ)によって確立したと言える。*Visible Speech*は、聴覚に障害のある人に対し、音声を視覚化して、言語訓練を実施した記録である。この中で、人間の聴覚印象では、聴き分けられないような、音特徴、音連続、音声変化、音の移行、などが、sound spectrograph実験のデータを示して、詳細に記述されている。*Visible Speech*は言語聴覚士にとっても必読の音声学書となっている。この事は、筆者の先行研究において既に言及した。

*Visible Speech*は、大枠3章から構成されている。第1章では、sound spectrographの解説に当てられている。第2章では、実験図の考察が種々の具体例で綴られている。第3章には、言語訓練や言語治療の実践が成果とともに紹介されている。ここで特筆すべきは、米国・ベル研究所の3名の音声学者、R. K. Potter, G. A. Kopp & H. C. Greenらによる、*Visible Speech*は科学的言語分析への道を開いたことである。

筆者が聴覚や視覚に特別な支援を必要とする学生への英語音声教育に関心を持ち、自分の研究テーマとして組み込むきっかけとなったのは、この*Visible Speech*に影響されたことによる。そして、1984年に大西雅雄博士の言語聴覚士(国家資格:当時の名称は、言語訓練士)の育成プロジェクトに加わることとなった。

4.2. サウンドスペクトログラフの基本理論

サウンドスペクトログラフは最も一般的で基本的な音響分析機器である。最近では、パソコン用ソフトが簡単に入手でき、操作も簡単で誤差が少なく最も普及している。音声を視覚的にわかりやすく解析してくれるサウンドスペクトログラフの音響分析ソフトは有意義な資料を提供してくれる。パソコンで簡単に、音声解析が可能のため、音声研究が非常に身近なものとなった。調音感覚や聴覚印象に加えて、サウンドスペクトログラフで得られたデータを可視化して併用することによって、音の解析、音価決定をより確実に客観性のあるものにすることができる。調音感覚や聴覚印象を音響学的手法によって検討することも可能となる。音声分析の信頼性を高めることができる。言語聴覚士がサウンドスペクトログラフで得られたデータを判読するためには、個々の音に関する知識が十分であることが前提である。サウンドスペクトログラフのデータを数値化することによって、種々な音声現象を統計学的に処理することも容易である。ただし、サウンドスペクトログラフでは、音と音の境界がはっきりしない場合もあることなどは、承知しておくべきである。

4.3. サウンドスペクトログラフの解析

- ①サウンドスペクトログラフに拠る記録図では、縦軸は周波数、横軸は時間（の経過）を表示する。
- ②サウンドスペクトログラフに拠る記録図では、縦軸に、母音は F1～F4 まで表示するが、重要な成分は F1 と F2 である。
- ③サウンドスペクトログラフの F1 は母音の舌の高低位置を表す。F2 と F1 の差は母音の舌位置の前後位置を表す。
- ④サウンドスペクトログラフでは、有声破裂子音と無声破裂子音の区別はつくが、例えば、isolated segment の場合はそれぞれの破裂音の種類決定は難しい。
- ⑤無声摩擦音は、放送終了後のテレビ画面のようなザーザーしたノイズ現象が特徴的である。
- ⑥サウンドスペクトログラフでは、音の成分を調べるのにフーリエ変換することにより、それぞれの音波にどんな周波数成分が、どの程度含まれているかという、相対的な値を出すことができる。一般に、パソコンなどのソフトを利用した、周波数分析は、高速フーリエ変換 (FFT) と呼ばれる計算により行われる。
- ⑦声帯振動は濃淡で判別できる。濃は有声音で、淡（ほとんど無色）は無声音と判断する。サウンドスペクトログラフに拠る記録図上、有声音の声帯振動は基底に濃く現れる。
- ⑧サウンドスペクトログラフ上のイントネーションカーブ（音調曲線）は、基底から 2 番目を trace するのが最も正確である。(A. C. Gimson, London)

- ⑨ラ行子音 r (弾音類) とダ行子音 d (有声歯茎破裂音) は類似し、判別が困難である。
- ⑩連母音や二重母音は判別できる。しかし、先行母音の off-glide と後続母音の on-glide の境界は明確ではない。
- ⑪横軸に濃淡で音圧 (強さ) を示すが、舌圧は不明瞭である。
- ⑫連続鼻音 (子音) の geminate では、2 音の境界は明確ではない。即ち、off glide と on glide がはっきりしない。例えば、[mm]、[nn]、[ŋŋ]、[ɲɲ] などの場合である。

あとがき

本稿は、2006年10月に開催された、国際寺山修司学会第2回秋季大会 (愛知学院大学薬学部キャンパス) において、『言葉・声・音からみた寺山修司 (試論)』と題して口頭発表した内容に修正・加筆を行ったものである。更に、既発表の項目も加えた。

短歌9編について、寺山修司が吹き込んだ、言葉・声・音を中心に、音声環境、調音感覚、調音印象などから音声特徴を考えた。既に断ったように、本稿は、限られた資料と、狭義の分析音声学の手法であり、種々な立場や異なった見解もあることは承知しているが、さらに談話のスタイルにも限界があったが、寺山の声の個性を捉え、傾向や特徴を判断するひとつの手がかりとなったと考える。試論ではあるが、出発点として寺山修司の言葉、声、音の不思議を解き明かすきっかけになることを期待する。

かつて、日本音声学会 (PSJ) 会長の大西雅雄博士は、次に要約するような内容の話を講演の中でされていた。『作家が自分自身の作品を朗読するとき、意識しているかどうかは分からないが、様々な言葉の使い方や発音特徴を見せる。例えば、有声破裂音の直前で、呼気圧縮の時間を長めにし、声帯振動を遅らせる。摩擦音などでも調音 on-glide に“ため”を作る。after beat とも言えるようなテンポのずれを見せて緩急をつけたりする。その他、語末の devocalization、母音の鼻音間の nasalization、長母音の reducing (shorten)、これとは反対に lengthen が起こる。連濁の意識的回避や voiced uvular plosive の多用など、文字とは異なった朗読による音声の緊張と緩和を特色として見ることができる。作家自身が声に出して読んだ作品には声の個性がでる。』本稿は、その時のこうした内容が出発点となっている。

最後になったが、以下の文章を引用して本試論を了としたい。

「さて、詩人寺山修司を知る“音盤作品”もまた趣き深いものである。寺山の詩は音声化されると多様な意味作用がもたらされる普遍性も多量に含有していることがよくわかる。できることならこれらの詩も、寺山自身による朗読が残されていたならどんなに素晴らしいことだろう。と、昔、東北出身の友人と一晩中ふたりきりで寺山修司化して“寺山 VS 寺山の対談”を

やっていた俺は心底思う。」(2003年春、湯浅 学、「寺山修司 作詞+作品集」、p. 32より原文のまま引用)

主要参考文献・資料

- ソニー・ミュージックハウス (2006). 「寺山修司 作詞+作品集」CD 2 枚組み、DISC2に採録、短歌9編。
- 清水義和 (2004). 「寺山修司の劇的卓越」(Shuji Terayama's Dramatic Prominence)、人間社。
- 日本英語音声学会 (2005). 「英語音声学辞典」、成美堂 (版權元: 日本英語音声学会本部)。
- 村上征勝 (2004). 「シェークスピアは誰ですか? 計量文献学の世界」文春新書、文藝春秋。
- Crystal, David (1987). *A Dictionary of Linguistics and Phonetics*, Basil Blackwell, 2nd ed.
- Fry, D. B. (1982). *The Physics of Speech*, Cambridge University Press, Reprinted.
- Gimson, A. C. (1981). *An Introduction to the Pronunciation of English*, Edward Arnold, 3rd ed., Reprinted with corrections. *Gimson's Pronunciation of English*, 5th edition, Revised by Alan Cruttenden, 1994.
- Jones, Daniel (1978). *An Outline of English Phonetics*, Cambridge University Press, 9th ed., Reprinted, and 2nd edition, 1922.
- Lee, Hyun Bok (1968); On the IPA Cardinal *Back Vowels*, *Le Maitre Phonetique*, 130, pp. 26–29.
- Phonetic Society of Japan: Masao Onishi (1981); *A Grand Dictionary of Phonetics*, the Phonetic Society of Japan, Pearl Island Filmsetters, Ltd., 6th ed.
- Uldall, Elizabeth (1974); *Some Remarks on the Japanese Variphone [r], [l], and the Concept of "Free Variation"*, *World Papers in Phonetics, Festschrift for Dr. Masao Onishi's Kiju*, pp. 505–517.

学校改革の戦略経営に関する方法論モデル

——校長は轡を繋ぐ駅伝走者——

八 谷 芳 樹 ・ 池 田 輝 政

はじめに

八谷は平成10（1998）年度から愛知県の県立高校X校に、平成13（2001）年度からY校に、校長としてそれぞれ三年間、二つの高校で改革を指揮した。校長職を辞した後に、それを指揮した当事者の目で振り返り、できるだけ事実即して整理・記録するよう試みる計画をもってしたが、単なる体験談として語るのでは普遍的な知見とはならない不安があった。この10年間の動きとして、学校経営に戦略的な構想や組織マネジメントを導入する機運が高まっているが、当時の学校改革の試みは、新しい学校経営の考え方や方法論を意図的に応用したものではなかった。

筆者らは理論と実践の両面から変革者としての校長職の役割と行動に焦点化して、二つの学校改革のプロセスと成果を振り返り、経営戦略論の視点からの意味づけを試みることにした。その結果、X校では定員割れ解消の効果、そしてY校ではカリキュラム改訂の効果、のそれぞれにつながる校長職の変革行動の全体像を描くことができた（八谷、2007、2008）。

これらの論文の知見は、平成14（2002）年から現在まで9回にわたり、毎年30名前後の高校教員に対して日本教育会愛知県支部が主催してきた「学校経営講座」のなかで活用されてきた。具体的には、筆者らが共同で担当する『学校経営戦略プランの作成演習』において、校長職の立場から学校変革の戦略的プロセスを可視化したり、リーディング用ケース教材として使用したりしてきた。講座を企画・推進する過程で、これから学校の経営に参画していく人たちに宛てた戦略経営の方法論モデルを開発するために、筆者らは両校における学校改革の共通点について検討を重ね、ステップに分けた手法化を試みることにした。それが以下の8段階のプ

プロセスである。

8段階のプロセスは、八谷が学校経営の改革実践のなかで折に触れ感じていた「駅伝」との類比性を尊重し、校長として襷を託され、そして次の校長に襷を託すというシナリオにそって記述を進める。すなわち、学校経営の過程はともに「駅伝」の一区間であり、校長は、託された襷をつなぐために、任された区間に行く「走者」に似ているという実感である。駅伝は、日本発祥のスポーツで80年以上の歴史をもっている。古くは日本書紀にも記されているという。本稿は、その走者に校長をなぞらえて進めてみる。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> PHASE I : 襷を託される | <input type="checkbox"/> PHASE V : 結果を見えるようにする |
| <input type="checkbox"/> PHASE II : 赴任先の現状を分析する | <input type="checkbox"/> PHASE VI : 修正を加える |
| <input type="checkbox"/> PHASE III : 3年間の中期目標を立てる | <input type="checkbox"/> PHASE VII : 長期目標を再展望する |
| <input type="checkbox"/> PHASE IV : 6か月後に新たな動きを確認する | <input type="checkbox"/> PHASE VIII : 襷を託す |

1 赴任当時のX校及びY校の状況

1.1 X校赴任当時の状況

平成10(1998)年ころのX校は表1のとおりである。順調に成長してきた新設校は、昭和63(1988)年度、「複合選抜入試制度」¹⁾の導入により生じた変化に対応し切れていなかったのである。八谷が赴任したのは平成10(1998)年4月だが、その年の3月の入学試験は「定員割れ」となり、二次募集が行われた。募集人員は19人、その前年は不合格者ゼロで、実質2年連続「定員割れ」となった。その影響は深刻で、学習指導や生徒指導に影響が出始めていた。にもかかわらず、中学生対象の「体験入学」の計画

表1 平成10年ころのX校

創立：昭和53(1978)年
 課程・学科：全日制課程普通科
 校訓：考える人間 あたたかい人間 たくましい人間
 生徒数：935人(男子462 女子473)
 学級数：各学年8学級
 2・3年生は文系6学級 理系2学級の類型選択
 生徒の特長：約80%が地元X市出身の生徒
 約70%の生徒が部活動に参加
 ほぼ全員が大学進学、就職者は数名
 進路状況(合格者数)：

| | 平成9年度 | 平成10年度 |
|-------|-------|--------|
| 国公立大学 | 59 | 46 |
| 私立大学 | 656 | 705 |
| 専修各種 | 48 | 53 |

部活動：
 高校総体全国大会
 弓道部 平成3年度 平成10年度
 陸上部 平成8年度
 高校総体東海大会
 弓道部 平成3年度 平成4年度
 陸上部 平成4年度
 バドミントン部男子 平成4年度

さえなかった。それどころか赴任直後「体験入学」の開催を提案するも、手続きの問題に終始し、実施に至らなかった。また、学校のホームページすら開設されていなかった。

1.2 Y校赴任当時の状況

平成13（2001）年ころのY校は、表2のとおりである。当時のY校には、昭和40年代の前半から始まった反体制的な雰囲気職員間に依然として強く漂っていた。職員団体の活動も活発で、学校全体をリベラルなムードが席卷する一因ともなっていた。校長は、校内の三つの職員団体と個別に交渉したり、中には集団交渉を重ねなければならぬものもあった。職員会議には「議事運営に関する申し合わせ」が定められ、それに則り議長が選出され、議事等

が進められた。職員会議の運営を巡って校長と職員間には緊張した関係があり、発言内容や、議事の進め方によっては深刻な混乱が生じる恐れが常にあった。

平成12（2000）年の学校教育法施行規則の規程により職員会議は補助機関と位置付けられたが、従前の慣行を少しでも変えようとする強い抵抗があった。

Y校は、昭和38（1963）年度の創設で、歴史は新しいが、昭和48（1973）年度に導入された「学校群制度」、それも名古屋地区が「複合学校群制度」²⁾をとったため、一躍、全国有数の進学校となった。現行の「複合選抜制度」が導入された昭和63（1988）年度以降はやや変化がみられるが、学校群時代に培われた伝統や校風の多くが引き継がれている。

例えば、学校祭は、1・2年生がクラスで取り組んだ研究の成果を展示して発表、3年生も全クラスが演劇を披露する。模擬店や屋台のような催しは原則として企画されない。2日間で学外から毎年5,000人を呼び込む盛況ぶりである。

また、遠足は実施されず、それにかわってY校の生徒になるための行事ともいえる「健脚会」があり、いくつかの特徴ある行事が行われ、部活動も盛んである。

表2 平成13年ころのY校

| |
|--|
| 創立：昭和38（1963）年 課程・学科：全日制課程普通科 同国際教養科 昭和60（1985）年併設 校訓：なし 生徒数：1,079人（男子 469 女子 610） 学級数：普通科9学級 国際教養科1学級 特色：①自主性・創造性の尊重 ②「学び合う」雰囲気の醸成 ③討論の重視 ④「文武両道」の標榜 ⑤全国初の「国際教養科」の併設 海外への主な進学先（普通科も含む）： ジョージタウン大学、ボストン大学、トロント大学、 カリフォルニア州立大学、ミシガン州立大学、 オレゴン州立大学、アイオワ州立大学、ユタ州立大学、 ベイス大学、テキサス大学、ケンタッキー大学、 ハーバード大学経営大学院、パリ大学、パリ政治学院ほか |
|--|

更に、通常は教員が行う「補習授業」も、生徒の手で実施され、「学びあい」の雰囲気が醸成されていた。また、討論が盛んで、全日LT（ロングホームルーム）が企画されているほか、修学旅行では討論の時間を確保するために午後4時には宿舎に帰るのが慣例で、遅くまで熱心に討論が続けられる。

昭和60（1985）年度には、県内に帰国子女の増加が見込まれるようになり、全国に先駆けて「国際教養科」³⁾が併設された。卒業生の中には、パリ政治学院、ソルボンヌ大学、ハーバード大学経営大学院等、海外の名門の大学等へ進学する者もいる。

2 学校改革の8段階プロセス・モデル

2.1 第1段階 櫂を託される（PHASE I）

リレータッチは継走の魅力の一つである。走者から走者へ櫂を「託していく」駅伝は、「託す」という言葉がぴったりする。校長が異動の内示を受け、前任者から受ける「引き継ぎ」も同じだ。前任の校長の意気込みや思いが託され、新しい場所での第一歩が始まる。公立学校の場合、多くは、異動の内示や発令があってからほとんど時間がない。愛知県では、はじめての職員会議や、入学式までせいぜい2～3週間である。残務整理には相当な時間を要する。それを終え、新旧関係者へのあいさつとか、入学式の式辞作成など多忙を極めるが、校長が心を砕かねばならないことは、職員との信頼関係の構築と学校が当面する課題の把握である。

(1) 職員との信頼関係の構築

信頼関係ほど人のやる気を引き出すのに大事なものはない。校長の理念や方針は、職員の理解と協力がなければ実現されない。信頼関係の構築こそ着任直後に校長が取り組まねばならない仕事である。職員は、赴任したばかりの校長を前任者と比較しながら傍観者的、批評家的な眼で眺めている。着任あいさつ、運営委員会（管理職と主任等で構成する。名称は学校により異なる。校務委員会ともいう）や職員会議等での、校長の発言や応答は、職員との信頼関係を構築する上できわめて重要である。

また、入学式や離・着任式、始業式などの式辞や講話は、生徒が対象だが校長の考えを職員に伝える機会でもある。職員も、内容はもちろん立ち居振る舞いまでのすべてを見たり、耳をそばだてたりしている。今度着任した校長は信頼できるか、誠実か、安心してついていけるのかを観察しているのである。とはいっても、職員にとっては、校長の教育理念を感じ取り、理解する機会でもある。

このことは、職員や生徒だけでなく保護者や地域にもいえることである。PTA 入会式、総

会や役員会、地域との接触も、学校が発行する関係文書への執筆も校長を理解してもらう機会である。同窓会や地域の住民からは校長を知る機会のひとつとなる。

校長を尊敬し、信頼する手がかりになり、職員にとっても信頼関係を強める機会になるのである。校長の力量と手腕は、人格的センスと経営的センスが必要といわれるが、ともに信頼関係を基盤にしたものであり、職員会議への校長の臨み方に二つのセンスが同時に現れるといってもいいのではないか。

(2) 職員会議の法的性格

職員会議は、平成12(2000)年に学校教育法施行規則第23条の2第1項において、「小学校には、設置者の定めるところにより、校長の職務の円滑な執行に資するため、職員会議を置くことができる」、また、同条第2項においては、「職員会議は、校長が主宰する」と規定された(同55条中学校への準用規定、同65条 高等学校への準用規定)。

もともと、職員会議は最終意思決定機関であるとする説が一部に根強く、その法的性格めぐり意見が対立していた。文部省の中央教育審議会は、平成10(1998)年9月に「今後の地方教育行政の在り方について(答申)」で職員会議の改善を提案、学校教育法施行規則に職員会議の規程が盛り込まれた。

これにより「職員会議は、学校の最終意思決定機関ではなく、校長がその職務を補助させるため、必要と認めるときは職員会議を置くことができるとし、所属職員の意見を聞いたり、校長の運営方針を周知徹底させたり、職員相互の事務連絡を図るなどのための補助機関である」とその法的性格が明確化された。

2.2 第2段階 櫂を受け取る=赴任先の現実を見極める (PHASE II)

リレータッチが終わるといよいよ自分の走りが始まる。第二走者以降は一斉にスターを切るわけではなく、ケースバイケースで走り方も多様だ。一気に追いつけてもスタミナが切れてしまうこともある。入り方、ペース配分、仕掛けどころ、タイミングなど、レース全体を見据えた各区間の戦い方はさまざまである。走者がベストコンディションを維持するために、最優先の課題は危機管理である。

危機管理も学校により状況がまったく異なるので、当面は、現状と課題を把握し、対策を練ることになる。

2.2.1 X校：「定員割れ」の解消と「朝学」の検討

(1) 「定員割れ」の解消

X校では、「定員割れ」の解消が最優先の課題で、次に、赴任当日の職員会議で約束した「朝学」（早朝、短時間の補習授業）の検討であった。Y校の場合は、校長と職員間の信頼関係の構築と、生徒指導上の問題の解決であった。

入学者の定員を下回ることを「定員割れ」というが、その場合、通常2次募集などが行われる。「定員割れ」が起きると多様な生徒を受け入れることになるため、従前の方法では学習指導上、混乱を来したり、教え方の転換を余儀なくされる。また生徒指導上も蓄積された知恵が通用しなくなることが多い。

加えて「定員割れ＝人気のない学校」という烙印を押されかねない風潮があるため「定員割れ」は学校経営上極めて危機的な状況を招き、これにより生じてくる問題を解決するのに膨大なエネルギーを要することになる。

X校では、2年連続の定員割れが更に続けば事態は深刻である。安定した「生徒募集」こそ、安定した学校経営の基盤である。そこで主任による中学校訪問を実施した。生徒募集を二人一組で訪問するものである。学校の宣伝をせず、苦情や要望を聞くことに重点を置き、それを教頭が集約し、学校経営に反映させるよう、また質問や苦情等には速やかに回答するよう指示した。

また中学校や地域との関係の修復や見直しに知恵を絞った。PTAや同窓会にも協力を要請した。更に、中学校訪問時に欠かせない「学校案内」も改訂し、暫定版を作成して近隣の中学校や、地域に出掛ける際には必ず持参した。

(2) 「朝学」の検討

赴任後初の職員会議は、着任あいさつと校務分掌（校内人事）の委嘱で終了の予定だった。ところが会議は2時間半にも及んだ。従前から実施されてきた、一年生対象の「朝学」の廃止を求める訴えが続いたためである。「朝学」への不満が噴出したものだが、管理職や学校経営への不満とも考えられた。

2.2.2 Y校：校長と職員間の信頼関係修復と生徒指導上の課題の解消

(1) 校長と職員間の信頼関係修復

赴任後しばらくしてふりかかった問題は「校舍改修」であった。職員会議で教育委員会の意向を伝えるも、手続きを巡って職員会議が紛糾した。この問題については、前校長と教育委員会との調整の記録を整理し、教育委員会の意向を十分に聞き取り、その意向を再度伝えること

で解決の糸口が見つかり、収束に至った。

また、校内の職員団体と交渉を繰り返すことになり予備交渉や本交渉が続いた。校長にとって職員会議は、ビジョンを浸透させるための絶好の場だ。校長の意図が反映されない会議では意味がない。しかし、Y校には独自に定められた「職員会議の議事運営に関する申し合わせ」があった。職員会議の在り方については、文部科学省から通知が出されたばかりで赴任直後から議長団と調整を始めたが、大筋で合意するのに6月末までを要した。

(2) 引き継いだ生徒指導上の課題

赴任直後、生徒指導上の問題が発生した。長期に亘る懸案事項で、緊急の対応が必要となり、前任校の離任式に臨むことさえ危ぶまれた。

この問題には、職員もPTAも協力的だったが解決するのに年末までかかった。特筆すべきは、教頭の、該当生徒の保護者への直接的な支援と、校長自ら、旧知の精神科医・カウンセラーのスーパーバイズを受け、解決の先頭に立ったことが功を奏したのではない。

2.3 第3段階 三年間の中期見通しを立てる (PHASE III)

緊急課題を最優先で処理する過程で、学校が抱えるさまざまな課題や、強みや弱み等がみえてくる。赴任以来集めた情報を基に、おおむね三年間を見通し、学校経営の方針を立てることになる。樫に託された、それまで守り育てられてきた「伝統的な財産」を、自分の学校にどう生かすか、創設の理念を反芻し、将来を展望して、時代の要請にしなやかに対応できる学校を、どう構想し、実現するかである。

赴任以来あためてきたことを実現するための道筋や、阻害要因などがほぼみえてくるころでもある。X校では、「朝学」の検討を機に、ビジョンづくりのためのプロジェクトチームの発足を、Y校ではカリキュラム改革を学校改革の拠点とすることができた。学校のなかに変化の兆しが見え始めると、職員だけでなく生徒や保護者の発言や行動にもそれを確実に読み取ることができるようになる。

2.3.1 X校：将来構想委員会の発足と学校内外の環境把握

(1) 将来構想委員会構想

4月当初から問題が多発し、根本的な対策の必要性が感じられた。そこで「将来構想委員会」の発足を提案した。留意したのは、委員の選定、諮問事項と、委員会の設置期間である。委員の選定は、委員を職員全体が納得し、審議結果を受け入れられることが前提となる。また、プロジェクトチームの成果を確かなものにするために「諮問事項」を明確にし、目的以外

の事項にいたずらに時間をかけることがないように「設置期間」を限定した。

例えば、「諮問事項」としては、「朝学」を検討して、年度末までに具体的な在り方を検討する、本校生徒だけでなく、中学生や地域にとって魅力ある学校とは何かを検討する、直ぐに実施しなければならないことと、中長期的展望にたって実施することを分けて考える。「委員の選出・要件」では座長を指名する、座長が主任たちと相談の上委員を決める、若い委員を積極的に登用する、小回りが効くよう委員数を絞る等である。

(2) 学校内外の環境把握

学校の沿革や伝統、校訓や制服・校歌などの由来、社会で活躍する卒業生、校内に掲げられている絵画、書などを、歩いて自分の目で確かめたり、同窓会の役員と話したり、地域を歩いたりして感じ取ったことから学校経営のツールとなるものを発掘するよう努めた。その過程で、地域の熱い期待によって学校創設が誘致されたことも理解できたので、「地域になくてはならない学校」をミッションステートメントとした。

2.3.2 Y校：学校内外の環境の把握と改革指標の設定

(1) 学内外の環境の把握

同様なことをY校でも試みた。「ニュートンのリンゴの木」は価値ある発見だった。

- ①同窓会との連携：同窓会との協働を模索し、生徒募集のために欠かせないホームページを同窓会版として開設してもらった。
- ②生徒の活動：部活動が盛んで、全国レベルの大会に参加する生徒も多い。また、自主的活動の集大成でもある学校祭は圧巻で、汗と涙の感動の場となっている。
- ③地域との連携：生徒が自負する学校祭の準備に熱が入りすぎ、周辺住民から抗議が殺到した。生徒たちは解決に努力するも糸口がみつからず、校長が、町内会長に会い、解決することができた。これを機に、校長と地域との連携が始まった。
- ④校内環境の整備：
 - a ミッションステートメント：Y校には校訓がないが「自主自律」「文武両道」が合い言葉のように飛び交っている。「豊かな国際性」を加えたがしっくりしない。まとめて「世界のどこにいてもたくましく生きていける人間」をミッションステートメントとした。
 - b 学校案内の作成：担当と相談して「学校案内」を作成した。生徒から聞いた「校門に架かるアーチから見上げた青空」を表紙のイメージとした。忘れられていた「ニュートンのりんごの木」を学校のシンボルとして復活させた。刷り上がった学校案内を校

長、教頭で手分けして近隣の中学校へ届けた。

- c 県外出張の活用：従来どおり希望を募ることとしたが、視察報告書の作成及び職員会議での口頭報告を義務付けた。希望がなければ、校長が人選、出張先や調査項目を示した。校長指示の出張は教頭と教務主任が、都立日比谷高等学校を訪問し、「日比谷ルネッサンス」のプロジェクトを報告することから始まった。

(2) 改革指標の設定

赴任後まもなく描いた構想を、教頭、事務長を交えて協議を重ね、以下を改革指標として考えた。

- ①30単位に決定済みの新教育課程を32単位で編成し直す
- ②国際教養科の教育課程を理系の学部にも進学できるよう編成する
- ③「実施せず」に決定済みの周年行事を復活させる

①と③は、前任の校長が、決定済みのもので、特に①は、校内状況を考えると絶対に不可能であると、教頭や教務主任が口をそろえて言う。前任者の決定事項を赴任直後の校長が覆すことはあり得ないことである。しかし、もし32単位で教育課程を編成すれば、「Y校は、週2日7時限目まで授業をする」ことを県下に宣言することになり、Y校改革の機運を一気に高め得ると信じていたので入念に準備を進めた。

やがて県立高校再編整備計画が発表され、各学校が平成15（2008）年度の教育課程を編成する最終の段階となった。名古屋市内の強力ライバルM校からは32単位編成の噂が聞かれはじめた。

②は、「国際教養科は文系の学科、理系への進学などありえない」という固定的な考えが一般的で、職員の理解がなかなか得られなかった。そこで、以下の点を力説した。

- a 「国際教養科」創設の意義を問い直してみると、英語科とは別に創設された全国初の国際教養科で、英語圏に限定せず多様な帰国生の受入を前提としている
- b 帰国生の受入先は、理系が圧倒的に少なく理系の科目を学べる教育課程が求められている
- c 優れた語学力や、外国文化を身につける「実践的コミュニケーション能力」は理系にこそ必要である
- d 帰国生の保護者の中には、大学へ進学するためというより、深く考えたり、討論から学び合うといった授業を求めている者も多い

なお、③については、周年行事を学校改革のツールとして活用するのは当然で実施に向け検討を始めた。

2.4 第4段階 6か月後に新たな動きを確認する (PHASE IV)

校長が描いた構想を、運営委員会や関係の委員会を経て職員会議で了解を取り付けることができれば、校長が描いたビジョンに学校全体を巻き込んだことになり、校長は「これで行ける」という手応えを感じる。こうしたリーダーシップの発揮が実感できるのには半年ほどが必要ではないか。不安だった学校経営に少しずつ自信を感じられるころでもある。X校の将来構想委員会の発足、Y校の32単位の教育課程が決定した瞬間である。

2.4.1 X校：将来構想委員会の発足と学校内外の変化

(1) 将来構想委員会の発足

「将来構想委員会」の発足は全員一致で可決された。しかし、プロジェクトチームの成否は委員の選定に尽きるので、最終決定までは不安だった。「総論賛成・各論反対」を恐れたからだ。校長が指名した座長は、主任らと検討の結果、7人の委員を選出した。委員のうち校務委員会に属する者は3名であった。名称も決まり、次代を担う30歳～40歳代の、立場を超えて未来を構想できる、意欲的な人材が登用された。職員会議もこれを認め、校長がほぼ想定したとおりのプロジェクトチームが発足した。

(2) 学校内外の環境変化

校内の変化に加え、学外の変化の兆しも見え、X校の募集定員が次年度から1学級減の発表があった。次は、複数教頭⁴⁾のうち1名が年度途中で転出、替わって新任の教頭を迎えた。募集定員減と、教頭の人事異動は変化に拍車をかけることとなった。

更に、X市内の進路指導主事たちの集まる「高校進学研修会」の講師にX校の校長を呼んでくれたのである。

2.4.2 Y校：週2日7時限授業・国際教養科理系進学教育課程の実施の決定

(1) 「週2日7時限授業案」が圧倒的支持を受ける

カリキュラム委員会と職員会議の間を頻繁に行き来して、32単位実施が圧倒的多数で支持され、「平成15(2003)年度以降の入学者に適用する教育課程は32単位で編成する。ただし、32単位時間には、LT及び総合的な学習の時間を含む」と決まった。

(2) 国際教養科理系進学教育課程の実施

32単位の場合のように圧倒的ではないが、国際教養科の理系進学教育課程が可決され、実施が決まった。

(3) 学校内外の環境変化

さまざまな変化がみられるようになり、まず翌年（平成14年）度、普通科の募集定員が1学級減になると発表された。

次は、翌年（平成14年）度から SELHi（セルハイ）に指定される可能性がでてきた。これは日本の高校における、先進的な英語教育を研究するための文部科学省主導のプロジェクトで、コンペ方式により全国で16校が指定されるという。応募期限は1月末。年末から精力的に応募の準備が始まった。

2.5 第5段階 結果を見えるようにする (PHASE V)

学校の、組織としての成果が職員一人ひとりの満足感に結びつき、すべてのステークホルダーの満足度の向上につながる好循環を産み出せるよう「見える化」を進めた。「見える化」は情報や仕事の「共有化」を促進させる。まず結果の「見える化」に知恵を絞り、併せて少しでも情報の共有化ができるよう努力した。X校では、定員割れの解消や、「おはよう読書」の実施が、Y校ではカリキュラム変革や、「周年行事」の開催が進められることになった。

2.5.1 X校：定員割れ解消・おはよう読書の実施・プロジェクトチームのまとめ等

(1) 生徒募集で飛躍的な成果

懸案の生徒募集では、X市内及び近隣市町の中学校の理解が得られ、平成11（1999）年3月の入試は第一志望だけで定員を超え、現行入試制度発足後初の快挙となった。

(2) 「おはよう読書」の実施

「朝学」改め「おはよう読書」が始まった。生徒による命名だ。生徒にも保護者にも好評で、秋の読書週間には全国紙でその取組が紹介された。

(3) 将来構想委員会の「中間まとめ及び審議経過」と「最終まとめ」

発足ほぼ4か月後に将来構想委員会の「中間まとめ及び審議経過」が発表され、「朝学」は、「朝の読書」と随想（エッセイ）コンテストへの移行となり、表3のような提言がなされた。

表3 「朝学」見直しの具体的提案（抄）

1 趣旨

現在実施されている「朝学習」に代わり、「朝の読書」を実施する。今後の本校の特色ある行事としたい。

- ①現在の本校生徒には、自ら問題意識をもち、思考し、まとめることのできる「自己指導能力」を養うことが重要である。具体的には「読む」、「書く」ことによってその力を育むことをと考え、「朝の読書」と「随想（エッセイ）コンテスト」の実施を考えた。
- ②地域の人々は本校の教育に関心をもっている。「朝学」に代わる本校の特色ある教育のひとつとしたい。
- ③読書は自分の好きな書を、好きな時間に読むものという意見がある。しかし、本校生徒の実状をみると手をかけて面倒をみるということが大切である。活動もしたり、「やっておけ」の指示だけでは生徒の飛躍は望めない。そこには適切な手段が要る。
- ④「小論文」が多くなった入試への対応の一つとして考えた。
- ⑤できる限り生徒にやらせ、生徒の主体性を引き出したい。

2 実施要項

- ①実施学年 第一学年
- ②実施時間 午前8時20分～8時30分 全校朝礼や、行事のときは中止
定期考査時間割発表から考査終了までは考査の勉強
- ③実施時期 4月～12月
- ④内容
 - ・必読図書 学校で用意したものの中から、クラスで同じものを読む
クラスで同一の話題を提供する
 - ・学年会や担任が選定したものを読む
 - ・自分で読みたい本（漫画を除く）を読む
 - ・図書館の積極利用を促す
- ⑤3行コメント 読書後に3行コメントを提出する
- ⑥随想（エッセイ）コンテスト 12月に「朝の読書」が終了したら、エッセイを提出させ、優秀作品を顕彰する。
- ⑦主管 （省略）
- ⑧問題点 （省略）

(4) PTA 広報紙の改善・回覧板への折り込み

PTA 広報紙については、保護者だけでなく地域の人々や生徒にも理解しやすく、読みやすく、しかも魅力的なものにするよう努力を重ねた。従来の単色、縦書きを平成11（1999）年度からは、二色刷横書きに、更に年度途中の同年10月には題字を含め大幅に改訂、抜本的な改善をはかった。さらに学区全戸に毎号を読んでもらうため回覧板に入れてもらった。併せて号外の作成や校誌の改訂、校誌縮刷版の作成、中学校向けパソコン新聞の発行等も試みた。

赴任直後に作成した「学校案内（暫定版）」は、翌年度には中学生の意見を直接聞いたり年間教育標語を載せたりして抜本的な改訂を試みた。

(5) 同窓会母校支援事業と PTA・地域との連携、

平成11（1999）年度には、同窓会「母校支援事業」が立ち上げられ、在校生の研究論文等の顕彰や「ホームページの開設」が盛り込まれた。

PTA と連携し、生徒募集上の危機感を共有したり、行事の新設や広報紙の改訂に取り組ん

だ。具体的には、全行事に「親子で」というフレーズを被せ、目標の明確化や、「料理教室」等の既存行事の活性化を進めた。働いている保護者が出席できるよう夜間に実施される「保護者のための進学教室」も新設した。PTA 会長はじめ役員、会員の理解と協力により改革にはずみがついた。

地域との連携を、生徒募集上、他校との競合の有無などを基準に整理し、対策の見直しを図った。結果的には、きめ細かい対策を進めることができたのではないか。

2.5.2 Y校：カリキュラム変革・周年行事の実施・SELHi 指定

(1) カリキュラム革新による効果

「32単位編成」、「国際教養科の理系対応」を盛り込んだカリキュラム変革は、国際教養科の入学生や、卒業生の進路結果のみならず、Y校全体に顕著な変化と、画期的な成果をもたらしたといえる。「完全学校週5日制」も始まり、Y校による「週2日7時限授業の実施」は、瞬く間に全県に伝わり予想どおりの反響となった。

国際教養科の「理系対応教育課程」導入による成果を、平成15（2003）年度入学生（入学時・卒業時の状況等）と、それ以前とで比較すると以下のとおりである。

(ア) 入学者学力調査結果の変化

入学者を対象に毎年実施される学力調査（数学・英語）の結果を偏差値で比較すると、数学では、普通科は5年間ほとんど変化なく高い。国際教養科との差はほぼ偏差値6程度だったが、平成15（2003）年度入学生では、両学科の間に差がなくなった。英語については、国際教養科が偏差値で2程度依然として高い。

(イ) センター試験自己採点結果の変化

理系対応後初の卒業生が受験した、平成18（2006）年度のセンター試験では、成績上位50位までに国際教養科の生徒が多くを占めた。また、理型の上位者も同様の結果となった。

(ウ) 進学先の変化

国際教養科卒業生の進学先は、浜松医科大（医）、京都大（工）東京理科大（理工）など理系の学部への進学が始まり期待どおりとなった。この年の卒業生がのちに留学生初となるケンブリッジ大学（獣医学部）へ進学するが、海外の大学への進学の割合はあまり変化しなかった。文系は東京外大、大阪外大等の外国語学部系に加え、筑波大（第1群）、慶応大（経済）、早稲田大（商）等社会科学系への進学が増えた。

(エ) その他

国際教養科は、圧倒的に女子の割合が大きかったが、理系対応により入学生の女子の割合はほぼ半分に変化した。また、「外国語をツールとして医、薬、工、情報等の専門領域を学びた

い」、「将来はNASAで仕事がしたい」「欧米で医療・福祉を研究したい」という国際的視野をもつ理系進学志望者が目立つようになった。理系志望者が加わり語学系や文系に偏っていた同学科は、文理のバランスがとれたものとなった。

こうした「理系生徒」の出現は、理系教科のおもしろさを感じ取ったり、進路選択時の視野の拡大や意識改革をもたらすようになった。理系教科の授業や、進路に関する討論の活発化につながったという。

また、国際教養科の生徒の間に何となくあった、普通科へのコンプレックスもほぼ解消され、自信をもって学校生活を送れるようになったと聞く。

(2) 同窓会・学校共催による周年行事の実施

準備期間が限られているため簡素なもの考えた。内容の詳細を周年行事検討委員会に任せ、表4のような行事となった。

表4 創立40周年記念フォーラム「Y校再発見」

| | |
|---------------------------|--|
| 創立40周年記念フォーラム「Y校再発見」(敬称略) | |
| 1 日時 | 平成14年12月9日(月)午後1時開演(午後4時終演) |
| 2 場所 | 愛知厚生年金会館 |
| 3 内容 | <p>プロローグ 絆 TBS“zone”上映 YOSAKOIソーラン踊り(1年生有志)</p> <p>第一部 基調講演「街は舞台だ!」長谷川岳</p> <p>第二部 ①祝賀メッセージ(VTR) 水野玲名 ②パネルディスカッション「Y校再発見」 パネリスト 井村 亮 飯田実千代 板井征人 生徒A 生徒B ③祝賀演奏 飯田実千代</p> <p>フィナーレ スライド上映「活躍するY校生」 同窓会から在校生に花束贈呈(プレゼンター 館ひろし) 総合司会 生徒C(生徒会長)</p> |
| 4 パネリスト | <ul style="list-style-type: none"> ・長谷川岳 YOSAKOIソーラン祭組織委員会専務理事・(株)yosanet取締役(北海道大卒) 24回生 ・井村 亮 (株)日立製作所ミュージアムソリューションズベンチャーカンパニー長兼CEO 工学博士(名古屋大学大学院卒) 5回生 ・飯田実千代 声楽家(京都大学卒) 19回生 ・板井征人 鹿島DEERS(アメフト)(京都大学卒) 24回生 |
| 5 その他(参考) | <ul style="list-style-type: none"> ・館ひろし 俳優 4回生 ・水野玲奈 ハーバード大学経営大学院(MBA)学生 30回生 |

行事の特徴としては、以下のような点が挙げられる。

- ①従来の「周年行事記念式典」のイメージから脱却し、在校生と卒業生が主体的に母校の歴史を顧みることができるよう工夫した。形式ばったことを切り捨て、学校の歴史の主役である在校生や卒業生の視点に立って企画し、「生徒参加型」の周年行事の在り方を探った。生徒と同窓生の発想を可能な限り採り入れ、40年という年月を参加者が主体的に捉え、今後のY校の発展を一人ひとりが考えることができるよう模索した。
- ②生徒が進路や生き方を考える場となるよう企画した。Y校が輩出した、多様で多彩な卒業生と意見を交わすことにより、在校生がY校で何を学ぶかを再確認し、生徒一人ひとりが自分の生き方を考える契機とする。
- ③日常的に国際的な環境の中にはいるものの、多様な立場で国際的に活躍する卒業生（ハーバード経営大学院 MBA [経営学修士] からはビデオメッセージをもらった）から話を聞き国際化、国際的視野を生徒が肌で感じ取ることができるよう工夫した。
- ④各界で活躍する卒業生から在校生へのメッセージ集「Y校生へのメッセージ」が、同窓会から、生徒一人ひとりに贈られた。また同窓会と在校生と絆を深めるために「在校生論文顕彰事業（Chigusa Student Award, Cool!）」が創設された。

(3) SELHi 事業

平成15（2003）年度から SELHi の指定を受け、「模擬国連」を柱とする事業を展開することになる。その概要は表5のとおりである。

表5 Y校 SELHi 事業の概要

- 1 スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールは、英語教育の先進事例となるような学校づくりを推進するため、英語教育を重点的に行う高等学校等を研究開発学校に指定し、英語教育を重視したカリキュラムの開発、大学等との効果的な連携方策等についての実践的研究を実施するものである。
 - ・指定校数51校（平成14年度からの継続16校、平成15年度の新規指定35校）
 - ・指定期間3年間
- 2 Y校の研究構想
 - (1) 研究開発課題：『国際社会で活躍できる自立した知識人を育成するための英語教育』——国際教養科と普通科の併設校という利点を生かし、生徒がグローバルな視点で物事を捉えることができるよう学校全体の「国際化の教育」を推進するという視点から研究開発に取り組む。
 - (2) 研究内容・方法
 - ①「グローバル教育センター（仮称）」の設立と運営
 - ②国際的な課題について情報収集し、発表・討論する「模擬国連」の実施
 - ③専門分野を切り開くための高大連携による英語教育（名古屋大、南山大、県立大などから講師を招き、医療、科学技術、政治経済など高校生が興味をもてそうな話題について英語

で授業を行う学校設定教科「スーパー・イングリッシュ」等の実施)
 ④国連地域開発センター等との連携や、外国の学校との姉妹提携

注)

- 1) 「グローバル教育センター（仮称）」：留学希望者のための情報収集・情報提供を含む事前指導、海外帰国子女・留学経験者への追指導の実施及び国内の国際化推進のための中心となる機関
- 2) 学校設定教科「スーパー・イングリッシュ」：県内の AET や大学院留学生などを活用し、ティーム・ティーチングにより、理科や数学などの授業を英語で教えるもの
- 3) 国連地域開発センター（UNCRD: United Nations Centre for Regional Development）：開発途上国内の地域計画の策定及び実施能力を啓発するための研修、調査研究、情報交流を主な目的とする国際機関である。国連と日本政府との協定により1971年名古屋に設立された。国内では国連大学に次ぐ国連機関である。「持続可能な地域開発」から更に進んで地域開発における「人間の安全保障」と「環境」をその主要テーマとしている。

2.6 第6段階：修正を加える（好循環を教職員の意欲に変える）（PHASE VI）

「新しい目標に挑戦」→「成功」→「達成感・満足感」→「自信」→「熱意・意欲」→「次の目標に挑戦」という好循環はどの分野でも、誰にでもあてはまる。職員集団全体をそう仕向けることができれば、校長は仕事の責任の多くを果たせたといえる。ただし、校長には、好循環を維持するために、場合によっては修正や、中止という選択も必要である。PDCA サイクルの導入が学校にも求められる所以である。ここではX校の年間教育ビジョンと、XY両校共通の「地域との連携」を取り上げてみる。

(1) 年間教育目標からビジョン宣言へ

赴任直後、「自分の可能性を信じよう」を年間教育標語とすると宣言するも定着しなかった。「定員割れ」を克服し、生徒たちにも職員にも可能性を信じ自信ある行動をしてほしいと願ったからだが、赴任直後の校長が標語を唐突に掲げても受け入れられるはずはなかった。

半年後、将来構想委員会が発足し、「中間まとめ」が発表され「おはよう読書」の実施が決まり、X校改革の機運が高まったところで標語「思索生知⁵⁾」を掲げた。これは年間教育標語でもあり、「学校再生のためのビジョン宣言」にもなった。標語が発表されると誰言うもなく、教職員の手で、校内随所に掲示されたことがその証である。

「思索生知」は校訓「考える人間 あたたかい人間 たくましい人間」と一致し、また、教育課程審議会の提言（平成10年6月）のなかの「自ら学び、自ら考える力」「特色ある学校づくり」にも呼応するものであった。「考える」を「思索」とすることにより新鮮さが加わり、改革の気運を高め、「おはよう読書」により学校再生ビジョンの具体化が始まったといっている。また、読書を「考える力」を育てるための特色ある行事とすることで、年間教育標語「思索生知」を改革のスローガンとすることはスムーズな変革を期待できるものとなった。

この標語は学校経営と学校評価が連動するよう学校経営案にも盛り込まれた。そして、「将来構想委員会のまとめ」による改革が進み翌年度の学校経営案「本年度の課題」では更に具体的に踏み込んでいる。

(2) 「地域」との連携

「地域連携」とか「地域の協力」というが、「地域」のとらえ方は容易ではない。X校の場合、歴史的にみれば学校を誘致した地域と考えてよいと思ったが、他校との競合も視野に入れなければならない。誘致した地域のうち、他の県立高校と競合しない地域を「地域」と考えたり、他と競合する場合には声を掛け合うことも必要と分かった。

Y校の場合は、地域との連携はまったくなかったが、あるトラブルを機に校長と地域との連携がはじまった。この場合は小学校区が「地域」の単位となった。

2.7 第7段階：長期目標を再展望する (PHASE VII)

学校経営に中・長期的目標を設定するという考え方は、平成10(1998)年ころにはあまり明確ではなかった。しかし嚮を託す相手を想起しながらこの走り方でよいのだと自信をもつためには区間全体を頭に入れていなければならない。中・長期の見通しが必要なことは当然のことである。X校のプロジェクトチームへの諮問事項を直ぐやることと、見通しをもってすることに分けたのも同様である。

ここでは、前節の第6段階で述べることができなかつたもので、中・長期的視野で考えたことをまとめておくこととする。

X校は、改革のスローガンとなった「思索生知」や、学校再生ビジョンとして「地域になくはならない学校づくり」を、Y校は「世界のどこにいてもたくましく生きて行ける人間」を掲げ学校改革を進めることになった。

2.7.1 X校の場合

(1) 将来構想委員会の最終まとめ

プロジェクトチーム発足の3か月後に「中間まとめ及び審議経過」がまとめられ、「おはよう読書」が始まった。その9か月後には「将来構想委員会審議のまとめ」が校長に手渡された。その内容は表6のとおりである。このまとめにそって、平成12年度以降のX校は改革が進められることになった。

(2) 「朝学」から「おはよう読書」へ

朝の補習授業が「朝の読書」という学校行事に転換し、学校の特色化を進めることとなった。先にも触れた平成10（1998）年の教育課程審議会が「自ら学び、自ら考える力」、「特色ある学校づくり」を提言し、翌年を「子ども読書年」とする政府の決定もあり、この行事を「学校の強み」として戦略に取り込むのには絶妙のタイミングとなった。生徒が命名した「おはよう読書」も今では全国に広まっている。

この行事には「特色化」の他に、大学教育で話題になっている「初年次教育」の概念を含ませることとした。高校は中学校の延長ではなく高校なのだということを入学の時点で生徒たちに認識させ、行動の変化を促すための取組になるよう試みた。

(3) 新分掌「研修・募集部」の設置

審議のまとめには、福祉教育の推進のための新分掌の設置が提言されたが、名称を「研修・募集部」とし、関係分掌と調整の上、内容を以下のとおりに決めた。

- ①ボランティアや環境教育に関すること：継続して研究する。現行のボランティア活動は当面、特活部と共催で進める。
- ②現職研修に関すること：初任者研修、経験者研修、新転任者研修、授業研修、認定講習、研究紀要等
- ③生徒募集に関すること：体験入学、中学校訪問、学校案内の作成等

更に教師力の向上のため、計画的、実践的で時宜を得た研修会の開催、計画的で継続的な授業研修、中学校との交流会等についても継続して研究することになった。次年度以降もスクラップ・アンド・ビルドを積極的に進め、該当分掌業務の検討を継続することとした。

表6 将来構想委員会審議のまとめ

1 学校の現状

本校は、県境を背負い、山を切り開いた場所に立地するため、環境は良いが通学上の不便は避けられないという条件を抱えている。その一方で愛知県コロニー、愛知学園、春緑園、養和荘といった得難い福祉的な地域環境を保持している。本校の将来を考えた場合、以上のようなことを考慮し、不利な立地を凌ぐ魅力をアピールできるようにすることが重要である。

また、創立後22年の歴史の中で、職員の異動、生徒・社会の変化に伴って現行のシステムのうち当初の理念を離れて有効に機能しない部分も散見されるようになった。校訓にある「考える人間 あたたかい人間 たくましい人間」は、教育目標として21世紀に通用するものであり、これをもとに、特色ある学校づくりに向けて整理と再生の試みを協力して成し遂げることが必要であろう。

2 具体的な提言

(1) 福祉教育

最近の生徒たちの行動には、個人の都合を優先させる風潮が顕著であり、多感な時期にもかかわらず周囲に目が向かず、行動の幅をさらに狭くしているように思われる。そこで本校の立地を

生かし、現在、各分掌・部活動で行われているボランティア活動を基礎として、福祉教育を推進し、本校の特色とすることを提案したい。そのためには調整機関としての分掌「福祉教育部」（仮称）を創設することがのぞましい。「福祉教育部」を創設することで、計画的にLTや行事を地域の機関・PTAとも連携をとって設定することが可能になり、ボランティアに関心のある一部の生徒の活動にとどまることなく、全校生徒に対して福祉の意識を高め、知識を深化させられるようになる。また、部活動「ボランティア部」を創部して、地道で積極的な行動を伴うことも地域に深く根ざしていくためには必要と考えられる。

(2) 自主的な活動の強化

ア 考える力を養う教育

昨年度の中間報告に基づいて実施中の「おはよう読書」は一定の効果があると思われる。今年度の反省を踏まえ、実施上の工夫や発展を考えることが望ましい。例えば、「読む」ことの指導から「書く」「発表する」ことの指導へと発展させるために、教育活動全般の中で「書く」「発表する」場を増やそう努めるとともに顕彰の制度を設けることができるといっそう良い。

教員の指導体制の問題として、3年生に対して国語科を中心として行われている小論文指導を組織的に行うようにするとか、授業内容の改善・工夫を含めた全校的な取組が必要であろう。

イ 進路意識を高める指導

今年度より生徒・保護者向けの講演会が設けられ、啓発の機会が増えたことは良いことではあるが、さらに個に応じた進路の実現が可能のように体制を整える必要がある。生徒たちが各人の人生観・職業観を培い、志望にふさわしい学力や磨くべき資質を高校生活の早い時期に自覚して、主体的に必要な資料を取り寄せ、現地で説明を受けるなどの行動をとれるようにするためには、三年間を見通した指導を計画することが必要である。生徒の主体的な行動を支援し、地域や社会に存在する有益な情報を入手しやすくするように、インターネットの活用を新カリキュラム導入に先駆けて検討することが望ましい。

ウ 委員会活動・部活動の充実

職員分掌と生徒委員会の結びつきを整理し、生徒会組織をさらに活用して学校の運営を進める方法について研究する必要がある。生徒を行事等の運営に関わらせることは、最初は職員にとって煩雑になることが多いが、生徒の成長を促進することを考えると必要であると思われる。

部活動は、特色ある部を生み出して顕彰することによって活性化させる必要がある。また、多様な生徒の活動を促すために文化部の充実も重要である。活性化に必要な外部講師の招聘はPTAボランティアを含めて考えることが望ましい。

エ 「総合的な学習」に備える

平成15年度より導入される「総合的な学習」を全職員が担当できる体制が整うように授業展開の研究を進める必要がある。コンピュータの生徒利用に関しては段階的に開放して問題点の発見、利用方法の改善を研究しなくてはならない。また、これらの試みは学力保障を維持しつつ行われなければならない。

(3) 学校組織・運営の見直し

ア 分掌業務の見直し

前段で提示した分掌「福祉教育部」を設立するためには、すべての分掌に対して業務の見直しが必要になると思われる。分掌の機能を強化するために様々な観点から検討を加え、また担任・副担任の業務を含めて再構成することが必要である。

イ 円滑な学校運営

学校週五日制の完全実施を控え、情報交換の時間が不足する中での連絡・調整の体制を整える必要がある。一年間に各分掌が行う業務内容とその問題点の「まとめ」を作成し、全職員に周知させて次年度の運営に資することが重要である。

ウ 学校行事の見直し

学校週五日制、新カリキュラムの実施、を視野に入れて、林間学校・修学旅行をはじめとする学校行事について、時期及び内容などの全面的な見直しが必要と思われる。

エ 教員の力量向上のための方向

遅刻・欠席が増え、学習意欲や規範意識の低下した生徒たちの実態に応じた教科指導や生徒指導の工夫が必要になっている。そのための研修や討議の機会をより多く設定するように努めねばならない。

委員 A (座長) B C E F G H

2.7.2 Y校の場合

(1) 海外の大学への進学

海外の大学への進学先がアメリカに向きがちであるので、広くヨーロッパやアジアへも目を向けさせる必要を強く感じたが、卒業生の中にはすでにパリ政治学院、ソルボンヌ大学、ハーバード大学経営大学院等に進学している者もあり、その多くは帰国生でないことも判明した。

一方、海外の大学へ進学を希望する生徒の中には、日本の受験勉強を避けて海外の大学を目指すというやや安易な、逃避型のタイプが見受けられるのも事実である。

(2) 英国ハロー校とネット交流

Y校に赴任した前年、ラグビー部が花園出場（全国高校ラグビー大会）を果たしていた。今度、花園に出場できたらラグビー校と姉妹提携をしてやるからと冗談混じりに生徒たちに話した。平成14（2002）年、生徒たちはみごと花園出場を果たし、周年行事に花を添えてくれた。そして、英国ハロー校とインターネット交流が実現することになった。校長にも夢のような話だった。大手工作機械メーカー副社長の山崎氏のご助力のおかげだが、Japan UK Live⁶⁾の支援も受け、国際教養科の授業のうち1時間を充てメール交換から始めた。この事業は同窓会事業として継続されることとなった。

国際交流とか、姉妹校提携は、対面の相互交流が従来の典型的な方法だったが、インターネットやメールなら、移動に要する莫大な費用や時間の問題等が解決でき、その上、交流の成果を記録に残すこともでき、国際交流の新しい方法となるのではないか。21世紀の国際交流や姉妹校提携のありかたは、インターネットやメールを基本にし、従来の対面の交流を併用する方法がモデルになるだろう。両者の長所を生かし、欠点をともに補完し合うことができるからである。

2.8 第8段階：櫛を託す (PHASE VIII)

何が起こるかかわからない。不確定要素が複雑に絡み合う。それが駅伝の醍醐味かもしれない。駅伝は櫛に願いを託し、繋いでいく競技である。一人ひとりの願いが託された櫛は現在から未来に向けての祈りだという。

後日、後任の校長から、SELHiの試みが評価され、英語教育優良学校として平成18（2006）年度文部科学省から表彰を受けたこと、国際教養科理系教育課程一期生が平成20（2008）年度に留学生としてはじめて、もちろん日本人としてはじめて英国ケンブリッジ大学獣医学部へ進学したことなどの報告を受けた。

3 まとめと省察

未来をつくる「学校力」を競うのが駅伝競技とすれば、さしずめ、その魅力は、「校長」が、前任者から託された、「ミッション」という襷を、次の走者に繋ぐことにあるのではないか。受け取った時以上の状態にして襷を繋ぎたいという「使命感」が、困難な事態をも乗り越えさせる。一人ならあきらめてしまうところを、自らの限界と戦いながら次に繋ぐために懸命に中継地点を目指す。使命感と責任感の発露といえる。

長距離における継走である駅伝は、区間ごとに繰り広げられる順位変動も大きい。長距離であるが故に、山あり谷ありで予想外の展開がある。思いがけない好走や、ごぼう抜きが順位を大きく上げ、体調不良やハプニングが勝敗を決定づけることもある。責任の重さや、重圧感にはかりしれない。

校長が、一本の襷を次の走者に託すまでの区間、襷はその走者の掌中にある。走者のみならず、ともにがんばってきて表に出ることのない人々の思いも込められた汗と努力のしみ込んだ襷であるから、何としても次の走者に繋がなければならない。託された襷から何を感じ取るか、そして、託す襷にどんな魂を込めるかである。こうして、校長としての在任の一区間を走りきるのである。

以上、二つの事例を織り交ぜながら、スクールリーダーのための学校改革の方法論モデルを8ステップに分けて仮説的に提示した。このモデルがこれからスクールリーダーを目指そうとする人々、あるいは現在スクールリーダーとしてまさに奮闘中の人々に実践的な指針となることを筆者らは願っている。

モデルの有用性についての本格的な検証は今後の課題であるが、その前にここで優先されるのが、筆者らが準拠する戦略経営の理論モデル、すなわち「競争優位性の源泉」理論モデル（ガス・サローナ、2002、p. 51）との関連付けであろう。

この理論モデルは、企業の優れた業績に影響を与える要因を、①組織のポジションを基盤とした優位性（positional advantages）、②組織能力を基盤とした優位性（capability advantages）の二つに分けて説明する。ポジション優位とは技術革新などの先行性や競合分野での相対的な強みから生じるとされる。また、組織能力優位は自他ともに認める経営資源やプロセスの独自の強みをどの程度有しているかに大きく影響される。この二つの優位性は組織の内と外のコンテキスト（環境）のもろもろの要素に起因して強くもなり弱くもなる性質のものである。さらに、このダイナミックな特徴をもつ二つの優位性に相乗して働くのが、③組織のリーダーやマネジャーがとる資産獲得や資産活用のアクション、という第3番目の要因である。

「競争優位の源泉」モデルは、企業が持続的に価値の創造と獲得に成功するための要因を構

造的に単純化した概念モデルである。したがって、それは企業だけでなく学校や大学など教育組織にも適用できるものではないかと考えている。実際、筆者らが企画・実施する「学校経営講座」のなかでは、「組織能力の優位性」の一つとして「戦略プランが作成できる教員スタッフの能力」を位置づけており、ワークショップ形式でその作成作業を経験することを優先的かつ継続的に行ってきた。

また本論文では、学校改革の経験と実践の論理を優先し、それに戦略経営の論理を組み合わせるといふ考え方を踏まえて、方法論としての8つのステップとそれにそった記述・分析を試みた。これまでの記述の流れと得られた結果は、筆者らのこれまでの経営経験に照らす限り、有用性の観点から、他の学校経営関係者にもある程度説得力あるものになっているのではないかと推察している。

以下では、本論文のまとめに代えて、8つのステップからなる学校改革の方法論モデルのなかで、戦略思考法とリーダーのアクションにかかわる大事なポイントを抽出し列挙しておくことにする。

(1) 最初の三か月から半年が勝負どころか

校長としては、一年目は様子をみる、次年度からアクションを起こせと新任のころよく聞かされた。しかし振り返って、最初の三か月で、あるいはほぼ半年で、仕事の方向づけがほぼ完了しているように思える。そのためには赴任直後から活用できる経営資源を貪欲に発掘し、それらを自らが目指す方向に作り上げていく努力が必要である。ミッションを確認し、ビジョンを掲げ、できるかぎり多くの人々を巻き込んでゆくことに尽きる。

(2) 外の変化に対応する柔軟性が求められる

学校では、決めたことを運営するのに型どおりだったり、手続きにこだわることが多い。しかし、内部の既成の概念や枠組みにとらわれないで、外部の変化に柔軟かつ迅速に対応してものごとを進めていく実行力が求められている。改革を進めるのに柔軟な取組の第一歩は、年間行事を決定する際に、来年度は、「決めてあるからやる、決めてないからやれない」と固定的に考えるのではなく、新しい案件は、その都度、する、しないを慎重に検討する、すでに計画されていても必要ないと判断できるものはやめようと宣言することからであった。Y校で、前任の校長の決定事項を覆したこともその考えの土台となった。

「特色ある学校づくり」は「モデルなき創造」といわれる。国際教養科の「理系対応」というカリキュラム変革が、併設の普通科、更には学校全体に改革、再生の機運を高めることにもつながった。前例や既成の考えにとらわれないで、外の変化に柔軟に対応する学校経営が求め

られる。

(3) 校長がかわっても変えてはならないものがある

「校長がかわれば学校が変わる」とばかりに前任の校長の仕事をことごとく変えてしまうケースに出会うことがある。「校長が変わると学校が変わる」は確かに名文句だが、校長が替わっても変えてよいことと変えてはならないことがあるのだと理解したい。中には自らの在任中に成果を求める校長がいるが、事と次第によるが、そのような愚かな考えから脱却すべきではないか。

学校の改革という、ある TV 番組を思い出す。「大改造!! 劇的ビフォーアフター」である。さまざまな問題を抱えた家が「匠」のみごとな技術によって劇的に変身するものだが、見た目を改造するだけが匠ではない。大改造を通して家族の絆や安らぎを取り戻したり、家族が大切にしてきたものをリニューアルしたり、大切に扱ったりする。核になるものは変えてはならないのである。そのためにも紙に書いて残すことは非常に重要なこととなるのである。

(4) 校長・教頭・事務長は三位一体で経営にあたる

職員会議や、職員との信頼の構築の重要性についてはすでに述べた。新しいことに挑戦したり、従来のやりかたを変更する場合には、校長・教頭・事務長が十分に納得しないうちは職員に提案しないということを徹底した。また、日常も三者での打ち合わせを大切にした。納得して責任をもって仕事はしてもらいたい、やらされているうちはエネルギーにならない。また、事務方には教員のパートナーとしてともに生徒の成長を喜び合うという意識改革が求められている。併せて教員の意識改革も当然ながら求められている。学校が抱える課題は多様化し、高度化している。職員一人ひとりの知識や経験を、組織全体が共有し有効に活用しなければ成果をあげることはできない。

(5) 信頼と期待を高めるプロジェクトチームをつくる

プロジェクトチームは、所期の目的を達成できることは少ない。今回比較的順調に進んだのは、①目前に解決すべき課題があった、②発足のタイミングと構成員の選出に細心の注意を払った、③座長にキーパーソンを充てることができた、④座長を補佐できるファシリテーターやコーディネーター役の委員がいた、⑤期間を限定した、等が考えられる。また、「中間まとめ」に審議経過報告を付して職員全体に進捗状況を明示できたことも、プロジェクトチームへの信頼と期待を高めることにつながったのではないか。

更に副産物として、経営という視点から学校を見る機会に参画した若い教員がもてたことで

ある。若い委員が校長の目線で学校をみることができた。新任のころから学校経営に参画し、仕事と職能の双方を向上させられるオン・ザ・ジョブ・ディベロップメント（OJD）の仕組みを校内につくっていくことが求められているといえよう。プロジェクトチームは、OJDの試みのひとつとして、また後身を育てる仕組みとしても評価したい。

(6) 生徒募集を管理職まかせにしない

生徒確保のために主として管理職が「中学校訪問」を実施する高校が多い。X校でも赴任後、主任による訪問を指示した。生徒募集は管理職任せという考えを払拭するためだったが、二人一組で中学校の生の声を聞くことは、自ずから学校経営の当事者意識をもつことにつながったようだ。

しかし、効果的な中学校訪問は、誰が、いつ、何のためになのかを明確にして実施すべきで、ただ訪問すればよいというものではない。

その際の必需品である「学校案内」については、X校もY校も共に改善すべき点がいくつかあったため、学校案内の暫定版の作成を急いだ。「学校案内」の作成には、校風、ミッション、校長のビジョン等の学校のエッセンスが盛り込まなければならない。訴求すべき学校の魅力をよく伝えるイメージを抽出し、具現化しなければならない。担当者任せにしないで校長も深く関わるべきである。

(7) 校外の知的資産を確保して経営に生かす

校外の知的資産（人的、物的）を活用して新しい資産を校内に創造することができなければ、学校を新たな創造の場に育てることはできない。校内ではとうてい見つけることができない、校外の知的資産を発掘し、経営資源として取り込むことが今後いっそう求められる。校外の知恵や資源を取り込む「開かれた学校」こそ学校が信頼を回復するための良薬である。

(8) 職員団体とどう連携するか

学校経営には職員団体との連携や交渉が欠かせない。誠実に、合法的に、柔軟に対応することが求められる。

(9) 地域に愛されない学校に明日はない

通常、学校は地域の熱い要望によって誕生する。学校も地域の期待に応えようと懸命に努力する。こうした関係は地域と学校の関係の原点である。にもかかわらず、この関係が薄くなったり破綻してしまうことさえある。そんなときは信頼を回復するために、「地域」に理解・協

力を求めるのが一番である。「地域」という強力な支援者を掘り起こしていくことが学校が生き残るために、あるいは信頼を回復するためには欠くことができない。この「地域」を直接的に、あるいはPTAや同窓会を通して間接的に、学校の支援者として活用するのは効果的である。

また、地域との連携は、大都市圏の高校では期待できないと思っていた。しかし地域の理解と協力のおかげで、生徒たちが生き生き活躍できた。学校も積極的に地域に出て行くことによって、地域の活性化に寄与できることも確信できた。

これら戦略的リーダーの思考とアクションにかかわる9つのポイントとは別次元となるが、学校改革という困難な課題に取り組む上で、その基底に存在する精神の在り様と呼ぶべきものがある。それを一言で表せば、「わくわく感こそが原動力」というものである。危機意識を煽ることが従来から改革の基本のように伝わってくることもある。二つの学校改革でも「危機感」と「わくわく感」とを体験した。生徒も教員も、保護者も地域もわくわくしながら学校づくりに参画する、このわくわく感こそ改革や学校づくりに必要である。

危機意識は、はじめのうちはともかく、改革が進み危機感が減少すると改革の気運がしだいに衰えてしまう。どのような局面においても生きて働く「わくわく感」こそ変革継続の原動力なのだろう。

注

- 1) 複合選抜入試制度：平成元年（1989年）度から導入された。学区は大学区（尾張・三河学区）のままで、これを第1群、第2群に分け、更にAグループとBグループに分け、受験生はこのAとBから一校ずつ2回受験できる。
- 2) 学校群（複合学校群）制度：愛知県の学校群制度は、学区を大学区（尾張・三河学区）のままで昭和48年（1973年）、名古屋、豊橋、一宮、岡崎、刈谷地区の公立高等学校普通科の入学試験で実施された。うち名古屋地区は県・市立の15校が各校二つの学校群に所属する15の複合学校群。豊橋地区は4校で2学校群、一宮・岡崎・刈や各地区は2校で1学校群の単純学校群となった。ただし、学校群の編成は昭和48年（1973年）度のみでそれ以降の新設校の学校群への組み込みはなく、各校で単独選抜を実施することになった。愛知県の学校群は、名古屋市内で複合学校群制度となったため、A高校と名古屋2群を組んだY高校が、これまた伝統校の市立K高校と名古屋1群を組んだことにより、県内の高校でトップの進学実績を出すこととなった。平成元年（1989年）廃止。
- 3) Y校「国際教養科」の設立の背景と経緯：①我が国の国際社会での役割が高まる中で高等学校教育における人材の育成が必要になった。②本県は年々企業の発展とともに国際都市としてその基盤が固まってきた。③本県においても海外帰国子女の数が年々増えている。以上の背景のもとに、国の臨時教育審議会の愛知県版といわれた愛知県中等教育問題研究会の答申を受け、愛知県教育委員会が新しい学科の創設構想を固め

た。「昭和59（1984）年9月定例議会で県教委は基本構想を答弁し、…（中略）…同年11月14日千種高校に昭和60年（1985年）度から、「国際教養科」を新設すると発表した」（1985年5月国際教養科会資料より）。

- 4) 複数教頭制：昭和47年（1972年）度、全国に先駆け、愛知県では学校の組織を変更し、県立学校に教頭を2名配置し、名称を校長補佐とした。義務教育諸学校では教頭を1名のままとし、他に校務主任1名を置くこととした。
- 5) 思索生知（思索 知を生ず しさくしょうち）：人間は深く考えることによって知恵を生ずるという意味。出典は管子（かんし）内業（ないぎょう）。「思索生知 慢易生憂 暴傲生怨 憂鬱生疾 思索は知恵を生じ、慢易（まんい＝あなどり軽んずること）は憂いを生じ、暴傲（ぼうごう＝荒々しくおごり高ぶること）怨み（うらみ）を生じ、憂鬱（ゆううつ）は疾（しつ＝病気）を生ず」。
- 6) Japan UK Live：英国と日本の若者の交流を支援するために作られた「教育のためのウェブサイト」である。完全なバイリンガルサイトで、言葉の壁を取り除くことで、参加者はメッセージの内容に意識を集中することができる。文章、写真、絵、音声ファイルも送ることができる。

参考文献

- (1) 八谷芳樹（2007）『『生き残り』効果につながる戦略マネジメントの基本——愛知県立X高等学校の事例』愛知学院大学短期大学部研究紀要、23-48頁。
- (2) 八谷芳樹（2008）「カリキュラム変革を戦略とした学校改革——愛知県立Y高等学校の事例」『ergo』愛知学院大学短期大学部研究紀要、165-191頁。
- (3) ガース・サローナ他著（石倉洋子訳）（2002）「経営戦略論」東洋経済新報社、51頁。

豊かさの質

——「人間の尊厳」と CSR¹⁾——

岩 佐 宣 明

1. はじめに

今日は皆さんと一緒に CSR という概念について考えてみたいと思います。演題には「豊かさの質」というタイトルを付けました。CSR という用語そのものの説明に入る前に、まずはこの演題との関係で問題の大きな背景のようなものを探ってみたいと思います。CSR という言葉は、哲学的な議論としてはビジネス・エシックスと呼ばれる応用倫理学の一分野に登場する、最重要ワードの一つです。ビジネス・エシックスは企業倫理学などと訳されますが、今日の私の議論のポイントの一つは、後に詳しく述べるような理由から、この訳語が少し誤解を招くようなものではないか、ということです。ともあれ、まずはこの学問が主題とする「ビジネス」と「倫理」という二つの言葉について簡単な注釈を行い、問題の所在をつかむ手がかりにしましょう。

語源的考察は省きますが、「ビジネス」という言葉は、現代ではしばしば非常に冷徹なイメージと結びつけて使用されます。たとえば「ビジネスライクな人間関係」と言えば、互いへの思いやりを欠いた、双方にとっての能率性や収益性のみを目当てに営まれる実利主義的な人間関係のことです。「そこはビジネスと割り切って」とか「ビジネスに私情を差し挟むな」といった言い回しにも、ビジネスという言葉が含む実利主義的な意味合いが色濃く反映されています。もちろん、実利の追求をすべて非人間的として一刀両断してしまうような見方は、あまりに一面的です。今日私たちが当たり前のように享受している豊かさの大部分は、個々人の私利私欲を相互に効率的に実現するビジネスのシステムがなければ不可能だったでしょう。これに対して、「倫理」という考え方は、人間関係の根幹に関わるものとして他者への配慮や思い

やりを重視します。哲学上の倫理学説には様々な立場があり、この配慮や思いやりのポイントをどこに持ってくるかはそれぞれの立場で異なりますし、また後に詳しく言及するとおり、この思いやりを人間のエゴイズムのいわば副産物として捉える立場さえありますが、他者への配慮に基づく（少なくとも短期的で熟慮を欠いた）自己利益の制限という考え抜きには、どんな倫理もどんな倫理学も成立しないでしょう。このように二つの言葉を対比させてみると、「倫理的なビジネス」とか「ビジネスの倫理」という表現そのものが、形容矛盾とは言わないまでも、どこか居心地の悪い危うさを感じさせないでしょうか。

いずれにせよ、「豊かさの質」という演題で私が皆さんに問題提起を行いたいのは、ビジネスに倫理を導入する仕方とその可能性をめぐる一連の哲学的問いに関わるものです。哲学・倫理学の見地からみた場合、CSR という考え方のうちにはどのような倫理的意義が見出されるのでしょうか。この考え方はどのような理論的正当化を受け取るのでしょうか。とりわけ、この連続講座のテーマである「人間の尊厳」という倫理学上の概念を中心に踏まえてみた場合、どうでしょうか。ビジネスという人間活動が有するきわめてシビアでリアリスティックな諸要求に照らし合わせてみた場合、倫理学によるそうした理論的正当化はどの程度まで説得的でしょうか。その正当化に即した倫理的なビジネスの在り方に責任を負う当事者とは、いったい誰でしょうか。私はともかくも一つの結論を提示するよう試みますが、それは皆さんに最終的な答えを提供するためではなく、問題を考えるたたき台としての議論の場を提供するためです。この報告が多少とも皆さんの思考の刺激剤になればと願っています²⁾。

2. CSR という考え方の成立

CSR (Corporate Social Responsibility) という言葉は1960年代からアメリカで用いられ始めたものです。日本には1970年代に紹介され、現在では「企業の社会的責任」という訳語が定着しています。CSR という考えが先進諸国をかわきりに世界的に注目を集めていく背景には、環境破壊、公害、汚職事件、雇用問題など、企業活動に起因する弊害や不祥事が指摘できます。CSR という概念はその当初から、自社利益のみを排他的に追求する企業活動の在り方に反省を促し、企業活動を社会への関心というより広いパースペクティブの下に位置づける、という倫理的な要求として登場してきました。企業の目的とは何か、企業はそもそも何のために存在するのか、という原理的な問いに照らしてそれが要求する変革を整理するなら、「株主利益の最大化」という従来型の答えを改め、企業の存在意義は「株主だけでなく消費者や従業員や取引先、さらに地域社会や政府やNGOまで、企業活動から影響を受ける様々な利害関係者が有する多様な利害関心の相互調整」にある、とする新たな企業観への移行、ということになり

ます。企業は株主だけではなく社会全体に対して責任を負う、ということです。現在ではCSRの基本理念に関する国際的な合意形成や、その具体的な取り組み内容に関する国際的なスタンダード作りも一定の成果を上げ、国連のグローバル・コンパクト（1991）や国際標準化機構のISO26000（2010）などの形で実を結んでいます。

多様な利害関係者への配慮という点に関して具体的なイメージを持っていただくために、ほんの一端ですが企業のCSR活動の事例を紹介しておきましょう（日本では経団連の『企業行動憲章』に付された「実行の手引き」により、CSR活動の具体例に関するかなり網羅的な情報を得ることができます³⁾）。また、多くの著名企業がCSR担当の専門部署を設け、自社のCSR活動に関する情報をHPにアップしたり、年間活動レポートを発行したりしています。日本でもっともよく知られているのは企業の環境活動でしょう。ハイブリッドカーや太陽光発電など、環境にやさしい商品の開発はCMでもおなじみです。また、売上の一部を環境対策の支援に充てるなどの活動も有名です。こうした環境活動でとくに念頭に置かれている利害関係者は、人類の未来世代だと言えるでしょう（環境それ自身が利害関係者だとする主張もありますが、ここでは深入りしません）。商品の品質管理や安全性確保は消費者利害への配慮ということになりますが、マスコミを介した商品不具合の迅速な周知や不良商品の自主回収などに積極的に取り組む企業が増えています。従業員に対する企業の責任として近年よく話題になるのは、仕事と生活の調和的両立を保證するワーク・ライフ・バランス体制の促進、高齢者や障害者を含め多様な人材に就労機会を提供するダイバーシティ雇用などです。株主に対する責任としては、情報公開の公正性を高めるための外部評価の取り入れなどが挙げられます。

3. 倫理学から見たCSR

1) 「人間の尊厳」とCSR

さて、CSRという考え方の大まかな成立史とその基本的内容を見てきたわけですが、哲学の問題としてここで興味深いのは、ではいったいなぜ企業は社会に対して以上のような意味で責任を負うべきのか、という倫理的正当化の問題です。というのも、これはけっして当り前のことではないからです。ノーベル賞受賞者でもある経済学者ミルトン・フリードマンはCSRをめぐる論争が加熱した当初から、企業の唯一の社会的責任は株主利益の最大化であるとする論陣を張り、彼の主張は今日でも影響力をもっています⁴⁾。

日独の応用倫理学の総合的研究という私たちのプロジェクトは、この問題を「人間の尊厳」という中心概念の下に検討してきました。この概念の詳しい検討は私の力量を超えますが、それが今日的な意味内容を獲得する上で非常に大きな貢献をなしたドイツの哲学者として、カン

トに触れないわけにはいきません。彼は義務論と呼ばれる倫理学説の代表者です。彼によれば、私たちに要求される倫理的な義務は、「もし××したいならば〇〇しなさい」という条件付きの命令ではなく、端的な「〇〇しなさい」という、結果の望ましきとは無関係に与えられる無条件的な命令です。この無条件的な命令である主要な義務の一つとしてカントは、「すべての人をたんなる手段としてではなく、つねに目的それ自体として扱いなさい」という命令を挙げています。何らかの目的を実現するための手段としてのみ価値をもつものは、同じ目的が実現できる他のものがあればそれで代替可能です。しかし目的それ自体は交換できません。そしてカントによれば、人間は一人一人がこうした交換不可能な目的それ自体であり、したがって、ただの道具として利用されることを拒むような価値、すなわち尊厳、をもつのです⁵⁾。

人間の道具化の禁止というこのカントの見方からすれば、ある人を自分や他のある人の目的を実現するためのたんなる手段として扱う、ということは許されません。同じことがビジネスの文脈でも言えないでしょうか。株主の利益を最大化するという目的のために消費者や従業員をそのためのたんなる手段として扱うとすれば、企業は人間の尊厳を無視した経営を行っていることにならないでしょうか。もちろん、株主利益の最大化という目的が、必然的に、それ以外の利害関係者の「たんなる」道具化に導くということはありません。自発的な労働契約に基づいて従業員を雇用する以上、また消費者を騙したり商品を強制的に売りつけたりするのでない以上、要するに、企業の目的追求が従業員や消費者各人の目的追求と合致している以上、企業は彼らを「たんなる」手段として利用してはなりません。しかし、もしそうだとすれば、企業の目的は「唯一」株主の利益を計らうことだと主張することに、どれだけのポイントがあるのでしょうか。カント倫理学をビジネスの場面に適用して考えてみると、すべての利害関係者の利害を平等に尊重するというCSRの基本精神は、その明白な一掃結だと言ってよいでしょう。

2) 反論と対案 ——倫理的利己主義とCSR

以上で示されたことは、私たちがもし人間の尊厳に関するカントの主張を受け入れるならば、私たちは企業の目的という点に関してCSRが要求する発想の転換をも是認しなければならない、ということにすぎません。カントの考え方と異なったりそれと対立する倫理学の立場は多く存在します。人間のあからさまな道具化に諸手をあげて賛成する倫理学説はあまり聞きませんが、カントならばおそらく認めないであろうような道具化を一定の範囲内で倫理的に容認可能なものとみなす立場は存在します。ここでは上のカントの考えと好対照をなすという意味でも、またとくにビジネス・エシックスに関する文献では頻繁に言及されるという意味でも興味深い、倫理的利己主義という立場を紹介し、私たちの議論をさらに深めていきたいと思い

ます⁶⁾。

倫理的利己主義とは、端的に言えば、各人はもっぱら自分自身の利益のみを追求すべきである（もしくは、追求してもよい）と主張する倫理学説です。一見したところ、これはいかにも私たちの道徳的直観に反した立場であると思われるかもしれませんが。この立場では、自分自身の利益を追求するために他人を道具化することが、いとたやすく容認されます。とはいえ、倫理的利己主義としばしばセットで主張される心理的利己主義という立場を加味すると、それを直観に反するという理由だけで簡単に却下してしまうわけにはいかないのです。

心理的利己主義は人間の心の事実に関する主張ですから、それ自体は倫理学説ではありません。倫理学説は人間が「どうあるべきか」を主張しますが、心理的利己主義の関心は人間が「現にどうあるか」です。そしてその主張によれば、人間は現に（たとえ見た目には他人の利益を考えているようなふりはしても結局は）自分自身の利益のみを追求する生き物なのです。先ほどの倫理的利己主義の発想とは反対に、こちらの主張にはなるほど一理あると、私たちは自分の心の内を反省して思わないでしょうか。ところが一端この主張を受け入れると、倫理学説として倫理的利己主義以外の選択肢を採用することは、不可能とは言わないまでも、かなり不合理なものになってしまいます。事実として不可能なことを倫理的に要求するのは、たしかに無意味でしょう。心理的利己主義がもし正しいとすれば、「人間の尊厳」というカントの考えは、たしかに立派で勇ましいが残念ながら机上の空論だ、という批判を浴びることになります。

心理的利己主義をあまりにもニヒリスティックな人間観だと言って笑い飛ばしてはなりません。近代以降の多くの政治理論や経済理論が、陰に陽にこの人間観を前提にして社会や社会正義を語ってきたのです。実際、心理的利己主義をベースにして主張される倫理的利己主義は、一見そうみえるほど非倫理的な主張ではありません。一般に、「啓蒙された利己主義」という理論によって、他者への思いやりや配慮を利己心の副産物として利己心のうちに内部化する議論が行われます。自分自身の利益を賢いしかたで追求する人間は、他人との対立によってよりも他人との協力によって長期的にはより多くの利益が得られることを理解するので、その範囲内で派生的な利他心をもつ、というわけです。これとまったく同じ論法は、CSRを推奨する議論でもしばしば登場します。「倫理は儲かる Ethics pay」という言葉がありますが、各利害関係者に配慮したCSR経営は、リスクマネジメントやイメージ戦略という観点から、企業にとって十分に利益回収が見込めるものだ、だからお勧めですよ、という考えです。

たしかに、倫理的利己主義は、「倫理的なビジネス」とか「ビジネスの倫理」といった言葉づかいに対して私たちが冒頭で感じた戸惑いを、きれいさっぱり吹き飛ばしてくれます。要するに、すべてはビジネスの論理に一元化できるわけですから。残る課題は、協力や妥協が対立

や裏切りよりも各人にとって結果的により多くの利益を生み出す社会システムを維持し改良し、教育によって人々の蒙を啓き、それによって企業の意思決定を最適に動機づけることだけのように思えます。しかしながら、こうした一見きわめてすっきりとした見立てが、倫理への戸惑いと同時に倫理の本質まで洗い流してしまうのではないかと、やはり心配になる面もあります。

3) 「人間の尊厳」再論

カントに再び発言してもらいましょう。彼は正直者の商人という私たちの論題にまさにうってつけの例をもって、倫理的利己主義による CSR の正当化に不満をもつ多くの哲学者に共通の見解を語っています。この商人はじつに正直者で、子供に対してもお釣りをごまかしたりはけっしてしないのですが、彼がこのように正直なのは、万一ごまかしがバレて一度でも評判を落としたなら、子供をだまして一時的に得るよりも圧倒的に多くを失うだろうからなのです。カントはこの商人について、彼の正直はたしかに「義務に適って」はいるがしかし「義務からの」ものではないので、彼の正直を倫理的な観点から評価することはできない、と述べています⁷⁾。倫理は結果への配慮を超えた無条件的な命令である、という彼の義務論の根本を思い出して下さい。

カントの立場は厳しすぎると感じる向きがあるかもしれません。実際、彼が区別すべきだと主張する、義務に適った行為と義務からの行為とが、外に現れ出た行為として見ればつねにまったく同じものだとすれば、私もそれに同感です。しかし、たんに啓蒙された利己心から他者に配慮する人と、端的で無条件的な義務として他者に配慮する人とでは、両者の間にはっきりと行為の差異が現れる事例があるように思います。架空の思考実験を行うまでもなく、その事例は多くの企業が昨今実際に取り組んでいる CSR 活動のうち、私たちにもっともよく知られたものの一つです。先に企業による環境活動に言及した際、私はそこで念頭に置かれている利害関係者は人類の未来世代だろうと述べました。人類の遠い未来の世代に対する責任を、彼らとの協力によって期待される利益や、彼らとの対立によって懸念される損失によって説明することはできないでしょう。彼らが生まれて影響力を行使する頃には、私たちはもうこの世界には存在しないのですから。

この点に関しては、企業の環境活動を促しているのは結局のところ市場からのプレッシャーであって、そうである以上倫理的利己主義の枠内で十分に説明可能だ、と反論されるかもしれません。たしかにそうかもしれません。しかしそれならそれで、今度はなぜそうした市場からのプレッシャーが存在するのかが説明されねばなりません。その圧力を作り出しているのがともかくも現在の世代であることは間違いなく、しかもそれら市場の動向を左右するほどの大勢

の人々のうちの誰一人として、遠い未来世代からの影響力を自己利益と結びつけうる境遇にはないのです。

この例から私が引き出したいと思うのは次の二点です。第一に、心理的利己主義は一見そうみえるほどには説得的な主張ではない、ということです。未来世代への利害への配慮という事実を心理的利己主義と整合させる辻褄合わせの余地が皆無ではあるとまでは言いませんが、この事実を説明するもっとも自然な選択肢は心理的利己主義を放棄することだと主張します。最近では動物行動学の見地から、心理的利己主義に反対する興味深い研究も出てきています⁸⁾。そして第二に、この第一の点からの帰結として、義務に合った行為と義務からの行為との間にカントが引こうとした境界は、倫理的利己主義が覆い隠してしまいかねない倫理の本質を考える上で、現代でもなお重要な論点の一つである、ということです。心理的利己主義が間違いであるとすれば、人間の尊厳に基づく道具化の禁止というカントの主張が机上の空論であるとすする反論は当たりません。反対に、私たちがふだん倫理的だと当然のように認めている行為のうちには、カント的な尊厳概念に抛らずにはその意義をはっきりと見通すことのできないものが多数存在するという事実さえ、大いにありうるでしょう。

4. CSRの実現に向けて

倫理的利己主義を倫理に関する妥当な説明としては退けることで、私は結局最後の最後まで、「倫理的なビジネス」という表現にまつわる居心地の悪さをそのまま放置する結果となりました。一方で、倫理とは何であるか、という本質論が問題であるなら、私はこの危うさを、まさに倫理的なるものの本質を消し去らないために、そのまま維持すべきだと考えています。この危うさは、私たち個々人のうちで利己主義と真摯な利他主義が時にせめぎ合う、ちょうどその度合いを反映しています。この葛藤を経験するということが、私たちが倫理的な行為へと開かれた存在であるということの証拠ではないでしょうか。

しかし他方で、そうした葛藤の可能性をその本質とする倫理はいかにして実現されるのか、という経験的な問いが問題であるなら、コンフリクトが引き起こされる可能性ができるだけ取り除かれている状態が望ましいことは言うまでもありません。問題となる葛藤において私たちはいかにしばしば、倫理へではなく、自己利益の追求へと流されることでしょうか。人間はつねに自己利益のみを追求するという心理的利己主義の主張は極端すぎるにせよ、倫理が依然として弱いものであることに変わりはありません。倫理的利己主義は倫理を利己心に従属させる点で間違っていたにせよ、人間のエゴイスティックな側面を無視して倫理の実現を夢見ることの虚しさを洞察していた点で正しいと思われる。倫理の本質論から倫理が実現される現実的

な条件に関する考察に移行するや否や、私たちは倫理と実利がある程度まで一致するというこ
とを、倫理が実現され促進されるのに適した条件として経験的に認めざるをえないでしょう。

ビジネス・エシックスの文脈に再び引き戻して言えば、「倫理は儲かる」という私が先に批
判的に取り上げた言葉は、儲からなければ倫理ではありえない、という本質論としてはたしか
に誤りでも、儲からなければ倫理を実現する人などめったにいないので、現実に行に移され
る倫理はほとんどが儲かる範囲内のものである、というリアリスティックな経験則としてはや
はり正しいでしょう。倫理的に行動する企業が相応の利益を回収しうるかどうかは、その行動
の倫理性そのものとは無関係ですが、企業が現実にもその行動に踏み切れるかどうかには、大い
に関係があります。こうした点まで倫理的なビジネスの在り方という問いを推し進めてくる
と、ビジネス・エシックスで問われるべき行動主体を、企業倫理学というその訳語が示唆する
ように、もっぱら企業とのみ捉えて議論を組み立てるのは一面的だと言わざるをえません。企
業の自助努力だけでは、倫理と実利の一致という条件は整いません。消費者の倫理や投資家の
倫理といった視点をもっと強調されてしかるべきです⁹⁾。多様な利害関係者に対して企業がそ
の倫理的な責任を進んで全うしうるのは、それら利害関係者の各々が企業の倫理的行動に対
してそれにふさわしく報いるかぎりにおいてでしょう。その実現の可能性という点から見れば、
「企業の社会に対する責任」は「社会の企業に対する責任」と表裏一体であるということです。

5. まとめ

CSRをめぐる私のこれまでの考察は、次の（目新しさという点ではそれほどではなくても、
その要求の厳しさという点ではかなりハイレベルな）二つの主張にまとめることができます。

- a) 倫理というものの本質からして、企業の CSR 活動は企業の利潤最大化活動と必ずしも
一致しない。
- b) そうした不一致の可能性からくる動機づけの弱さを考えると、CSR の実現には企業そ
れ自身だけではなく、企業を取り巻く様々な利害関係者たちの、責任ある行動が必要であ
る。

ビジネス・エシックスを担う当事者とは誰なのか、という問いについて最後に一言しておけ
ば、企業人として特定の営利活動に直接携わっているかどうかとは関係なく、たとえば少なく
ともこの消費社会の一員としてその恩恵を被っている以上、私たちの一人一人がその当事者で
ある、ということになります。私個人の意見として、この結論はまちがいでなく正しいが、しか
し非常に大変なことだと思っています。

註

- 1) 本稿は、2011年3月9日、NHK文化センター名古屋教室にて、連続講座『現代倫理・「人間の尊厳」を考える』の一環として筆者が行った報告を文書化したものである。この講座は、加藤泰史南山大学教授を研究代表者とする科研費プロジェクト（課題番号19202001：ドイツ応用倫理学の総合的研究——「人間の尊厳」概念の明確化を目指して）の成果を一般公開する目的で全5回にわたって開催され、筆者はその第4回目を担当した。
- 2) ビジネス・エシックスやCSRに関する研究としては、日本では経営学者による実証的アプローチが多くを占める。哲学的議論に重点を置いた研究はまだ少数だが、宮坂純一『ビジネス倫理学の展開』（晃洋書房、1999年）、梅津光弘『ビジネスの倫理学』（丸善、2002年）、田中朋弘／柘植尚則[編]『ビジネス倫理学』（ナカニシヤ出版、2004年）などがある。
- 3) (社)日本経済団体連合会「企業行動憲章・実行の手引き（第6版）」2010年9月14日発行 <http://www.keidanren.or.jp/japanese/policy/cgcb/tebiki6.pdf>
- 4) Milton Friedman, “The Social Responsibility of Business is to Increase its Profits”, in *The New York Times Magazine*, September 13, 1970. この論文は、Tom L. Beauchamp, Norman E. Bowie [ed.], *Ethical theory and business*, Prentice-Hall, 1979（邦訳：T. L. ビーチャム／N. E. ボウイ[編]『企業倫理学1：倫理的原理と企業の社会的責任』加藤尚武[監訳]、晃洋書房、2005）に収録されている。
- 5) 尊厳に関するカントの議論については、Immanuel Kant, *Grundlegung zur Metaphysik der Sitten*, 1785（邦訳：カント『道徳形而上学原論』柴田秀雄[訳]、岩波文庫、1960）を中心にまとめた。
- 6) Cf., Tibor R. Machan, James Chesher, *A Primer on Business Ethics*, Rowman & Littlefield, 2002, chap. 3., 梅津光弘『ビジネスの倫理学』（丸善、2002年）第3章。
- 7) Kant, *op. cit.*, hrsg. von Karl Vorländer, 3. Aufl., F. Meiner, 1965, pp. 14–15（邦訳 pp. 30–31）。
- 8) Frans de Waal, *The Age of Empathy: Nature's Lessons for a Kinder Society*, Crown, 2009（邦訳：F. ドウ・ヴァール『共感の時代へ』柴田裕之[訳]、紀伊国屋書店、2010）。
- 9) 日本でも欧米でも、この点に関する哲学者の貢献はきわめて少ない。経営学サイドからの研究はいくつかある。Cf., 左藤方宜[編]『ビジネス倫理の論じ方』（ナカニシヤ出版、2009年）第5章、谷本寛治[編]『SRI 社会的責任投資入門』（日本経済新聞社、2003年）。

法持寺史関係略年表

川口高風

凡例

一、本年表は法持寺（名古屋市熱田区白鳥）草創以来、約一二〇〇年の変遷を編年的に編集したものである。

一、体裁は「日本暦」「西暦」「世代」「関係事項」の四項に分けた。「世代」は法持寺歴代の住持年間を実線で連ね、視覚上から一目できるようにした。ただし、住持年代が不確かな場合は点線で示した。

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|------|----------|----|--|
| 天長年間 | 八三〇—八四一 | | |
| 建保五 | 一一三七 | | 弘法大師空海が熱田社（熱田神宮）に参籠したおり、白鳥陵に一小祠（法持寺の前身）を建立した。寒巖義尹は後鳥羽天皇、あるいは順徳天皇の第三皇子として京都北山に誕生した。 |
| 文永四 | 一一六七 | | 義尹は入宋して帰国後、博多の聖福寺に留まる。 |
| 同六 | 一一六九 | | この頃、義尹は肥後の素妙尼の招きで如来寺を開く。 |
| 建治二 | 一一七六 | | 義尹は母の菩提供養のために極楽寺を建立する。同年から弘安元年（一一七八）にかけて、九州で一番難所といわれた緑川に大渡橋を架けた。 |
| 弘安六 | 一一八三 | | 義尹は河尻庄地頭の河尻泰明の外護を受けて、大渡に大梁山大慈寺を開いた。 |
| 正安二 | 一一〇〇 | | 八月二十一日、義尹は如来寺へ移り、八十四歳で示寂した。 |
| 天授元 | 一一三五 | | 華藏義曇が肥後で誕生した。（『日本洞上聯燈録』） |
| 明德二 | 一一五一 | | 正月七日、誓海義本は熱田社宮司尾張守田嶋仲宗の子として誕生する。 |
| 応永年中 | 一三四一—一四七 | | 福重寺が建立され、その後に法持 |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|------|----------------------|------------|--|
| 嘉吉年中 | 一四二一 一四二二 一四二三 | 開山 | 夜、明谷は誓海の室に入り伝法する。(略譜)(略伝) |
| 宝徳元 | 一四四〇 | 明谷義光 | 誓海が円通寺を開く。(世譜)(続燈)明谷は誓海の法を嗣ぐ。(世譜)春、明谷は常安寺を開創する。(履歴)明谷は法持寺を開き、福重寺も開山する。(世譜) |
| 同三 | 一四五二 | | 春、誓海は勅詔によって円通寺を禳災道場とする。(略譜)(略伝) |
| 康正元 | 一四五五 | | 誓海は普濟寺六世に就く。(世譜)二月、華藏義曇は予め東海へ行き、入定の時刻などの遺状を門弟に託した。二月十一日、義曇は普濟寺の運営を輪住形式とする遺言をのこした。四月一日、義曇は八十一歳で新豊院にて示寂した。七月二十八日、普濟寺は一年毎に住職を務める輪住制度をとった。 |
| 同二 | 一四五八 | | 秋、明谷は常安寺を悟峰に譲り、福重寺を創建する。(履歴) |
| 文正元 | 一四六六 | 開山 明谷義光 | 春、明谷は福重寺を義曇に譲り、法持寺へ転住する。 |
| 応仁元 | 一四七七 | | 誓海は普濟寺に再住した。(世譜) |
| 同二 | 一四八六 | | 正月五日夜、明谷の下へ白衣の神人が来参する。(履歴)十一月十六日、誓海は三尺坊に伝戒し羽休の |

| | | | |
|-----|------|------------|---|
| 文明元 | 一四九〇 | 開山 明谷義光 | 神号を奉らる。(略譜)(略伝)誓海は後土御門帝より大明禪師の諡号を賜る。(略譜)(略伝)文明年中、法持寺が曹洞宗として再興される。(法持寺寺籍財産帳) |
| 同二 | 一四九〇 | 二世 維玄義中 | 初秋、誓海は微恙を示したため明谷に円通寺を継がせ、八月八日に示寂した。(普濟寺文書)(世譜)(続燈)(略譜)(略伝)九月、明谷は円通寺に普院開堂した。(履歴) |
| 同六 | 一四九四 | | 二月、長楽寺は二世義山華嚴が真言宗であった寛蔵寺を再興し、明谷義光を請して中興の開祖とした。また、曹洞宗に改められ長楽寺と改称した。 |
| 同九 | 一四七七 | | 七月二十八日、久翁曇永が普濟寺に輪住した。 |
| 同三 | 一四八〇 | | 洞仙寺は玉泉玄珠が一字を建立して玉泉庵と称した。 |
| 同三 | 一四八二 | | 七月二十八日、明谷は、円通寺二世として普濟寺に輪住する。秋、明谷は頂相に自讃を加える。(法持寺旧蔵・福重寺旧蔵) |
| 同四 | 一四八二 | | 十月十二日、開山明谷義光は世寿七十五歳で示寂した。(普濟寺文書)(世譜)(略譜)(履歴)示寂後、歴住三カ寺の住僧は靈夢を感じて寿像を三カ寺に安置する。(続燈)一説 |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-------------|--------------|-------------|---|
| 慶安二 | 一六四九 | | 常安寺八世五潤宗毅は普濟寺に輪住した。 |
| 同四 | 一六五二 | | 鈴木正三の『因果物語』が刊行された。 |
| 承応年中 承応四 | 一六五三 一六五五 | 九世 大通快道 | 宝持寺は寺号を法持寺と替えた。 二月三日、八世月峰慶吞が示寂した。一説では二月二日示寂とある。 平田山極楽寺は無量山長禪寺と改号した。 |
| 寛文元 | 一六六一 | | 白毫寺二世覚室禪海は円通寺代住として普濟寺に輪住した。 |
| 同七 | 一六七七 | | 蜜伝心宗は玉泉庵を瑞雲山洞仙寺と改め、法地となして庫院を建立した。 |
| 同十 | 一六七〇 | | 四月二日、林昌寺中興の一庭舟が示寂した。 |
| 延宝元 | 一六七三 | | 円通寺六世玉葉は普濟寺に輪住した。 |
| 延宝年中 | 一六七三 一六七八 | | 副田勘左衛門が禪養寺の伽藍を再興し、中興開山に岳室宝積を迎えた。 |
| 延宝四 | 一六七六 | | 七月十五日、空雲寺開基の鬼頭景義が逝去する。 |
| 同五 | 一六七七 | 十世 海岸義雲 | 正月十六日、九世大通快道が示寂した。一説では九月十六日示寂とある。 |
| 貞享二 | 一六五五 | | 三月二十七日、芭蕉が林桐葉宅を訪ね、法持寺で詠う。 |
| 同三 | 一六六六 | | 碧峰儀春は普濟寺に輪住した。 |
| 元禄年間 | 一六八〇 一七〇四 | 十一世 悦堂愚禪 | 悦堂愚禪が薬師如来（高見薬師）の堂宇を建立した。 |
| 元禄五 | 一六五二 | | 九月十五日、十世海岸義雲が示寂した。一説では元禄三年（一六九〇）九月十五日示寂とある。 |
| 同六 | 一六五三 | | 八月、龍玄寺七代目自喚が「尾州愛智郡諸根川郷山崎村梅林山龍玄禪寺之由来」（黄龍寺蔵）を記した。 |
| 同七 | 一六五〇 | | 七月、悦堂は法持寺境内の石燈籠の銘を記した。 |
| 同十 | 一六五七 | | 八月三十日、円通寺六世玉葉耕雲が示寂した。 |
| 同十三 | 一六九〇 | 十二世 弘海義全 | 四月八日、薬師堂の堂主一播が「高見薬師」の縁起を記している。 |
| 同十三 | 一七〇〇 | | 七月十日、大光院九世逸堂察応は法持寺の延命地藏菩薩像の輪光を寄進した。 |
| 宝永三 | 一七〇六 | | 碧峰儀春は普濟寺に再住した。三月二十四日、十一世悦堂愚禪が示寂した。（玄猷寺安置位牌）一説では三月二十九日示寂とある。 |
| | | | 四月七日、善長寺（妙覚寺）の賞柳、永平寺に出世する。（永平寺前任牒）八月九日、輪山東叡が春養寺に借住して永平寺に出世し |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|------|------|-------------|--|
| 同五 | 一七〇八 | 十三世 輪山東叡 | た。(永平寺前住牒) 夏、円通寺は大檀那田島仲頼より援助金を受けて仏殿、方丈、庫院、塔頭の陽谷軒、瑞用軒を復興した。円通寺九世興倫元苗は「円通寺記」を記した。 |
| 同六 | 一七〇九 | | 八月三日、義山淳孝は洞仙寺に借住して永平寺に出世する。(永平寺前住牒) |
| 同七 | 一七一〇 | | 長楽寺二世石崖梁橋は普濟寺に輪住した。 |
| 正徳三 | 一七二三 | | 六月、「白鳥町家並帳」がある。 |
| 同五 | 一七二五 | | 義山淳孝は正法寺八世として伽藍の復興に努めた。 |
| 享保五八 | 一七二〇 | | 八月、義山は正法寺の喚鐘の銘を記した。 |
| 享保八 | 一七三三 | | 俯貫雄道が誕生した。 |
| 同九 | 一七三四 | | 円通寺十一世安山観隆は普濟寺に輪住した。 |
| 同十 | 一七三五 | | 弘海義全は東照庵を東昌庵と改号して中興した。(尾張徇行記)十一月四日、十二世弘海義全が示寂した。 |
| 同十二 | 一七三七 | | 円通寺十三世光同峯日は普濟寺に輪住した。 |
| 元文二 | 一七三七 | | |
| 同三 | 一七六六 | 十四世 義山淳孝 | 五月十三日、十三世輪山東叡が示寂した。一説では五月十五日示寂とある。 |
| 寛延二 | 一七四九 | 十五世 督宗淳董 | 円通寺十四世華山鼻龍は普濟寺に輪住した。 |
| 同四 | 一七五一 | | 督宗淳董は義山淳孝の発願による大鐘を安置した。 |
| 宝暦二 | 一七五〇 | | 塔頭の一雲院は無住であった。九月十八日、俯貫雄道は天徳院七世雷洲惟黙の室に入り法を嗣いだ。 |
| 同三 | 一七五二 | | 七月、法持寺に鐘樓を建立する。 |
| 同四 | 一七五三 | | 二月二十五日、雄道は全福寺(現在、麿寺)住持として大本山総持寺に出世する。 |
| 同六 | 一七五五 | | 二月、龍源寺に同寺七世龍重旭泉が涅槃像を寄附している。七月二十一日、督宗は大瀬子町の御開山講へ道元禅師の画像を贈っている。 |
| 同七 | 一七五七 | | 春、雷洲の法嗣の鉄馬天輪は龍玄寺(黄龍寺)を得る。三月、香樹院は吉田清左衛門が中興開基となり、義山淳孝を法地開山に迎えた。三月六日、十四世義山淳孝が示寂した。七月二十六日朝五ツ半時(午前九時頃)、門前の欠町より出火したため、法持寺は表門と鐘樓堂を残して全山を焼失した。 |
| | | | 東陽軒、無翁院、耕雲院は廢刹さ |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|-----|----|--|
| 同八 | 一七五 | | れた。 五月、黄龍寺は大光寂照を開山、雷洲を二世に勧請して、山崎徳左衛門の外護により法地再興される。(歴代古記) |
| 同五 | 一七六 | | 円通寺十六世龍重旭泉は普濟寺に輪住した。三月二十三日、智翁淳哲は香樹院二世雄州亮契の法を嗣ぎ、三世に就いた。 龍重旭泉は普濟寺の儀規である『三足鼎儀軌』を著わした。 八月、瑞雲山善長寺は、督宗淳董が法持寺檀徒岡本清七氏の援助を受けて荒廃した殿堂を一新し、法地となして本光山妙覚寺と改め、法持寺の末寺となった。十二月六日、指月慧印は西光寺(いわき市遠野町)で示寂した。 三月、智翁淳哲は香樹院(大運寺)の鐘堂の大鐘に銘を記した。 三月、妙覚寺二世周室淳鼎は妙覚寺の山門を建立した。 七月、鉄馬は黄龍寺を退隠する。 八月、雄道がその後董として黄龍寺四世に就いた。 八月二十八日、妙覚寺の鐘銘を淳 |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七七 | | |
| 同三 | 一七六 | | |
| 同二 | 一七五 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | 鼎が記した。 冬、雄道は黄龍寺の冬結制授戒会に鉄文道樹を戒師に迎えている。 三月二十八日、光明院の法地開基の大通覚道が示寂した。六月、観光鳳洲と退歩玄妙が『鉄文樹和尚百則評頌』の編纂を行った。 栖林寺(駒ヶ根市東伊那)は冬安居結制で授戒会を修行した。戒師は鉄文が務めている。二月、光明院は督宗淳董を伝法第一祖に勧請して法地再興した。三月五日、新たに黄龍寺の仏殿、僧堂を創建することになり、上梁式が行われた。七月二十六日、雄道は授業師随流光順の十三回忌を修行している。 三月五日、黄龍寺の本堂が完成し、落慶法要などが行われた。九月、禅瑞は、龍潭寺の弟子の中から観音寺十一代目住職になった。(寛) |
| 安永元 | 一七三 | | |
| 同八 | 一七一 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同六 | 一七九 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |
| 同二 | 一七三 | | |
| 同五 | 一七六 | | |
| 同四 | 一七五 | | |
| 同三 | 一七四 | | |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|------|-------------|--|
| 同六 | 一七六七 | 十六世 俯貫雄道 | 自若庵の句碑の銘。 八月□日より九月二十九日まで、高見薬師如来の開眼が行われ、夜には懸行灯がかけられた。 四月十五日、洞仙寺の蜜伝心宗が示寂した。 二月十二日、黙音雷喚が示寂した。十月十二日、開山明谷義光の三〇〇回忌を法持寺で厳修するところから、その疏を平田寺十二世龍靈瑞が作った。 十月二十八日、黄泉無著が八歳で雄道について剃髪し出家した。 二月、雄道は自題を付した頂相を弟子の大謙拙道に与えた。八月、退歩玄妙は龍潭寺十九世に就き、八月十九日に晋山している。 |
| 天明元 | 一八一 | 同二 一七六二 | 二月、雄道は「巨鐘銘並序」を記した。四月、督宗は法持寺を退董し、後席に俯貫雄道が就いた。十月二十四日、大運寺は香樹院より現在の山号、寺号に改められた。三月、雄道は中風を患う。退歩は法持寺十七世へ転住した。四月、大謙拙道が黄龍寺六世となる。 〔歴代古記〕五月、雄道は天徳院 |
| 同六 | 一七六六 | 十七世 退歩玄妙 | |
| 同三 | 一七六三 | 同三 | |
| 同二 | 一七六二 | 同二 | |
| 同五 | 一七六五 | 同五 | |
| 同七 | 一七六七 | 同七 | 龍重旭泉は普濟寺に三住した。法持寺は控山西方三十五坪を白鳥役所へ差出し、南方にその換地を給う。四月五日、俯塚洞外は天徳院の室中で俯貫雄道の法を嗣ぐ。四月九日、十六世俯貫雄道は天徳院において六十四歳で示寂した。八月、大謙拙道は長興寺十四世に転住した。九月、退歩は羅漢尊者像〔法持寺蔵〕に題す。 二月、大疑覚道は兄弟子の法持寺の大謙拙道の後席を継ぐ。〔歴代古記〕三月十六日、督宗の弟子の妙覚寺三世活宗淳快が龍潭寺へ晋山した。七月十三日、薬師堂の堂守が托鉢している留守中、堂内の西側の障子が押しあけられて白米や賽銭、素麺が盗まれた。 督宗は自らの頂相に題を付した。塔頭一雲院の寺号を真言宗豊山派の地藏寺（一宮市本町通）へ譲った。 三月十一日、十五世督宗淳董が示寂した。一説では三月十三日示寂、八月十一日示寂、天明二年（一七八二）十二月十一日示寂とある。 |
| 寛政元 | 一七六九 | 寛政元 | |
| 同二 | 一七七〇 | 同二 | |
| 同八 | 一七六八 | 同八 | |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|------|------|--|
| 同三 | 一七九二 | 十八世 | 二月、退歩は水谷法橋憬甫の画いた涅槃像を法持寺の常什具とした。提禅悦成が法持寺へ入寺する。また、『參同契・宝鏡三昧弁註』を書写する。 |
| 同六 | 一七九四 | 提禅悦成 | 二月九日、俯璨洞外は大本山総持寺に瑞世する。八月二十七日、十七世退歩玄妙が示寂した。円通寺十八世祖庭柏苗は普濟寺に輪住した。 |
| 同七 | 一七九五 | | 六月、大謙拙道は永平寺蔵版『正法眼蔵』上梓にあたり、「大悟」の開板に金五両、銀三匁を寄附した。 |
| 同十一 | 一七九六 | | 提禅悦成は長興寺十五世に転住した。六月二十八日、大謙拙道は長興寺より天祐寺へ転住する。九月十二日、雄道の法嗣の笑堂恵吟が示寂した。十一月頃から翌年にかけて、照山寛亮は観音寺を法地再興した。(六師村観音寺法地再興諸願達容 儀仙代) |
| 同二 | 一八〇三 | 十九世 | 閏正月、禅瑞は観音寺を隠居した。(寛)六月九日、十九世大道貫宗が示寂した。七月、大疑覚道は法持寺二十世に転住した。 |
| 同三 | 一八〇三 | 二十世 | 大疑覚道 |

| 文化元 | 西暦 |
|-----|------|
| 同二 | 一八〇五 |
| 同三 | 一八〇六 |
| 同四 | 一八〇七 |
| 同五 | 一八〇八 |
| 同六 | 一八〇九 |
| 同八 | 一八二二 |

八月、俯璨洞外は黄龍寺八世に転住する。八月二十八日、国穩道寧が生まれる。(松石寺壬申戸籍) 一月二十八日、鼎三が生まれる。(永平寺蔵「履歴書」十一月十一日、国穩道寧が生まれる。(高瀬慎吾筆写「明治三年九月許可戸籍」) 一月十日、鼎三が生まれる。(静岡県第二号曹洞宗務支局「僧侶現員調簿」九月下旬、高力種信が「熱田宮全圖」を描く。 三月五日、提宗元綱は全久院二十九世に就く。 十二月八日、黄泉無著は大疑覚道の室に入って法を嗣ぐ。 正月、俯璨洞外は黄龍寺本堂の磬子を新調する。夏、大疑覚道は法持寺で結制安居を修行する。八月二日、提禅悦成は大本山総持寺に出世する。(全久院二十九世提宗元綱よりの書簡) 八月十五日から翌年八月まで、提禅悦成は大本山総持寺如意庵に輪住した。九月、福重寺十九世一角雄麟代の開山忌疏(明谷義光)がある。十月二十日、悦成の法嗣の仙宗が大本山総持寺に出世する。(総持寺住山記) 十一月二十八日、寒江妙雪大姉

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|-----|--------------|--|
| 同九 | 一八三 | 二十一世 俯璨洞外 | (儀七妻、鼎三の実母)が亡くなる。円通寺十九世金重透鱗は普濟寺に輪住する。九月、双林寺より長興寺の提禅悦成へ会下の悦翁全瑞を来年夏、長興寺の首座に任命する旨が下される。 |
| 同十 | 一八三 | | 三月、金龍寺八世大超徹道が観音寺に転住した。十月二十三日、尾張藩士で蔵書家の藤原克楨は「熱田宮全圖」を転写する。 四月二十五日、二十世大疑覚道が法持寺で六十三歳にて示寂した。 (黄龍寺過去帳) 俯璨洞外が法持寺住職に就く。五月、大謙拙道は俯璨洞外の後住として黄龍寺九世に住持した。 鼎三は俯璨洞外について剃髪した。(天籟餘韻) 二月八日、悦成の法嗣の天然が大本山総持寺に出世する。(総持寺住山記) 十月二十三日、大潜退承の授業師の大輪仙牛が示寂した。十二月五日、観音寺二世大超徹道が示寂した。 (観音寺過去帳) 三世には石雲禅虎が就いた。 |
| 同十一 | 一八四 | 二十二世 石雲禅虎 | 正月十三日、石雄恵玉は法持寺で |
| 同十二 | 一八五 | | 八月二十八日、国穂は神蔵寺八世雄賢興国について剃髪する。(高瀬慎吾筆写「明治三年九月許可戸籍」) 三月二十八日、大謙拙道が肥前の英俊院で示寂した。八月十五日、提宗元綱(全久院二十九世)が遷化した。 二月、大疑覚道の弟子の大中玉英は陽泉寺の堂宇を再興して法地とするにあたり、雄道を法地開山、大疑を二世に勧請し、自らは三世となった。九月、石雲禅虎は観音寺の山門を建立した。 字林萬喬は燈外禅燈を勧請して春養寺の法地開山とし、自らは二世となった。五月、石雲禅虎は観音寺に大鼓を寄附した。十一月、法持寺より『高王観音経附 <small>高王経縁啓白衣感応</small> 』が刊行された。 二月二十日、俯璨は法持寺境内に大乘妙典六十六部供養宝塔を建立して、銘を記した。 春、黄龍寺の道契の下に旃崖奕堂が参禅問法した。五月八日、長興寺十五世提禅悦成は豪徳寺二十一世に転住した。長興寺の後董には俯璨洞外が就いた。禅虎は洞外の |
| 同十三 | 一八六 | 文政元 | 一八六 |
| 同六 | 一八三 | 同二 | 一八九 |
| 同四 | 一八三 | 同三 | 一八〇 |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|-----|----|---|
| 同七 | 一八四 | | <p>後董として法持寺二十二世に転住した。七月二十一日、石雄は成福寺住職として大本山総持寺に瑞世した。八月、塔頭の耕雲院は真宗大谷派の浄念寺（名古屋市中区丸の内）へ寺号を譲った。</p> <p>円通寺十九世金重透鱗は普濟寺に再住した。二月、石雄恵玉が志水町の大脇六兵衛より涅槃像一軸を成福寺に預かる。三月、證応道契は黄龍寺の由緒と菅原道真との関係を樋口好古が撰述し、岡田助太郎忠敬が書いた「紀山崎村黄龍寺中菅公祠之肇基碑」の建造主となった。六月二十三日、大潜退承は万松寺二十八世黄泉無著の室に入って法を嗣いだ。九月二十一日、俯塚は「長興寺入院披露」を双林寺へ出した。</p> <p>正月十八日、石雲禅虎は観音寺の庫裡（茅屋）を建立した。</p> <p>五月二日、如来教教祖きの（嬢姪院青室妙蓮大姉）が亡くなった。</p> <p>五月六日、葬儀。翌七日、火葬に付された。同月二十五日、大謙拙道が相州（相模）で示寂した。</p> |
| 同十 | 一八七 | | <p>二月、大潜退承は観音寺の「仏涅槃像」を修補した。四月二十一日、陽泉寺三世大中玉英が示寂した。</p> <p>秋、大潜が観音寺位牌堂へ黄泉揮毫の額を掲げた。八月二十八日、大潜は黄泉の『永平高祖行状之図』双幅を檀越に勸募して観音寺什物とする。冬、禅養寺で結制が行われた。首座は岱宗が務めた。</p> <p>十一月十日、拙堂魯中は禅虎について得度した。（「観音寺過去帳」）</p> <p>十一月十四日、二十一世俯塚洞外が示寂する。一説では五月十七日示寂とある。</p> <p>二月、道契は『大蔵却鑰』を尾陽書林の慶雲堂より上梓した。七月五日、二十二世石雲禅虎が示寂した。大達玄中は先師石雲の頂相に贊を付した。夏、黄泉無著は皓台寺へ転住する。</p> <p>大潜は『正法眼蔵聴書抄』の凡例を記す。正月、大潜、皓台寺の鑑寺を務める。二月二十五、六日、黄泉無著は皓台寺住職繼目御礼のため参府の途中、法持寺に止宿、滞留する。三月二十日、黄泉は江戸に参じた。四月二十三日、黄泉は参府の帰り、法持寺へ立ち寄</p> |
| 同十一 | 一八六 | | <p>二十三世 證応道契</p> |
| 同十二 | 一八元 | | |
| 同九 | 一八六 | | |
| 同八 | 一八五 | | |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|------|--------------|---|
| 天保元 | 一八〇〇 | 二十四世 大潜退承 | る。六月、黄泉、鼎三書写の『正法眼蔵聴書抄』に序を記す。 二月十七日より三月二十八日の間に、国穂が寿徳寺二十二世となる。春三月、観音寺五世大達玄中代に十六善神尊像を新添する。七月、大潜退承は黄泉から「指月印公紅松子引」の軸を授与される。 二月二十三日、成福寺は留守居の達道が乱心で放火したため、堂宇を焼失した。 天祐寺衆寮にいた禅苗は、天祐寺住持であった石雄恵玉の下で得度した。(奉願上候御事)八月五日、一応喝三は大本山総持寺に瑞世した。八月二十四日、一応喝三が参内した。九月、石雄恵玉の頂相に弟子の喝三が皓台寺の黄泉無著に贊を需めた。十一月十四日、吹毛冷生が生まれる。 |
| 同二 | 一八三三 | | |
| 同三 | 一八三三 | | |
| 同四 | 一八三三 | | |
| 同五 | 一八四四 | 二十五世 石雄恵玉 | を贈る。十月、大潜は黄泉が補訂した『二十史反爾録』に跋を記した。 一月七日、大潜退承が示寂した。 春、風外本高が香積寺へ転住する。十一月十八日から二十四日迄、成福寺の授戒会に石雄恵玉が戒師に請された。 夏、鼎三は関浪磨瓢が提唱した『 <small>夾山</small> 破関撃節録聴書』を編集する。五月二十五日、證応道契は本興寺十八世に晋山した。八月十七日、十八世提禅悦成が示寂した。 十一月二十一日、狂歌師の田鶴丸が逝去したため、法持寺で追善法会を行った。 正月、国穂と鼎三は『仏遺教経』を刊行する。二月二十三日、鼎三は永平寺へ転衣の願上口上書を出した。二月二十四日、鼎三は永平寺に瑞世する。三月一日、鼎三は参内して繪旨を受ける。三月七日、道契の弟子鋏心玄鋸上座が示寂した。 黄泉の法嗣らが黄泉の寿塔を皓台寺に建立した。大潜は法持寺住持中に『正法眼蔵涉典統紹』の「袈裟功德」と「法華転法華」を校訂 |
| 同六 | 一八五五 | | |
| 同七 | 一八六六 | | |
| 同八 | 一八七〇 | | |

| 日本暦 | 西暦 | 世 代 | 関 係 事 項 |
|-----|------|--------|---|
| 同九 | 一八三六 | | 四月十七日、皓台寺の黄泉は將軍代替拝礼及び朱印状改めのために参府する。途中、法持寺へ立ち寄る。九月二十四日、童拳天珠が誕生する。十二月十七日、黄泉無著が示寂した。 |
| 同十 | 一八三九 | | 夏、道契は黄龍寺の門楣の扁を記している。九月九日朝六ツ時には、本興寺が罹災し堂宇を焼失した。 |
| 同十一 | 一八四〇 | | 正月、延命寺二十一世徳翁頑童は開山の仙英の位牌を新しく造立し |

| | | | |
|-----|------|--------------|---|
| 同十三 | 一八四二 | 二十六世 | 白明は法持寺の一応喝三に随侍した。開基の熱田社大宮司千秋家が法持寺の塔頭洗月院より離檀し、神葬祭を行うことになった。国穩が大慈院に輪住する。また、大信道海(武州、龍穩寺)に代わって最乗寺にも輪住する。三月、黄泉無著、巨海東流、證応道契の詩偈をまとめた『江湖三絶集』が刊行された。六月、石雄は法持寺後住に一応喝三とする願を寺社奉行へ出した。七月二十九日、春養寺二世字林萬喬が示寂した。(春養寺過去帳)十一月、鼎三は観音寺を退院する。 |
| 同十三 | 一八四二 | | 八月、道契代に本興寺の本堂が再建された。秋、国穩は先妣供養のため『妙法蓮華經安樂行品』を刊行する。 |
| 同十四 | 一八四三 | 二十七世 大達玄中 | 国穩は印宗正契(濃州、龍泰寺)に代わって最乗寺に輪住する。三月、秋葉寺十四世任柱泰礎が『観音懺法』の序を記した。八月二十七日、一応喝三は法持寺室中で洞然白明に三物を授けた。冬、一応喝三は法持寺を退隠した。(西光寺過去帳) |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|------|----|--|
| 弘化元 | 一八四四 | | 国穂は龍光玉泉（小田原、海蔵寺）に代わって最乗寺に輪住する。国穂の下に畔上椋仙が随侍する。六月二十日、大達玄中の弟子の玄旨得中が示寂した。（黄龍寺過去帳） 国穂は滄海金龍（上州、雙林寺）に代わって最乗寺に輪住する。二月二十三日、石雄恵玉は仏海禹門へ伝法した。二月二十六日、大功德院宮（有栖川宮韶仁）が薨去された。 |
| 同二 | 一八四五 | | 二月、道契は弘覚齋（未詳）が持参した自分の頂相に題を付した。 三月二十九日、二十三世證応道契は本興寺において五十八歳で示寂した。十二月八日、大達玄中は「出山釈迦尊画像」を法持寺の什物とした。 |
| 同三 | 一八四六 | | 一夢は法持寺任職であった玄中の弟子となり、堂宇を再建した。三月十九日、拙堂魯中は法持寺の室中で玄中の法を嗣いだ。（黄龍拙堂魯中禪師行状略伝『曹洞宗務局蔵（第一四号僧籍原簿）』） |
| 同四 | 一八四七 | | 一月十二日、接航が黄龍寺の鼎三下で剃髪する。冬、国穂は松石寺 |
| 嘉永元 | 一八四八 | | |
| 同二 | 一八四九 | | 齋堂の魚鼓を什具とする。十一月、五代目沢村宗十郎は五代目沢村長十郎と改名した。 円通寺二十二世勇進大猛（強）は普濟寺に輪住する。三月十四日、鼎三は白毫寺において十二世蔵一玄鷲二十三回忌、十四世宏椿玄亮七回忌の導師を務める。六月二十二日、鼎三は松音寺において二世梅菴逸枝忌明供養を行った。夏、鼎三は関貞寺戒会に助化する。石川素重が父とともに入戒加行する。 四月八日、天珠は黄龍寺の鼎三下で剃髪する。五月十五日、石雄恵玉の頂相に禹門の請で般若林の覚巖実明が贊を記している。五月二十七日、大達玄中の下で少林得髓が得度した。六月七日、鼎三は長福寺四世晩器大成が示寂したため奠湯師を務める。 春、冷生（宗本）は梵明円宗とともに黄龍寺の鼎三へ参随する。 二月、道元禪師六〇〇回大遠忌にあたり、鈴木治左衛門が施主となって法持寺境内に宝篋印塔を建立した。四月、鼎三は松岩寺において高祖六〇〇回大遠忌予修法要を務める。五月二十五日、鼎三は |
| 同三 | 一八五〇 | | |
| 同四 | 一八五一 | | |
| 同五 | 一八五二 | | |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|------|----|--|
| 安政元 | 一八五〇 | 同六 | <p>伝法寺において高祖六〇〇回大遠忌予修法要を務める。七月十八日より二十四日迄、国穂は松石寺開山天巽慶順三五〇回忌法要並びに授戒会を修行し、鼎三は戒師を務める。八月二十一日より二十七日迄、鼎三は永平寺における高祖六〇〇回大遠忌に随喜する。九月、天珠は松石寺前住の国穂道寧に随侍した。日雇頭清治、同佐平治、柿屋甚兵衛、萬屋八左エ門らが施主となって水屋が建立され、大達玄中の記した銘（浄水）の彫られた手水鉢が寄進された。第五代沢村宗十郎は三代目助高屋高助の名を襲いだ。冬、冷生は鼎三下で宗本を冷生と改名し立身する。</p> <p>九月、三代目助高屋高助は名古屋へ赴き橋町芝居に出勤中、膈を病んで倒れ、十一月十五日に五十二歳で死去した。</p> <p>七月二十四日、玄中代に願主掛町の佐右衛門、甚兵衛、孫右衛門を始め、取持、同行中より石彫の地藏菩薩像が境内に建てられた。十一月四日、午前九時頃に大地震</p> |

| | | | | |
|----|------|------|------|------|
| 同二 | 一八五五 | 同四 | 同三 | 同五 |
| | | 一八七〇 | 一八六六 | 一八六六 |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| (安政地震) が起きる。 | | | | |
| 二月二十五日、亨元貞道が誕生する。五月、一応喝三は龍泉寺の過去帳二冊を書写し直して什物とした。六月十二日、洽天等澍が大達玄中について得度した。十月二日、鼎三は喜運寺に安居して『永平大清規』を開演する。 | | | | |
| 一応喝三は龍泉寺の本堂、御拝、玄関、山門に新しく木綿の幕を添えた。正月二十二日、大宮司秋季條は法持寺より離檀後に没した。八月二十五日、鼎三は大松寺で示衆する。九月、鼎三は『般若心経』を大書する。 | | | | |
| 一応喝三は龍泉寺の玄関、庫裡などの普請に取り掛る。鉄地藏堂は小寺佐兵衛が堂宇を再興して法持寺の傘下に入る。八月、鼎三は林泉寺を法地へ昇格させて復興する。九月、国穂は施崖奕堂より龍海院後董に推挙される。九月、国穂は奕堂の天徳院晋山式に道旧疏を贈る。十月二十五日、鼎三は瑞雲寺戒会に助化する。 | | | | |
| 二月一日、冷生は鼎三の室に入り嗣法する。三月六日、鼎三は光明院の戒会に助化する。三月十六 | | | | |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|------|--------------|--|
| 文久元 | 一八六一 | 二十八世 鼎三即一 | 日、鼎三は金剛寺の戒会に助化する。八月、冷生は清涼寺二十五世寂潭俊龍へ参学する。十一月十二日、鼎三は大松寺の戒会に助化する。冬、鼎三は安昌寺の戒会に助化する。 三月、月中一夢上座は嬭姪院供養の永代月供料及び茶湯料を法持寺へ納める。六月二十三日、二十五世石雄恵玉が天祐寺で七十三歳で示寂した。八月、玄中は中村氏奥方より施食修行の永代祠堂金十兩を受けた後、法持寺を退隠して正法寺の鑑住となった。九月、鼎三は黄龍寺山門を造営した後、法持寺へ転住する。秋、冷生は蔭涼寺の環溪密雲に参学する。 天珠は鼎三提唱の『鉄笛倒吹接嘴』を筆記する。夏、鼎三は法持寺の「首座寮施待定規」を定める。秋、證契慧印が鼎三に参随する。 十月九日、信郷貞良居士（平野嘉兵衛貞良、貞道の祖父）が亡くなり、鼎三は秉炬師を務めた。 夏、天珠は光明院に安居し『碧巖集耳林鈔』を書写する。それに鼎 |
| 同六 | 一八六五 | | |
| 元治元 | 一八六四 | 同三 | 三の序を受ける。樋口良歩が鼎三に参随する。 円通寺二十三世の英洲俊瑞が普濟寺に輪住した。四月八日、貞道は鼎三の下で剃髪する。五月八日、鼎三は東福寺の戒会に助化する。五月十七日、鼎三は西明寺の戒会に助化する。閏八月、鼎三は鉄地藏堂中興開基如々院月中一夢上座の下炬を行う。閏八月十一日、小寺佐兵衛（月中一夢上座）が六十六歳で亡くなる。閏八月二十八日、鼎三は研学聚螢居士書写の『観音普門品』の跋を記した。冬、冷生が福寿院九世に任職する。十月、鼎三は天祐寺三十五世仏海禹門の示寂に疏を贈る。 三月、良禪（不詳）は太虚院、高岩院の住持であった。九月、鉄地藏堂講中より法持寺へ嬭姪院供養の茶湯料二十兩を納める。九月二十四日、釈信帰庵主（大島勇八郎、天珠の実父）が亡くなる。 洞然白明は一応喝三を西光寺の法地開山に願った。三月、鼎三は蓮覚寺の戒会に助化する。四月、冷生は福寿院過去帳を改写する。 夏、鼎三、福王寺の戒会に助化す |
| 同二 | 一八六二 | | |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|------|----|--|
| 慶応元 | 一八六五 | 同二 | <p>る。その際、福王寺二十世徳山義芳より『正法眼蔵私記』を譲り受ける。喝三の黄龍寺初会結制で、丘桃見が立職した。九月、嵩岳、法持寺冬安居の首座となる。法持寺へ俯貫雄道の予修法要に伝供される茶湯器が寄附された。冬、冷生は福寿院で法幢を建てる。首座は天珠。</p> <p>二月、鼎三は皓台寺衆寮の確伝を譲弟子とする。三月、鼎三は了玄院において、再興開山温州梅謙二十三回忌導師を務める。三月二日、天珠及び接航は鼎三の室に入り嗣法する。十一月、法持寺を始め六ヶ寺より正眼寺へ「御答旁指上申一札之事」を提出する。</p> <p>一月十日、慧等兼修が名古屋市富士塚町で誕生する。(愛知県第一号支局僧籍、法持寺「僧籍簿」) 四月二十四日、浅野斧山が生まれる。五月、鼎三は建宗寺戒会に助化する。夏、冷生は尾張大納言よりの懇請に応じ、登城して禅門の玄妙を説話する。八月十九日、天珠は永平寺に瑞世する。冬、證契慧印</p> |
| 明治元 | 一八六六 | 同三 | <p>は法持寺冬安居の首座となり、『天籟雜語録』を編集する。十二月、喝三の法嗣の大隆賢道は成願寺(南知多町)の法地再興を願い、開山に一道全英、二世は喝三、三世を賢道とした。十二月十日、喝三は洞然白明によって西光寺の法地開山に勧請された。</p> <p>正月十日、慧等は明達佐七の三男に誕生する。(『曹洞宗名鑑』) 二月、鼎三は林昌寺法地再興開山の旨を寺社奉行所へ願上げる。花常村庄屋文蔵と林昌寺旦那方重吉は林昌寺法地再興の届を正眼寺へ提出する。二月二十四日、寺社奉行所と正眼寺より鼎三へ林昌寺再興開山及び法地許可の免状が申渡される。夏、大安実雄が法持寺夏安居の首座となる。五月二日、鼎三は両会取締の約定である「両会取締議定」を定める。六月八日、鼎三は宝蔵寺における開山江水春澄一五〇回忌を務める。</p> <p>二月、永平寺より新政府に対して、関東三箇寺の宗制撤去と永平寺を総本寺とする宗制改革案を出願する。三月、明治政府は神仏分離令を出す。六月六日、政府は永</p> |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|------|----|--|
| 同二 | 一八六九 | | <p>平寺に学寮を創立し、宗門制度に 関して碩徳会議を開催すべきを沙 汰する。また、総持寺に対して輪 住制を廃し独住制として、永平寺 に昇住すべきを命ずる。八月、白 鳥御陵の後の地六段二十八歩が法 持寺より分離されて、尾張藩の取 締りとなった。九月三日、政府は 永平寺に対し、碩徳会議の公達を 出した。九月二十八日、鼎三は碩 徳会議員として上京し、約三ヶ月 間滞在する。十月二日、宗門制度 碩徳会議が開かれる。十二月、永 平寺より法持寺へ常恒会が免牘さ れる。永平寺より黄龍寺へ片法幢 地が免牘される。</p> <p>正月十五日、正法寺において治天 等澍が法持寺前住職の玄中の室に 入り嗣法する。二月、尾張藩は再 び神領地調査を行う。五月七日、 神祇局寺社係より白鳥御陵が日本 武尊の山陵地と認められ、上地す べき旨が法持寺に通達された。</p> <p>夏、鼎三は永平寺西堂に就く。貞 道が永平寺に安居する。冬、鼎三 は正泉寺十五世金翎玄鳳の初法幢</p> |
| 同五 | 一八七三 | | <p>会に賀偈を贈る。十二月、一応喝 三が黄龍寺の山門に新しい額を掛 けた。十二月二十日、政府は永平 寺と総持寺の本山を確認し、順位 は永平寺を上位となす。また、総 持寺の輪住制を廃止し、両寺の末 派相互に転住することを禁じた。</p> <p>鼎三は一月十二日に示寂した円通 寺二十三世英洲俊瑞茶毘式の奠湯 師を務める。七月二十五日、旃崖 突堂が総持寺独住一世となり、九 月二十二日に晋山祝国開堂式を挙 げた。国穩は道旧疏を贈る。九月、 林泉寺本堂の再建が始まる。十 月、鼎三は林泉寺本堂再建勸化帳 の「吉祥山林泉精舎再興化募」序 を記した。</p> <p>冷生は長生寺三十七世へ転住す る。五月、鼎三は永平寺貫首臥雲 童龍の後童候補者に推挙される。</p> <p>七月、政府は廃藩置県を行う。</p> <p>三月十四日、政府は教部省を設置 する。三月二十八日、永平寺と総 持寺の協和盟約が成る。四月八 日、慧等兼修は洗月院三世の天珠 について得度する。四月二十五 日、政府は十四階級の教導職を定 める。四月二十八日、「三條の教</p> |
| 同四 | 一八七一 | | |
| 同三 | 一八七〇 | | |

| 日本暦 | 西暦 | 世 代 | 関 係 事 項 |
|-----|------|--------|--|
| 同六 | 一八七三 | | <p>則一が公布される。九月十六日、鼎三は大川重行らの質問書に弁駁する。冬、鼎三は万寿寺の戒会に助化する。</p> <p>一月十日、神仏合併大教院を麴町に開設する。二月三日、浜松県は秋葉寺の廃寺処置をとる。二月五日、大教院は増上寺へ移る。三月十七日、鼎三は大講義に補任せられる。また、教導職巡回説教師として愛知、浜松県など二大区を担当する。三月二十四日、浜松県は秋葉寺を秋葉神社と称することを布達する。三月二十六日、浜松県は可睡齋へ秋葉寺廃寺を示達する。四月、『三條辨解』『三條畧解』を刊行する。八月二十六日、鼎三は田中月璨とともに、愛知県下の報告を両本山東京出張所へ提出した。九月、秋葉寺法類と信徒は、秋葉寺の復寺再興を出願する。九月九日、二十七世大達玄中が示寂した。一説では七月十八日示寂とある。十月、冷生は山梨県管内十箇所教会長を囑託され、中講義となる。十一月、鼎三は道直克明、</p> |

| | | | |
|----|------|--|--|
| 同七 | 一八七四 | | <p>持永真応の転衣推挙届などを両本山東京出張所へ出した。十一月五日、鼎三は田中月璨とともに改印届などを両本山監院へ届けた。十二月三十一日、大教院の神殿、大講堂などが焼失する。冬、貞道は鼎三下で立身する。</p> <p>一月七日、冷生は大講義に補任せられる。一月二十日、鼎三は珉山らの転衣届などを両本山東京出張所へ報告する。二月二日、角田忠行は教部省より熱田神宮の少宮司に補任せられた。二月十九日、臨濟、曹洞の宗名呼称が認可され、両宗各々に管長が設けられる。両本山東京出張所は曹洞宗務局、全国の録所は曹洞宗務支局と改称した。三月、角田忠行は千秋季福とともに『熱田神宮御神徳略記』を著わした。夏、慧等兼修は鼎三の常恒会結制に安居する。五月二日、貞道は鼎三の室に入り嗣法する。六月、鼎三は法持寺の「本堂並諸堂瓦葺替記録」の序を記した。六月二十四日、大蓮寺八世黙耕靈安が示寂したため、鼎三は茶毘設齋偈を贈る。七月二日、鼎三は愛知県下曹洞宗教導取締とな</p> |
|----|------|--|--|

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|-----|----|---|
| 同八 | 一八五 | | <p>梅尊院は玄同圭宗が大達玄中を勧請して中興開山とし、本師の拙堂魯中を二世、自らは三世となって法地開闢している。牧野泰淳と土井漸治が鼎三に随侍する。五月三日、鼎三は青松寺内の曹洞宗宗内専門学本校設立資本金として、三十円を寄附する。五月十日、教部省は神仏各宗合併大教院を廃止する。八月二十一日、愛知県下の大光院を始め全国曹洞宗中教院が発表された。冬、黄龍寺結制で丘宗潭が入衆した。〔曹洞宗名鑑〕</p> <p>冷生は広徹院三十九世に転住する。六月、鼎三は法持寺本堂及び諸堂の瓦葺替寄附金の検査報告を行う。八月、梅尊院の過去帳によれば、当時は三世玄同圭宗であった。十二月、貞道は月笑軒に就職する。十二月二十日、鼎三は法持寺地検改正の入費金を確認する。栗木智堂が鼎三に随侍する。一月二十三日、鼎三は洗月院、月笑軒</p> |
| 同九 | 一八六 | | <p>よりの鎮金収納を確認する。一月三十一日、角田忠行は熱田神宮大宮司に補任せられる。六月、鼎三は法持寺日牌の「毎日靈供鑑」を改写する。八月五日、二十六世一応喝三が示寂した。一説では旧六月二十六日示寂とある。八月十七日、荒谷性顕が鼎三に参随する。十月、角田忠行は『熱田神宮略記』を著わした。十月二十日、曹洞宗務局より「祖師忌改正条例」が發布される。十月二十八日、鼎三は法持寺諸堂修造費の出入をまとめる。十一月五日、哲掃は鼎三の室に入り嗣法する。十一月十九日、貞道は永平寺に瑞世する。</p> <p>七月七日、四代目助高屋高助の弟三代目沢村田之助が三十四歳にて亡くなった。七月二十八日、貞道の父泥江（文林貞章居士）が亡くなる。九月二十二日より、永平寺で懷辨禪師六〇〇回大遠忌が修行され、鼎三は教授師、接航は監院寮中書記、哲掃は教授師行者として随喜する。</p> <p>冷生は山梨県下総務講長に任命される。二月、鼎三は『仏遺教経』を校訂し、栗田東平より刊行す</p> |
| 同十 | 一八七 | | |
| 同十一 | 一八八 | | |
| 同十二 | 一八九 | | |

| | | |
|-----|-----|--|
| 同 三 | 日本暦 | 関 係 事 項 |
| 一八〇 | 西暦 | |
| | 世 代 | |
| | | <p>る。四月八日、斧山は天珠について得度する。五月三日、永平寺承陽殿及び孤雲閣などが火災に罹る。五月十六日、鼎三は『光明蔵三昧』出版届けを出す。五月二十六日、円福寺は鼎三を法地開山に勧請する。八月、鼎三は『光明蔵三昧』を「永平寺僧堂蔵版」として刊行する。八月二十四日、奕堂は山形県善宝寺にて示寂する。九月三日、国穩が発病する。九月六日午後二時、国穩が示寂した。九月二十五日、曹洞宗務局は「両本山貫首後董公選投票規程」を創定する。九月二十八日、曹洞宗務局より総持寺後董候補者に鼎三と冷生が推挙される。十月十八日、石川素童は永平寺副寺寮へ「光明蔵三昧清算書」を報告する。十一月十八日、静岡県令より秋葉寺再興許可が与えられ復寺する。十一月二十二日、道元禪師に承陽大師の諡号を賜わる。十二月、萊洲は観音寺の「承陽殿等再宮二付課金」を曹洞宗務局へ納める。</p> <p>二月、可睡齋と秋葉寺は復寺に合</p> |

| | | |
|-----|-----|---|
| 同 四 | 同 三 | 吹毛冷生 |
| | 一八一 | |
| | | |
| | | <p>二十九世</p> <p>意した上申書を曹洞宗務局へ提出する。三月十六日、鼎三は地藏堂中興開山となる。六月九日、可睡齋は「秋葉寺再興願二付盟約証」を広告する。六月三十日、秋葉寺法類等は「秋葉寺復旧願」を静岡県令へ提出する。十一月、冷生は宝林寺戒会に助化し、東光寺の過去帳の序を記した。十一月十日、鼎三は曹洞宗専門学支校の教師として加藤活龍（久岑寺二十三世）に卒業証書を出した。</p> <p>野田道環と田中は門が鼎三に随侍する。四月、鼎三は香積寺の戒会に助化する。四月頃、鼎三は秋葉寺へ転住する。冷生が法持寺住職となる。接航は秋葉寺役僧となり、復興に乗り出す。四月二十八日、可睡齋より秋葉寺へ本尊などを移す。七月、周智郡石切村の天野三四郎は秋葉寺へ磬子を寄贈する。八月、鼎三は秋葉寺へ入寺する。（秋葉寺保存普益会緒言）十月十八日、宮内省より秋葉寺へ「秋葉三尺坊大権現」額を下賜される。十一月六日、鼎三は秋葉寺の晋山式を行う。（天籟餘韻、鷹林香流への書簡）十一月七、八、九日、</p> |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|-----|----|--|
| 同五 | 一八三 | | |
| | | | 鼎三は秋葉寺の上棟式を修行する。(「天籟餘韻」、鷹林香流への書簡) 十一月八日、鼎三の秋葉寺晋山式。(「秋葉寺開創縁由及復寺再興報告」) 十一月九、十日、鼎三は秋葉寺上棟式を修行する。(「秋葉寺開創縁由及復寺再興報告」) 浅野斧山が鼎三に随侍する。一月十五日、接航は「秋葉寺開創縁由及復寺再興報告」を著わす。二月、鼎三は青井家過去帳の序を記した。四月十八日、鼎三は林昌寺へ秋葉三尺坊教会分社の秋葉講講元取締、村上良音へ同講大社長を依頼する。六月十八日、鼎三は林昌寺へ秋葉講講元取締及び秋葉寺教会出張所を依頼する。愛知県下教会総本社及び教会総取締も委任し、村上良音へ教会分社御膳講社長取締を依頼する。七月、鼎三は「秋葉寺再建講加盟簿」の緒言を記した。九月十八日、秋葉寺より林昌寺へ秋葉三尺坊真像一基が贈られる。十一月、鼎三は林昌寺に愛知講教会所を依頼し、村上良音へ愛知講取締社長及び火防講総取締 |

| 同六 | 一八三 | 三十世 童拳天珠 | |
|----|-----|-------------|--|
| | | | 縮を委任する。接航が秋葉寺の「本殿再建信心講化募緒言」を著わす。一月、鼎三は村上良音へ「教会依頼書」を出す。一月十六日、秋葉寺より林昌寺へ、秋葉教会結社派出のために秋葉三尺坊真像を授与する。一月十八日、鼎三は村上良音へ秋葉講社長総取締及び同講総取締、日出講社長、永寿講総取締を委任する。三月、鼎三は秋葉寺「幹化山林」の緒言を記す。三月一日より四月二十九日迄、秋葉寺開帳を修行する。(ただし、実際に修行されたかは疑問) 四月六日、冷生は法持寺の「境内其他什物等取調書」を記し、天珠に後席を譲る。冷生は慈照寺三十世に住職する。五月十日、永平寺貫首環溪は老衰のため退隠につき、後董候補者に鼎三と冷生が推挙される。五月二十一日、宮内省より秋葉寺へ秋葉寺本殿再建に付、金百円が下賜される。冬、慧等は天珠の結制で立職する。十月八日、忍衣妙信法尼(天珠の実母)が亡くなる。十月十九日、鼎三は尾張徳川家へ秋葉寺本殿再建の寄附を願う。十一 |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-----|-----|----|--|
| 同 七 | 一八四 | | <p>月、鼎三と接航は上京する。十二月一日、鼎三は宮内省へ参内し、秋葉寺の御守や御札などを献納する。十二月二十九日、尾張徳川家より秋葉寺へ金十円などの寄附があった。</p> <p>一月、村上良音は「林昌寺縁起書」を記す。一月十七日、鼎三は村上良音へ火防祭式室中伝法を行い、「囑証」を与える。四月十四日、永平寺と総持寺より慈照寺へ常恒会を免贖される。五月、鼎三は『観音懺法』跋を記す。八月十一日、太政官は神仏教導職制を廃止する。八月より十一月頃、鼎三は秋葉寺を退隠する。十一月八日、冷生は鼎三の代理として誓願寺で秋葉三尺坊の説教を行う。十二月七日、環溪密雲が示寂した。</p> <p>三月、鼎三は『明治観音懺法』<small>治明新陳白</small>を三浦兼助より刊行する。三月二日、天珠は円通寺の竣工式に出席する。四月三日、鼎三は大光院で環溪密雲の報恩会が修行され疏を作る。五月五日、永平寺で環溪の茶毘式が修行され、冷</p> |
| 同 六 | 一八五 | | |

| | | | |
|-----|-----|--|---|
| 同 九 | 一八六 | | <p>生は僧堂単頭、接航は茶毘式係書記として随喜する。五月十八日、天珠は妙覚寺における旃崖奕堂七回忌、實參督全の五十回忌の香語を述べる。八月十日、永平寺貫首鐵肝雪鴻が示寂した。八月十八日、曹洞宗務局は永平寺後董候補者を発表し、鼎三と冷生が推挙される。八月、鼎三は山田大応編『増註六祖壇経』の題字を記した。九月十日、『光明蔵三昧』（永平寺僧堂蔵版）の版木を曹洞宗大学林専門学校へ寄付された。冬、浅野斧山は天珠の下で立身した。十一月二十六日、貞道が洗月院四世に住職する。</p> <p>一月、四代目助高屋高助は千歳座で興行中に胃病をおこした。二月二日午後九時頃、四代目助高屋高助が死去した。四月二十八、二十九日、永平寺で鐵肝雪鴻の茶毘式及び滝谷琢宗の晋山開堂式を行う。七月、鼎三は『参同契薰猶談』に書入れする。旧八月八日、天珠は円通寺の開祖忌に出席する。九月三十日、鼎三と接航は牧野泰淳へ「叢林行脚証明状」を呈する。十月二十七日、冷生は永平寺後堂</p> |
|-----|-----|--|---|

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|---------|-----|----|------|
| 同 二二 | 一八九 | | |
| 同 二二 | 一八八 | | |
| 同 二二 | 一八七 | | |
| 同 二二 | 一八六 | | |
| 同 二二 | 一八五 | | |
| 同 二二 | 一八四 | | |
| 同 二二 | 一八三 | | |
| 同 二二 | 一八二 | | |
| 同 二二 | 一八一 | | |
| 同 二二 | 一八〇 | | |
| 同 二二 | 一七九 | | |
| 同 二二 | 一七八 | | |
| 同 二二 | 一七七 | | |
| 同 二二 | 一七六 | | |
| 同 二二 | 一七五 | | |
| 同 二二 | 一七四 | | |
| 同 二二 | 一七三 | | |
| 同 二二 | 一七二 | | |
| 同 二二 | 一七一 | | |
| 同 二二 | 一七〇 | | |
| 同 二二 | 一六九 | | |
| 同 二二 | 一六八 | | |
| 同 二二 | 一六七 | | |
| 同 二二 | 一六六 | | |
| 同 二二 | 一六五 | | |
| 同 二二 | 一六四 | | |
| 同 二二 | 一六三 | | |
| 同 二二 | 一六二 | | |
| 同 二二 | 一六一 | | |
| 同 二二 | 一六〇 | | |
| 同 二二 | 一五九 | | |
| 同 二二 | 一五八 | | |
| 同 二二 | 一五七 | | |
| 同 二二 | 一五六 | | |
| 同 二二 | 一五五 | | |
| 同 二二 | 一五四 | | |
| 同 二二 | 一五三 | | |
| 同 二二 | 一五二 | | |
| 同 二二 | 一五一 | | |
| 同 二二 | 一五〇 | | |
| 同 二二 | 一四九 | | |
| 同 二二 | 一四八 | | |
| 同 二二 | 一四七 | | |
| 同 二二 | 一四六 | | |
| 同 二二 | 一四五 | | |
| 同 二二 | 一四四 | | |
| 同 二二 | 一四三 | | |
| 同 二二 | 一四二 | | |
| 同 二二 | 一四一 | | |
| 同 二二 | 一四〇 | | |
| 同 二二 | 一三九 | | |
| 同 二二 | 一三八 | | |
| 同 二二 | 一三七 | | |
| 同 二二 | 一三六 | | |
| 同 二二 | 一三五 | | |
| 同 二二 | 一三四 | | |
| 同 二二 | 一三三 | | |
| 同 二二 | 一三二 | | |
| 同 二二 | 一三一 | | |
| 同 二二 | 一三〇 | | |
| 同 二二 | 一二九 | | |
| 同 二二 | 一二八 | | |
| 同 二二 | 一二七 | | |
| 同 二二 | 一二六 | | |
| 同 二二 | 一二五 | | |
| 同 二二 | 一二四 | | |
| 同 二二 | 一二三 | | |
| 同 二二 | 一二二 | | |
| 同 二二 | 一二一 | | |
| 同 二二 | 一二〇 | | |
| 同 二二 | 一一九 | | |
| 同 二二 | 一一八 | | |
| 同 二二 | 一一七 | | |
| 同 二二 | 一一六 | | |
| 同 二二 | 一一五 | | |
| 同 二二 | 一一四 | | |
| 同 二二 | 一一三 | | |
| 同 二二 | 一一二 | | |
| 同 二二 | 一一一 | | |
| 同 二二 | 一一〇 | | |
| 同 二二 | 一〇九 | | |
| 同 二二 | 一〇八 | | |
| 同 二二 | 一〇七 | | |
| 同 二二 | 一〇六 | | |
| 同 二二 | 一〇五 | | |
| 同 二二 | 一〇四 | | |
| 同 二二 | 一〇三 | | |
| 同 二二 | 一〇二 | | |
| 同 二二 | 一〇一 | | |
| 同 二二 | 一〇〇 | | |
| 同 二二 | 九九 | | |
| 同 二二 | 九八 | | |
| 同 二二 | 九七 | | |
| 同 二二 | 九六 | | |
| 同 二二 | 九五 | | |
| 同 二二 | 九四 | | |
| 同 二二 | 九三 | | |
| 同 二二 | 九二 | | |
| 同 二二 | 九一 | | |
| 同 二二 | 九〇 | | |
| 同 二二 | 八九 | | |
| 同 二二 | 八八 | | |
| 同 二二 | 八七 | | |
| 同 二二 | 八六 | | |
| 同 二二 | 八五 | | |
| 同 二二 | 八四 | | |
| 同 二二 | 八三 | | |
| 同 二二 | 八二 | | |
| 同 二二 | 八一 | | |
| 同 二二 | 八〇 | | |
| 同 二二 | 七九 | | |
| 同 二二 | 七八 | | |
| 同 二二 | 七七 | | |
| 同 二二 | 七六 | | |
| 同 二二 | 七五 | | |
| 同 二二 | 七四 | | |
| 同 二二 | 七三 | | |
| 同 二二 | 七二 | | |
| 同 二二 | 七一 | | |
| 同 二二 | 七〇 | | |
| 同 二二 | 六九 | | |
| 同 二二 | 六八 | | |
| 同 二二 | 六七 | | |
| 同 二二 | 六六 | | |
| 同 二二 | 六五 | | |
| 同 二二 | 六四 | | |
| 同 二二 | 六三 | | |
| 同 二二 | 六二 | | |
| 同 二二 | 六一 | | |
| 同 二二 | 六〇 | | |
| 同 二二 | 五九 | | |
| 同 二二 | 五八 | | |
| 同 二二 | 五七 | | |
| 同 二二 | 五六 | | |
| 同 二二 | 五五 | | |
| 同 二二 | 五四 | | |
| 同 二二 | 五三 | | |
| 同 二二 | 五二 | | |
| 同 二二 | 五一 | | |
| 同 二二 | 五〇 | | |
| 同 二二 | 四九 | | |
| 同 二二 | 四八 | | |
| 同 二二 | 四七 | | |
| 同 二二 | 四六 | | |
| 同 二二 | 四五 | | |
| 同 二二 | 四四 | | |
| 同 二二 | 四三 | | |
| 同 二二 | 四二 | | |
| 同 二二 | 四一 | | |
| 同 二二 | 四〇 | | |
| 同 二二 | 三九 | | |
| 同 二二 | 三八 | | |
| 同 二二 | 三七 | | |
| 同 二二 | 三六 | | |
| 同 二二 | 三五 | | |
| 同 二二 | 三四 | | |
| 同 二二 | 三三 | | |
| 同 二二 | 三二 | | |
| 同 二二 | 三一 | | |
| 同 二二 | 三〇 | | |
| 同 二二 | 二九 | | |
| 同 二二 | 二八 | | |
| 同 二二 | 二七 | | |
| 同 二二 | 二六 | | |
| 同 二二 | 二五 | | |
| 同 二二 | 二四 | | |
| 同 二二 | 二三 | | |
| 同 二二 | 二二 | | |
| 同 二二 | 二一 | | |
| 同 二二 | 二〇 | | |
| 同 二二 | 一九 | | |
| 同 二二 | 一八 | | |
| 同 二二 | 一七 | | |
| 同 二二 | 一六 | | |
| 同 二二 | 一五 | | |
| 同 二二 | 一四 | | |
| 同 二二 | 一三 | | |
| 同 二二 | 一二 | | |
| 同 二二 | 一一 | | |
| 同 二二 | 一〇 | | |
| 同 二二 | 〇九 | | |
| 同 二二 | 〇八 | | |
| 同 二二 | 〇七 | | |
| 同 二二 | 〇六 | | |
| 同 二二 | 〇五 | | |
| 同 二二 | 〇四 | | |
| 同 二二 | 〇三 | | |
| 同 二二 | 〇二 | | |
| 同 二二 | 〇一 | | |

| 日本暦 | 西暦 | 世 代 | 関 係 事 項 |
|---------|------|--------|--|
| 同 二五 | 一八五二 | | <p>山は永平寺に出世する。五月二十八日、曹洞宗務局は永平寺後董候補者を発表し、鼎三、冷生、接航らが推挙される。九月、鼎三は笠間龍跳の『般若心経平談』に題辞を贈る。十月二十八日、濃尾大震災が起こり、法持寺本堂、開山堂、玄関などを破損する。正法寺、延命寺の本堂も倒壊した。十一月二十八日、鼎三は野口氏の浄財による震災没故者供養の甘露無遮会で、香語を述べる。十二月十二日、慧等は延命寺二十七世に住職する。十二月十六日、天珠は龍心寺の戒会に助化する。十二月二十四日、鼎三は牧野泰淳へ書簡を出す。金宝山林昌寺は秋葉山宝昌寺と改称した。三月十九日、総持寺貫首畔上模仙は管長の権限を以て、随意両本山分離独立の達書を發布した。そして両山盟約の無効を永平寺に通じ、曹洞宗務本支局を廃止して曹洞宗議会の消滅を告げ、且つ内務大臣に曹洞宗宗制の取消と両本山分離の請願を発表した。五月、鼎三は広厳院住職鷹林香流へ</p> |

| | | | |
|---------|------|--|---|
| 同 二六 | 一八五三 | | <p>「回向疏」「檀上礼」などを書写して贈る。九月二十七日、鼎三は成福寺で修行された青井家先祖供養歎仏会の導師を務める。十月一日、天珠は法持寺の「<small>（震災）</small>寄附簿」緒言を記した。十月二十五日、天珠は興聖寺住職西野石梁へ道旧疏を贈る。十一月、鼎三は病床に臥した。十一月二十八日午前十時、二十八世鼎三即一が示寂した。三月二十三日、斧山は天年寺十六世に住職する。五月十四日、天珠は正法寺二十三世徳有東隣が示寂したため、茶毘式の乗炬師となる。五月三十一日、金宝山林昌寺より秋葉山宝昌寺への改寺届を出す。八月、天珠は生家の大島家過去帳を改写して序を記した。八月、天珠は永平寺後堂に特命される。九月二十七日、天珠は永平寺の高祖承陽忌の午時焼香師を務める。十一月、拙堂魯中は鼎三の一周忌香語を述べる。十一月二十二日、正法寺の本堂、開山堂などが再建されて遷仏式を行った。十二月十二日、天珠は久雲寺の戒会に助化する。十二月二十一日、貞道は宝泉寺十三世に特命される。</p> |
|---------|------|--|---|

| | |
|------------------|--|
| 日本暦 | 同 二七 |
| 西暦 | 一八五 |
| 世 代 | |
| 関 係 事 項 | <p>三月、『天籟餘韻』が刊行される。三月十三日、慧等は洗月院五世に住職した。夏、貞道は宝泉寺で結制を修行する。九月三十日、天珠は永平寺後堂が満期となり、法持寺へ帰山する。十一月五日、一心寺十四世月定愛光が示寂したため、天珠は奠湯師となる。(無依餘稿) 十二月十七日、永平寺貫首森田悟由は両本山分離紛議の責任を感じ、住職の退任を曹洞宗務局へ通達する。十二月三十一日、曹洞宗務局は「曹洞宗非常法規」に準じて森田悟由を永平寺貫首、畔上棟仙を総持寺貫首に特選する。四月二十日、冷生は福井県訓令により永平寺の伽藍、什物などの取調事項を提出する。五月十六日、春養寺八世哲玄亮周が示寂したため、天珠は拳鑿師となる。五月二十八日、永平寺において森田悟由の晋山式を行う。冷生は監院兼晋山式総轄、接航は晋山係、天珠は単頭として随喜する。六月、貞道は宝泉寺の「講会連名簿」の緒言を記す。六月二十一日、冷生は永</p> |

同
二九

一八六

平寺において故有栖川宮殿下及び征清戦死病没者追吊会の導師を務める。七月十五日、冷生は森田悟由の「御晋山式礼顛末並金穀出納精算」を全国末派寺院へ報告する。十月九日、冷生は「慈照寺由緒及財産取調書」を作成する。十一月二日、内務大臣の認可を得て、「曹洞宗非常法規」が廃止される。

二月十五日、天珠は吉田義道へ「叢林行脚証明状」を出す。五月六日、天珠は妙覚寺の戒会に助化する。法持寺僧堂の雲衲三十余名が随喜する。六月二十八日、天珠は全隆寺で行われた岩手、宮城、青森各県溺死者無遮会に出席する。八月八日、冷生は永平寺東京出張所執事、曹洞宗務局定時及臨時教師検定会検定委員長、第二護法会臨時総轄に任ぜられる。八月十五日、貞道は宝泉寺を退院し、管天寺三十世特命住職になる。十月二十日、第四次曹洞宗議会が開かれ、冷生は越本山東京出張所執事として出席する。十二月十五日、曹洞宗務局は法持寺の曹洞宗認可僧堂を許可する。十二月十九

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|----------|------|----|--|
| 同 三十一 | 一八九七 | | 日、天珠は長盛院の戒会に助化する。十二月二十一日、冷生は曹洞宗務局紀綱寮寮司、副司の改選に立会いする。 慧等は曹洞宗准師家となる。一月三十一日、滝谷琢宗が示寂した。三月二十五日、冷生は老衰により各公職を辞任する。三月中旬、慧等は濃尾震災によって倒壊した延命寺本堂再建の勸募文を記し、寄附を募った。六月十日、普濟寺は山門と衆寮を除き灰燼に帰した。なお、靈廟は無事であった。九月二十六日、永平寺において琢宗の荼毘式を行う。十月二十一日、天珠は法持寺の「上地山林引戻申請書」を農商務大臣大隈重信へ提出する。十一月二日、冷生は慈照寺僧堂を開単する。 |
| 同 三十二 | 一九〇九 | | 一月、天珠は病床に臥す。一月二十八日、二十九世吹毛冷生が示寂した。一月二十九日、永平寺貫首森田悟由より冷生へ本山西堂位が贈られる。 十一月、福寿寺の佐藤大孝は道元禪師六五〇回大遠忌にあたり、そ |
| 同 三十三 | 一九〇〇 | | の報恩行として江湖会を開き、西堂に慧等が招聘されて授戒会の戒師を務めた。 十二月、三橋徹宗は『現行社寺法規摘要 仏教各宗派宗制大全』を刊行する。十二月二十五日、畔上棟仙は老衰のため総持寺を退董し、後董候補者に接航推挙される。投票の結果は、天珠が一票を得る。 四月十八日より永平寺で道元禪師六五〇回大遠忌が修行される。四月二十一日、天珠はその法要導師を務める。八月八日、浅野斧山が曹洞宗大学林教授に任命される。春、慧等が両本山巡回布教師に任命され、新潟県地方を巡回した。四月、熱田社宮司角田忠行と権宮司松岡義男らによって、陵上に「白鳥御陵」の碑が建てられた。 十二月二十八日、天珠は法持寺の「諸堂宮繕出納記録」を記した。 春、奥行六間、横八間の延命寺本堂及び開山堂を新築した。一月、鷹林香流と河内嶺道は冷生の七回忌に真影へ森田悟由の贊をもとめる。二月十日、天珠は法持寺を貞道に譲り、洗月院へ退隱する。三月十日、『新編 観音懺法』を京都 |
| 同 三十四 | 一九〇〇 | | |
| 同 三十五 | 一九〇二 | | |
| 同 三十六 | 一九〇三 | | |
| 同 三十七 | 一九〇四 | | |
| 同 三十八 | 一九〇五 | | |
| 同 三十九 | 一九〇六 | | |
| 同 四十 | 一九〇七 | | |
| 同 四十一 | 一九〇八 | | |
| 同 四十二 | 一九〇九 | | |
| 同 四十三 | 一九一〇 | | |
| 同 四十四 | 一九一〇 | | |
| 同 四十五 | 一九一〇 | | |
| 同 四十六 | 一九一〇 | | |
| 同 四十七 | 一九一〇 | | |
| 同 四十八 | 一九一〇 | | |
| 同 四十九 | 一九一〇 | | |
| 同 五十 | 一九一〇 | | |
| 同 五十一 | 一九一〇 | | |
| 同 五十二 | 一九一〇 | | |
| 同 五十三 | 一九一〇 | | |
| 同 五十四 | 一九一〇 | | |
| 同 五十五 | 一九一〇 | | |
| 同 五十六 | 一九一〇 | | |
| 同 五十七 | 一九一〇 | | |
| 同 五十八 | 一九一〇 | | |
| 同 五十九 | 一九一〇 | | |
| 同 六十 | 一九一〇 | | |
| 同 六十一 | 一九一〇 | | |
| 同 六十二 | 一九一〇 | | |
| 同 六十三 | 一九一〇 | | |
| 同 六十四 | 一九一〇 | | |
| 同 六十五 | 一九一〇 | | |
| 同 六十六 | 一九一〇 | | |
| 同 六十七 | 一九一〇 | | |
| 同 六十八 | 一九一〇 | | |
| 同 六十九 | 一九一〇 | | |
| 同 七十 | 一九一〇 | | |
| 同 七十一 | 一九一〇 | | |
| 同 七十二 | 一九一〇 | | |
| 同 七十三 | 一九一〇 | | |
| 同 七十四 | 一九一〇 | | |
| 同 七十五 | 一九一〇 | | |
| 同 七十六 | 一九一〇 | | |
| 同 七十七 | 一九一〇 | | |
| 同 七十八 | 一九一〇 | | |
| 同 七十九 | 一九一〇 | | |
| 同 八十 | 一九一〇 | | |
| 同 八十一 | 一九一〇 | | |
| 同 八十二 | 一九一〇 | | |
| 同 八十三 | 一九一〇 | | |
| 同 八十四 | 一九一〇 | | |
| 同 八十五 | 一九一〇 | | |
| 同 八十六 | 一九一〇 | | |
| 同 八十七 | 一九一〇 | | |
| 同 八十八 | 一九一〇 | | |
| 同 八十九 | 一九一〇 | | |
| 同 九十 | 一九一〇 | | |
| 同 九十一 | 一九一〇 | | |
| 同 九十二 | 一九一〇 | | |
| 同 九十三 | 一九一〇 | | |
| 同 九十四 | 一九一〇 | | |
| 同 九十五 | 一九一〇 | | |
| 同 九十六 | 一九一〇 | | |
| 同 九十七 | 一九一〇 | | |
| 同 九十八 | 一九一〇 | | |
| 同 九十九 | 一九一〇 | | |
| 同 百 | 一九一〇 | | |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|------|------|----|---|
| 同 三六 | 一九〇五 | | の松柏堂出雲寺文治郎より再刊する。三月二十八日、天珠は福寿院徒弟中村信義へ「法持寺認可僧堂安居証明状」を出す。四月二十二日、三十世童拳天珠が示寂した。六月二十七日、義明は明達慧等について出家剃髪する。八月二十八日、慧等は延命寺の諸堂を復興する。貞道は野口吉十郎へ延命寺再興の功による「中興開基免牘」を贈る。九月十三日、釈貞寿禅尼（貞道の実母）が亡くなる。（法持寺過去帳）九月、斧山が管天寺三十一世に住職する。十二月二十日、貞道は村上良音へ宝昌寺の「中興免牘」を贈る。 |
| 同 三九 | 一九〇六 | | 四月、大本山総持寺貫首に最乗寺住職石川素童が就任する。その後、慧等は石川素童の随行長を務める。 |
| 同 四一 | 一九〇七 | | 法持寺は公認の曹洞宗認可僧堂となる。四月十六日より法持寺で授戒会を修行する。また、天珠の三回忌も併修された。十月十四日、西来寺において鼎三の十七回忌予修法要と接航の斎忌 |

| | | | |
|------|------|--|---|
| 同 四二 | 一九〇八 | | が営弁された。一月、斧山が祇園寺二十二世に住職する。二月十五日、貞道は法持寺より国分寺三十三世へ転住する。三月十四日、慧等は法持寺三十二世に就いた。四月二十六日、貞道が国分寺三十三世の晋山式を行う。七月二十六日、法持寺で愛知県曹洞宗寺院による練習艦隊松島艦殉難者各英霊の供養が行われ、石川素童が親化した。十月、三橋徹宗は大泉寺において天珠の七回忌予修法要を修行する。 |
| 同 四三 | 一九〇九 | | 六月十六日、慧等が曹洞宗師家に任命される。十月二十六日、貞道は曹洞宗務局へ「国分寺干与者住所資格氏名印鑑届」を提出する。普濟寺の本堂と庫裡が再建された。森田悟由は冷生の十三回忌香語を述べた。冬、義明は法持寺で立身した。 |
| 同 四四 | 一九一〇 | | 四月から義明は大本山総持寺祖院に掛搭した。六月、斧山は『東卓全集』を刊行する。七月十六日、斧山は最勝院四十三世に転住した。十一月、斧山は一喝社より『禅病論』を刊行する。十一月五日、慧等は総持寺の遷祖移転式に随喜 |

| 日本暦 | 西暦 | 世 代 | 関 係 事 項 |
|-------------|------------------|--------|---|
| 同 四 五 | 一 九 二 三 | | 二月八日、義明は慧等の室に入つて嗣法する。六月一日、浅野斧山が示寂した。七月十日、得応全瑞禅尼(天珠の実姉)が亡くなる。七月十日、三十一世亨元貞道が示寂する。 |
| 大正 二 | 一 九 二 三 | | 大森禅戒は大塚洞外に冷生の真影を画かせ、森田悟由の賛をもとめる。八月、法持寺夏安居の首座は村橋明道であった。十月二日より八日迄、法持寺で授戒会修行。十月七日、鼎三と冷生の年忌、天珠の十三回忌法要を行う。 |
| 同 三 | 一 九 二 四 | | 二月二十六日、慧等は姓を明達から山田と改姓した。(宗報「第四三七号、四三八号」)六月三日、慧等は曹洞宗議会議員に特選される。 |
| 同 六 | 一 九 二 七 | | 八月二十五日、諦観高明が誕生する。九月二十九日、義明は延命寺二十九世に首先住職する。 |
| 同 七 | 一 九 二 八 | | 四月二十八日、義明は曹洞宗大学宣教部の一人として大本山総持寺の日曜公演の弁士となった。六月十日、慧等が福井県坂井郡雄島村宿拾八字桑畑七番ノ壹地の既設建 |

| | | | |
|---------|------------------|--|--|
| 同 八 | 一 九 二 九 | | 物を法持寺説教所とする設置願を曹洞宗務局庶務部長と福井県知事へ出した。十二月二十日、西垣活通は天珠を十一世に勧請し、林泉寺の常恒会免贖を受ける。 |
| 同 九 | 一 九 三 〇 | | 義明は慶寿院十二世に転住する。一月一日、栗木智堂は曹洞宗務院総務に任ぜられる。 |
| 同 十 | 一 九 三 一 | | 白鳥山別院の執事であった三浦大心は慧光院二世に就き、教化活動に努めた。十月十二日、貞道は対馬市の延命寺の中興開山に勧請される。 |
| 同 十一 | 一 九 三 二 | | 三月二十二日、慧等は中川区江松にある秋葉社の守護堂の仙寿庵を千葉県市原郡富山村大字古敷谷にあつた寺籍を移転して常盤寺とし、寺籍移転開山に勧請された。 |
| 同 十二 | 一 九 三 三 | | 七月八日、天年寺は山門を除いて全山を焼失し、同十四年に再建された。八月、慧等は私財を投じて法持寺認可僧堂内に小学生以上の園生五十名を募集し、中学規定の普通学と宗乗、余乗の専門学を研鑽する白鳥学園を開設した。(宗報「第六一五号、「中外日報」九月、国穂と鼎三が校訂した『仏遺教経』(天保版)が京都の永田文昌堂 |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|------|------|----|---|
| 同 十二 | 一九三三 | | より再刊される。 慧等は私財を投じて熱田女学校を設立する。三月三日、義明は真珠院四十二世に転住する。 |
| 同 十三 | 一九四四 | | 秋、三浦大心は慧光院の仮本堂を建立し、解脱上人作の釈迦如来像を本尊にして天白吒枳尼天を鎮守とし祀った。 |
| 同 十四 | 一九四五 | | 一月、慧等は白鳥慈善講を組織して講主となった。 |
| 同 十五 | 一九四六 | | 二月十七日、法持寺講堂にて、小松原同乗、木下月影、宮坂喆宗らを招聘して仏教講演会が開催され聴衆で満室となった。(名古屋市仏教会要覧) 三月、白鳥山説教所を愛知郡天白村大字野並字相生二十八番地ノ十一に設置する「教会所設置願」が設立者兼管理人三浦大心より愛知県知事へ提出された。 |
| 昭和 三 | 一九一六 | | 六月一日、法持寺は曹洞宗専門僧堂に指定される。六月十七日、林松寺二十二世服部正男の晋山結制及び授戒会の西堂、戒師を慧等が務める。七月十五日、法持寺専門僧堂が開設された。(白鳥山記録、「教師養成機関ニ関スル調査表」) |
| 同 四 | 一九二〇 | | 一月十五日、高明は真珠院四十二世川口義明について得度する。 |
| 同 五 | 一九三〇 | | 二月、慧等は養泉寺専門僧堂の師家となる。 |
| 同 八 | 一九三三 | | 一月十七日、法持寺安居僧及び関係者によって白鳥凌雲会が結成され、慧等がその総裁となった。 |
| 同 九 | 一九四四 | | 四月二十四日、慧光院二世三浦大心は晋山式を行い、翌日より授戒会を厳修した。十月、大名古屋八十八ヶ所霊場が選定され、法持寺は第五十六番霊場となった。 |
| 同 十 | 一九四五 | | 四月二十六日、慧等は管長の諮問機関として設けられた宗機顧問所の顧問に任命された。(宗報一第 九一〇号) 七月四、五日、義明は宗務院樓上で開かれた最初の曹洞宗師家会議に出席する。(天法輪新聞) |
| 同 十三 | 一九一六 | | 十二月三十日、高明は川口義明の室に入って法を嗣ぐ。 |
| 同 十五 | 一九一六 | | 八月十五日午前四時、三十二世慧等兼修が七十三歳で遷化した。八月十七日、慧等の密葬が行われ、九月十七日午後二時より本葬が行われた。十一月十八日、義明が法持寺三十三世の法燈を継承する。 |
| 同 十六 | 一九一七 | | 十一月二十四日、高明は大本山永 |

三十三世
光山義明

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|------|------|----|---|
| 同 二五 | 一九四〇 | | 平寺に瑞世する。 義明は法持寺夏安居で初会結制を修行する。 |
| 同 二六 | 一九四一 | | 三月二十五日、義明は曹洞宗師家に任命される。六月十日、高明は大本山総持寺に瑞世する。 |
| 同 二七 | 一九四二 | | 四月二十五日、義明は大本山永平寺報恩授戒会の午時焼香師を務める。九月、山岡荘八は法持寺へ来山した折、庭に多くの藪柑子が茂っていた様子を歌う。 |
| 同 二八 | 一九四五 | | 三月十一日、天年寺が空襲によって焼失した。三月十二日、洞仙寺が夜間空襲によって諸堂宇を焼失した。五月十七日、未明の午前〇時四十分頃、約百機のB二十九が来襲し、法持寺は全山が灰燼に帰した。十一月二十二日、高明は曹洞宗務院に設置された曹洞宗振興会の書記に就いた。 |
| 同 二九 | 一九四六 | | 一月、義明は名古屋市が建てた戦災復興住宅を購入して寺の事務所とした。二月二十八日、鉄地蔵堂は宗教法人令により「如来宗」を標榜して法人となる。 |
| 同 三〇 | 一九四七 | | 五月三日、熱田神宮の管理下に |

| | | | |
|------|------|--|---|
| 同 三一 | 一九四八 | | あつた白鳥御陵は、戦災復興都市計画により名古屋市へ供出した。 |
| 同 三二 | 一九四九 | | 十二月、義明は六十四坪の仮本堂、庫裡を建立して本堂再建に務める。 |
| 同 三三 | 一九五〇 | | 一月十四日、法持寺境内が宮中学校の建設地に決定した。三月十六日、大徹高風が誕生する。四月、義明は愛知県知事と名古屋市長へ陳情書を出す。 |
| 同 三四 | 一九五一 | | 十二月、法持寺の墓石が名古屋市千種区の平和公園へ移転される。 |
| 同 三五 | 一九五二 | | 七月五日、鉄地蔵堂、宗教法人法によって宗教法人嬬婁院と称し、法持寺より離末した。 |
| 同 三六 | 一九五三 | | 七月二十九日、高明は成福寺九世に首先任職し、冬安居結制江湖会を修行した。 |
| 同 三七 | 一九五四 | | 五月一日、法持寺は現在地へ移転して落慶移転入仏式が行われた。 |
| 同 三八 | 一九五五 | | 十月、高明はスライドの「木の芽茶屋」を愛知県第一曹洞宗務所より発行する。 |
| 同 三九 | 一九五六 | | 五月二十六日、法持寺に慧等の随徒が集まり、白鳥慈恩会を結成した。 |
| 同 四〇 | 一九五七 | | 十二月八日、高風は成福寺九世川口高明について得度する。 |
| 同 四一 | 一九五八 | | 十月十四日、義明は大本山総持寺 |

| 日本暦 | 西暦 | 世代 | 関係事項 |
|-------|------|---------------|--|
| 同 四十二 | 一九六六 | 三十四世 諦観・高明 | 御忌会で御両尊献供諷経の焼香師を務める。 十一月二日、三十三世光山義明が享年七十七歳で示寂した。十一月二十四日、高明は法持寺三十四世の法燈を継ぐ。 冬、高風は川口高明の下で立身する。 二月二十四日、高風は川口高明の室に入って嗣法した。 七月二十二日、大関北の湖関が史上最年少の二十一歳二ヵ月で第五十五代横綱に推挙されたため、その伝達式が法持寺本堂で行われた。 六月三日、高明は延命寺の兼務住職に就く。 八月から翌年十一月頃迄に天年寺の庫裡、書院、開山堂が完成した。 六月、高風は『白鳥鼎三和尚研究』を第一書房より刊行した。 二月二日、高明は慧光院の兼務住職に就く。 七月、横綱北の湖関が名古屋場所で八百勝の新記録を達成した。 一月、高明は旧本堂、庫裡などの解体に着手した。三月三十日に地 |
| 同 四十三 | 一九六七 | | |
| 同 四十四 | 一九六八 | 三十五世 大徹・高風 | 鎮式を行って庫裡（書院）の再建が始まった。九月二十九日、高明は東京の国技館で行われた横綱北の湖関の引退断髮式に招かれ、髻にハサミを入れた。 二月、本堂の再建工事が始まった。 一月二十七日、高風は慧光院五世に就く。四月、山門、弘法堂、水屋、塀、境内整備が始まる。 四月三十日、新伽藍が竣工した。 十月三十日、落慶式が営まれた。 十一月十九日、高明は空雲寺の兼務住職を務める。 六月九日、高風は延命寺と常盤寺の兼務住職に就いた。 夏安居、高風は慧光院で初会結制を修行する。七月二十五日、北の湖親方が日本相撲協会理事長に就任した時の挨拶の記念碑が法持寺境内に建立された。 五月十一日、高明は法持寺を退董し慧光院へ隠棲する。高風は法持寺三十五世に就き、十月三十一日に晋山結制を修行し、『明治期以後の法持寺史』を記念出版した。 四月十三日、高風は大本山総持寺報恩授戒会において焼香師を務める。 |
| 同 四十五 | 一九六九 | | |
| 同 四十六 | 一九七〇 | 三十六世 同 五 | 同 五 一九七〇 |
| 同 四十七 | 一九七〇 | | |
| 同 四十八 | 一九七〇 | 三十七世 同 六 | 同 六 一九七〇 |
| 同 四十九 | 一九七〇 | | |
| 同 五十 | 一九七〇 | 三十八世 同 七 | 同 七 一九七〇 |
| 同 五十一 | 一九七〇 | | |
| 同 五十二 | 一九七〇 | 三十九世 同 八 | 同 八 一九七〇 |
| 同 五十三 | 一九七〇 | | |
| 同 五十四 | 一九七〇 | 四十世 同 九 | 同 九 一九七〇 |
| 同 五十五 | 一九七〇 | | |
| 同 五十六 | 一九七〇 | 四十一世 同 十 | 同 十 一九七〇 |
| 同 五十七 | 一九七〇 | | |
| 同 五十八 | 一九七〇 | 四十二世 同 十一 | 同 十一 一九七〇 |
| 同 五十九 | 一九七〇 | | |
| 同 六十 | 一九七〇 | 四十三世 同 十二 | 同 十二 一九七〇 |
| 同 六十一 | 一九七〇 | | |

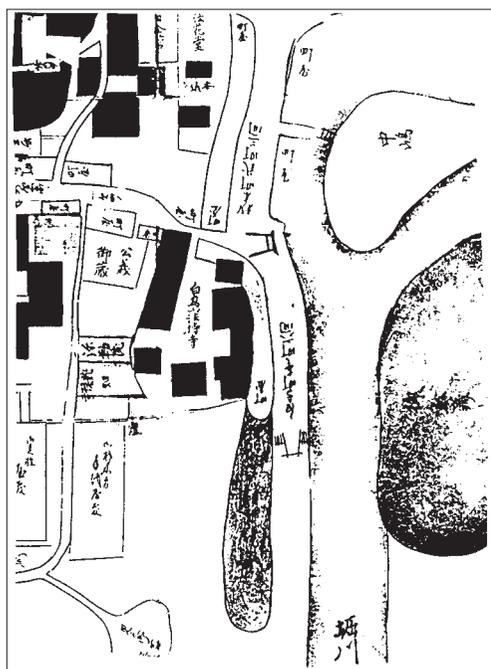
| 日本暦 | 同 二十一 |
|------------------|---|
| 西暦 | 二〇〇九 |
| 世 代 | |
| 関 係 事 項 | 三月二日午後七時四十分、三十四世諦観高明が享年九十三歳で示寂した。三月五日に密葬、三月三十日に本葬を修行した。四月二十六日、高風は大本山永平寺報恩授戒会において焼香師を務める。 三月、高風は『熱田白鳥山法持寺史』を刊行する。 |
| | 同 二五 |
| | 二〇一三 |

「白鳥町家並帳」における

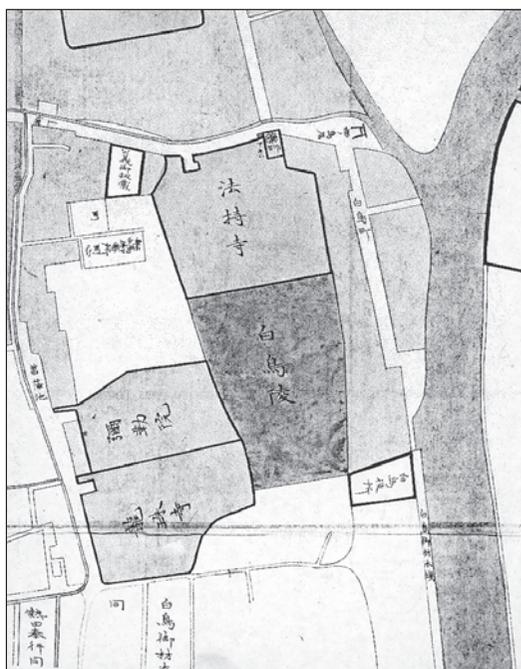
法持寺の不動産について

川口 高風

法持寺（名古屋市熱田区白鳥）の所在する白鳥町は『熱田町旧記』によれば、白鳥下町ともいう。日本武尊が死後、白鳥となって飛来し留まった所といわれることから地名の由来となっている。この古墳を境内にもつ法持寺の山号が白鳥山といわれ、町並みが白鳥山の下に形成されたことから白鳥下町とも呼ばれたものであろう。町並みは法持寺の西南の隅にあった高見薬師堂から北へ七十七間であった。また、町の北部にも田畑が広がり、これも含めて白鳥町と呼んでいたともいわれる。白鳥古墳の北には白鳥御材木御役所があり、この町と南の材木町、中島辺りが最初の材木置場となって木曾材の集散地であった。なお、堀川を挟んだ対岸には白鳥貯木場があった。



『熱田町中詳細図』（徳川黎明会蔵）より



『尾張志』より

さて、白鳥町の町家の「家並帳」がある。それは徳川林政史研究所に所蔵する「尾張国熱田旗屋町岡本家文書目録」にあり、作成者、不動産に関する記載、所有者に関する記載などの内容をあげてみると、左の表のようになり、正徳五年（一七一五）六月より寛政四年（一七九二）六月までの「家並帳」六種と文化十三年

（二八一六）十月に家並を図面におとした「白鳥町家並図面」がある。
家並は法持寺境内の西側にあり、明治十七年一月の地籍図（愛知県公文書館蔵）によれば、白鳥町一七〇、一七一、一七二、一七三番と堀川筋側の同町一、二、三が該当する。

| 番号 | 年 月 | 資 料 名 | 作 成 者 | 不 動 産 に 関 す る 記 載 | 所 有 者 に 関 す る 記 載 | 備 考 |
|-----|---------------|---------|-------------------------|-------------------|-------------------|---------|
| (1) | 正徳五年（一七一五）六月 | 白鳥町家並帳 | 月行事 六郎兵衛 味之助 | 大きさ | 持主（名前）地主 | 伝来・役を記す |
| (2) | 享保六年（一七二二）九月 | 白鳥町家並帳 | 町代 久治郎 佐左衛門 | 大きさ・鍵 | 持主（名前）地主 | 伝来・役を記す |
| (3) | 元文三年（一七三八）七月 | 白鳥町家並帳 | 町代 善吉 | 大きさ・鍵 | 持主（名前）地主 | 伝来・役を記す |
| (4) | 宝暦八年（一七五八）二月 | 白鳥町家並帳 | 月行事 又右衛門 善三郎 | 大きさ・鍵 | 持主（名前）地主 | 伝来・役を記す |
| (5) | 安永六年（一七七七）九月 | 白鳥町家並帳 | 材木町町代 又三郎から白鳥町月行事 佐左衛門へ | 大きさ・鍵 | 持主（名前）地主 | 伝来・役を記す |
| (6) | 寛政四年（一七九二）六月 | 白鳥町家並帳 | 月行事 善三郎 | 大きさ・鍵・地面大きさ | 持主（名前）地主 | 役の記載あり |
| (7) | 文化十三年（一八一六）十月 | 白鳥町家並図面 | | 鍵 | 持主（名前）地主 | |

最初に最も古い正徳五年（一七一五）六月の「家並帳」をみてみるが、わかりやすくするため家並に番号をつけた。

白鳥町家並

東片輪人足役四分四厘

(1) 一、四間五寸口 裏え拾四間

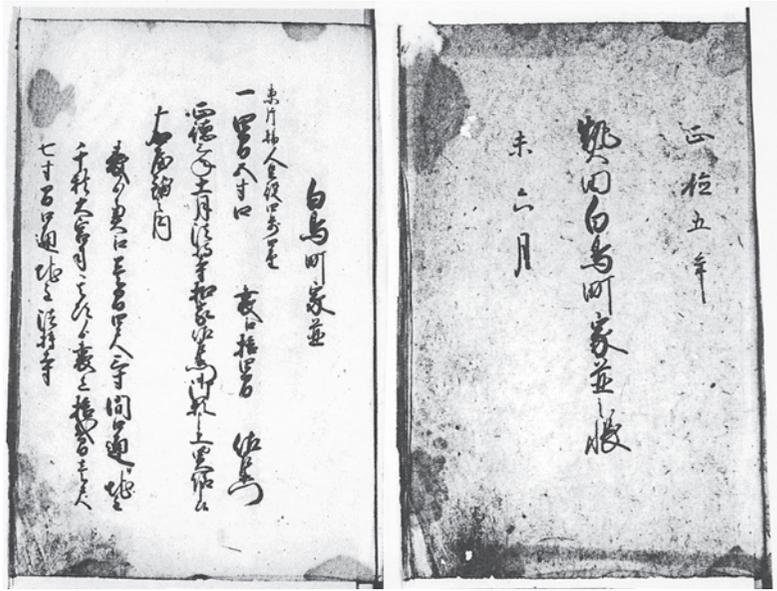
佐左衛門

正徳五年
白鳥町家並之帳
未六月

（表紙）

正徳三年十一月、法持寺扣家佐左衛門御願申上買請申候
右屋敷之内

表より奥え沓間四尺三寸、間口通り、地主千秋大宮司、
其次より裏迄拾式間沓尺七寸、間口通、地主法持寺



「白鳥町家並帳」（正徳五年六月）表紙と第一丁

東片輪人足役三三厘
 (2) 一、式間五尺五寸口 裏え拾四間 長右衛門

延宝八年申正月、法持寺明屋敷御願申上家作申候

右屋敷之内

表より奥え壹間四尺三寸、間口通、地主千秋大宮司、其

「白鳥町家並帳」における法持寺の不動産について

次より裏迄拾式間壹尺七寸、間口通、地主法持寺

東片輪人足役三三厘
 (3) 一、式間五尺四寸口 裏え拾四間 法持寺扣 明家

正徳五年未正月十一日、久三郎相果未進方に法持寺え相渡

申候

右屋敷之内

表より奥え壹間五尺五寸、間口通、地主千秋大宮司、其次より裏迄拾式間五寸、間口通、地主法持寺

東片輪銀役七厘

(4) 一、式間五尺三寸口 裏え拾三間 法持寺扣借家 七郎兵衛

元禄十四年巳正月、孫三郎家内、表半分七兵衛借屋にて居申候、元禄十七年申正月、孫三郎未進方に法持寺え相渡申候

候

右屋敷之内

表より奥え壹間式尺三寸、間口通、地主善三郎、其次より裏まで拾壹間三尺七寸、間口通、地主法持寺

東片輪人足役壹分八厘

(5) 一、三間口 裏え拾四間五尺 法持寺扣 明家

正徳四年午十二月、十兵衛未進方に法持寺え相渡し申候

右屋敷之内

表より奥え沓間五尺九寸、間口通、地主善八郎、其次より裏まで拾式間五尺沓寸、間口通、地主法持寺

東片輪人足役四分五厘

(9)一、式間四尺七寸口 裏え拾五間式尺

法持寺扣
明家

東片輪銀役三匁

(6)一、三間式尺三寸口 裏え拾五間五寸

法持寺扣
明屋敷

宝永七年寅十一月、御願申上法持寺扣明屋敷家作り替申候
右屋敷之内

東片輪人足役六分三厘

(10)一、六間沓尺式寸口 裏え拾四間五尺

六郎兵衛

沓間式尺九寸口、奥え式間、地主岡部又右衛門、沓間五尺四寸口、奥え式間、地主久次郎、其次より裏まで拾三間五寸、間口通、地主法持寺

宝永四年亥九月廿六日、兄傳次郎相果譲り請申候
右屋敷之内 鍵一口

東片輪銀役拾八匁

(7)一、三間式尺七寸口 裏え拾六間

法持寺
明屋敷

右屋敷之内

表より奥え式間五寸、間口通、地主岡部又右衛門、其次より裏まで拾三間五寸、間口通、地主法持寺

東片輪人足役四分三厘 銀役五匁貳分

(11)一、五間五尺式寸口 裏え拾四間五尺

傳六衛

東片輪人足役四分五厘

(8)一、五間五尺口 裏え拾六間沓尺

味之助

正徳式年辰二月廿二日、父仁右衛門相果譲請申候
右屋敷之内

表より奥え式間五尺三寸、間口通、地主岡部又右衛門、

其次より裏まで拾四間沓尺七寸、間口通、地主法持寺也

東片輪人足役三分四厘 銀役三匁九分

(12)一、四間三尺口 裏え拾五間式尺

善八郎

表より奥え式間三尺、間口通、地主仁右衛門、其次より裏まで拾式間式尺、間口通、地主法持寺

正徳式年辰四月十九日、父善八相果譲り請申候
右屋敷之内

表より裏え式間五尺、間口通、地主仁右衛門、其次より
裏え拾式間三尺、間口通、地主法持寺

東片輪人足役三分四厘 銀役三匁九分

(13) 一、四間三尺口 裏え拾五間式尺 佐左衛門

元禄十四年巳六月十六日、父佐左衛門相果譲受申候

右屋敷之内

表より奥え式間五尺、間口通、地主仁右衛門、其次より
裏まで拾式間三尺、間口通、地主法持寺

東片輪人足役九分壹厘

(14) 一、三間式尺口 裏え拾三間式尺 善四郎

正徳三年巳四月十九日、父佐平治相果譲受申候

右屋敷之内

表より奥え四間式尺九寸、間口通、地主仁右衛門、其次
より四間四尺口、長八間五尺壹寸、裏まで地主法持寺

東片輪銀役三匁

(15) 一、六間五尺口 裏え五間 自分地 治右衛門

宝永七年寅八月八日、父治右衛門相果譲請申候

右屋敷之外に裏かり屋敷有り

東西三間式尺、北南え壹間三尺八寸、地主法持寺

東片輪人足役壹分八厘

(16) 一、四間七寸口 裏え五間壹尺壹寸 地主法持寺 忠兵衛

貞享式年丑二月、法持寺明屋敷に御願申上家作申候

右屋敷は五間七寸口、裏え五間壹尺壹寸なり處、人足役

壹歩八厘にて御座候ヲ、壹間口東隣八之畝方え地主法持

寺より渡置被申候、人足役之儀は間口別に仕相勤申候

東片輪銀役壹匁壹分五厘

(17) 一、三間口 裏え七間五尺五寸 地主法持寺 八之畝

正徳五年未四月二日、父重右衛門相果譲請申候

右屋敷は式間口、裏え七間五尺五寸之処、銀役壹両壹歩

五厘に御座候處、西隣徳左衛門かり分之人足役、屋敷之

内壹間口かり添、三間口に屋作居候、人足役之儀は、間

口割に仕相勤申候

東片輪銀役壹匁壹分五厘

(18) 一、壹間五尺三寸口 裏え拾間 地主法持寺 久治郎

宝永七年寅十一月、法持寺明屋敷に御願申上家作り申候

東片輪銀役式匁三分

(19) 一、五間三尺口 裏え九間貳尺 地主法持寺 又右衛門

宝永式年酉八月十八日、父又右衛門相果讓請申候

家数合拾七軒

外に明屋敷 式箇所

内

七軒 銀役

拾式軒 人足役式人分割合、

月行司人足共に

銀役割合

次に最も新しい寛政四年（一七九二）六月の「家並帳」を住人、あるいは建物所有者、地主、鍵、住宅、敷地、東側人足役の順にまとめてみると、次のページのようなになる。

そこで、家数などの変遷を「家並帳」と「家並図面」の年次順にあげて対照してみると、

(1) 正徳五年（一七一五）六月

家数十七軒

七軒―銀役

明屋舗二ヶ所

十二軒―人足役二人分割合

月行事人足共に銀役割合

(2) 享保六年（一七二二）九月

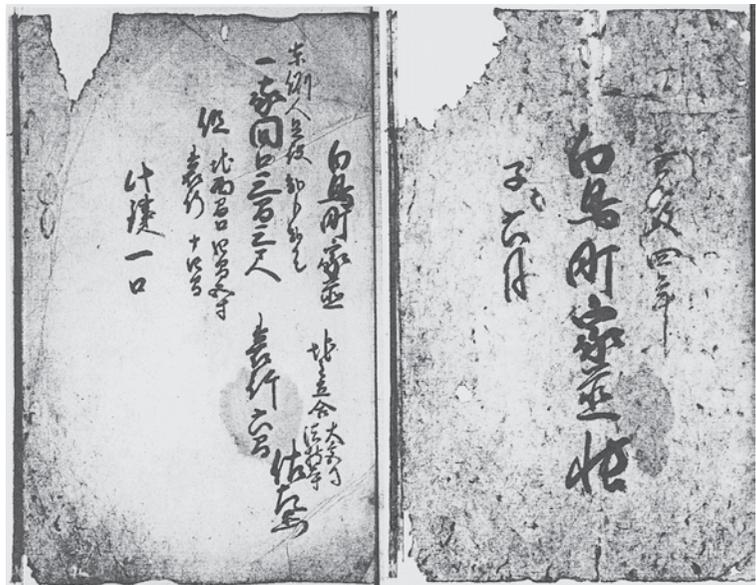
家数十三軒

四軒―銀役

鍵数十三口

八軒―人足役

三軒―人足役兼役



「白鳥町家並帳」（寛政四年六月）表紙と第一丁

| No. | 住人・建物所有者 | 地 主 | 鍵 | 住宅〔間口×奥行〕 | 敷地〔間口×奥行〕 | 東 側 人 足 役 |
|------|----------|----------------------|---|-------------|--------------------------|----------------|
| (18) | 明屋敷 | 法持寺 | 一 | | 七間二尺三寸×九間 九間貳尺 | 銀役四匁五分 |
| (17) | 長八 | 法持寺 | 一 | 三間×五間 | 三間×七間五尺五寸 | 銀役一匁一分五厘 |
| (16) | 明屋敷 | 法持寺 | 一 | | 四間七寸×五間一尺一寸 | 人足役九毛 |
| (15) | 治右衛門 | 自生地治右衛門 | 一 | 六間五尺×五間 | 六間五尺×六間三尺八寸 地尻ニテ八十間五寸 | 銀役三匁 |
| (14) | 明屋敷 | 佐兵衛(当町) 法持寺 | 一 | | 三間二尺×十三間二尺 | 銀役四分□厘五毛 |
| (13) | 佐兵衛 | 法持寺自生地 | 一 | 四間三尺×八間 | 四間三尺×十五間二尺 | 人足役一分七厘 銀役三匁□□ |
| (12) | 孫助 | 佐兵衛(当町) 法持寺 | 一 | 三間×八間 | 四間三尺×十五間二尺 | 人足役一分七厘 銀役三匁九分 |
| (11) | 明屋敷 | 佐兵衛(当町) 法持寺 | 一 | | 五間五尺二寸×十四間五尺 | 人足役貳分一厘 銀役五匁九分 |
| (10) | 伝四郎 | 佐兵衛(当町) 法持寺 | 一 | 三間二尺×八間 | 六間一尺二寸×十四間五尺 | 人足役三分三厘五毛 |
| (9) | 明屋敷 | 佐兵衛(当町) 法持寺 | 一 | | 二間四尺七寸×十五間二尺 | 人足役貳分貳厘五毛 |
| (8) | 勘助 | 佐兵衛(当町) 法持寺 | 一 | 三間×五間三尺 | 五間五尺×十六間一尺 | 人足役貳分貳厘 |
| (7) | 明屋敷 | 佐兵衛(当町) 法持寺 | 一 | | 三間二尺七寸×十六間 | 銀役十八厘 |
| (6) | 明屋敷 | 佐兵衛(当町) 佐左衛門(当町) 法持寺 | 一 | | 三間二尺三寸×十五間五寸 | 銀役三毛 |
| (5) | 明屋敷 | 佐兵衛(当町) 法持寺 | 一 | | 三間×十四間五尺 | 人足役九厘 |
| (4) | 明屋敷 | 佐兵衛(当町) 法持寺 | 一 | | 一間五尺三寸×十三間 | 銀役六匁九分五厘 |
| (3) | 善三郎 | 大宮司 法持寺 | 一 | 二間五尺五寸×六間 | 三間三尺五寸×十四間 | 人足役壹分壹厘 |
| (2) | 民治 | 大宮司 法持寺 | 一 | 三間五尺五寸×五間三尺 | 三間五尺五寸×十四間 | 人足役貳分貳厘 |
| (1) | 佐左衛門 | 大宮司 法持寺 | 一 | 三間三尺×六間 | 四間五寸×十四間 | 人足役貳分貳厘 |
| No. | 住人・建物所有者 | 地 主 | 鍵 | 住宅〔間口×奥行〕 | 敷地〔間口×奥行〕 | 東 側 人 足 役 |

- (3) 元文三年（一七三八）七月
 家数十四軒 四軒―銀役
 鍵数十四口 八軒―人足役
 三軒―人足役兼役銀役
- (4) 宝暦八年（一七五八）二月
 家数十八軒 六軒―銀役
 鍵口十八口 八軒―人足役
 四軒―人足役兼役銀役
- (5) 安永六年（一七七七）九月
 家数九軒 人足式人四分九厘五毛
 明屋敷十カ所 銀役四十七匁四分四厘
 鍵十八口
- (6) 寛政四年（一七九二）六月
 家数九軒 六軒―銀役
 明屋敷九カ所 九軒―人足役
 鍵数十八口 三軒―人足役兼役銀役
- (7) 文化十三年（一八一六）十月「家並図面」
 家数十二軒
 明鍵七口

鍵口〆十九口

となり、正徳五年（一七二五）六月には、家数が十七軒あったが、寛政四年（一七九二）六月には九軒となり明屋がふえていった。しかし、文化十三年（一八一六）十月には家数が十二軒となり、明屋は七カ所となった。

次に、家並順に正徳五年より寛政四年までの約八十年間の家屋や土地の所有者の移り変わりをながめてみよう。

- (1) 正徳三年（一七一三）十一月に間口四間五寸、奥行十四間の法持寺所有の家を佐左衛門（吉田屋佐左衛門）が買い受けた。敷地の表より奥へ一間四尺三寸、間口四間五寸の地主は千秋大宮司で、それより裏までの十二間一尺七寸は法持寺の所有地である。享保二年（一七一七）八月には家を親の佐左衛門より久兵衛が譲り受けており、寛保三年（一七四三）七月には、久兵衛が亡くなったため佐左衛門が家を譲り受けた。
- (2) 延宝八年（一六八〇）正月に法持寺の明屋であったところに間口二間五尺五寸、奥行は十四間の貸家を作り長右衛門が住んでいた。表より奥へ一間四尺三寸、間口二間五尺五寸の地主は千秋大宮司で、それより裏までの十二間一尺七寸は法持寺の所有地である。長右衛門は享保三年（一七一八）八月に法持寺の貸家を買受、寛保三年（一七四三）九月に親の善三郎より俵の与三郎に家を譲っている。
- この家は以前、長右衛門が家主であったが、元文四年（一七三九）二月に長右衛門より地主の法持寺へ年貢を納めることが

できなかつたため法持寺に渡り、翌三月には法持寺より嘉兵衛が買い受けた。その後、嘉兵衛は延享五年（一七四八）六月に有松村の伊左衛門へ売払い、伊左衛門より仁左衛門へ譲っている。宝暦六年（一七五六）四月には仁左衛門より頼まれて又右衛門が買い受けている。

- (3) 間口二間五尺四寸、奥行十四間の法持寺の貸家は、正徳五年（一七二五）正月十一日に久三郎が亡くなったため法持寺へ返却され明屋になっている。表より奥へ一間五尺五寸、間口二間五尺四寸の地主は千秋大宮司で、それより裏までの十二間五寸は法持寺の所有地である。享保三年（一七一八）八月、善三郎は法持寺より家を買受けた。寛保三年（一七四三）九月、善三郎が亡くなったため息子の善三郎へ家を譲っている。

- (4) 間口二間五尺三寸、奥行十三間の法持寺の貸家には七郎兵衛が住んでいる。元禄十四年（一七〇一）正月、孫三郎家内は、表半分が七兵衛の借家に住んでいた。同十七年（一七〇四）正月には、孫三郎が年貢を納めることができなかつたため法持寺へ渡した。屋舗の内、奥行一間二尺三寸、間口二間五尺三寸は材木町の善三郎が地主で、それより裏までの十一間三尺七寸は法持寺の所有地である。元文三年の「家並帳」によれば、善三郎は伝馬町に移住している。表通りより一間二尺三寸は初め伝馬町の善三郎の所有地であったが、宝暦二年（一七五二）八月には町内の佐兵衛（岐阜屋佐兵衛）が買い受けている。
- (5) 間口三間、奥行十四間五尺の法持寺の貸家は明屋であった。

「白鳥町家並帳」における法持寺の不動産について

正徳四年（一七二四）十二月、十兵衛は年貢を納めることができなかつたため、法持寺へ返却した。屋舗の内、表側より奥行一間五尺九寸、間口三間は善八郎が地主で、それより裏までの十二間五尺一寸は法持寺の所有地である。享保十九年（一七三三）六月、善八郎の土地を善吉が取得し家を作っている。善吉の土地を宝暦元年（一七五一）十二月には佐兵衛が買い受けた。

- (6) 宝永七年（一七二〇）十一月、法持寺の間口三間二尺三寸、奥行十五間五寸の貸家は明屋であったため、家の作り替えを申請している。敷地の間口一間二尺九寸、奥行二間の地主は熱田の宮大工の棟梁であった岡部又右衛門の末裔で、間口一間五尺四寸、奥行二間の地主は町内の久次郎で、それより裏までの十三間五寸は法持寺が地主であった。

享保二十一年（一七三六）三月には久兵衛の蔵屋敷とした。寛保四年（一七四四）二月には佐左衛門が買い受けている。この家は先年、久兵衛の蔵屋敷であったが、宝暦三年（一七五三）八月に壊して明地となった。そのため同十年（一七六〇）十二月には佐兵衛が買い受けている。

- (7) 間口三間二尺七寸、奥行十六間の法持寺の貸家は明屋になっている。敷地の表より奥へ二間五寸の地主は岡部又右衛門で、それより裏までの十三間五寸は法持寺が地主である。宝暦十年（一七六〇）十二月には岡部又右衛門の土地を佐兵衛が買い受けている。

- (8) 間口五間五尺で、奥行十六間一尺の家は、正徳二年（一七一二）二月二十二日に父仁右衛門が亡くなったため味之助が譲り受けている。表より奥へ二間五尺三寸、間口五間五尺の地主は岡部又右衛門で、それより裏までの十四間一尺七寸は法持寺が地主である。元文二年（一七三七）十月、仁右衛門より忠左衛門に家を譲っている。宝暦二年（一七五二）七月、忠左衛門が亡くなったため姉のしほに家を譲り、同五年二月に津島村麩屋町の徳左衛門の倅を養子にして忠左衛門と改名し家を譲っている。同十年（一七六〇）十二月には岡部又右衛門所有の土地を佐兵衛が買い受けており、明和二年（一七六五）四月に、この家を知多郡の定右衛門へ売払い壊した。
- (9) 間口二間四尺七寸で、奥行十五間二尺の屋敷は、法持寺の貸家であったが、元禄十四年（一七〇一）十二月より明屋になった。表より奥行き二間五尺五寸、間口二間四尺七寸は岡部又右衛門が地主で、それより裏までの十二間二尺五寸は法持寺が地主である。享保八年（一七二三）三月、法持寺より法持寺の貸家を壊す願いが出されて壊された。宝暦十年（一七六〇）十二月、岡部又右衛門の土地は佐兵衛が買い受けている。
- (10) 間口六間一尺二寸、奥行十四間五尺の家は宝永四年（一七〇七）九月二十六日に兄伝次郎が亡くなったため六郎兵衛が所有者である。表より奥行二間五尺五寸、間口六間一尺二寸は岡部又右衛門が地主で、それより奥の十二間二尺は法持寺が地主である。享保六年（一七二一）二月、親の六郎兵衛より伝四郎が家を譲り受けている。宝暦十年（一七六〇）十二月、岡部又右衛門所有地を佐兵衛が買い受けている。なお、伝四郎は宝暦八年（一七五八）二月に隠居し、倅の作弥へ家を譲って伝四郎と改名した。明和元年（一七六四）六月、伝四郎が亡くなったため、翌二年二月まで後家でいたが、知多郡榎戸村の浅右衛門の倅を養子として伝四郎と改名し家を譲り受けている。
- (11) 間口五間五尺二寸、奥行十四間五尺の家は宝永四年（一七〇七）五月二十五日に父伝六が亡くなったため伝六衛が相続した。表より奥行二間三尺、間口五間五尺二寸は仁右衛門が地主で、それより奥の十二間二尺は法持寺が地主である。法持寺所有の貸家で明屋であった。享保八年（一七二三）三月、法持寺より貸家を壊す願いが出され壊された。宝暦十一年（一七六六）五月、忠左衛門が地主であった土地を佐兵衛が買い受けている。
- (12) 間口四間三尺、奥行十五間二尺の家は正徳二年（一七一二）四月十九日に善八が亡くなったため善八郎が相続している。表より奥行二間五尺、間口四間三尺は、地主が仁右衛門、それより奥へ十二間三尺は法持寺が地主である。元文三年（一七三三）三月、善八より倅善吉に家を譲っている。宝暦二年（一七五二）二月には家を伝四郎が買い受けている。同十一年（一七六六）五月、佐兵衛が買い受けた。広吉の所有地は病気になるため、明和七年（一七七〇）に町内の次右衛門方へ居候になり、そのため家は次右衛門のものとなった。安永元年（一七七

二) 九月には次右衛門より孫助が買い受けている。

(13) 間口四間三尺、奥行十五間二尺の家は佐左衛門の所有である。元禄十四年(一七〇二)六月十六日に父の佐左衛門が亡くなったため相続している。表より奥行二間五尺、間口四間三尺は地主が仁右衛門で、それより裏までの十二間三尺は法持寺が地主である。寛保三年(一七四三)六月には親の佐左衛門が亡くなり、伴の佐兵衛に家を譲っている。表より二間五尺の土地は自分であり、以前は忠左衛門の所有と書かれていたが、宝暦十一年(一七六一)五月には佐兵衛が買い受けている。佐兵衛は同十三年(一七六三)正月に隠居して伴の八十治郎が家を譲り受け佐兵衛と改名した。

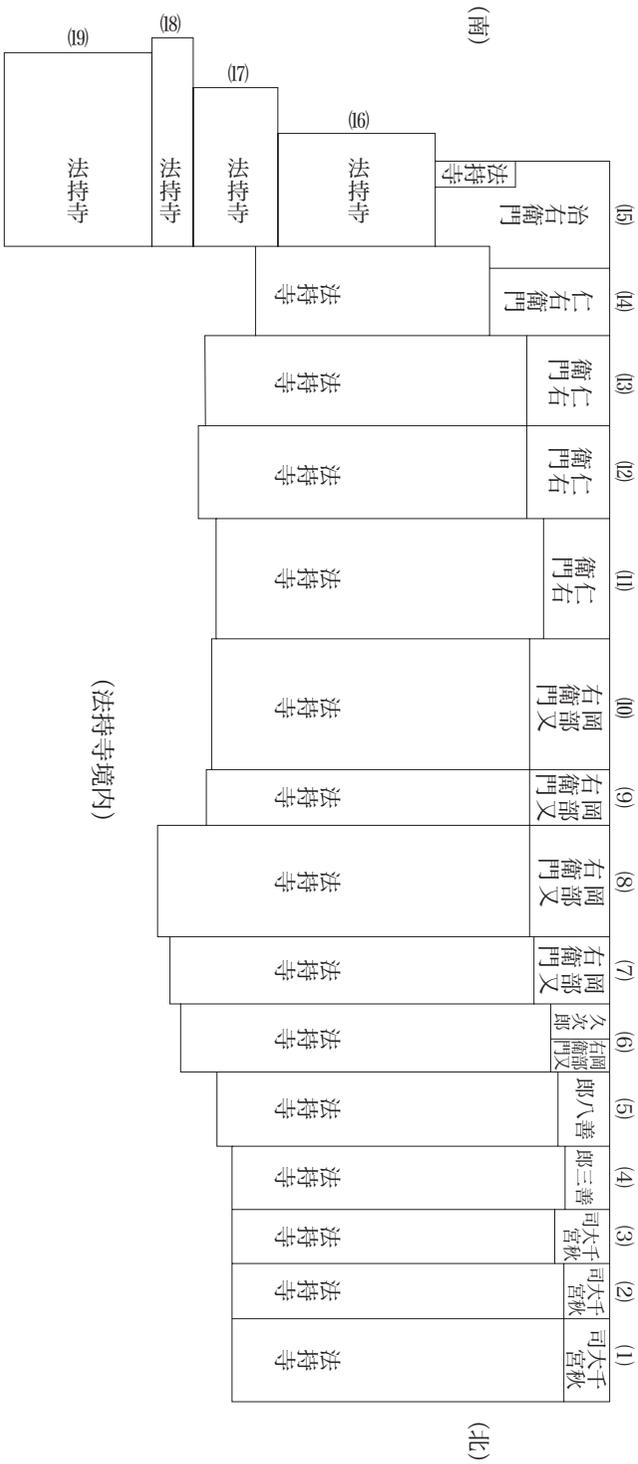
(14) 間口三間二尺、奥行十三間二尺の家は善四郎の所有である。正徳三年(一七一三)四月十九日、父の佐平治が亡くなったため相続した。屋敷の内、表より奥行四間二尺九寸、間口三間二尺の地主は仁右衛門で、それより裏までの間口四間四尺、長さ八間五尺一寸は法持寺が地主である。元文三年(一七三八)八月、地主の法持寺へ年貢が出せないとところから法持寺へ渡し、十一月には法持寺所有の貸家となった。同五年(一七四〇)九月、法持寺より願いが出され壊された。宝暦十一年(一七六六)五月には忠左衛門の土地を佐兵衛が買い受けている。

(15) 間口六間五尺、奥行五間の家は治右衛門の所有地にある。宝永七年(一七一〇)八月八日、父治右衛門が亡くなり相続したもので、この敷地の裏にはかり屋敷がある。東西三間二尺、北

南一間三尺八寸の地主は法持寺である。

元禄十四年(一七〇二)六月、親の作左衛門より相続し、寛保三年(一七四三)六月、作左衛門は伴の佐兵衛に家を譲った。宝暦三年(一七五三)六月には治右衛門が亡くなったため平吉へ譲り、同九年(一七五九)には家を譲り受けて治右衛門と改名した。

(16) 間口四間七寸、奥行五間一尺一寸の家は法持寺の貸家で忠兵衛が住んでいる。貞享二年(一六八五)二月には法持寺が明地に貸家を作った。敷地は間口五間七寸、奥行五間一尺一寸で、人足役一分八厘であったが、間口一間は東隣の八之丞へ地主法持寺より渡しており、人足役は間口別に出している。享保四年(一七一九)九月、忠兵衛より作兵衛が家を買っている。元文五年(一七四〇)十一月、作兵衛は年貢を払うことができなため法持寺へ渡し、その後の延享二年(一七四五)五月には法持寺より願いが出され壊された。



〔図1〕「白鳥町家並帳」(正徳五年六月)より作図

(17) 間口三間、奥行七間五尺五寸の家は八之丞が住んでいる。地主は法持寺である。正徳五年（一七一五）四月二日に父の重右衛門が亡くなり相続した。屋敷の間口二間、奥行七間五尺五寸は銀役一匁一分五厘であるが、西隣の徳左衛門が借りている分の人足役は、屋敷の内一間口を借り添え、三間口に家を作っているため、間口割で支払う。享保元年（一七一六）には又右衛門より家を買って受けた。宝暦三年（一七五三）九月には五郎右衛門が亡くなったため、親類の次右衛門方の貸家になった。明和六年（一七六九）十二月には長八の借家になった。

(18) 間口一間五尺三寸、奥行十間の屋敷には久治郎が住んでいる。宝永七年（一七一〇）十一月、地主法持寺は明地に貸家を作った。享保元年（一七一六）十一月、又左衛門より久治郎が家を買って受けた。明和二年（一七六五）二月、法持寺の貸家を忠左衛門が買って居宅とした。

(19) 間口五間三尺、奥行九間二尺の家は又右衛門が住んでいる。地主は法持寺である。宝永二年（一七〇五）八月十八日、又右衛門が亡くなったため譲り受けている。享保元年（一七一六）十一月には久次郎が又右衛門より家を買って受けており、元文四年（一七三九）十二月には佐兵衛が久次郎より買って受けた。明和二年（一七六五）九月、佐兵衛は法持寺へ売払い、法持寺より願いが出されて家を壊した。

これによって白鳥町の表通りより東側の中程の地主はよく変わっていることがわかる。しかし、それより東側はすべて法持寺

の所有地である。そのため元は法持寺の境内地であったところに家屋（貸家）が建てられ、家並になっていったものと思われる。また、法持寺が個人所有の家屋を買って貸家としていたり、法持寺が家を建立して貸家としていた場合もみえる。なお、寛政四年六月頃には壊されていることが多い。逆に、法持寺の建物を個人が買って受けて居宅とした場合もある。しかし、法持寺所有地が売買されたことはない。

正徳五年六月の「家並帳」にみえる土地所有者と敷地を图示してみると（図1）のように(1)から(19)になる。文化十三年十月の「白鳥町家並図面」は（図2）のようになり、家並は(1)から(13)である。しかも、家並や地主の外に白鳥町通の西側（堀川筋）に土蔵や明地畑が記されている。寛政四年六月以前の「家並帳」には白鳥町通の西側について何も記されていない。家並でなかったため記されなかったのであろうか詳しいことは明らかでない。

何れにしても白鳥町家並の土地所有者は、法持寺以外に熱田社大宮司の千秋氏を始め宮大工の棟梁であった岡部又右衛門の末裔、それに尾州国産荷物廻船問屋の吉田屋佐左衛門、岐阜屋佐兵衛らの土地や家屋の多かったことが明らかになるのである。

執筆者紹介

尾崎 孝之 (本学教授…………… フランス語)
OZAKI Takayuki

佐々木 真 (本学教授…………… 英語)
SASAKI Makoto

清水 義和 (本学教授…………… 英語)
SHIMIZU Yoshikazu

都築 正喜 (本学教授…………… 英語)
TSUDZUKI Masaki

八谷 芳樹 (本学教授…………… 教育学)
YATSUYA Yoshiki

池田 輝政 (名城大学大学院教授 …… 高等教育経営論)
IKEDA Terumasa

川口 高風 (本学教授…………… 宗教学)
KAWAGUCHI Kohū

岩佐 宣明 (本学講師…………… 哲学)
IWASA Nobuaki

教 養 教 育 研 究 会 委 員

(会長) 稲垣正巳 (副会長) 岡島秀隆

(会計)※北村伊都子

糸井川修 河合泰弘 小林秀一

城貞晴 前山慎太郎 ※松浦國弘

八谷芳樹 山口均 山下秀康

※鷲嶽正道

※本号編集委員

編 集 後 記

本年度第2号となる今号には、文学、演劇、言語学、教育学、哲学、宗教学と多岐にわたる学問領域の、いずれも最先端の研究が寄せられました。玉稿を賜りました先生方には厚く御礼申し上げます。

東日本大震災からの復興が急がれる最中、日本を取り巻く環境はお構いなしに変化し続けています。このような状況だからこそ、我々には弛むことなく研究を続け、同時に、幅広い知識と深い教養を身につけた人間を育成する義務があるのだと小考しております。(鷲嶽記)

平成23年11月25日 印刷
平成23年11月30日 発行

(非売品)

愛知学院大学論叢
教養部紀要第59巻
第2号 (通巻第172号)

編集責任者
稲垣正巳

発行者 愛知学院大学
教養教育研究会
〒470-0195

愛知県日進市岩崎町阿良池12
電話 〈0561〉 (73) 1111 (代表)

印刷所 株式会社あるむ
電話 〈052〉 (332) 0861

THE JOURNAL OF AICHI GAKUIN UNIVERSITY

Humanities & Sciences

Vol.59 No.2
(Whole Number 172)

CONTENTS

Articles

- Takayuki OZAKI : “Langueur” de la pluie et “Tristesse” de la neige—Paul Verlaine et Choya Nakahara— (1)
- Makoto SASAKI : Language Education on iPad: the Current Situations and the Future Prospects (15)
- Yoshikazu SHIMIZU : “The Undiscovered Country” of Shuji Terayama & William Shakespeare
—*The Folklore of Flower Card & Macbeth*— (35)
- Masaki TSUDZUKI : Phonetic Analysis and Observation of Recorded Voice Data (Tentative) (93)
- Yoshiki YATSUYA and Terumasa IKEDA : A Methodological Model on School Change Management :
A School Leader as an Ekiden Runner Carrying a Tasuki (129)
- Kōhū KAWAGUCHI : Houjiji Temple Property Recorded in the *Shiratori-cho Yanamicho* (212)

Materials

- Kōhū KAWAGUCHI : An Abridged Chronological Table Dealing with the History of Houjiji Temple (198)

Lecture Delivered at NHK Culture Center

- Nobuaki IWASA : Human Dignity and CSR—Ethical Ways to Enjoy Affluence— (155)

Published
by

Aichi Gakuin University
Nagoya, Japan

2011